

平成29年度

大学院生による授業評価結果報告書
(前期分)

鳴門教育大学 大学院学校教育研究科

頁数	科目区分	科目コード	科目名	担当教員名
6	広領域科目	30031000	学校教育の人間形成的役割	木内 陽一
7	広領域科目	30032200	現代の諸課題と学校教育	青葉 暢子
8	広領域科目	30033000	子ども理解と生徒指導	小倉 正義
9	広領域科目	30034000	子どもの発達支援	田村 隆宏
10	人間形成	30111000	人間形成文化史研究	梶井 一暁
11	人間形成	30112000	近代教育文化史演習	梶井 一暁
12	人間形成	30113000	教育哲学研究	木内 陽一
13	人間形成	30116000	発達健康心理学研究	山崎 勝之
14	人間形成	30119000	教育認知心理学研究	皆川 直凡
15	人間形成	30121000	心理教育科学研究	内田 香奈子
16	臨床心理士養成	30421000	精神医学研究	今田 雄三
17	臨床心理士養成	30422000	精神医学文献演習	今田 雄三
18	臨床心理士養成	30424000	臨床心理学研究Ⅰ	吉井 健治
19	臨床心理士養成	30425000	臨床心理学研究Ⅱ	葛西 真記子
20	臨床心理士養成	30432000	学校精神保健学研究	今田 雄三
21	臨床心理士養成	30433000	臨床心理査定演習Ⅰ	粟飯原 良造
22	臨床心理士養成	30444000	臨床心理学研究法特論	葛西 真記子
23	臨床心理士養成	30446000	臨床心理面接演習	中津 郁子
24	臨床心理士養成	30448000	臨床心理面接研究Ⅱ	粟飯原 良造
25	臨床心理士養成	30449000	社会心理学研究	木村 昌紀
26	幼年発達支援	30513000	幼年期福祉研究	木村 直子
27	幼年発達支援	30516000	こころの発達支援研究	浜崎 隆司
28	幼年発達支援	30518000	幼年発達心理研究	田村 隆宏
29	幼年発達支援	30522000	幼年期教育学研究	湯地 宏樹
30	幼年発達支援	30524000	幼年発達と幼児教育内容論	塩路 晶子
31	現代教育課題総合	30637100	文化とコミュニケーション	太田 直也
32	現代教育課題総合	30638100	人間と文化Ⅰ（基礎研究）	太田 直也

頁数	科目区分	科目コード	科目名	担当教員名
33	現代教育課題総合	30639100	人間と文化Ⅱ（地域研究A）	太田 直也
34	現代教育課題総合	30641200	人間と文化Ⅳ（実践研究）	太田 直也
35	現代教育課題総合	30643200	コミュニケーションと環境	金野 誠志
36	現代教育課題総合	30646200	人間とコミュニケーションⅢ（実践研究B）	金野 誠志
37	現代教育課題総合	30647200	環境と文化	田村 和之
38	現代教育課題総合	30649200	人間と環境Ⅱ（実践研究A）	田村 和之
39	現代教育課題総合	30652000	現代の子どもと学校教育	谷村 千絵
40	現代教育課題総合	30657000	現代教育課題特論	小西 正雄
41	現代教育課題総合	30658000	異文化理解と人間形成	近森 憲助
42	特別支援教育専攻	31150000	特別支援教育コーディネーター概論	井上 とも子
43	特別支援教育専攻	31153000	特別支援教育コーディネーター実地教育	井上 とも子
44	特別支援教育専攻	31160000	特別支援教育学研究論Ⅰ	高橋 眞琴
45	特別支援教育専攻	31161000	特別支援教育学研究論Ⅱ	大谷 博俊
46	特別支援教育専攻	31164000	特別支援教育臨床心理学研究論	高原 光恵
47	特別支援教育専攻	31167000	特別支援教育学習支援演習	島田 恭仁（嘱託）
48	特別支援教育専攻	31168000	発達障害児病理・病態生理学研究	田中 淳一
49	言語系	32138000	言語教育基礎論Ⅰ	原 卓志
50	言語系	32140000	日本語Ⅰ	田中 大輝
51	言語系	32141000	日本語Ⅱ	妹尾 春子
52	言語系	32144000	日本古典語研究	原 卓志
53	言語系	32146000	現代日本語研究	茂木 俊伸
54	言語系	32148000	日本文学研究Ⅰ	黒田 俊太郎
55	言語系	32150000	日本文学研究Ⅱ	小島 明子
56	言語系	32153000	日本語教育学研究	廣田 知子（嘱託）
57	言語系	32156000	日本語文法研究	田中 大輝
58	言語系	32158000	社会言語学演習	永田 良太
59	言語系	32159000	言語習得・発達論	田中 大輝

頁数	科目区分	科目コード	科目名	担当教員名
60	言語系	32161000	日本語音声表現研究	田中 大輝
61	言語系	32173000	国語科教育学研究	村井 万里子
62	言語系	32175000	国語科授業研究	幾田 伸司
63	言語系	32179000	国語科教材開発研究	余郷 裕次
64	言語系	32183000	日本語教育法研究	廣田 知子（嘱託）
65	言語系	32193000	教科内容構成(国語科)	村井 万里子
66	言語系	32224000	言語教育基礎論Ⅱ	眞野 美穂
67	言語系	32227000	英語学研究Ⅱ（言語表現）	眞野 美穂
68	言語系	32228000	英米文化研究Ⅰ（文化史）	宮崎 隆義
69	言語系	32230000	アカデミック・ライティングⅡ	吉川 エリザベス
70	言語系	32231000	パブリック・スピーキング	吉川 エリザベス
71	言語系	32283000	初等中等英語科教育特論Ⅱ	山森 直人
72	言語系	32284000	小学校英語習得論	畑江 美佳
73	社会系	33158300	歴史学研究Ⅱ	町田 哲
74	社会系	33158500	歴史学研究Ⅲ	原田 昌博
75	社会系	33158900	地理学研究Ⅱ	立岡 裕士
76	社会系	33159100	地図表現学研究	立岡 裕士
77	社会系	33159200	地図表現学演習	立岡 裕士
78	社会系	33159300	法学・政治学研究	麻生 多間
79	社会系	33159700	経済学研究	青葉 暢子
80	社会系	33159900	哲学・倫理学研究	齋木 哲郎
81	社会系	33160000	哲学・倫理学演習	齋木 哲郎
82	社会系	33171000	社会科教育学研究	伊藤 直之
83	社会系	33173000	社会科授業研究	梅津 正美
84	社会系	33180000	社会科教材開発演習Ⅲ（公民領域）	井上 奈穂
85	自然系	34125000	代数学研究	平野 康之

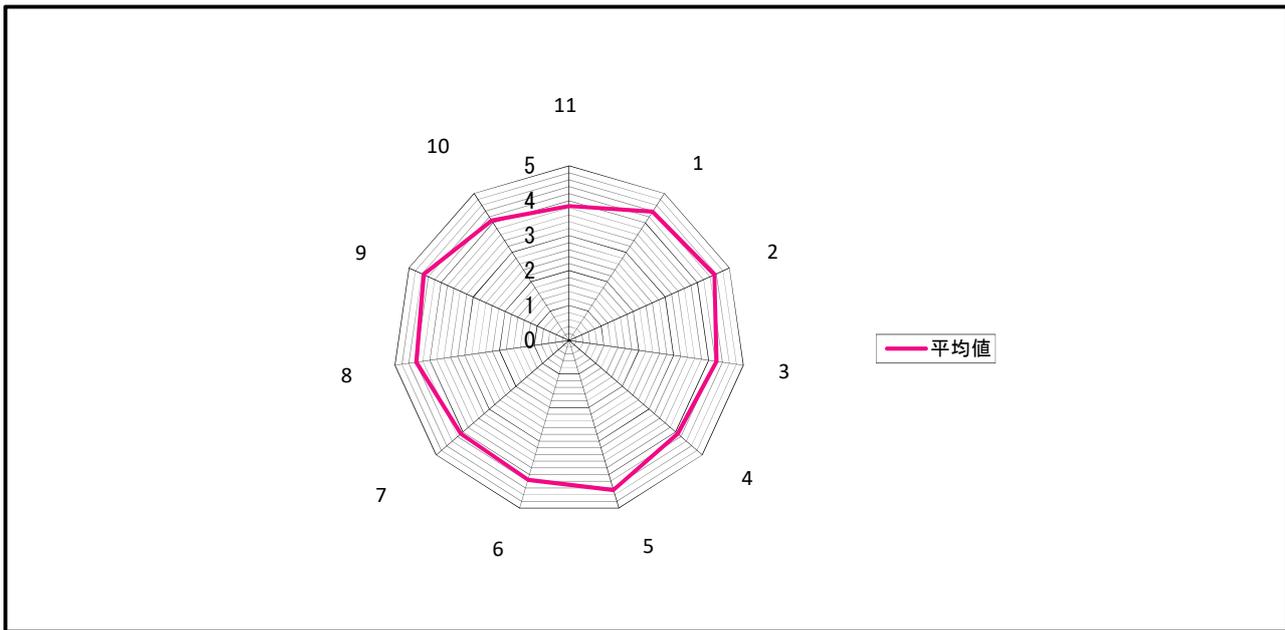
頁数	科目区分	科目コード	科目名	担当教員名
86	自然系	34172000	数学科教育学研究	秋田 美代
87	自然系	34175000	数学科教材開発研究	佐伯 昭彦
88	自然系	34193000	教科内容構成（数学科）	宮口 智成
89	自然系	34212100	物理学特論 I	本田 亮
90	自然系	34220000	環境化学特論	胸組 虎胤
91	自然系	34233000	地質学・古生物学特論	香西 武
92	芸術系	35113000	声楽発声法	頃安 利秀
93	芸術系	35115000	ピアノ演奏基礎演習	森 正
94	芸術系	35116000	学校教材ピアノ伴奏法	山田 啓明
95	芸術系	35120000	管弦打楽器総合演習	山根 秀憲
96	芸術系	35129000	管弦打楽器演奏基礎	山根 秀憲
97	芸術系	35130000	指揮法基礎演習	山田 啓明
98	芸術系	35131000	楽曲分析研究	松岡 みち子
99	芸術系	35173000	音楽科授業研究	小山 英恵
100	芸術系	35174000	音楽科授業演習	小山 英恵
101	芸術系	35211000	絵画制作研究	鈴木 久人
102	芸術系	35217000	石彫制作演習	野崎 窮
103	芸術系	35222000	陶芸制作演習	栗原 慶
104	芸術系	35273000	美術科授業研究	山木 朝彦
105	芸術系	35274000	美術科教材開発研究	山田 芳明
106	芸術系	35276000	美術科教育研究法演習	山木 朝彦
107	芸術系	35293000	教科内容構成（美術科）	山田 芳明
108	生活・健康系	36115000	スポーツ社会学研究	木原 資裕
109	生活・健康系	36117000	学校体育経営研究	藤田 雅文
110	生活・健康系	36120000	体育・スポーツ心理学演習	村上 妃斗美
111	生活・健康系	36121000	運動学研究	乾 信之
112	生活・健康系	36123000	スポーツ・バイオメカニクス研究	松井 敦典

頁数	科目区分	科目コード	科目名	担当教員名
113	生活・健康系	36133000	運動生理学研究	田中 弘之
114	生活・健康系	36175000	体育教授学研究	湯口 雅史
115	生活・健康系	36211000	情報処理研究	菊地 章
116	生活・健康系	36215000	コンピュータ科学研究	宮本 賢治
117	生活・健康系	36219000	機械工学研究	宮下 晃一
118	生活・健康系	36224000	情報科学研究	伊藤 陽介
119	生活・健康系	36226000	プログラミング演習	戸川 聡
120	生活・健康系	36227000	信号情報処理研究	菊地 章
121	生活・健康系	36232100	計算力学研究	長谷崎 和洋
122	生活・健康系	36233100	計算力学演習	長谷崎 和洋
123	生活・健康系	36235000	木質材料加工法演習	米延 仁志
124	生活・健康系	36271000	技術科教育研究	尾崎 士郎
125	生活・健康系	36275000	情報科教育研究 I	森山 潤
126	生活・健康系	36311000	家族・ジェンダー研究	黒川 衣代
127	生活・健康系	36315000	衣生活学研究	福井 典代
128	生活・健康系	36317000	食生活学研究	西川 和孝
129	生活・健康系	36319000	住生活学研究	金 貞均
130	生活・健康系	36371000	家庭科教育学研究	速水 多佳子
131	生活・健康系	36393000	教科内容構成（家庭科）	坂本 有芳
132	国際教育	37130000	国際教育人間論	石村 雅雄
133	国際教育	37133000	教育研究・調査	石坂 広樹
134	国際教育	37140000	国際教育授業開発 I	石村 雅雄
135	国際教育	37181000	国際理解教育特論 I	小澤 大成
136	国際教育	37184000	国際教育総合セミナー I	石村 雅雄

結果報告書

授業科目名 学校教育の人間形成的役割
 評価実施日 平成29年7月26日
 担当教員名 木内 陽一,山崎 勝之,皆川 直凡 回答者数 13 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	8	3	1	1		4.4
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	9	3		1		4.5
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	7	4	1		1	4.2
	(4)授業では、シラスに示されたアクティブラーニングが、実施されていた。	7	2	2	2		4.1
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	7	5	1			4.5
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	6	4	2	1		4.2
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	7	2	3		1	4.1
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	7	4	2			4.4
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	7	6				4.5
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6	4	2		1	4.1
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	5	3	4		1	3.8



教員のコメント

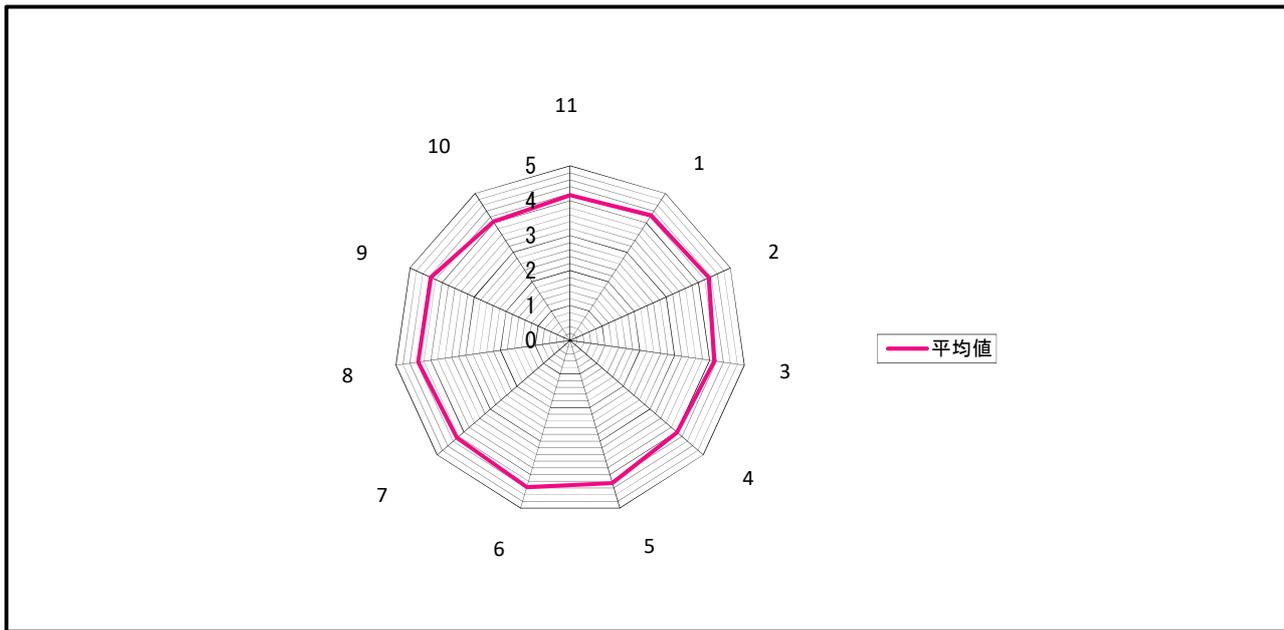
この授業は、人間形成コースの心理学と教育学担当の教員三人で担当する、コース教員の全力をあげて取り組む授業である。全体的に見て、評価はよいと思う。とりわけ、専門性の高い内容に関して、「役立った」と評価する受講生が多いのは、教員側としても嬉しく受け止めている。平均値がどの項目も4をこえているにもかかわらず、総合評価が3.8であるにはどうしてだろう。評価選択人数を見ると、5、3、1、と評価が分かれているように見える。授業の第一回に授業内容を詳しく説明して、納得のいかない院生は、田の授業を選択するように強く言っている。他の授業を選ぶことが望ましかった受講生が多かったともいえるのかもしれない。教員の側から見れば、自分のコースの院生ではない受講生と出会い、様々な刺激を受けることが出来る、よい機会であるので、今回のアンケートの内容を真摯に受け止め、更に授業を充実させるように努力していきたい。

結果報告書

授業科目名 現代の諸課題と学校教育
 評価実施日 平成29年7月25日
 担当教員名 青葉 暢子 立岡 裕士 山本 準 麻生 多聞 町田 哲原 卓志 坂本 有芳 黒川 衣代

回答者数 51 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	23	20	6	2		4.3
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	25	21	2	3		4.3
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	21	19	8	3		4.1
	(4) 授業では、シラスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	23	13	9	5	1	4.0
教員の授業の進め方について	(5) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	25	18	5	2	1	4.3
	(6) 授業の進む速さは、適切であった。	28	16	5	2		4.4
	(7) 受講生に分かりやすく説明した。	22	21	7	1		4.3
	(8) 教科書や配布された資料は、適切であった。	24	20	6			4.4
	(9) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	27	15	9			4.4
あなたの授業への取り組みについて	(10) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	19	16	15	1		4.0
総合評価	(11) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	19	23	7	2		4.2



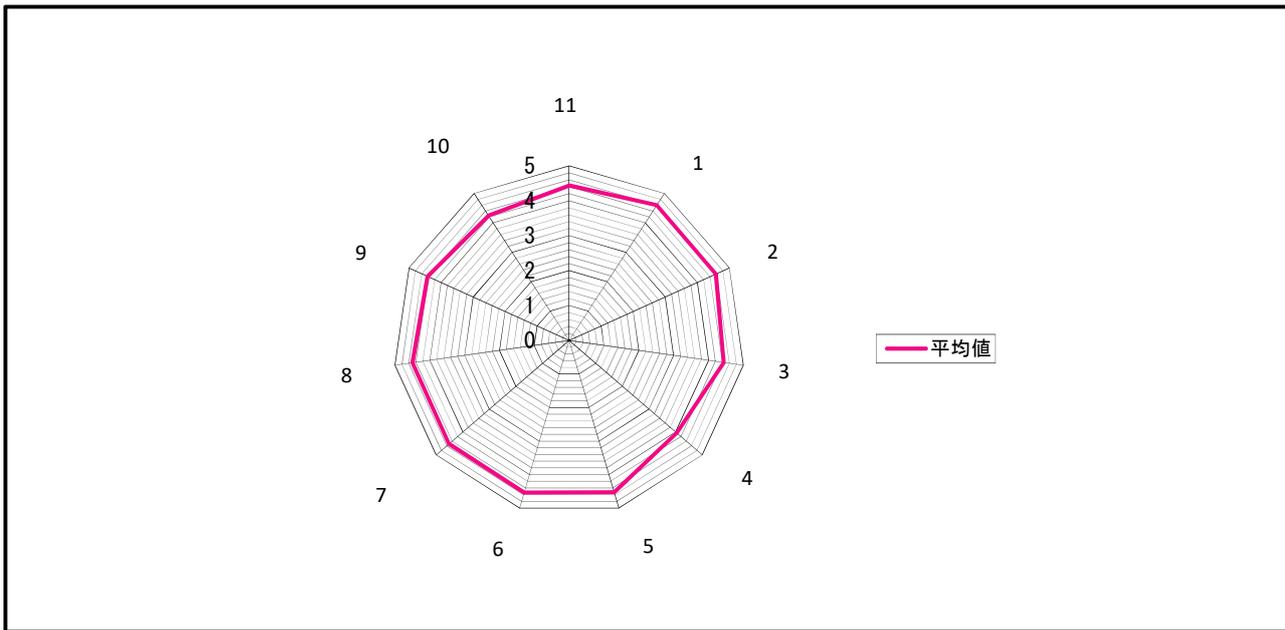
教員のコメント

本授業の中では多くの時間にアクティブラーニングを実施し、概ね好評だった。また、オムニバス形式で複数の教員が授業を担当したが、多くの学生が様々な視点から現代の諸課題と学校教育について考察する機会を得られたと記述しており、本授業の目的は達成できたと考える。

結果報告書

授業科目名 子ども理解と生徒指導
 評価実施日 平成29年7月26日
 担当教員名 小倉 正義,葛西 真記子,吉井 健治 回答者数 119 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	76	39	4			4.6
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	76	36	7			4.6
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	67	37	15			4.4
	(4)授業では、シラスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	41	51	21	3	3	4.0
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	76	31	11	1		4.5
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	73	37	9			4.5
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	71	39	9			4.5
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	75	29	14	1		4.5
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	70	30	18	1		4.4
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	49	51	17		1	4.2
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	64	42	9	2		4.4



教員のコメント

全体的には講義の目的である臨床心理学の観点から、子ども理解と生徒指導について実践的理論を論じることはできており、到達目標もおおむね達成できていると思われる。しかし、到達目標はとらえ方によってはさらに高めることもできるため、アンケート結果(自由記述含む)から改善すべき点を担当教員間で話し合い、次回に活かしたい。

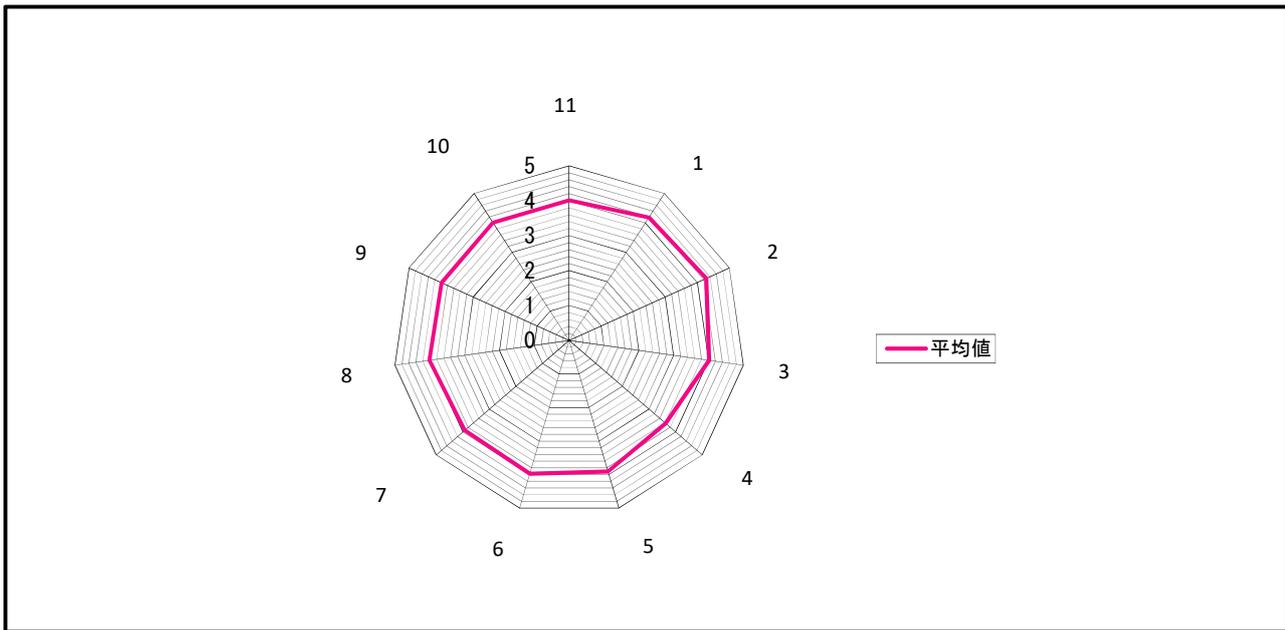
具体的には以下の点を特に課題としたい。

- ①学生が積極的に学ぶことができる工夫は行なったが、アクティブ・ラーニングの項目での評価は比較的低かった。大人数の講義なので限界はあると考えられるが、扱っている内容が生徒指導である点を考慮に入れると、双方向性のある課題と振り返りをさらに促すことができる課題をもう少し増やすことができればと考える。
- ②評価方法については、改めて担当教員間で議論し直して、それぞれの担当分野の意味を学生に改めて説明することを含めて、評価自体にもさらに意味をもたせることができるように工夫する。
- ③その他、アンケートの自由記述等でご指摘を受けたことを可能な限り反映していきたい。

結果報告書

授業科目名 子どもの発達支援
 評価実施日 平成29年7月18日
 担当教員名 田村 隆宏, 井上 とも子, 高橋 眞琴, 大谷 博俊, 塩路 晶子, 木村 直子 回答者数 111 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	36	62	12		1	4.2
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	46	52	11	2		4.3
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	34	54	15	7	1	4.0
	(4)授業では、シラスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	18	45	33	8	3	3.6
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	24	55	30	2		3.9
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	34	45	27	5		4.0
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	29	54	20	7	1	3.9
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	34	51	19	7		4.0
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	35	45	26	4	1	4.0
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	28	58	21	3		4.0
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	33	54	16	5	2	4.0



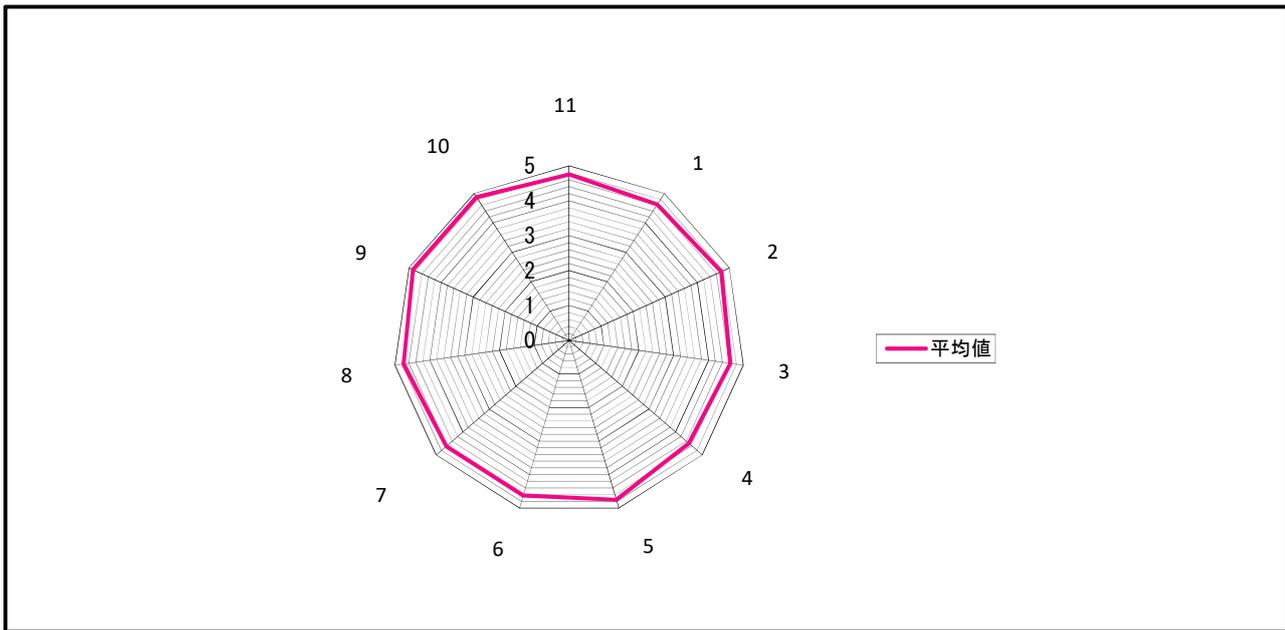
教員のコメント

各項目の評定値をみると、(4)(5)(7)以外の項目で4.0以上であり、これらの項目以外の内容については概ね肯定的な評価を受けている結果となった。しかしながら、(4)(5)(7)の項目では、3点台の評定値であった。今後の講義では、特にアクティブ・ラーニングの活動をさらに取り入れること、評価方法に関する説明を丁寧にする、受講生に対してより分かりやすく説明すること、などに配慮する必要がある。また、今後改善して欲しいことに関する受講生のコメントでは、「複数の教員による授業で、それぞれ浅い内容しか学べなかった」、「アクティブ・ラーニングの活動に乏しかった。パワーポイントで提示された時間があまりにも短すぎて、内容がノートに写せず困った。ノートに写す時間がないのなら、配付資料が欲しい」といった内容が多かったことから、授業で取り上げる活動内容の再吟味と授業内容の提示の仕方についての再検討が必要である。

結果報告書

授業科目名 人間形成文化史研究
 評価実施日 平成29年9月14日
 担当教員名 梶井 一暁 回答者数 8 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	6	1	1			4.6
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6	2				4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	6	1	1			4.6
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	5	2	1			4.5
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	6	2				4.8
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	5	3				4.6
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	5	3				4.6
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	6	2				4.8
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	7	1				4.9
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	7	1				4.9
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	6	2				4.8



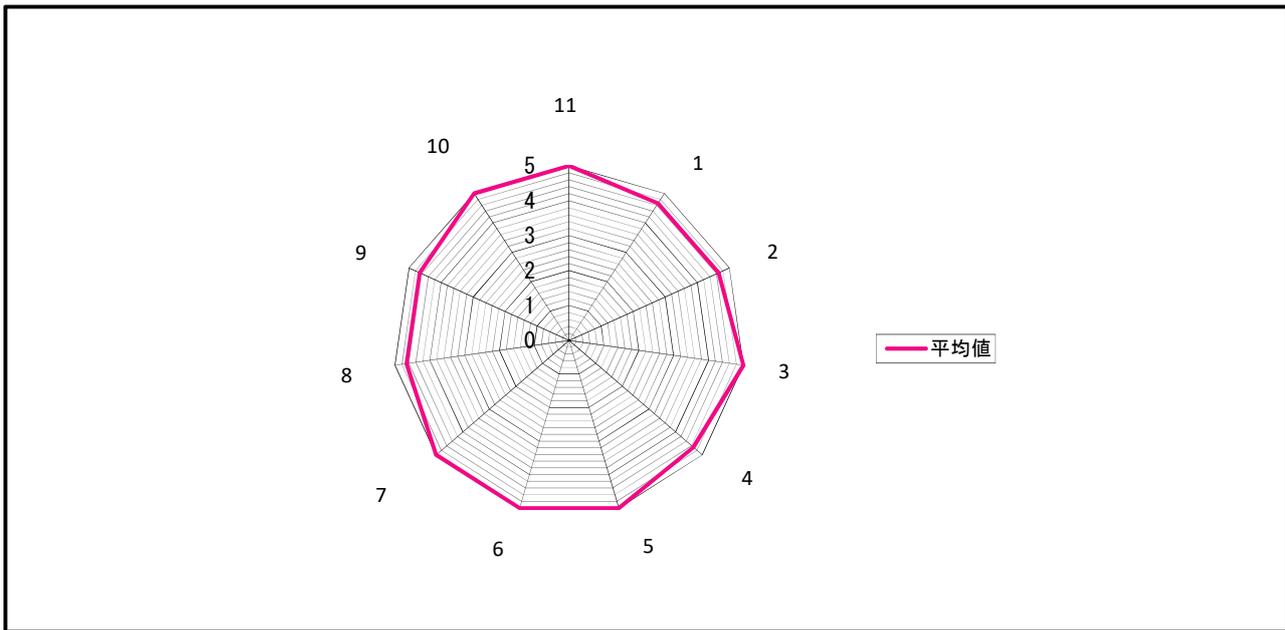
教員のコメント

一定の評価を得られたと考える。集中講義のため、短期での授業構成となり、振り返りや関連文献講読などをじゅんぶんにできなかった。今後も授業の改善に努めたい。

結果報告書

授業科目名 近代教育文化史演習
 評価実施日 平成29年9月21日
 担当教員名 梶井 一暁 回答者数 3 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2	1				4.7
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2	1				4.7
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	3					5.0
	(4) 授業では、シラスに示されたアクティブラーニングが、実施されていた。	2	1				4.7
教員の授業の進め方について	(5) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	3					5.0
	(6) 授業の進む速さは、適切であった。	3					5.0
	(7) 受講生に分かりやすく説明した。	3					5.0
	(8) 教科書や配布された資料は、適切であった。	2	1				4.7
	(9) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2	1				4.7
あなたの授業への取り組みについて	(10) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3					5.0
総合評価	(11) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3					5.0



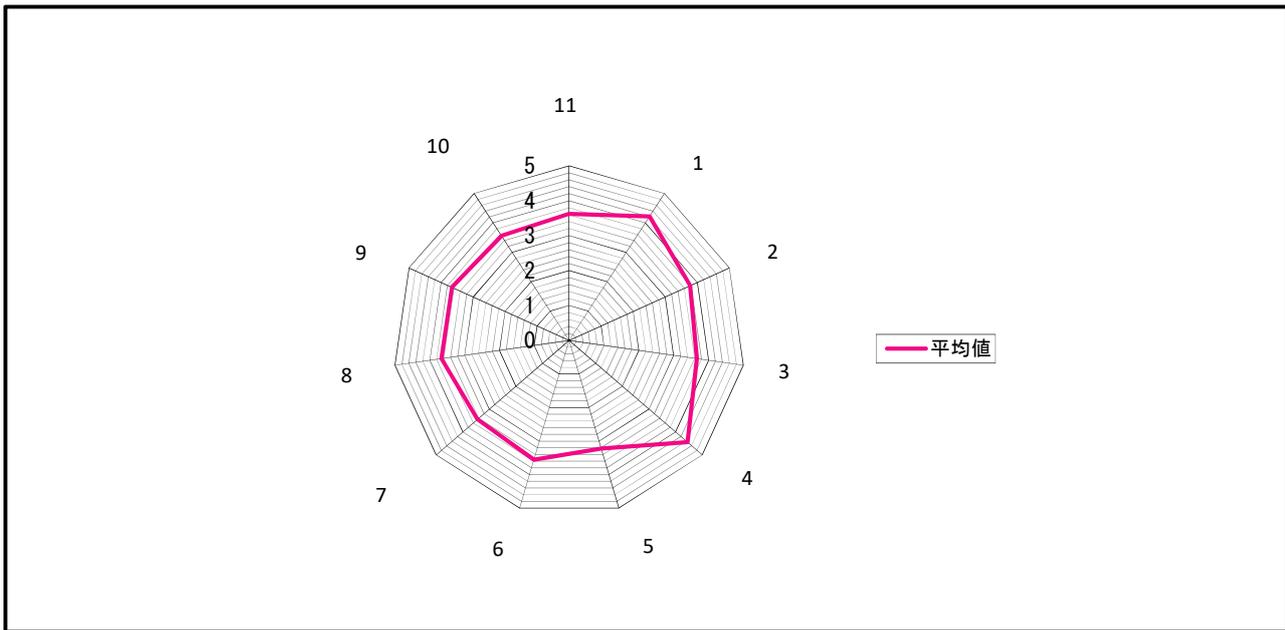
教員のコメント

一定の評価を得られたと考える。受講生の関心にそくして史料を調べたり、発表したりすることが中心の授業であった。受講生が主体的によく取り組んでくれたことに助けられたが、授業者としては、受講生の多様な関心に応じる史料の用意や選定で足りないところがあったように感じている。今後も授業の改善に努めたい。

結果報告書

授業科目名 教育哲学研究
 評価実施日 平成29年7月27日
 担当教員名 木内 陽一 回答者数 9 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	4	3	2			4.2
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2	3	4			3.8
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	2	2	5			3.7
	(4) 授業では、シラスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	6	1	2			4.4
教員の授業の進め方について	(5) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	2	2	1	4		3.2
	(6) 授業の進む速さは、適切であった。	2	3	2	2		3.6
	(7) 受講生に分かりやすく説明した。	3	2	1	2	1	3.4
	(8) 教科書や配布された資料は、適切であった。	2	4	1	2		3.7
	(9) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2	2	5			3.7
あなたの授業への取り組みについて	(10) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	3	5			3.6
総合評価	(11) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	1	3	4			3.6



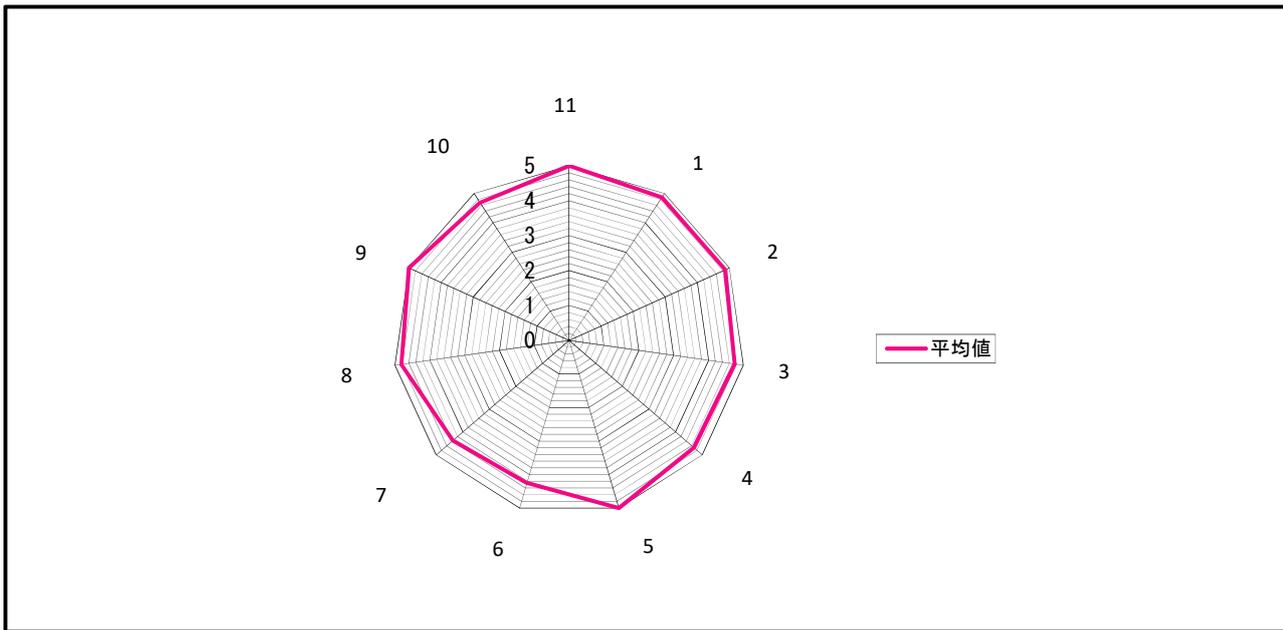
教員のコメント

西洋教育思想史の「表街道」は「啓蒙主義」、「裏街道」は「ロマン主義」というテーマ設定で、学部での授業では「啓蒙主義」に焦点を当てて論じている。これに対して、大学院では、2年前から「ロマン主義」の検討をしている。学部で「人間形成原論」を受講した院生は、こうした「啓蒙主義」と「ロマン主義」という二つの対抗軸を念頭にして授業に参加できているはずだ。使用しているテキストは、リュウディガー・ザ・フランスキー『ロマン主義—あるドイツ的な事件—』(法政大学出版局、2010年)である。私は30年ほど前のドイツ滞在中にザフランスキーの朗読会に出席したことがある。その時朗読されたのは『ショーペンハウアー』だったと記憶するが、それ以来、このアカデミズムに閉じこもらない著者の営為に強い関心を寄せてきた。この授業ではテキストの前半に的を絞って、ドイツを中心とする「ロマン主義」の成立について考えてみた。結果的に見ると、受講者にとってテキストがやや難しかったという結果が出ていると受け止めた。しかし前述のように筆者はアカデミズムに閉じこもらない、独自の視点から「ロマン主義」を論じているのであって、内容的には非常に難解というわけではない。受講生の基礎知識の蓄積に、もう一歩の努力が必要と考える。具体的に述べれば、テキストで開設されているロマン主義者と、受講生の専門分野(たとえば心理学)の古典的な人物、あるいは受講生が興味を持って著作と取り組んでいる人物を対比して検討するように促したが、うまくいかなかった。受講生には自分なりに深く読み込んだ思想家や文学者がいないのだ。自分が生きていくときの糧となる書物が無いのである。本講義の授業評価アンケートを見て、教職を目指す受講生の読書生活を豊かにするという課題を突き付けられたように思う。

結果報告書

授業科目名 発達健康心理学研究
 評価実施日 平成29年7月25日
 担当教員名 山崎 勝之 回答者数 16 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	14	2				4.9
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	15		1			4.9
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	13	2	1			4.8
	(4) 授業では、シラスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	12	3	1			4.7
教員の授業の進め方について	(5) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	16					5.0
	(6) 授業の進む速さは、適切であった。	6	8	2			4.3
	(7) 受講生に分かりやすく説明した。	9	5	1	1		4.4
	(8) 教科書や配布された資料は、適切であった。	13	3				4.8
	(9) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	16					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(10) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	11	5				4.7
総合評価	(11) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	15					5.0



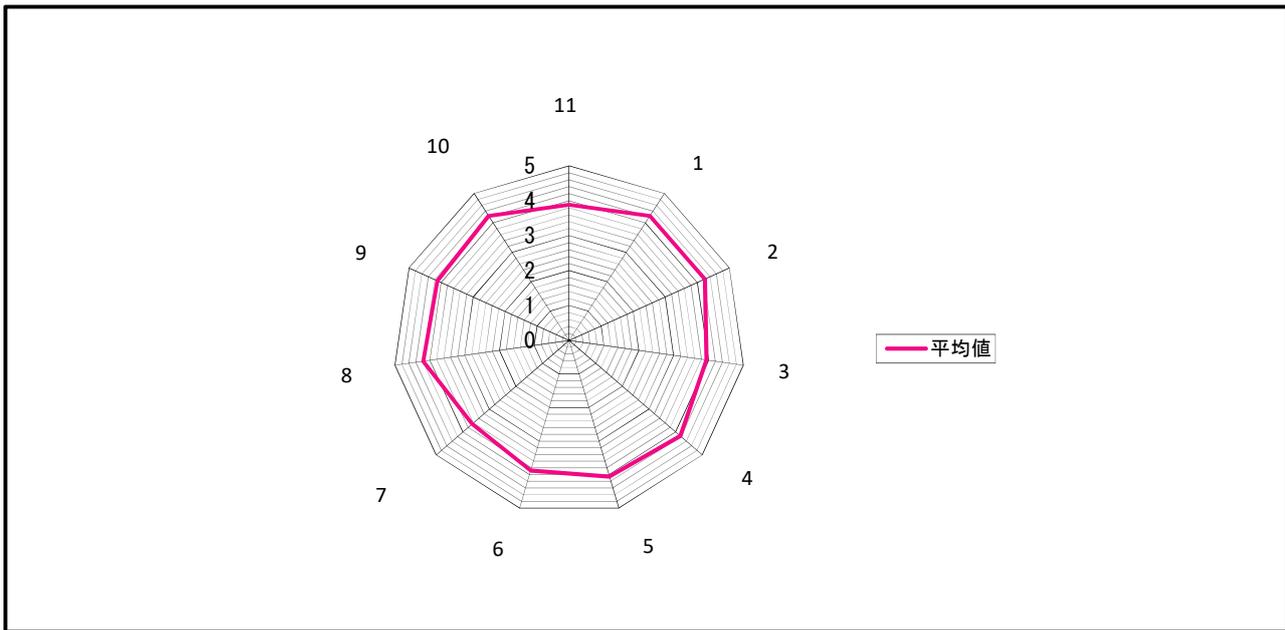
教員のコメント

回答した受講生全員が、総合的な評価として5点満点の評価をしていたところを見ると、まずは授業はうまくいったと考えてよいかもしれない。
 若干低い評価は、進みの速さと分かりやすさであったが、これらも4.5弱の評価があった。しかし、他の項目とくらべて低いということでは、これらの点は改善する必要があるだろう。
 今回の授業も、誠実で向学心旺盛な学生のみなさんとともに授業を高められたという印象が強い。つまり、授業は授業者だけの努力では
 なり立たず、受講生の前向きな参加が必須である。授業者自身も授業を楽しめたのは、受講生のおかげと心得ている。受講生には心か
 ら感謝したい。
 今後も、授業者と参加者との共同という観点を大切に、授業の向上を目指したい。

結果報告書

授業科目名 教育認知心理学研究
 評価実施日 平成29年7月18日
 担当教員名 皆川 直凡 回答者数 17 人

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	9	3	5				4.2
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	8	5	4				4.2
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	6	7	2	1	1		3.9
	(4) 授業では、シラスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	8	5	3	1			4.2
教員の授業の進め方について	(5) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	7	4	6				4.1
	(6) 授業の進む速さは、適切であった。	7	3	5	2			3.9
	(7) 受講生に分かりやすく説明した。	6	3	5	2	1		3.6
	(8) 教科書や配布された資料は、適切であった。	7	6	2	1			4.2
	(9) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	7	5	5				4.1
あなたの授業への取り組みについて	(10) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	7	7	3				4.2
総合評価	(11) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	7	4	4	1	1		3.9



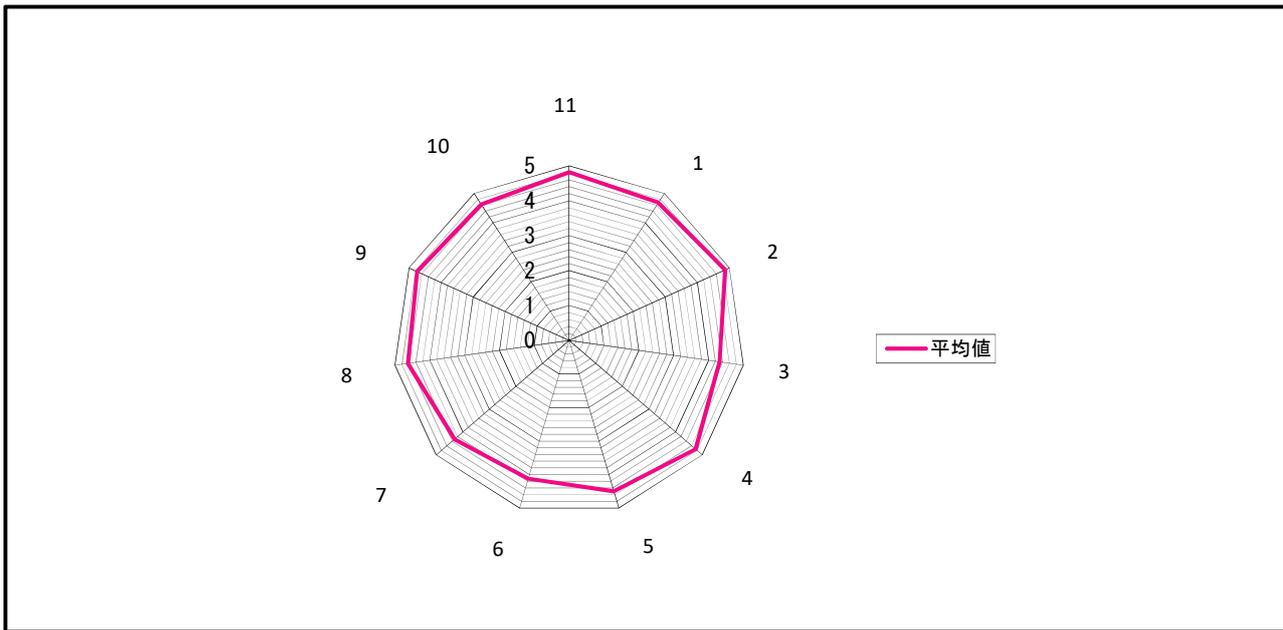
教員のコメント

本授業に対する総合評価は、受講者17名の平均値が3.9であったが、自らの授業への主体的・積極的取り組みを3と評価した受講者3名を除くと、4.1に上昇する。また、総合評価を4以上とした受講者が17名中11名(65%)を占め、総合評価を除く10項目のうち7項目において平均評定値4.1以上を得たことから、本授業への評価はおおむね良好であったと言える。ただし項目(6)と(7)では、評価3以下の受講者がそれぞれ7名(41%)、8名(47%)とやや多く、改善の方向性を指し示した。因みに、教師側の要因とみられる項目(1)から(9)の平均評定値は、4.0以上が9名(うち6名が4.7以上)であるのに対し、3.0未満は2名であった。本科目は高いレベルに目標をおく専門科目であり、すべての受講者の要望に応えることは困難であるが、専門科目としての質を落とさないことを最優先に、できるかぎり多くの受講者のニーズにも応えられるよう努力したいと考える。

結果報告書

授業科目名 心理教育科学研究
 評価実施日 平成29年7月24日
 担当教員名 内田 香奈子 回答者数 16 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	11	5				4.7
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	14	2				4.9
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	9	3	4			4.3
	(4) 授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	13	2	1			4.8
教員の授業の進め方について	(5) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	11	2	3			4.5
	(6) 授業の進む速さは、適切であった。	7	5	3	1		4.1
	(7) 受講生に分かりやすく説明した。	8	5	3			4.3
	(8) 教科書や配布された資料は、適切であった。	10	6				4.6
	(9) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	12	4				4.8
あなたの授業への取り組みについて	(10) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	10	6				4.6
総合評価	(11) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	13	3				4.8



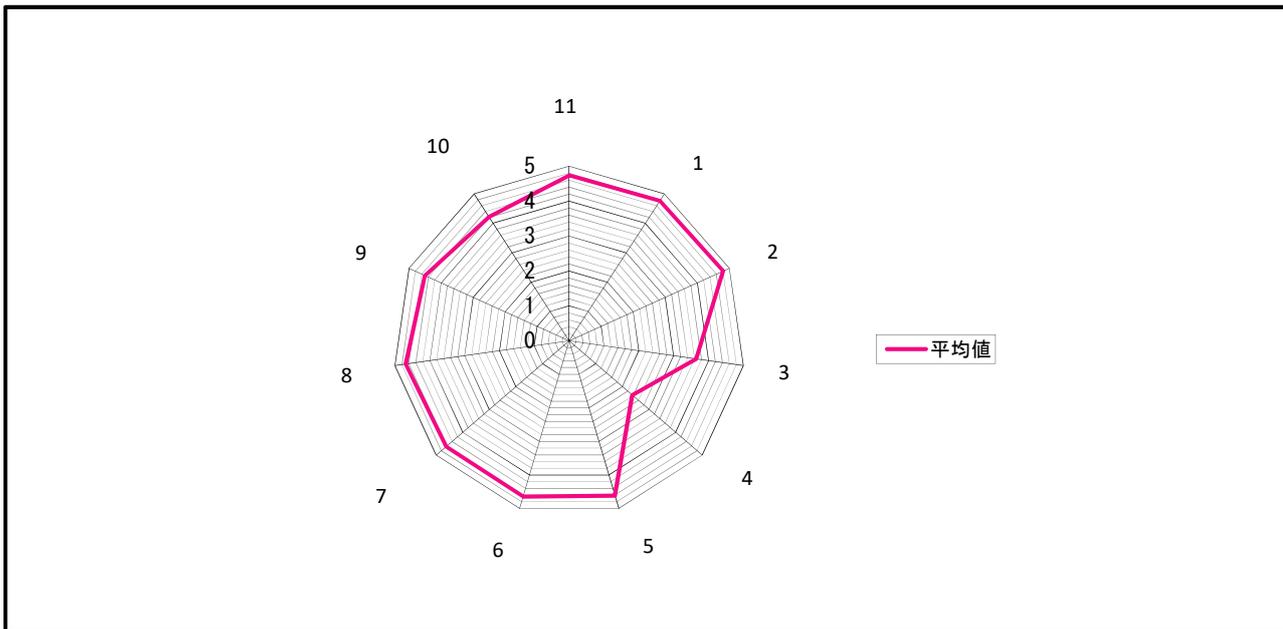
教員のコメント

本授業は、教育効果評価を行う際に必要な知識や技能を身につけることを目的とし、理論の組み立て方、アンケート用紙の作成方法、調査の実施や分析の方法などの方途を身につけるための演習的な要素も含む講義である。すべての評価項目において4点以上の評価が得られた。ただし、昨年より受講生が多かったにもかかわらず、昨年とほぼ同様の方法で実施をしたため、とくに統計や分析に関する理解に苦しむ学生のフォローが充分ではなかった点が反省としてあげられる。その結果が授業進度の適切性に関する評価項目にもあらわれていると思われる。今後は、人数が多い場合の教授法を工夫し、実施したいと考える。

結果報告書

授業科目名 精神医学研究
 評価実施日 平成29年7月10日
 担当教員名 今田 雄三,古川 洋和 回答者数 42 人

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	33	8	1				4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	35	6	1				4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	12	12	11	5	2		3.6
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	2	5	12	8	13		2.4
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	29	10	3				4.6
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	28	13	1				4.6
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	28	12	2				4.6
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	30	11	1				4.7
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	27	10	4	1			4.5
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	15	21	6				4.2
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	32	9	1				4.7



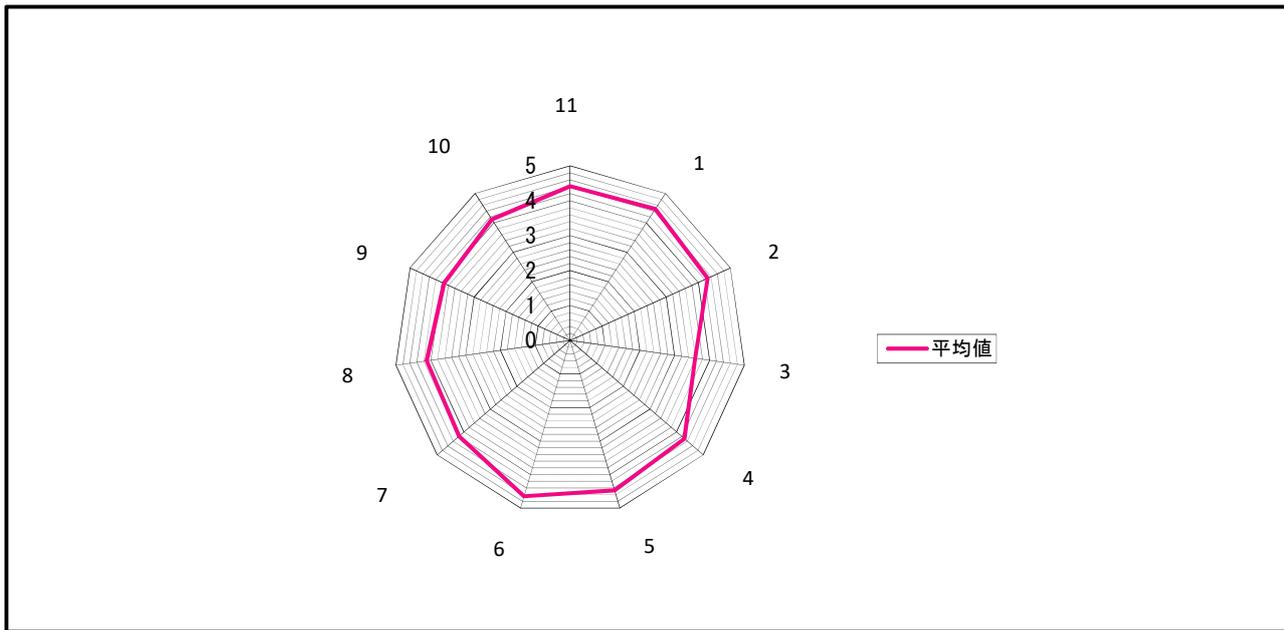
教員のコメント

質問11項目中9項目での評価が4.0点以上であり、総合評価(11)「この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。」では4.7点と評価されており、本授業は総合的には受講生からは高い評価を得られたものとする。ただし、「(3)教師の実践力の育成につながる内容であった」に関する評価については3.6点、「(4)授業は、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた」に関しては2.4点という低い評価であった。受講者の自由記述には(3)の項目に関連する記述は含まれていなかったが、(4)の項目については少数ながら「授業を聞くだけの形式だった」「発表の機会がない」「話し合える形式があればよかった」という記述が見られた。本授業のよかった点では「精神医学について詳しく学ぶことが出来た」ことを評価する者が多かった。授業の改善点として、「内容が多すぎる」「ついていけないことがあった」といった点に加え、「教員からこの教室ではパソコンの音声流せないという説明があったが、本当なら機材を改善して欲しい」との要望もあった。本授業の受講生の大半が過去に精神医学を学んだ経験がない。しかし精神医学の基本的な理解のためには相当の量的な知識の習得が必要である。よって本授業にアクティブラーニングを展開することは率直に言ってあまり適切とは考えられないものとする。むしろアクティブラーニングの実施の有無にこだわるのではなく、受講生が基本的知識をきちんと習得することを主眼においた実効性のある工夫を考えたい。

結果報告書

授業科目名 精神医学文献演習
 評価実施日 平成29年7月26日
 担当教員名 今田 雄三,小倉 正義 回答者数 17 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	11	3	3			4.5
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	10	4	1	2		4.3
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4	5	6	1	1	3.6
	(4)授業では、シラスに示されたアクティブラーニングが、実施されていた。	8	6	3			4.3
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	12	1	4			4.5
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	12	4	1			4.6
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	10	3	1	3		4.2
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	8	4	4	1		4.1
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	7	6	1	2	1	3.9
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	11	2			4.1
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	9	7		1		4.4



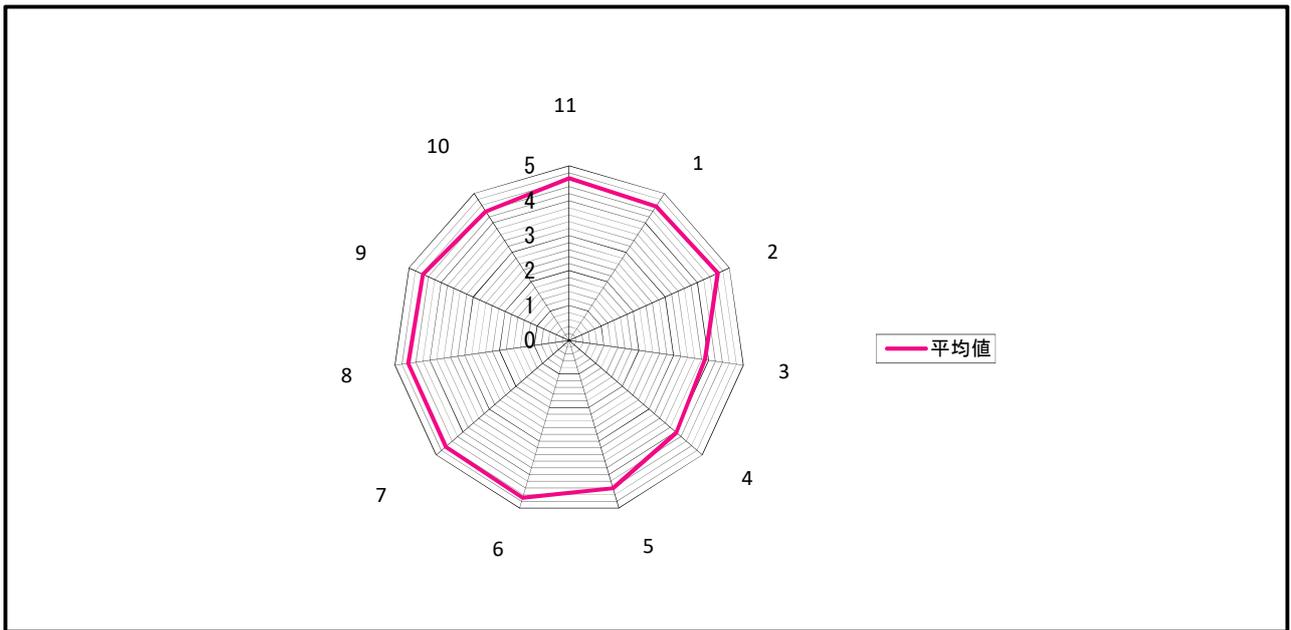
教員のコメント

質問11項中9項目での評価が4.0点以上であり、総合評価(10)「この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。」の評価では4.4点と評価されており、受講生からは高い評価を得られたものと考えます。評価の平均点が4点に達していなかった2つの項目のうち、質問項目(3)の「教師の実践力の育成につながる内容であった」については、自由記述ではこの項目に関連した記述はなされていなかったが、引き続き専門領域についての知見を深めるため、必要に応じて外国語の文献に当たることは、教育者として学問の本質に触れる貴重な機会であることを受講生に喚起していきたい。また、質問項目(9)の「板書や視聴覚機器の使用は、適切であった」に関しては、教員の解説や院生の発表に際しPowerPointを使ってはどうかとの意見が寄せられていた。[2]の「この授業でよかったと思われる点」については、英語論文を輪読する経験が有意義であったとする意見が多く、[3]の「この授業で改善すべきと思われる点」については、「論文の英訳そのものが自分には難しかった」「文献の難易度が高かった」「自分の発表の回以外はただ聞いているだけになってしまう」といった意見も寄せられていた。

結果報告書

授業科目名 臨床心理学研究 I
 評価実施日 平成29年7月20日
 担当教員名 吉井 健治,久米 禎子 回答者数 39 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	23	15	1			4.6
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	27	10	2			4.6
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	9	21	6	2	1	3.9
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	11	19	8	1		4.0
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	21	14	3	1		4.4
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	27	12				4.7
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	25	14				4.6
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	26	11	2			4.6
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	24	13	2			4.6
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	16	22	1			4.4
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	26	12	1			4.6

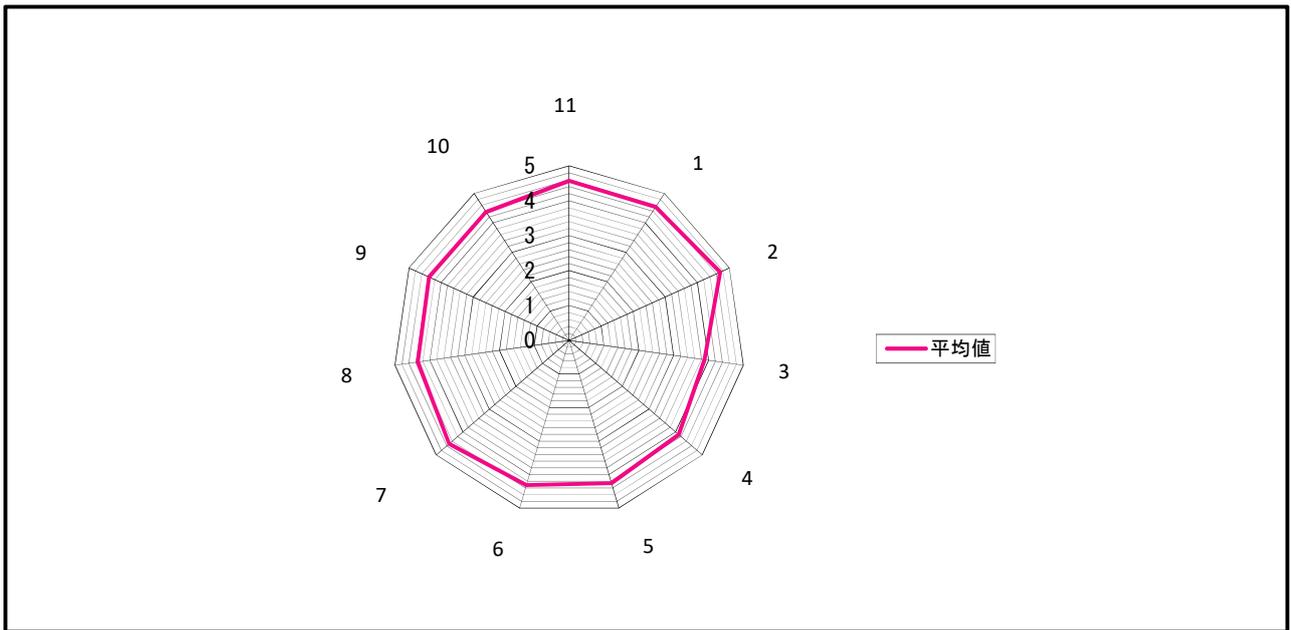


教員のコメント

結果報告書

授業科目名 臨床心理学研究Ⅱ
 評価実施日 平成29年7月28日
 担当教員名 葛西 真記子 回答者数 35 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	21	12	2			4.5
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	25	10				4.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	12	8	13		1	3.9
	(4)授業では、シラスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	13	13	9			4.1
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	14	16	5			4.3
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	15	16	4			4.3
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	20	13	2			4.5
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	16	15	4			4.3
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	17	14	4			4.4
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	15	18	2			4.4
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	21	13	1			4.6



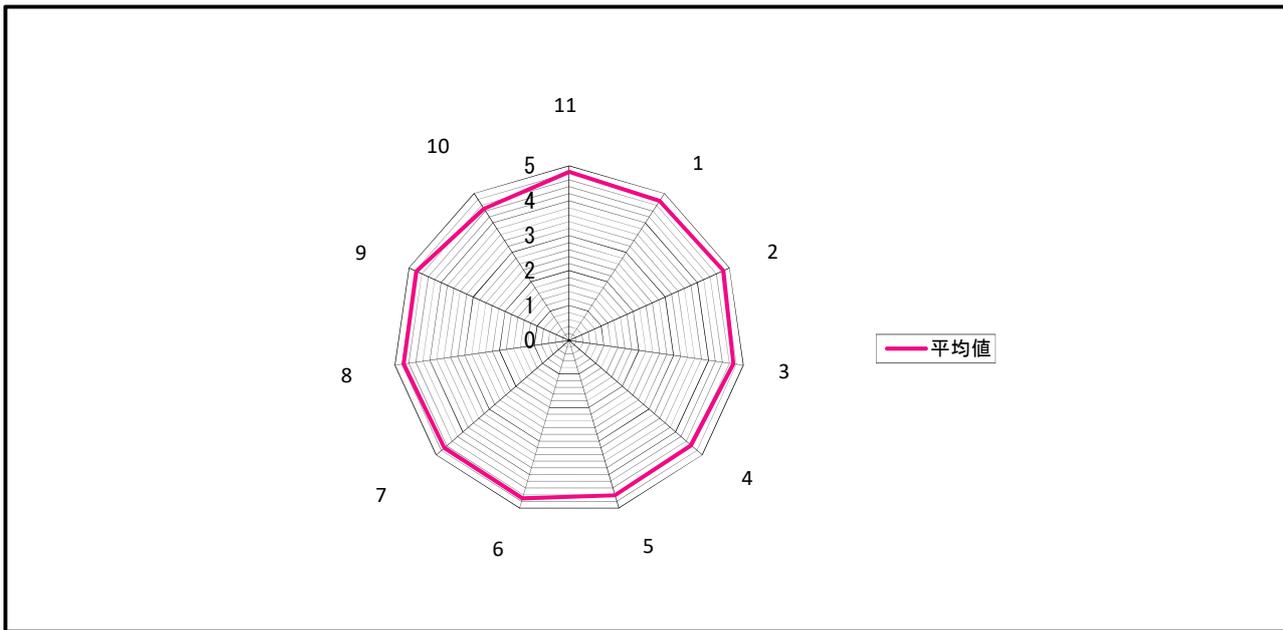
教員のコメント

本講義の総合評価は、例年通り4.6と高い数値であったが、各項目の評価として、「あまり思わない」「そう思わない」と回答している学生が1名いた。そのことについて考えると、「(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。」については、毎年、数名が「そう思わない」と回答しているが、本年度は1名のみ「あまりそう思わない」であった。本年度は、学校現場で生かせるような内容を講義の中に取り入れた結果であると思われる。「どちらとも言えない」が13名いたこともあるので、さらに考える必要があると思われる。次に得点の低かった4.1であった項目は、「アクティブ・ラーニングが実施されていたか」であった。この項目では、「どちらとも言えない」が9名であった。受講生に、アクティブ・ラーニングとなっていなかったかもしれないが、グループ討議やグループでの演習はとりれていた。今後はさらに受講生自身がアクティブに学べるような工夫をする必要を感じた。

結果報告書

授業科目名 学校精神保健学研究
 評価実施日 平成29年7月24日
 担当教員名 今田 雄三 回答者数 52 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	41	9	2			4.8
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	43	8	1			4.8
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	38	13	1			4.7
	(4) 授業では、シラスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	33	17	1	1		4.6
教員の授業の進め方について	(5) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	39	8	4		1	4.6
	(6) 授業の進む速さは、適切であった。	39	11	2			4.7
	(7) 受講生に分かりやすく説明した。	38	12	2			4.7
	(8) 教科書や配布された資料は、適切であった。	41	10		1		4.8
	(9) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	40	12				4.8
あなたの授業への取り組みについて	(10) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	27	23	2			4.5
総合評価	(11) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	43	9				4.8



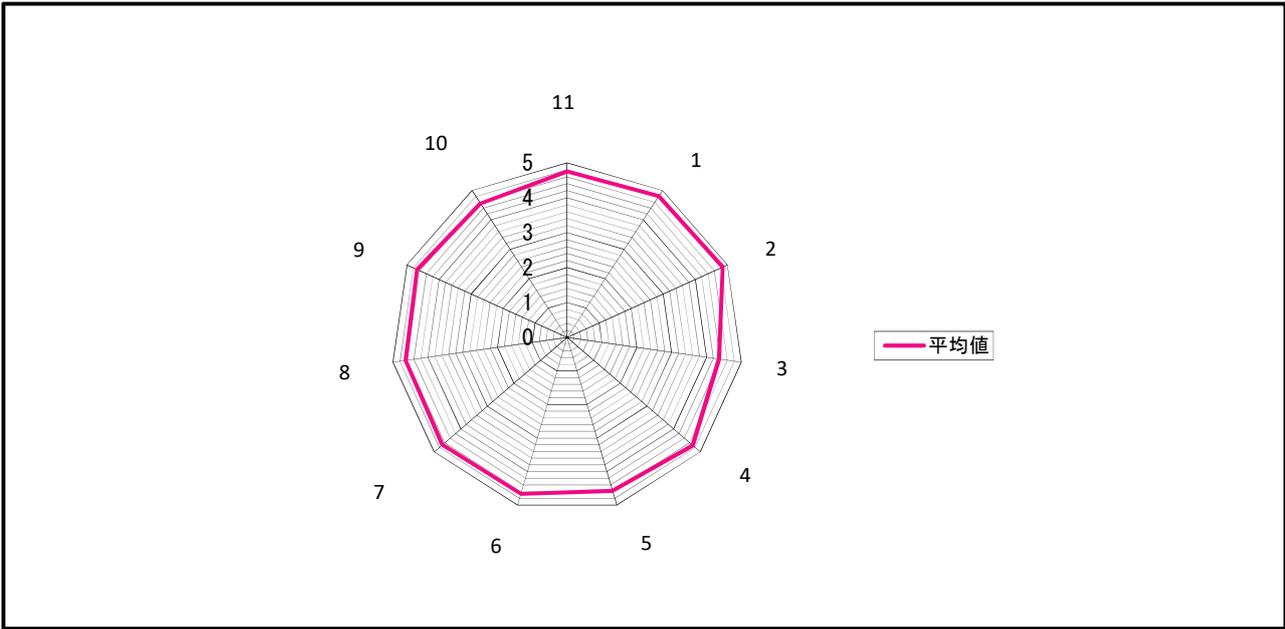
教員のコメント

(1)～(11)の各項目ごとの評価では11項目9項目で4.5点以上を獲得し、(11)「授業に主体的・積極的に取り組んだ」では4.8点の評価を得ており、本授業は受講生から非常に高い評価を得たものとする。自由記述[4]の記述を見ると、「グループワークに積極的になりきれていなかった」「時々居眠りをしてしまった」といった回答があり、グループワークにやや馴染みにくいタイプの受講生への配慮や、講義部分で単調にならないような工夫をする必要があるように思われる。他に自由記述においては「毎回ワークシートへの記述に対し教員からのフィードバックがあり励みになった」「学校で役立つ内容だった」「よく準備されていた」「受講生の意見を取り入れてくれた」「受講生が多くが難しい授業体制の中でとても頑張ってアクティブラーニングを実行されていた」「レポートで心の健康のための授業実践を考案する課題であったのが自分にとっても役立った」といった肯定的な評価が見られた一方、「ワークヘフィードバックしてくれた教員の字が読みづらかった」「先生の声が聞き取りにくかった」「発表しにくかった」「一部でアクティビティーに参加していない人がいた」といった指摘も少数ながら寄せられた。本授業では、昨年度の反省を元に授業内でグループワークや短い演習、カウンセリングの教材ビデオの閲覧などを積極的に行い、受講生の学校精神保健に対する理解が促されたと考える。

結果報告書

授業科目名 臨床心理査定演習 I
 評価実施日 平成29年7月28日
 担当教員名 粟飯原 良造, 久米 禎子, 今田 雄三, 中津 郁子, 吉井 健治, 小倉 正義 回答者数 42 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	35	6	1			4.8
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	37	4	1			4.9
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	26	7	7	2		4.4
	(4) 授業では、シラスに示されたアクティブラーニングが、実施されていた。	32	8	2			4.7
教員の授業の進め方について	(5) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	28	10	4			4.6
	(6) 授業の進む速さは、適切であった。	31	9	1	1		4.7
	(7) 受講生に分かりやすく説明した。	33	6	2	1		4.7
	(8) 教科書や配布された資料は、適切であった。	30	7	4			4.6
	(9) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	32	5	4			4.7
あなたの授業への取り組みについて	(10) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	27	10	4			4.6
総合評価	(11) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	33	4	3			4.8



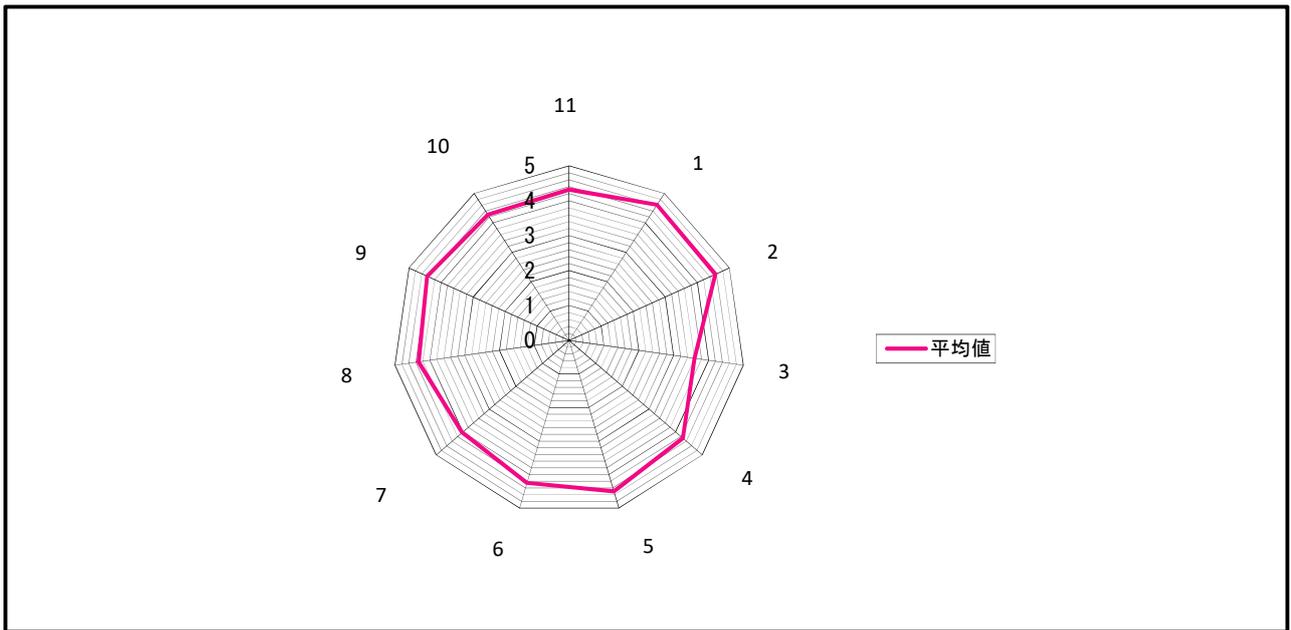
教員のコメント

本授業は臨床心理士を目指す大学院生のための専門的な内容の授業であり、質問(3)が4.4点と他の質問項目の評価に比べて低くなっているのは、そもそも授業の目的が異なっているためであると思われる。(9)の授業への取り組みに関しては、授業で出された課題に積極的に取り組んだことが、この項目への評価につながっていたようである。総合評価では4.8点であり、受講した大学院生の満足度が高い。課題への取り組みも大切だが、今後は、課題の有無にかかわらず、自発的な取り組みの姿勢も育成していく必要があると思われる。

結果報告書

授業科目名 臨床心理学研究法特論
 評価実施日 平成29年9月27日
 担当教員名 葛西 真記子, 山根 隆宏 回答者数 44 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	31	10	2	1		4.6
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	29	12	2	1		4.6
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	8	19	11	3	3	3.6
	(4)授業では、シラスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	18	22	2	2		4.3
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	27	12	5			4.5
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	20	16	7	1		4.3
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	19	11	10	4		4.0
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	21	18	3	2		4.3
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	23	17	4			4.4
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	19	18	7			4.3
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	21	16	7			4.3



教員のコメント

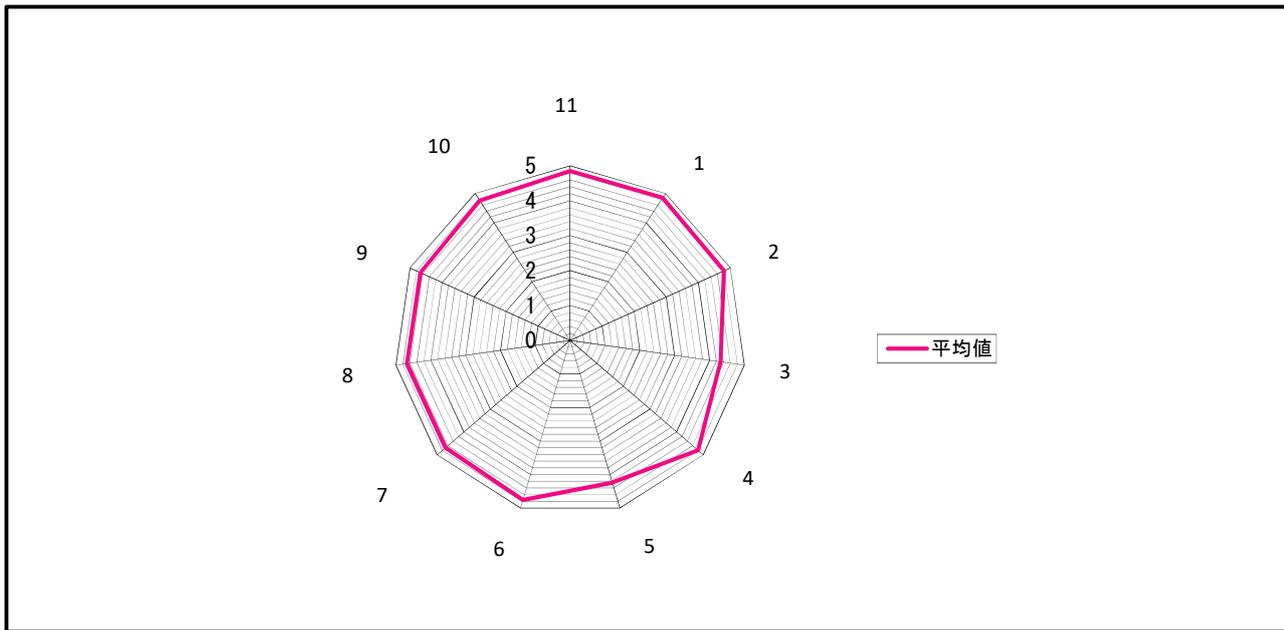
本講義の総合的な評価は、4.3であり、高得点であると言える。特に「専門的知識を深めるのに役立つ内容であった」「成績評価の方法の説明は、適切であった」というのもそれぞれ4.6、4.5であり、受講生にとって授業についてのわかりやすい説明となっていたことがわかる。また、「板書や視聴覚機器の使用は適切であった」にも4.4の評価で有り、今後もこのやり方で進めたいと思う。評価の低かった項目である「教師の実践力の育成につながる内容であった」については、教師も自身の授業実践を客観的に観察し、研究をすることの必要性を認識していなければ、研究そのものの必要性を感じず、研究法の授業にも実践力とのつながりを見出すことはできないだろう。この点については、授業の中でさらに研究の必要性について触れていく必要があると思う。自由記述からは、実際にPCを使って実践的な内容であり、わかりやすかったという意見と、難しかったという意見が見られた。この点については、受講生のレベルに応じた対応が今後必要であることがわかる。またグループ学習や討論を取り入れたことが学びにつながったという記述もあり、アクティブラーニングが受講生の学びにも役立っていたことがわかる。今後もこの方法を取り入れたいと思う。

結果報告書

授業科目名 臨床心理面接演習
 評価実施日 平成29年7月28日
 担当教員名 中津 郁子 栗原 良造 今田 雄三 葛西 真紀子 吉井 健治 小倉 正義 古川 洋和

回答者数 41 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	36	4	1			4.9
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	34	6	1			4.8
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	25	6	8	2		4.3
	(4) 授業では、シラバスに示されたアクティブラーニングが、実施されていた。	35	4	2			4.8
教員の授業の進め方について	(5) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	21	10	9	1		4.2
	(6) 授業の進む速さは、適切であった。	33	6	2			4.8
	(7) 受講生に分かりやすく説明した。	32	5	4			4.7
	(8) 教科書や配布された資料は、適切であった。	33	3	5			4.7
	(9) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	31	5	4			4.7
あなたの授業への取り組みについて	(10) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	32	8	1			4.8
総合評価	(11) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	36	4	1			4.9



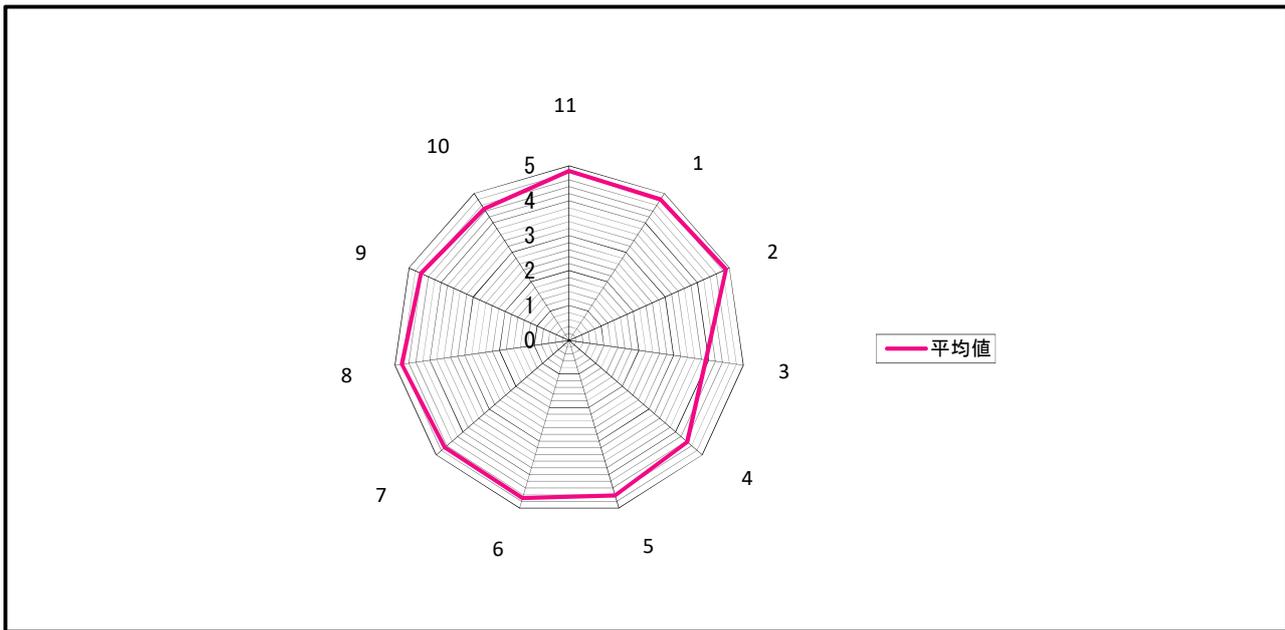
教員のコメント

この授業は6つのグループ(1グループが7~8人の院生と教員1人)に分かれて、ロールプレイを行いグループ討議をするという授業である。面接場面での傾聴技法の習得など、相談室での面接を担当する上では重要な授業である。今年度は総合評価が4.9と高い評価になっている。院生にとって概ね満足度のいく授業であったと考えられる。前年度の総合評価は4.5であったので、前年度よりも満足度は高くなっている。昨年度を振り返って授業の在り方を多少改善したためかもしれない。各項目で見ると、「(3)教師の実践力」に関する項目は、授業の性質上毎年点数は低い。また、「(4)成績評価」に関する項目の点数が最も低い。しかし、昨年度の3.6から4.2に上がっている。昨年度は成績評価に関する院生からの異議があり、今年度はより修正を行った。しかし、今後も院生が納得できる評価になるように検討していく必要がある。院生のコメントを見ると、「少人数で」ロールプレイを行うことで、「実践的な」授業であったことや、「知識注入型」でなく、自ら感じ考えることを支持されているという印象だったことなどを「良かった点」としてあげていた。[3]「改善点として」は、例年に比べて書いている人が少なく、内容では評価に関することだった。オリエンテーション時の説明を工夫していきたい。[4]「授業に主体的・積極的に取り組んだ」理由では、「実践につながる授業」であるため「欠席をせずに」、「積極的に」取り組んだとの意見が多く見られ、臨床心理を学ぶ上で大事な授業であることは自覚されていた。今年度の授業評価では、特に気になる記述もなく前年度を反省し改善したことの影響が表れていたのかもしれないが、具体的な記述があまり書かれていないことが逆に気になった。今後も、授業評価を参考に、授業内容や方法等の改善を行ってきたい。

結果報告書

授業科目名 臨床心理面接研究Ⅱ
 評価実施日 平成29年7月20日
 担当教員名 粟飯原 良造 回答者数 40 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	32	8				4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	35	4				4.9
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	14	12	9	1	2	3.9
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	21	14	4			4.4
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	26	13	1			4.6
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	29	10	1			4.7
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	28	11	1			4.7
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	32	8				4.8
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	28	9	3			4.6
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	24	12	3	1		4.5
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	34	6				4.9



教員のコメント

質問項目のうち、「教師の実践力の育成につながる内容であった」が3.9点であった以外は、4.4点以上で、総合的評価は4.9点であり、教員養成を目的としていない臨床心理養成コースとしては高い評価を受けている。

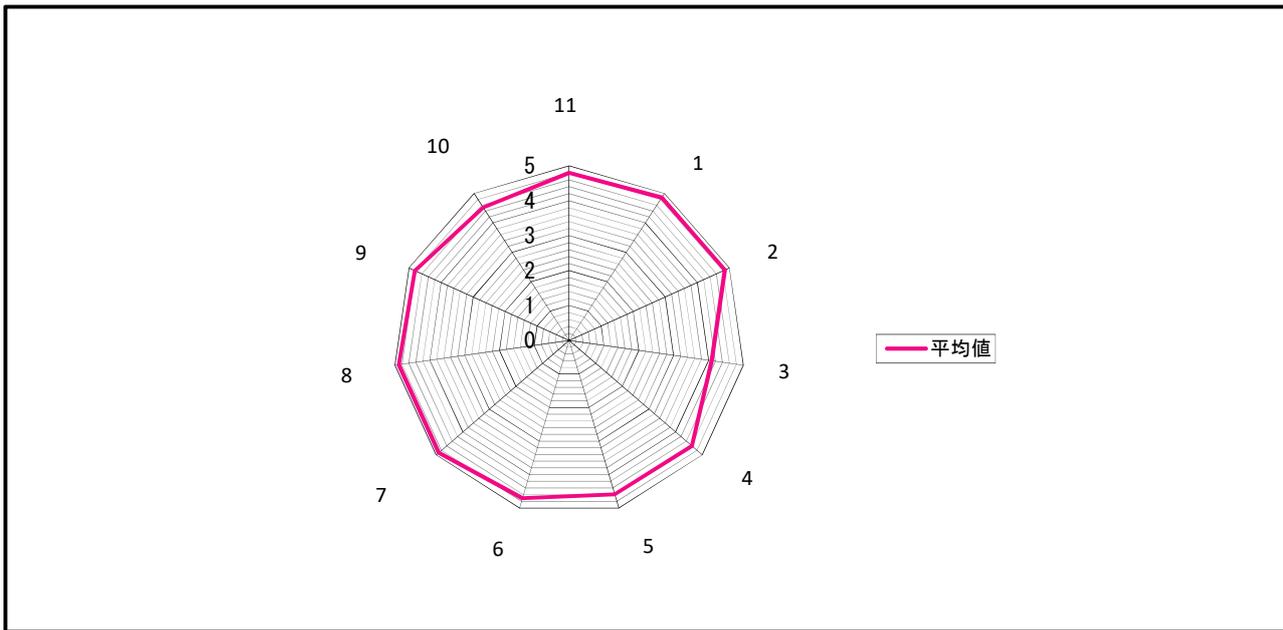
自由記述では、将来必要になるカウンセリング理論や技法を具体的に提示し、質問に対しての回答がわかるまで丁寧であったこと、グループで学習、実習学習があり体験的に学び、他人の違った意見を知る機会になったこと、実技と座学のバランスがよかった、興味深い内容で休まずに出席できた、集中して授業を受けられた、具体的で実践的な学習ができたこと、よい評価である。また、自由記述を40名中33名が行っていることが、今年度までになく、アンケートにも積極的に応えてくれたと思われる。

今後の課題は、カウンセリング理論と技法を受講生に分かりやすく教師の実践力につながることを伝えるためのロールプレイを取り入れた生きたい。

結果報告書

授業科目名 社会心理学研究
 評価実施日 平成29年9月7日
 担当教員名 木村 昌紀 回答者数 44 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	40	3		1		4.9	
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	40	3		1		4.9	
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	15	17	11			1	4.1
	(4)授業では、シラスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	30	13			1		4.6
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	31	9	3	1		4.6	
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	34	8	1	1		4.7	
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	40	4					4.9
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	39	5					4.9
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	38	5		1			4.8
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	27	14	2	1		4.5	
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	37	6		1		4.8	



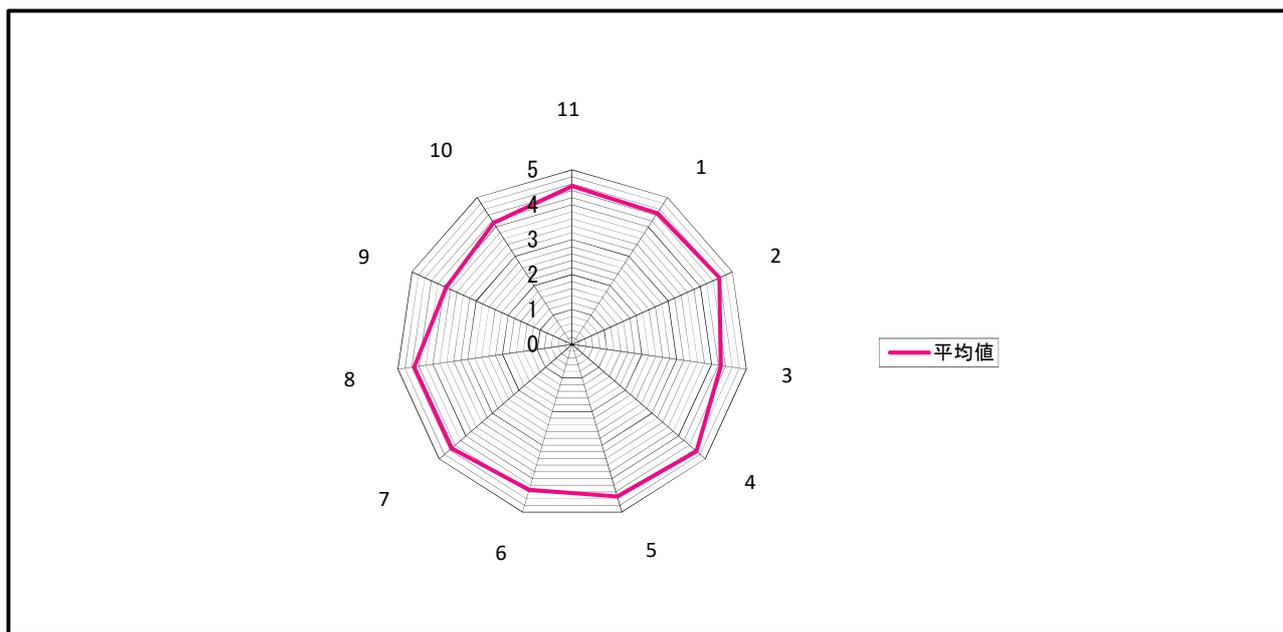
教員のコメント

今年度の集中講義「社会心理学研究」を担当しました。木村昌紀です。今年は二年目になるのですが、昨年度の課題点だった体験課題を増やすようにしました。受講生の皆さんから体験課題が良かったと言っていただけて安心しました。至らない点もたくさんあったと思いますが、良い評価をしてくださり、どうもありがとうございました。たくさんの受講生の皆さんから、講義内容に興味をもっていただけたこと、スライドや配布資料がわかりやすかったとご意見をいただけて嬉しく感じています。講義内容に関しては、社会心理学の中で、特にコミュニケーションと対人関係について、基礎的かつ重要な内容を中心に、できるだけ幅広く、相互の関連性を意識しながら講義を心がけました。加えて、昨年度できなかった特定分野での踏み込んだ話や、最新の知見の紹介もビデオ教材なども使いながら可能な範囲で行うようにしました。一方で、いろいろ盛り込んだ分、情報量が多くなり過ぎてしまいました。初めて社会心理学を学ぶ方には情報が多すぎて消化不良にさせてしまったかもしれません。内容を充実させながら、情報を厳選して最適を探っていきたいと思います。この反省点は、これからの講義に活かしていこうと考えています。熱心な受講生ばかりで授業もしやすく、いただいた質問やコメントで大変勉強になりました。

結果報告書

授業科目名 幼年期福祉研究
 評価実施日 平成29年7月20日
 担当教員名 木村 直子 回答者数 15 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	8	6	1			4.5
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	9	6				4.6
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	6	7	2			4.3
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	11	3	1			4.7
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	8	7				4.5
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	8	4	3			4.3
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	9	5	1			4.5
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	8	7				4.5
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4	6	5			3.9
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6	5	4			4.1
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	8	7				4.5



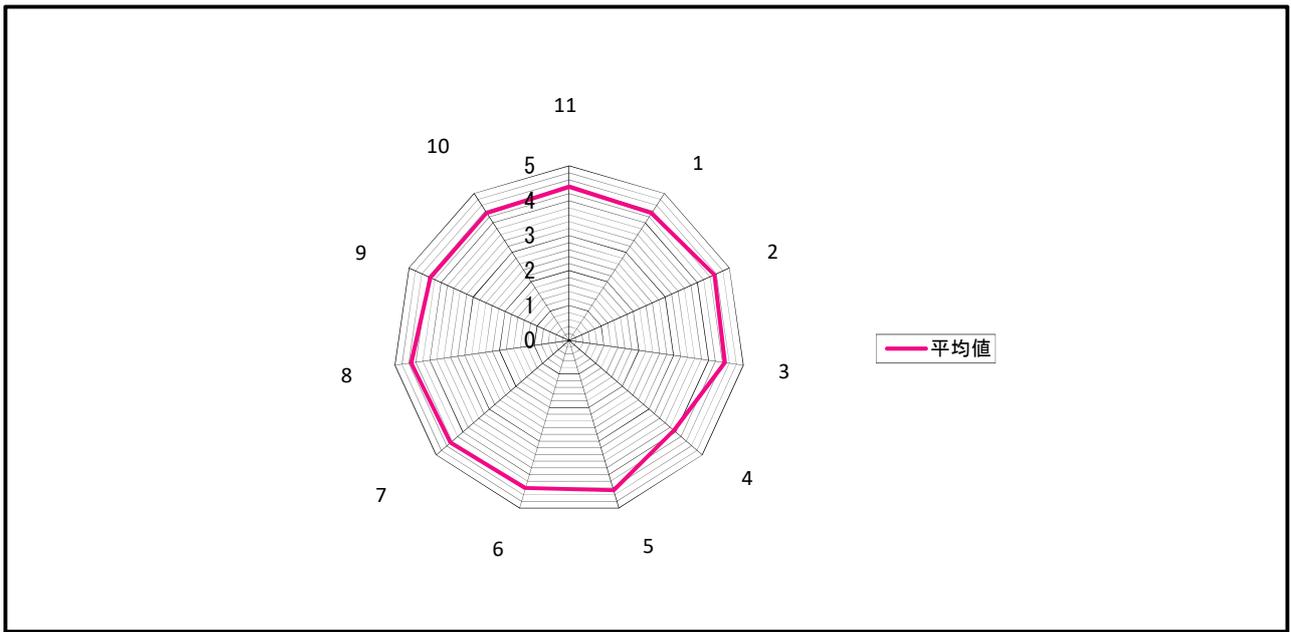
教員のコメント

今年度も様々なコースの方が履修してくださった。授業の進め方や内容を受講生の状況に応じて、柔軟に対応することができ、そのことが、総合的に多くの院生の満足に繋がったように思う。また、講義科目ではあるが、対話型の授業を行っており、そのことが「ディスカッションを通して、他の人の意見に触れる機会が多かった」「皆でディスカッションすることにより、より考えを深めたり、新しい考えを取り入れることができた」といったコメントに繋がったと考える。ただし、「板書や視聴覚機器の使用は、適切であった」「授業に主体的・積極的に取り組んだ」という点には改善の余地がある。コメントの中では、「授業のトピックスについて色々調べた」というコメントがあり、予習等に力を入れていた学生がいることがわかる。しかし一方「自分の意見に自信がないので、主体的に参加できなかった」「どのようにノートをとったらよいか分からなかった」といった記述もあった。授業実施の時より、意見をあまり言えない気にかかる学生がいることは認識していただが、十分なフォローをできていなかったと思う。特にアクティブ・ラーニングを指向する授業の中では、学生それぞれの学びや動機に基づき、発表や意見を述べるのが良いのだということを伝え、自己主張の得意でない学生にも自尊心を保ち、主体的な学びが得られるよう、援助して必要がある。

結果報告書

授業科目名 こころの発達支援研究
 評価実施日 平成29年7月28日
 担当教員名 浜崎 隆司 回答者数 15 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	7	6	2			4.3
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	8	7				4.5
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	7	8				4.5
	(4) 授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	5	5	4	1		3.9
教員の授業の進め方について	(5) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	9	4	2			4.5
	(6) 授業の進む速さは、適切であった。	9	4	1	1		4.4
	(7) 受講生に分かりやすく説明した。	9	5		1		4.5
	(8) 教科書や配布された資料は、適切であった。	8	7				4.5
	(9) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	6	8	1			4.3
あなたの授業への取り組みについて	(10) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6	8	1			4.3
総合評価	(11) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	8	5	2			4.4



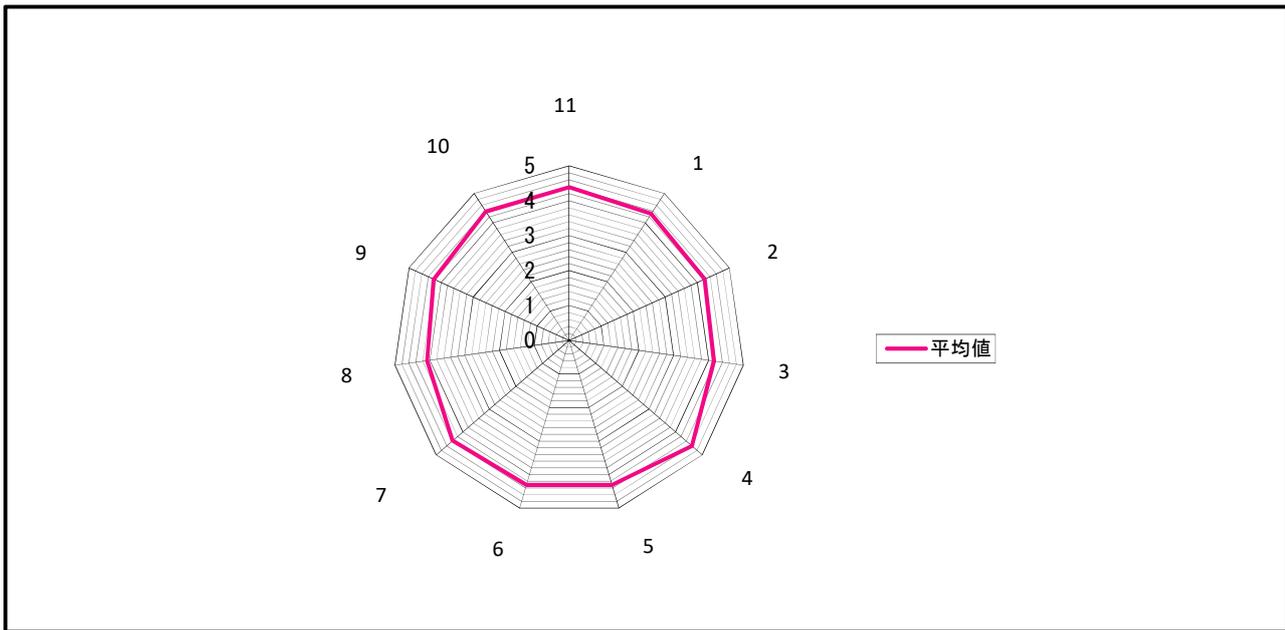
教員のコメント

アクティブラーニングの内容を、シラバスに取り入れ実施したものの、平均値で3点台であった。5点で評価した院生もいたが2点の評価をした院生もいた。この評価のばらつきは、事前にアクティブラーニングの内容についての事前説明を行わなかったことに原因があると思われる。授業によってアクティブラーニングの内容は異なるので、事前の詳細な説明が必要である。次年度より、授業開始時に評価の方法と共にアクティブラーニングについての説明を行うようにする。他の評価は総合評価を含めて4.3以上でおおむね高い評価を得たと思われる。可能であれば、アクティブラーニングを積極的に取り入れた講義に関しては自由記述等による小アンケートを実施し、改善点があれば改善する。

結果報告書

授業科目名 幼年発達心理研究
 評価実施日 平成29年7月27日
 担当教員名 田村 隆宏 回答者数 13 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	5	7	1			4.3
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5	6	2			4.2
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4	7	2			4.2
	(4)授業では、シラスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	9	3	1			4.6
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	5	7	1			4.3
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	5	7	1			4.3
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	6	6	1			4.4
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	3	8	2			4.1
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3	10				4.2
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6	6	1			4.4
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	6	6	1			4.4



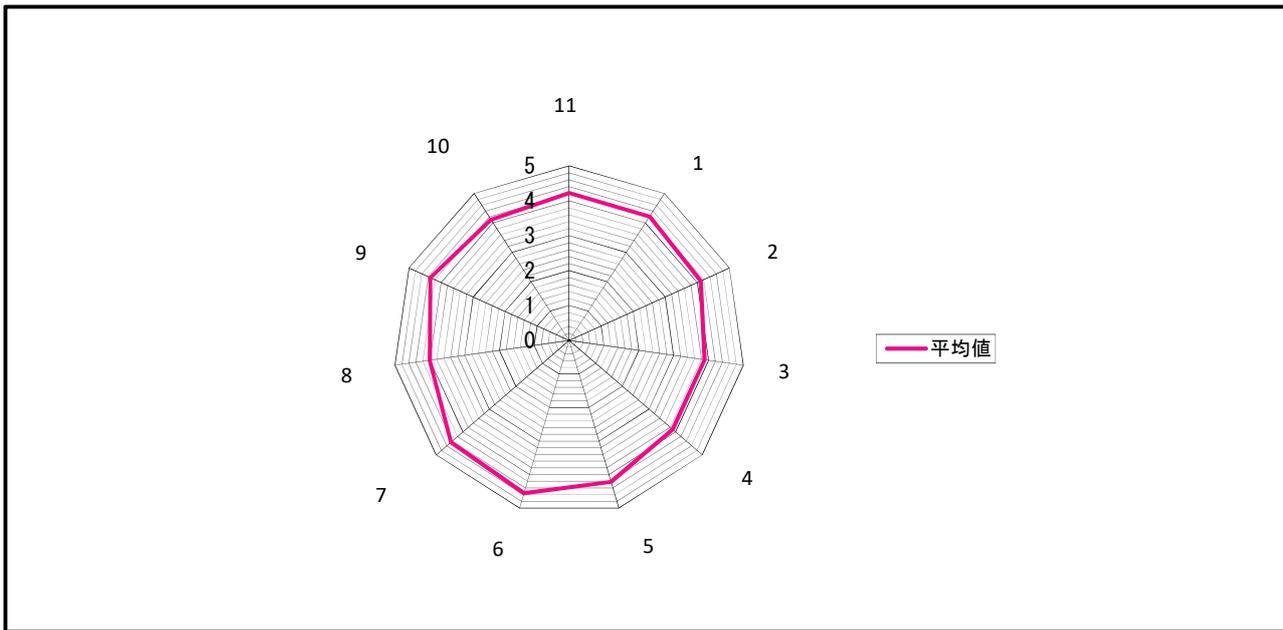
教員のコメント

各項目の平均評定値をみると、ほとんどの項目が4.0以上であり、概ね良好な評価を受けている結果となった。ただし、いくつかの項目において少数ではあるが、評定値として3にチェックした受講生もみられたことから、各項目の内容についてさらに改善を図ることも必要である。今後の授業では特に内容に関してはより教師の実践力に関わるもの、より専門的知識に関わるものを提供することが改善すべき点である。また、授業の進め方においても受講生に対して、成績評価の適切な説明、適正な進度、より分かりやすい説明、適切な資料配付、機材利用を心がけることが重要な改善事項である。自由記述には、グループ討論活動に積極的に参加したことによって、より学びが深まったとのコメントが多数あったことから、さらにこのグループ討論の活動を洗練したものにすることが重要である。

結果報告書

授業科目名 幼年期教育学研究
 評価実施日 平成29年7月24日
 担当教員名 湯地 宏樹 回答者数 9 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3	5	1			4.2
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3	5		1		4.1
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2	5	1	1		3.9
	(4)授業では、シラスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	2	4	3			3.9
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2	7				4.2
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	5	4				4.6
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	4	5				4.4
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	2	6		1		4.0
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4	4	1			4.3
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	6	1			4.1
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3	5	1			4.2



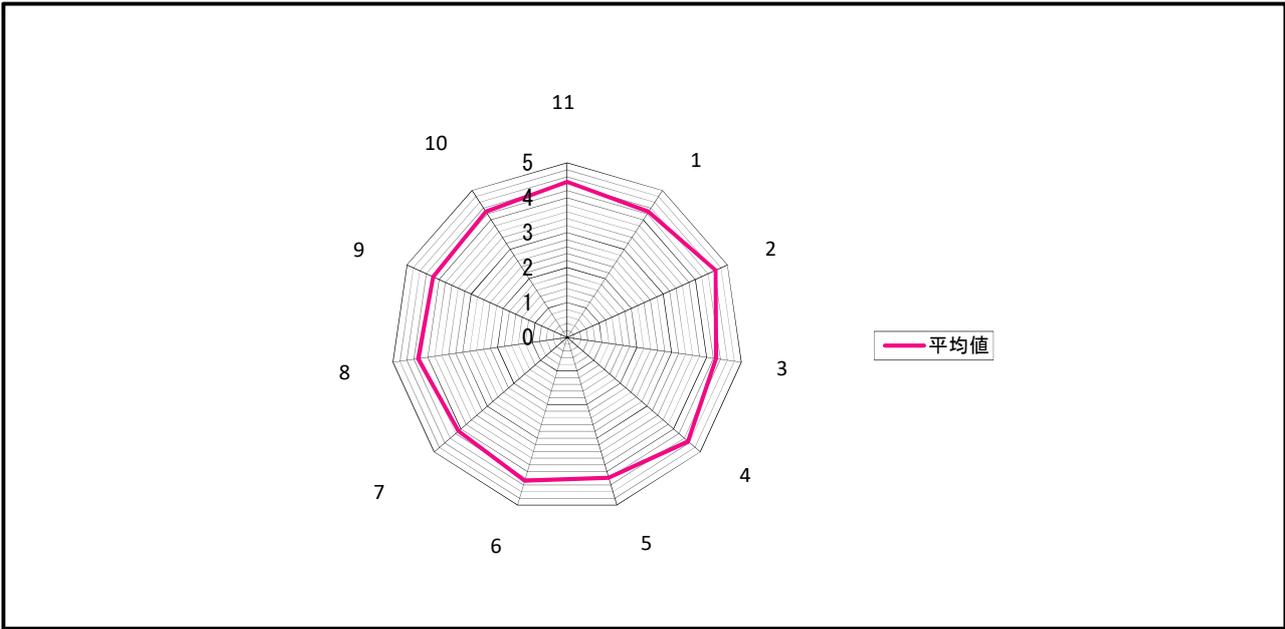
教員のコメント

本授業の受講者数は10人(昨年度9人)で、そのうち9人の授業評価の結果である。
 授業評価に関しては、「5」>「4」>「3」を常に目標としている。昨年度、一昨年度はすべての項目で達成できていたが、今年度は「(6)授業の進む速さ」のみであった。「(2)専門的知識」「(3)実践力育成」「(8)教科書・配布資料」の3つの項目に「2」の評価がそれぞれ1名いた。総合評価も4.1と昨年度4.8よりも低評価だった。自由記述[2]のよかった点には、「さまざまな体験(2件)」「実体験を交えた学修(2件)」「遊びの理論などの様々な視点から知ることができた」「内容がおもしろい」などの意見がみられた。自由記述[3]の改善点については、とくに記述はなかった。
 学生の授業への取り組みに関しては「(9)主体性・積極性」は平均が4.1と昨年度の4.5よりも低い評価だった。「(4)アクティブ・ラーニング」に関しても3.9と4.0を下回っていたが、自由記述[4]授業の参加度については、「ディスカッションなど積極的に質問・発言した(4件)」「興味ある分野だった(2件)」「前向きに取り組んだ」などアクティブ・ラーニングに関する意見もみられた。
 ディスカッションやアクティブラーニングの時間を多く設けることは、学生の授業への参加度を促していると思われる。しかし、「(2)専門的知識」「(3)実践力育成」の項目における低評価を真摯に受け止め、学生の授業への参加度が専門的知識や実践力の育成に繋がるように工夫していきたい。

結果報告書

授業科目名 幼年発達と幼児教育内容論
 評価実施日 平成29年7月24日
 担当教員名 塩路 晶子 回答者数 11 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	4	6	1			4.3
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	7	4				4.6
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4	6	1			4.3
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	6	5				4.5
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	3	7	1			4.2
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	3	8				4.3
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	3	6	2			4.1
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	4	6	1			4.3
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4	6		1		4.2
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	6	1			4.3
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	6	4	1			4.5



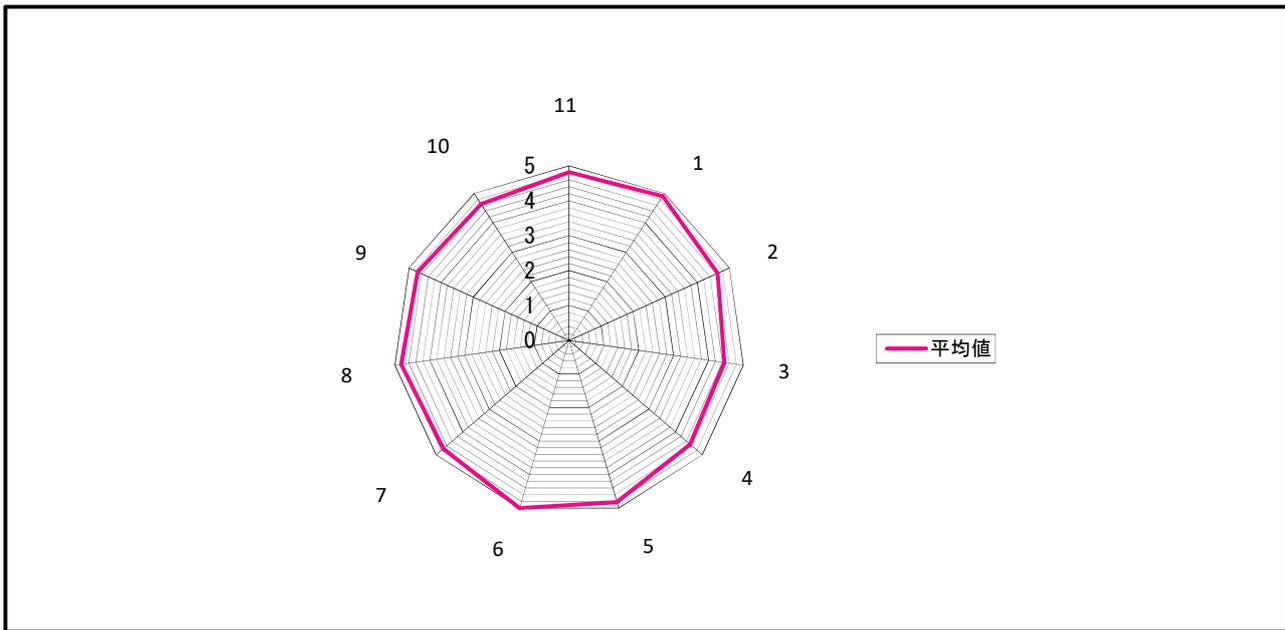
教員のコメント

本講義は、乳幼児を取り巻く現状や、世界の幼児教育の中での日本の幼児教育の位置付けについて理解し、どのような保育内容が子どもたちにとって相応しいのか、ということについて理解することを目的としていた。その際には、日本の幼児教育の歴史や小学校との連携も視野に入れて講義を展開した。受講生からの評価を見ると、専門的知識を深めることには概ね寄与できたようである。多くの資料を配布したが、授業の予習復習ができるということで、肯定的な意見が多かった。授業の進め方については、ディスカッションを多く取り入れて、他の学生と一緒に考えを深め合えたと評価された。授業に受講生が主体的に取り組んだかという質問項目についても、昨年度の3.9から4.3に上昇している。

結果報告書

授業科目名 文化とコミュニケーション
 評価実施日 平成29年7月28日
 担当教員名 太田 直也,金野 誠志 回答者数 11 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	10	1				4.9
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	9		2			4.6
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	7	2	2			4.5
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	7	3	1			4.5
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	9	2				4.8
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	11					5.0
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	9	1	1			4.7
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	10		1			4.8
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	8	3				4.7
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	7	4				4.6
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	9	2				4.8



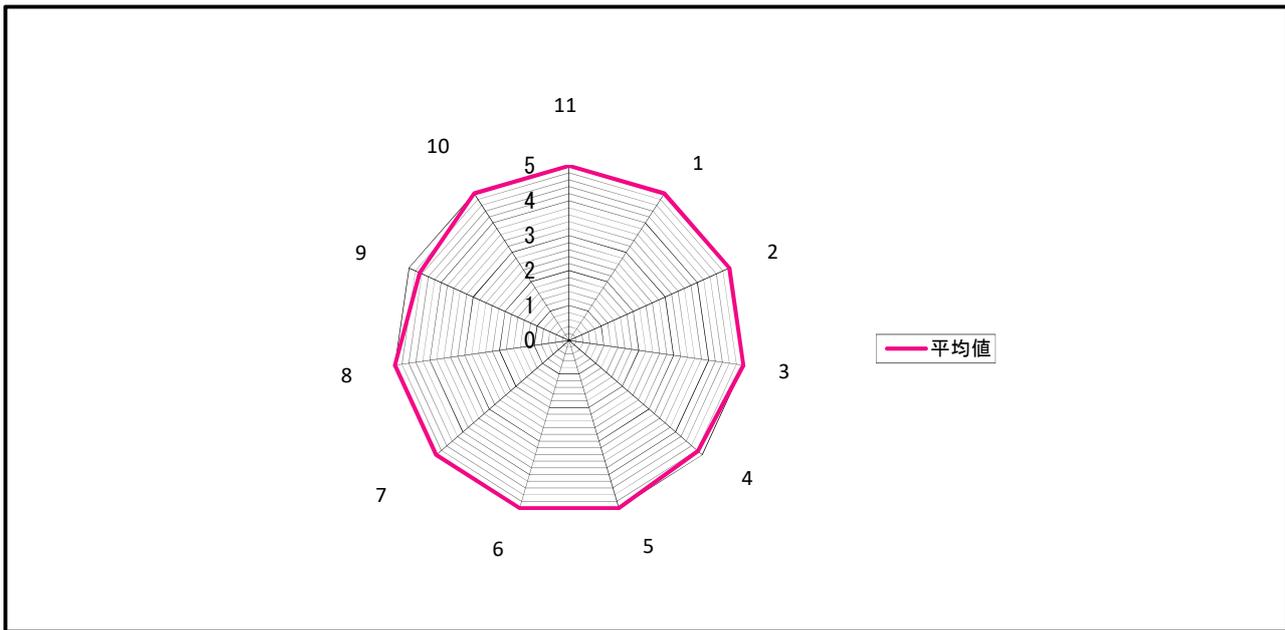
教員のコメント

本授業において論じられたのは、1)現代の文化論の概要、2)学校現場における文化の取り扱いについて、である。やや難解な論にも触れ、時として現在の学校教育の現場にはそぐわないであろう主張も紹介した。にもかかわらず、非常に高い評価を得て、有難いことである。授業担当者たちが十分な準備をして授業に臨んだことは言うまでもないが、受講者たちの教室外での努力が授業を有意義なものにしたと確信する。

結果報告書

授業科目名 人間と文化 I (基礎研究)
 評価実施日 平成29年7月27日
 担当教員名 太田 直也, 金野 誠志 回答者数 6 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	6					5.0
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6					5.0
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	6					5.0
	(4) 授業では、シラスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	5	1				4.8
教員の授業の進め方について	(5) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	6					5.0
	(6) 授業の進む速さは、適切であった。	6					5.0
	(7) 受講生に分かりやすく説明した。	6					5.0
	(8) 教科書や配布された資料は、適切であった。	6					5.0
	(9) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	5		1			4.7
あなたの授業への取り組みについて	(10) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6					5.0
総合評価	(11) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	6					5.0



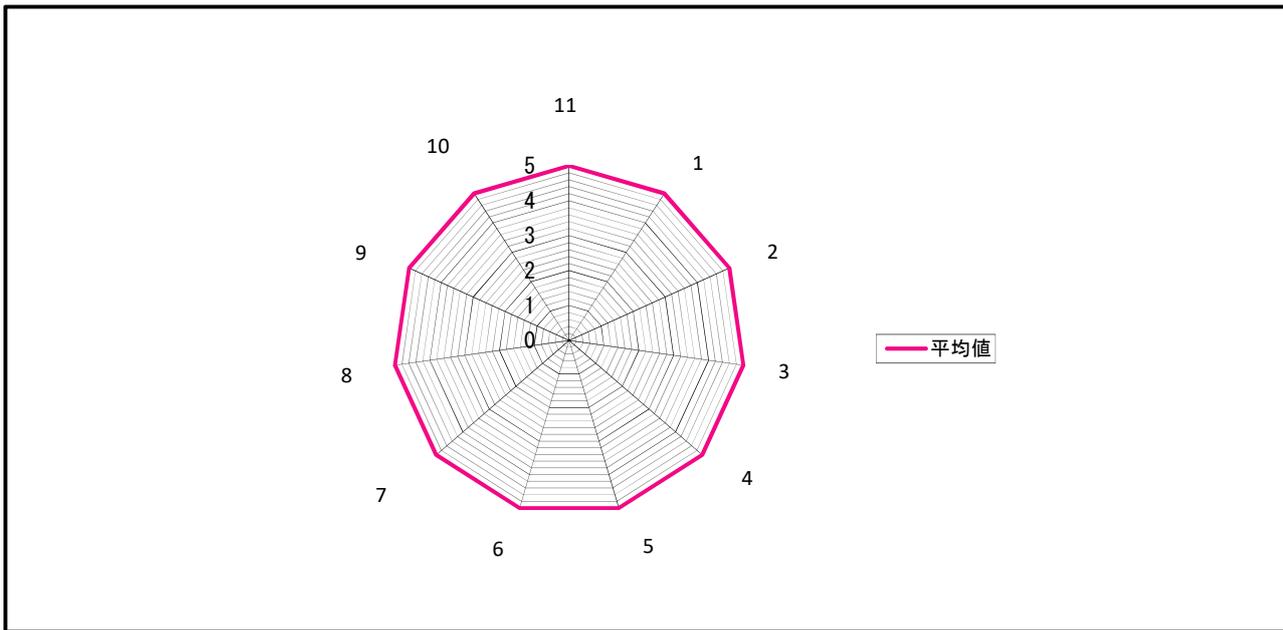
教員のコメント

学術論文の講読を通じて、研究方法と論文執筆において必要とされる諸事を学ぶ授業であった。修士論文を執筆する受講者にとっては極めて重要度の高いものであったと想像されるが、毎回、論文の内容を丁寧にまとめ、自分なりの意見をもって授業に臨んだ受講者たちは高く評価されねばならないであろう。

結果報告書

授業科目名 人間と文化Ⅱ(地域研究A)
 評価実施日 平成29年7月27日
 担当教員名 太田 直也 回答者数 4 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	4					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4					5.0
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	4					5.0
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	4					5.0
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	4					5.0
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	4					5.0
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	4					5.0
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4					5.0
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	4					5.0



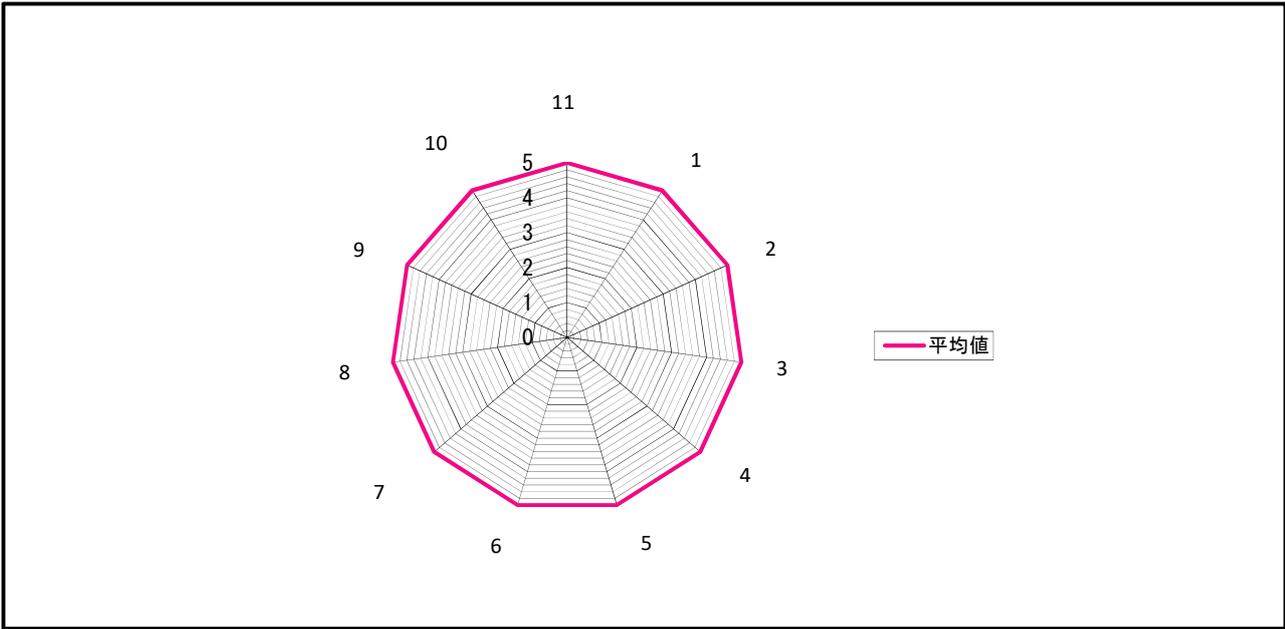
教員のコメント

アイルランド共和国の文化を学ぶことを通じて文化を考える授業であった。演習であるがゆえに、受講者たちは求められたテーマについて何度も発表する必要があったが、実に入念な準備をして、文化の本質をとらえた発表をした。言うまでもなく、実際にアイルランド共和国を訪れてケルト文化の現状を確認する機会は持てなかったが、文化というものを考え、自らの見解を築くことはできたのではないだろうか。

結果報告書

授業科目名 人間と文化Ⅳ(実践研究)
 評価実施日 平成29年7月27日
 担当教員名 太田 直也 回答者数 4 人

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	4						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4						5.0
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	4						5.0
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	4						5.0
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	4						5.0
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	4						5.0
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	4						5.0
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4						5.0
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	4						5.0



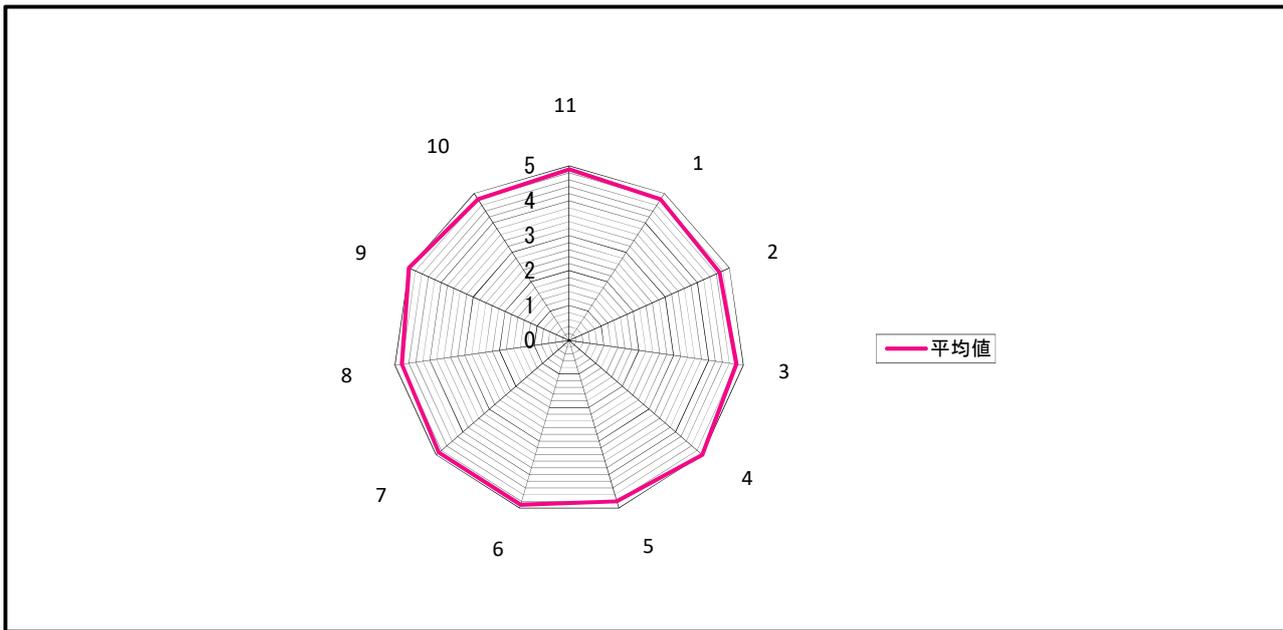
教員のコメント

本授業は「人間と文化 I (基礎研究)」と連動しているものであり、学会における研究の動向を確認し、自らの研究の位置づけをしようというものである。受講者たちは事前準備をしたうえで、異文化間教育学会(於:東北大学)に参加した。帰鳴後、自らが聞いた発表の内容をまとめ、報告した。その発表を評価したうえで、自らの論文がありようを考えてもいた。勤勉この上ない大学院生の姿勢は目を見張るものがあった。

結果報告書

授業科目名 コミュニケーションと環境
 評価実施日 平成29年7月31日
 担当教員名 金野 誠志,谷村 千絵 回答者数 10 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	8	2				4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	8	1	1			4.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	9		1			4.8
	(4)授業では、シラスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	10					5.0
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	8	2				4.8
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	9	1				4.9
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	9	1				4.9
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	8	2				4.8
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	10					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	8	2				4.8
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	9	1				4.9



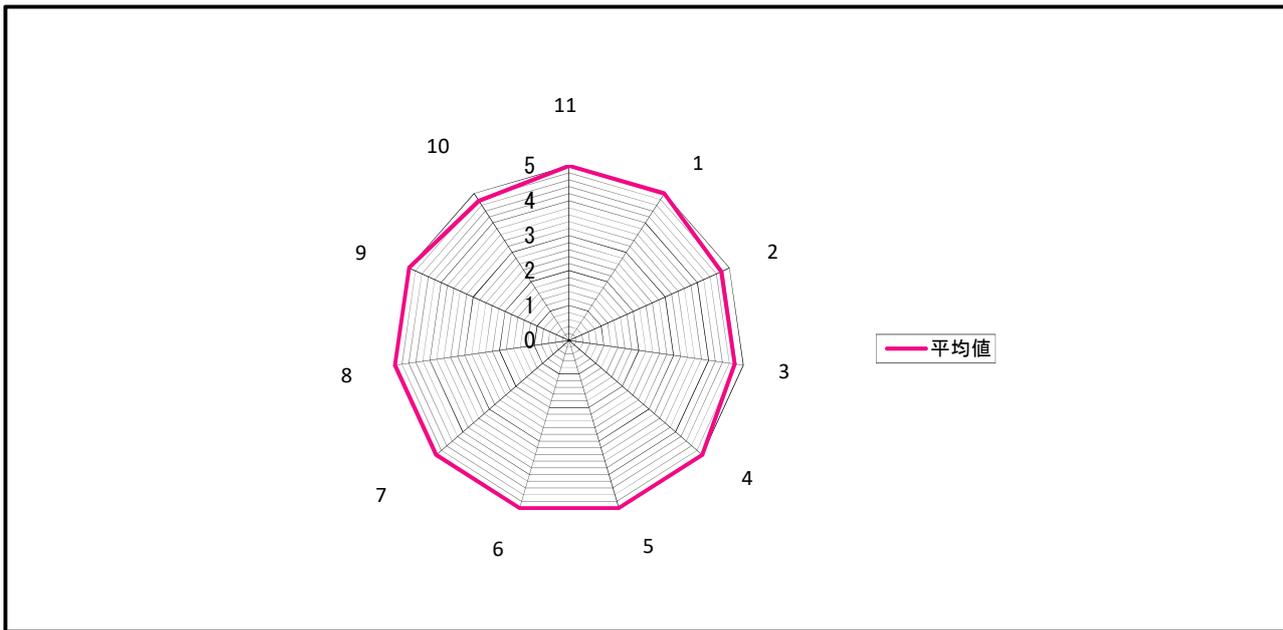
教員のコメント

概ね、肯定的な評価が多数だったと受け止めている。「ESDや世界遺産教育など授業で使える視点を得ることができた」「話し合いに積極的に取り組むことができた」等の意見が多かった。日本で使っている教材や海外の教科書の翻訳・分析、その根底にある考え方などの抽出等、グループごとに分担したり、ワークショップ形式で話し合ったり発表したりしたことが有効だったと考える。今後とも、継続していきたい。

結果報告書

授業科目名 人間とコミュニケーションⅢ(実践研究B)
 評価実施日 平成29年7月27日
 担当教員名 金野 誠志,谷村 千絵 回答者数 4 人

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	4						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3	1					4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3	1					4.8
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	4						5.0
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	4						5.0
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	4						5.0
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	4						5.0
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	4						5.0
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	1					4.8
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	4						5.0



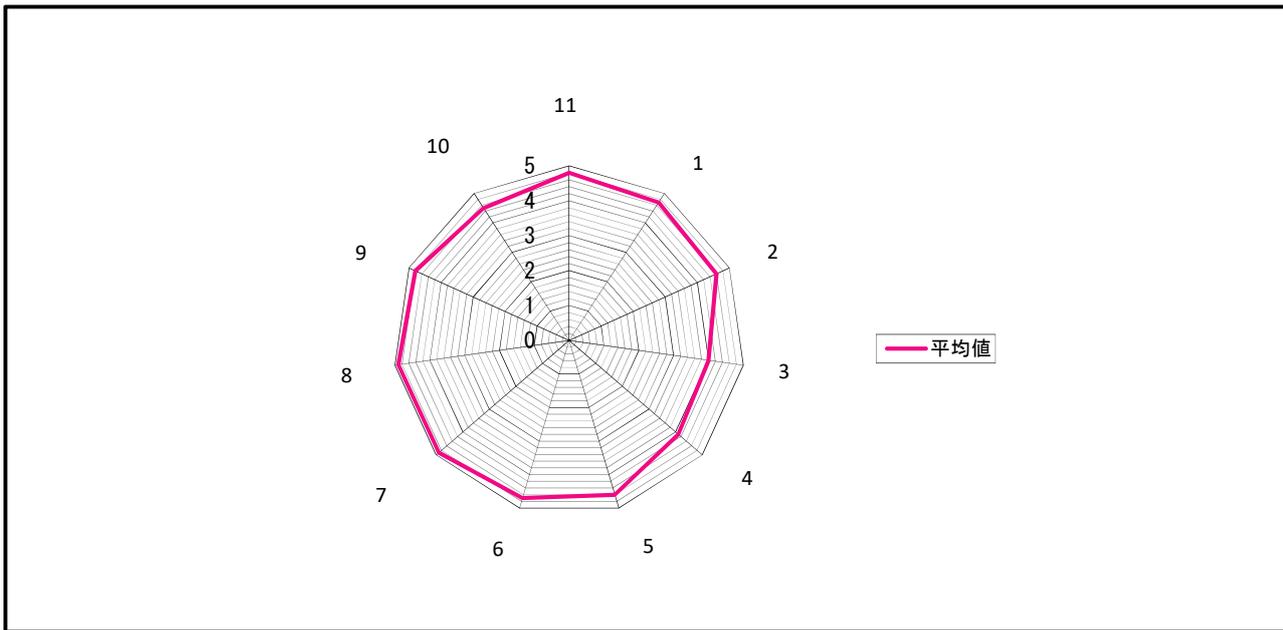
教員のコメント

概ね、よい評価を得ていると考える。「テーマごとに資料が作成されていてよかった。」「新しい視点で人と人との関係性を見ることができた」「話し合いが楽しかった」といった意見が多かった。少人数での討論や自分の考えを他者に説明するなど、参加型の学習方法と現代の子ども達の抱えている人と人との関係性を再検討してみるとという学習内容がマッチしたという点も大きい。また、現職院生が半数を占めていたため、ストレートの院生と組み合わせることで、議論の質も向上した。今後も、よいと評価されたことは継続していきたい。

結果報告書

授業科目名 環境と文化
 評価実施日 平成29年7月25日
 担当教員名 田村 和之 回答者数 10 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	7	3				4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	7	2	1			4.6
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	5	1	3	1		4.0
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブラーニングが、実施されていた。	4	4	1	1		4.1
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	6	4				4.6
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	7	3				4.7
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	9	1				4.9
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	9	1				4.9
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	8	2				4.8
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6	3	1			4.5
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	8	2				4.8



教員のコメント

「環境と文化」の授業は特定教科の専門知識ではなく、環境に関する様々な分野の知識が分散されて入っているため、質問2が多少低いのは質問の意図からして予想されている。また、質問3に関しても同理由により、教師の実践力以前の教師の知識を(浅くとも)広げていくことが目的なので、この質問3に対する回答が低いことも予想の範疇である。

また、授業形態が講義形式なので、他の演習的な授業よりもアクティブラーニング的な要素は非常に低いのも仕方がないものである。しかし、宿題等はないにしても毎回の講義開始時に小テスト、また終了前には質疑応答の時間も設けるようにしている。もちろん、講義の途中でも質問があれば、いつでも質問するようにには学生にはうながしている。

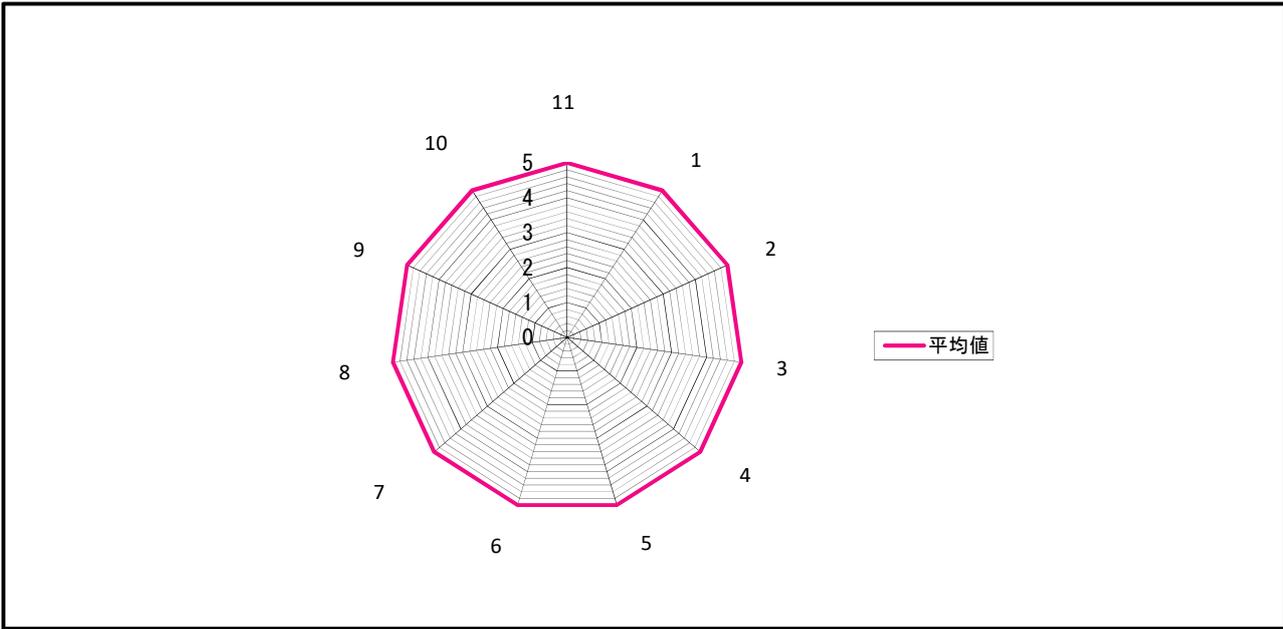
質問項目1、5～9の特にこの授業では重要視している部分については全てにおいて平均値が4.5以上となっており、学生にとっても良い授業が出来ていると思われる。

来年度もこの調子で頑張る学生知識を広げていける授業を実践していきたい。

結果報告書

授業科目名 人間と環境Ⅱ(実践研究A)
 評価実施日 平成29年7月18日
 担当教員名 田村 和之,近森 憲助 回答者数 2 人

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2						5.0
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	2						5.0
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2						5.0
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	2						5.0
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	2						5.0
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	2						5.0
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2						5.0
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2						5.0



教員のコメント

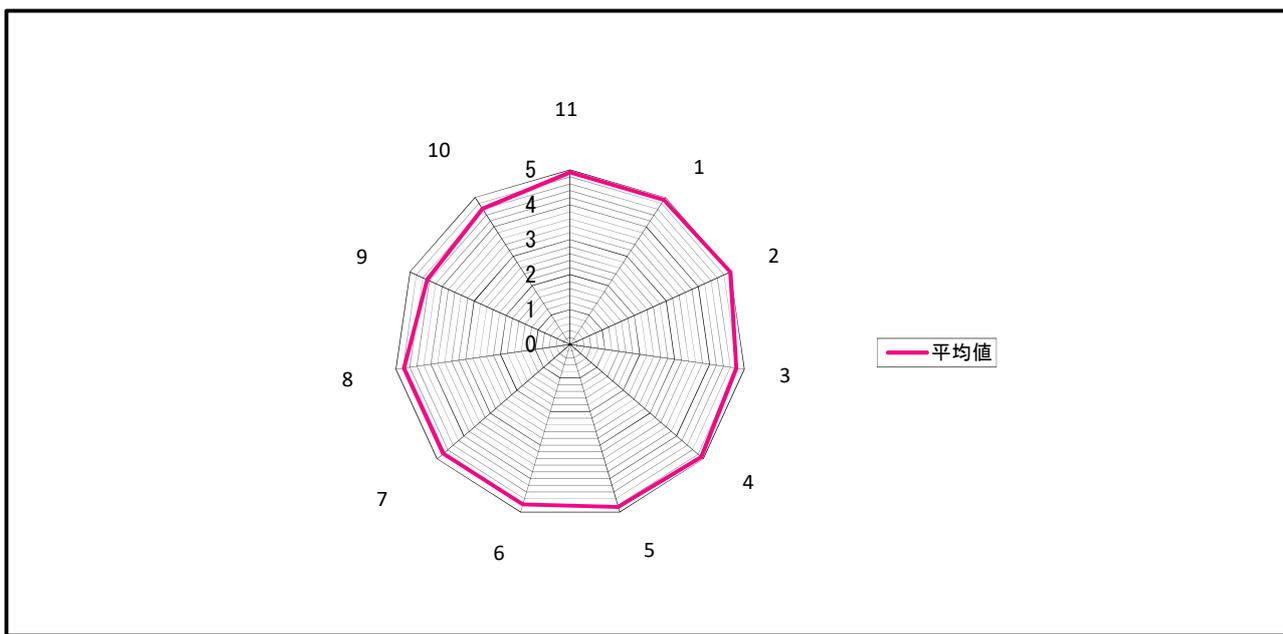
受講生が2名の授業で非常に学生のニーズに沿った授業を行うことができた。その結果が評価に見事に現れているように思われる。

来年度もこのような評価をもらえるように、学生との対話をより重視した授業を行ってきたい。

結果報告書

授業科目名 現代の子どもと学校教育
 評価実施日 平成29年7月21日
 担当教員名 谷村 千絵 回答者数 13 人

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	12	1					4.9
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	13						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	12			1			4.8
	(4)授業では、シラスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	12	1					4.9
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	11	2					4.8
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	11	1	1				4.8
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	11	1	1				4.8
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	11	1	1				4.8
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	8	3	2				4.5
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	8	5					4.6
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	12	1					4.9



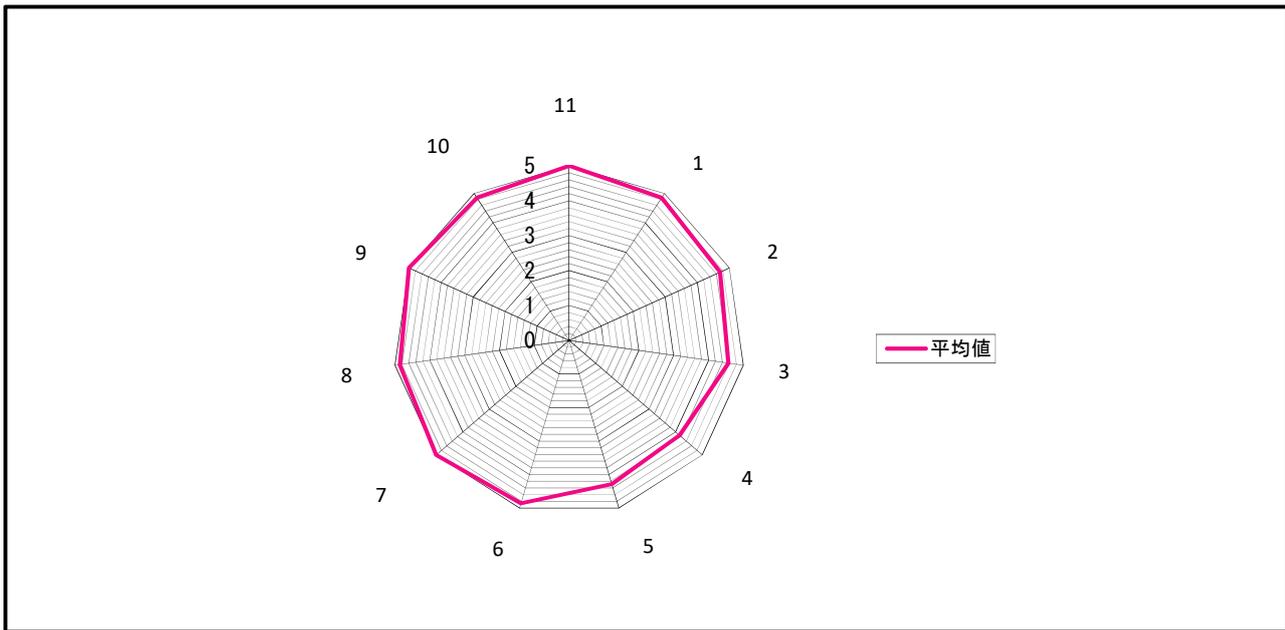
教員のコメント

話し合いがしやすい雰囲気だった、たくさんの人と意見交換出来て、面白かった、グループの話しあいのために調べ学習をがんばった、自分の意見をほかの人に言うことができた、など、おおむねよかったという評価が多かった。改善点としては、個人の調べ学習にむらがあったこと(1名)、時間配分が難しかったこと(1名)、教育実践にどう結び付けるか疑問が残った(1名)、の回答が寄せられた。調べ学習の動機づけとしては、テーマ自体をみんなで考えること、それを使ってグループワークをすることなどの工夫を行ってきた。個々の学生の意欲の差あるいは学力差を完全になくし均一にすることは、現実的ではないため、より能動的に相互におぎ合いながら活動するよう指示してきたが、より明示的に行きたい。時間配分、教育実践にどのように結び付けるのかについても、そのような課題意識や問いをもっている場合に、グループワークの中で示していけるよう、サポートしたい。積極的に授業に取り組んだかという設問に4をつけている受講生が13人中5人いるが、理由は「病気で休んでしまった」、「遅刻してしまった」、「遠慮しているところがあった」などの理由が挙げられていた。視聴覚機器や板書はほとんど使用しなかったのが、3が多い。「意見を板書に書いたら振り返りしやすいのでは」、「大枠での共通のまとめがあればよかった」という意見もあったので、振り返りを充実させたい。

結果報告書

授業科目名 現代教育課題特論
 評価実施日 平成29年7月29日
 担当教員名 小西 正雄 回答者数 7 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	6	1				4.9
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5	2				4.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4	3				4.6
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	3	3		1		4.1
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	4	1	2			4.3
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	6	1				4.9
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	7					5.0
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	6	1				4.9
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	7					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6	1				4.9
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	7					5.0



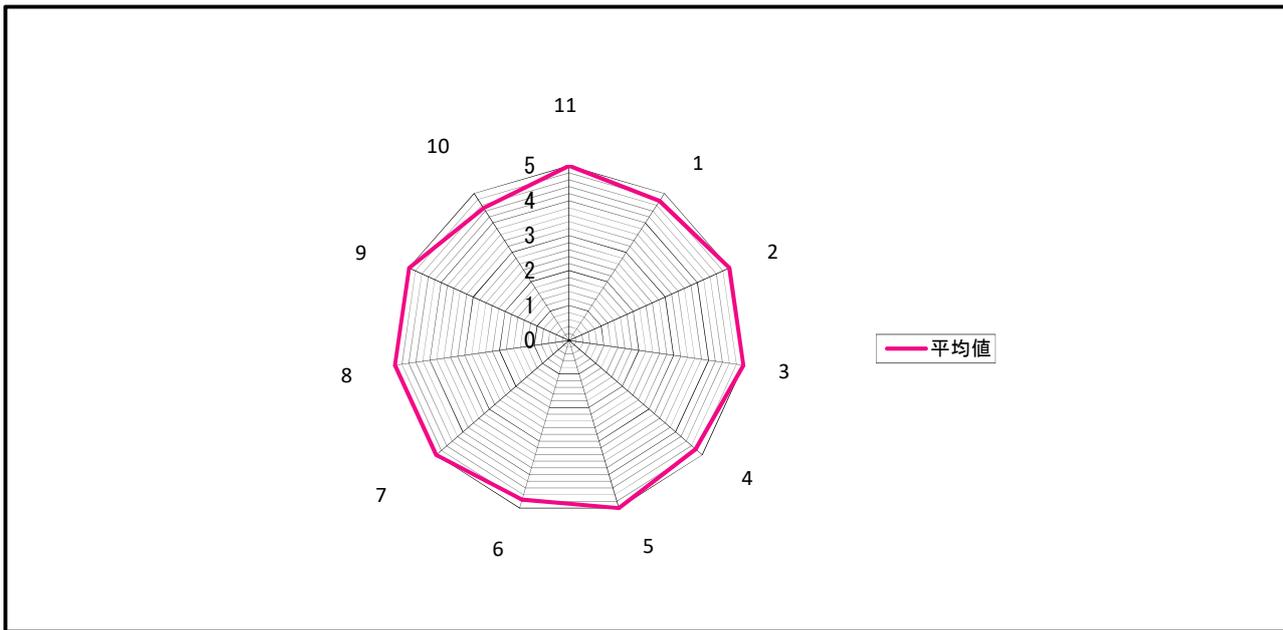
教員のコメント

おおむね良好な評価を得た。一部改善の余地があることを確認できた。次年度に活かしたい。

結果報告書

授業科目名 異文化理解と人間形成
 評価実施日 平成29年7月26日
 担当教員名 近森 憲助 回答者数 4 人

質 問 項 目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3	1				4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4					5.0
	(4)授業では、シラスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	3	1				4.8
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	4					5.0
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	3	1				4.8
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	4					5.0
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	4					5.0
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	2				4.5
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	4					5.0



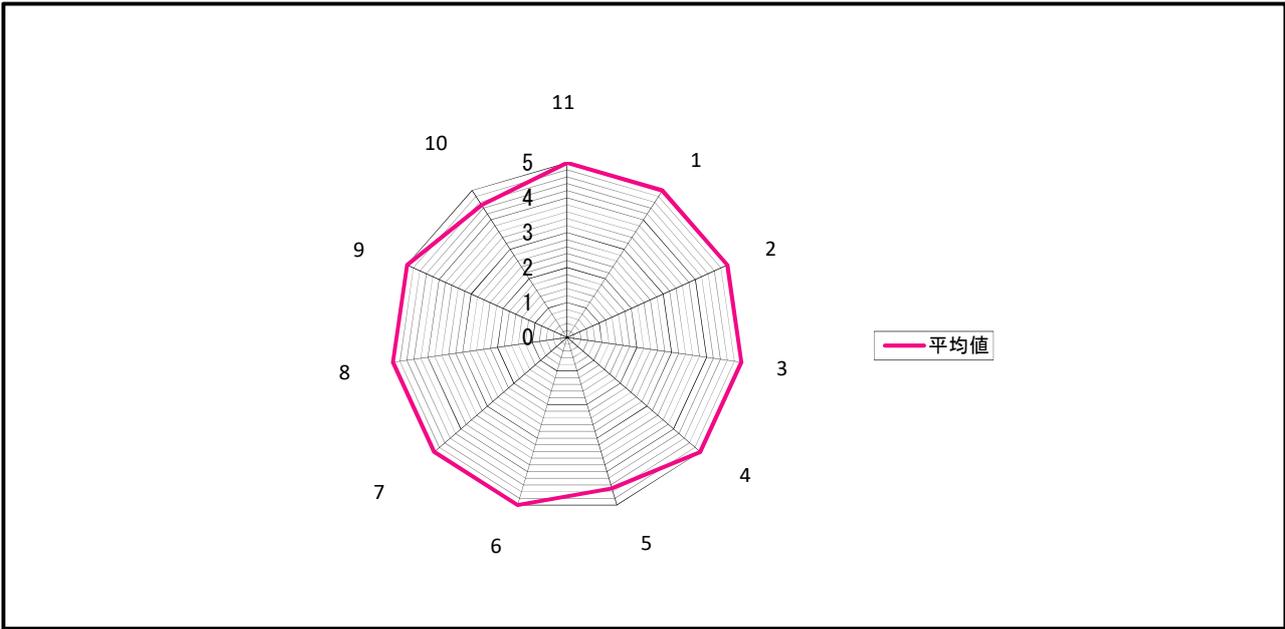
教員のコメント

受講生の評価はかなり高いものであった。その理由について、担当者として考えてみたとき、以下のような点を指摘できよう。
 1) 一方的な講義に終始するのではなく、授業テーマに関する受講生の経験や疑問を、意見交換を通じて拾い上げ、それらを授業に反映させた結果、授業テーマに関する対話的で、深い理解を促す授業となったこと。
 2) 受講生全員が学校現場での経験を有しており、意見交換等においては、担当者の講義内容について、常に自ら経験を参照しながら、質問、意見発表あるいは協議などを通して、授業に積極的に参画したこと。
 このようなことから、担当者にとっても、非常に楽しく、充実した学びを獲得できた授業となった。

結果報告書

授業科目名 特別支援教育コーディネーター概論
 評価実施日 平成29年7月25日
 担当教員名 井上 とも子 回答者数 2 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2					5.0
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2					5.0
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	2					5.0
	(4) 授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	2					5.0
教員の授業の進め方について	(5) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	1	1				4.5
	(6) 授業の進む速さは、適切であった。	2					5.0
	(7) 受講生に分かりやすく説明した。	2					5.0
	(8) 教科書や配布された資料は、適切であった。	2					5.0
	(9) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(10) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	1				4.5
総合評価	(11) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2					5.0



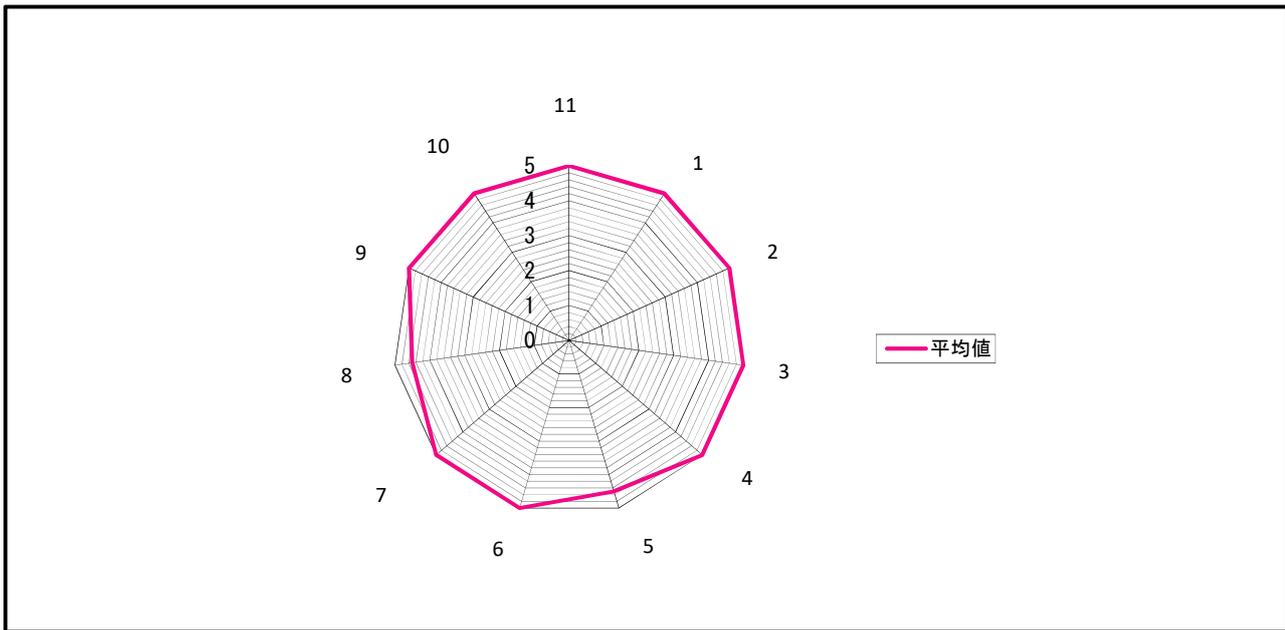
教員のコメント

少ない受講生であったが、聴講生が数人加わって、意見を聞くことができた授業であった。受講生からのコメントとして「実際の授業や支援につながる内容が多く勉強になった」「聴講生の話は具体的な事例が多くわかりやすかった」と実践に活かせる授業としてとらえてくれていることが分かった。また、「コーディネーターの役割や心構えだけでなく、教員としての大事な心に留めておくべきことを教わった」との記述もあり、授業を受けた満足度は、補償できたものと思われる。どの受講生も聴講生も、毎回ほどあるレポート課題にも応じ、熱心に協議し、自身の考えの幅を拡げていく様子が見て取れた。レポートを作成するに当たって、自身の苦手さに真摯に向き合っており、学ぼうとする姿勢が見て取ることができ、来年度も、「自身の学び」を大事にできる授業を展開したい。

結果報告書

授業科目名 特別支援教育コーディネーター実地教育
 評価実施日 平成29年7月20日
 担当教員名 井上 とも子 回答者数 4 人

質問項目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	4						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4						5.0
	(4)授業では、シラスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	4						5.0
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	3		1				4.5
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	4						5.0
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	4						5.0
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	3		1				4.5
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4						5.0
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	4						5.0



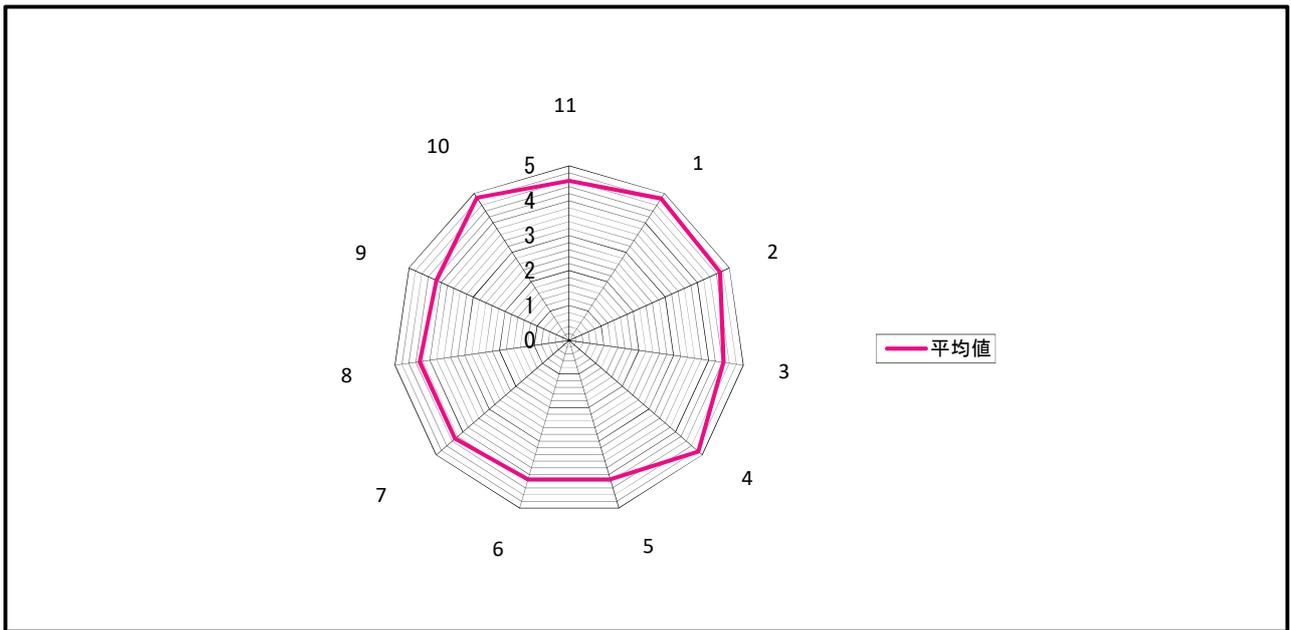
教員のコメント

この授業は、高機能自閉症スペクトラム障害幼児を対象にした就学前指導の指導者としての教育実践の場である。毎週、1時間半の指導場面のために、二日前にはプログラムを再考し、計画し、大学教員が点検をしている。指導の後は、その日の指導の振り返りをし、指導を観察見学していた保護者の支援を行っていた教員から、個々の保護者の話や家庭の幼児の様子が伝えられ、次週の計画に反映させるカンファレンスを行っている。今年度は、受講生が4人おり、幼児支援に3人が関わり、1名は保護者のいる観察室に入り、大学教員がする保護者支援の仕方を学ぶことができる形がとれた。4人のチームワークが求められ、チームティーチングの望ましいあり方を学ぶ機会となったと考えられる。院生のコメントは「実践に役立つ内容であった」というものが多く、実地教育の目的は果たせたものとする。受講生にとっては、幼児を指導する時間は1単位時間ではあっても、その後のカンファレンス、準備にかかる時間等々、非常に負担感の高い授業となっているはずである。しかし、受講生は真剣にこの実践指導に取り組み、指導者として、また、チームティーチングを円滑に進めていく第2指導者の力量も高まったものと思われる。今後も、仲間と力を合わせて子どものために第一に考える教育者として、学び続けてほしい。この授業で重点を置いている観点に関しては「5」が得られており、十分な評価と判断している。

結果報告書

授業科目名 特別支援教育学研究論 I
 評価実施日 平成29年7月25日
 担当教員名 高橋 眞琴 回答者数 7 人

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	5	1					4.8
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5	2					4.7
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	3	4					4.4
	(4) 授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	6	1					4.9
教員の授業の進め方について	(5) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	4		3				4.1
	(6) 授業の進む速さは、適切であった。	3	2	2				4.1
	(7) 受講生に分かりやすく説明した。	2	5					4.3
	(8) 教科書や配布された資料は、適切であった。	4	1	2				4.3
	(9) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3	3		1			4.1
あなたの授業への取り組みについて	(10) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6	1					4.9
総合評価	(11) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	4	3					4.6



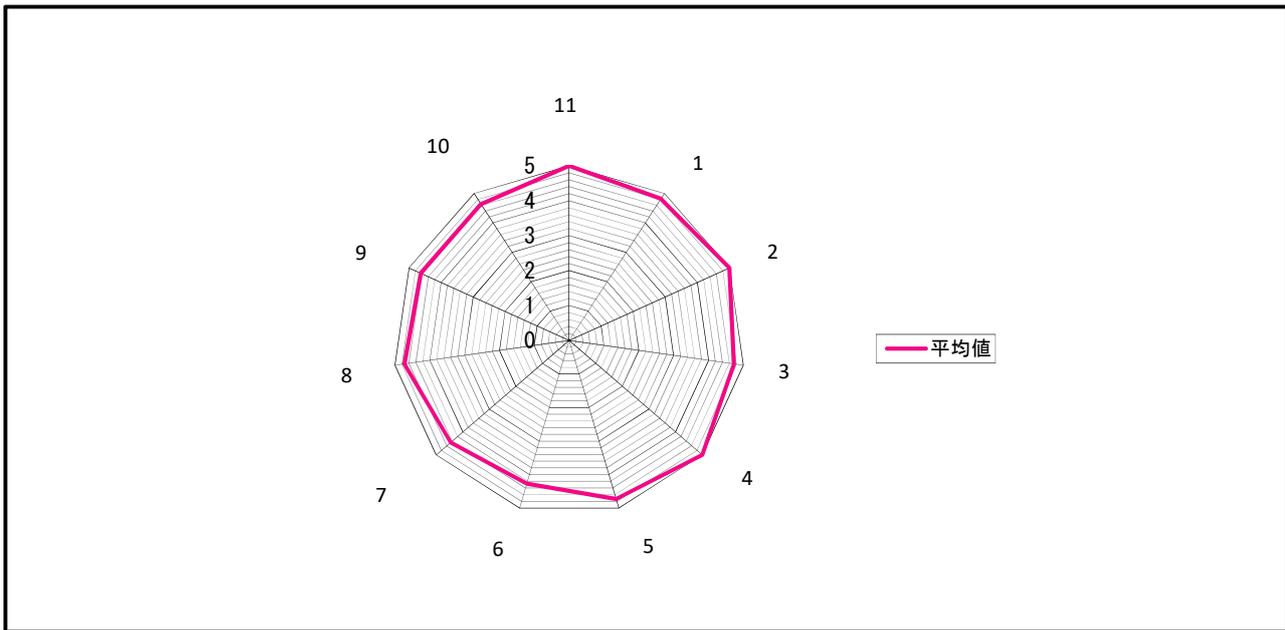
教員のコメント

シラバス、オリエンテーションで示した通り、海外論文(英国障害学会誌掲載論文、インパクトファクター有)の購読を行った。受講生にとっては、努力を要する作業だったかもしれないが受講生は毎回の課題や翻訳の発表に対して熱心に取り組んでいた。また、後半は、本学のラーニングコモンズを用いた発表形態を取り入れた。受講期間内を通して、相当な授業準備を要する内容であったため、評価が分かれたところであるが、受講生にとっては、何らかの経験になったものと考えている。「授業に主体的・積極的に取り組んだ」の評価が最も高くなっているのがそのあらわれであると推察する。

結果報告書

授業科目名 特別支援教育学研究論Ⅱ
 評価実施日 平成29年7月27日
 担当教員名 大谷 博俊 回答者数 11 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	9	2				4.8
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	11					5.0
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	8	3				4.7
	(4) 授業では、シラスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	11					5.0
教員の授業の進め方について	(5) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	9	1	1			4.7
	(6) 授業の進む速さは、適切であった。	4	6	1			4.3
	(7) 受講生に分かりやすく説明した。	5	6				4.5
	(8) 教科書や配布された資料は、適切であった。	8	3				4.7
	(9) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	7	4				4.6
あなたの授業への取り組みについて	(10) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	7	4				4.6
総合評価	(11) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	10					5.0



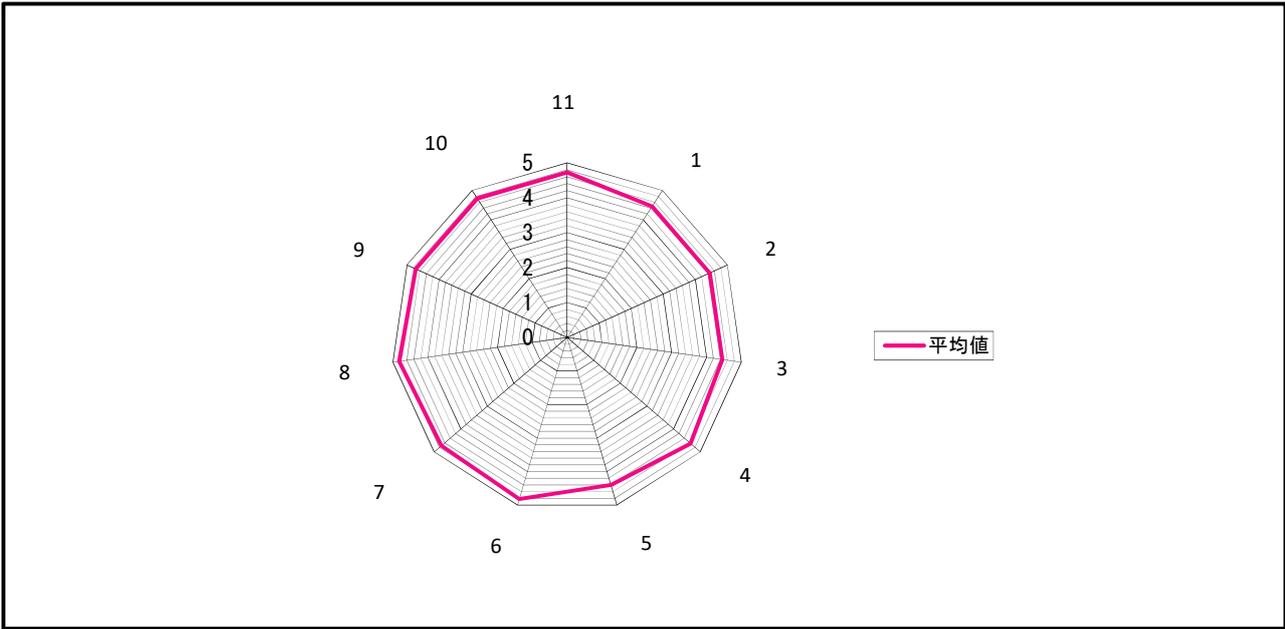
教員のコメント

総合評価は、5.0であり、受講生の授業に対する満足度は高かったと考えられる。授業内容の評価は4.7～5.0、また授業の進め方は4.3～4.7であり、設定した内容と進め方については、概ね適切であったと考えられる。

結果報告書

授業科目名 特別支援教育臨床心理学研究論
 評価実施日 平成29年7月28日
 担当教員名 高原 光恵 回答者数 11 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	5	6				4.5
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5	6				4.5
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	5	6				4.5
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	8	2	1			4.6
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	5	4	1			4.4
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	9	2				4.8
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	8	3				4.7
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	9	2				4.8
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	8	3				4.7
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	8	3				4.7
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	8	3				4.7



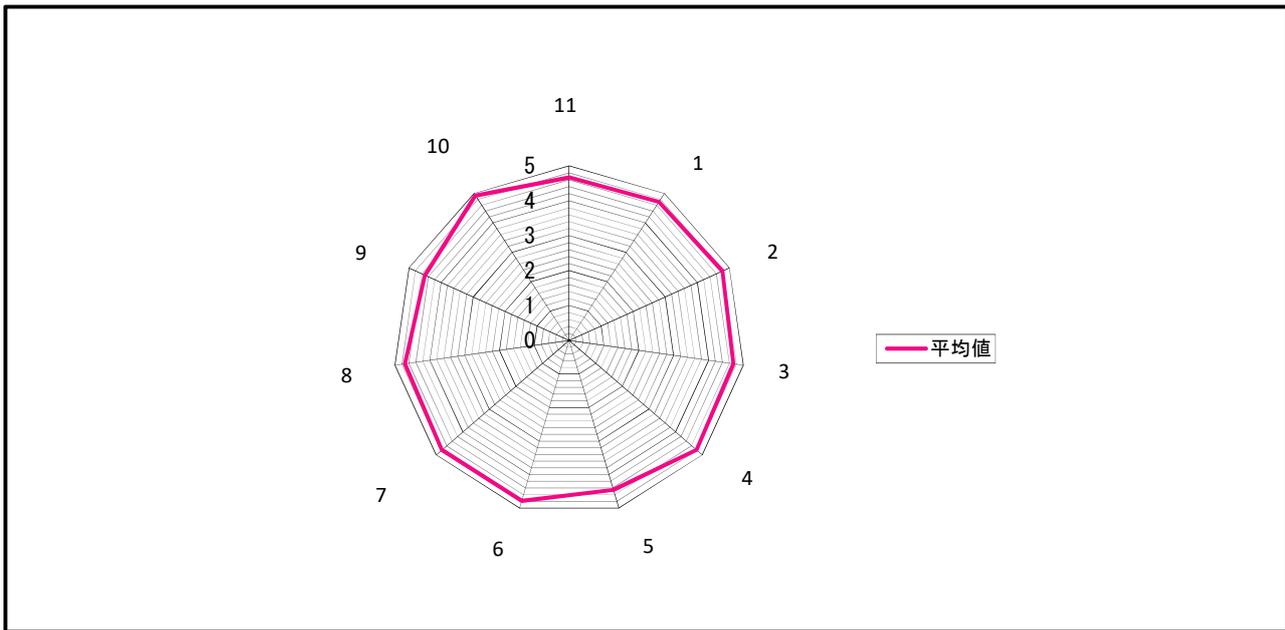
教員のコメント

いずれの質問項目でも概ね評価は肯定的であった。平均値が最も低い、成績評価の方法の説明については、シラバス提示と初回オリエンテーションで伝えたのみであったので、学期末にも再度、口頭で説明するなどわかりやすさの改善に取り組みたい。この授業のよかった点についての自由記述から、外部講師による講演が複数名から挙げられた。ご協力くださった講師の方々には、講義の内容はもちろん、受講生の疑問に対する丁寧な回答や和やかな雰囲気の中での交流や最新の情報提供など、大変貴重な学びの場を提供いただいた。今後も事情が許す限り、このような機会を設けたいと思う。

結果報告書

授業科目名 特別支援教育学習支援演習
 評価実施日 平成29年9月15日
 担当教員名 島田 恭仁 回答者数 14 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	12	1		1		4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	13			1		4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	12	1		1		4.7
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	13			1		4.8
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	9	1	3		1	4.5
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	11	3				4.8
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	11	3				4.8
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	12	1		1		4.7
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	11	1	1		1	4.5
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	13	1				4.9
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	10	1		1	2	4.7



教員のコメント

項目(6)(7)(10)で14名の受講生全員が5または4の評定を行い、4.8以上の高い評定平均値が得られたことから、「授業の進む速さは適切」で「受講生に分かりやすく説明できた」こと、受講生は皆「授業に主体的・積極的に取り組めた」ことが分かった。また、項目(2)(4)でも、14名中13名が5の評定を行い、4.8の高い評定平均値が得られたことから、本講は「専門的知識を深めるのに役立つ内容であった」こと、「シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが実施できていた」ことが確かめられた。

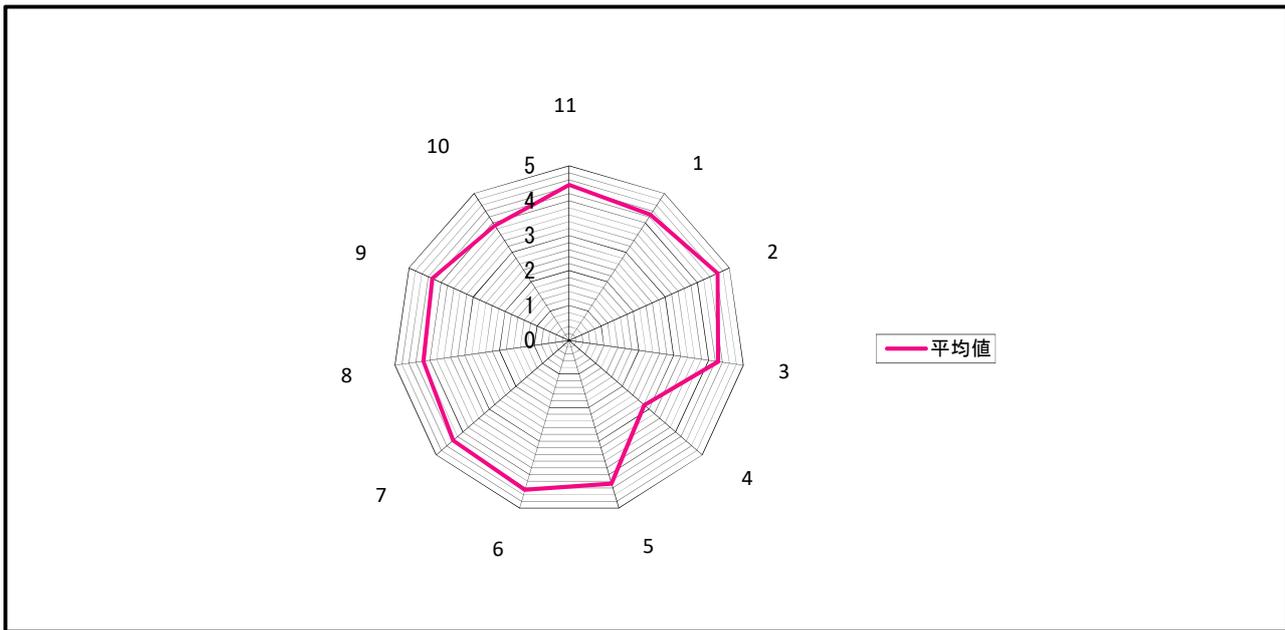
本講では、障がいのある児童の指導計画を作成するのに不可欠な最も重要な心理検査(WISC-IV・KABC-IIなど)について、その実施法・解釈法をグループワークを通して能動的・体験的に学習できるように工夫した。特に、KABC-IIの解釈法に時間をかけて、詳しく分かりやすく説明できたことが、受講生の主体性・積極性を高め、専門的知識を深めるのに役立ったと思われる。

一方、項目(5)(9)では、3以下の評定を行った受講生が2~3名いたことから、「成績評価の方法についての説明」と「板書や視聴覚機器の使用の仕方」に関しては、十分でないと感じた者も居たことが分かった。今後、成績評価については、試験やレポートの得点だけでなく、授業への貢献度を評価するための客観的な基準を考案する等の工夫を行いたい。また、視聴覚機器の使用に関しては、PPの説明箇所をカーソルやポインターで明確に指し示す、PPの見えにくい箇所を板書で補う等の工夫を行う必要があると思われる。

結果報告書

授業科目名 発達障害児病理・病態生理学研究
 評価実施日 平成29年7月28日
 担当教員名 田中 淳一 回答者数 11 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	4	6	1			4.3
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	7	4				4.6
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4	6	1			4.3
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	2		5	2	2	2.8
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	5	4	2			4.3
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	5	6				4.5
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	5	5	1			4.4
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	3	7	1			4.2
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4	6	1			4.3
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	4	4			3.9
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	5	6				4.5

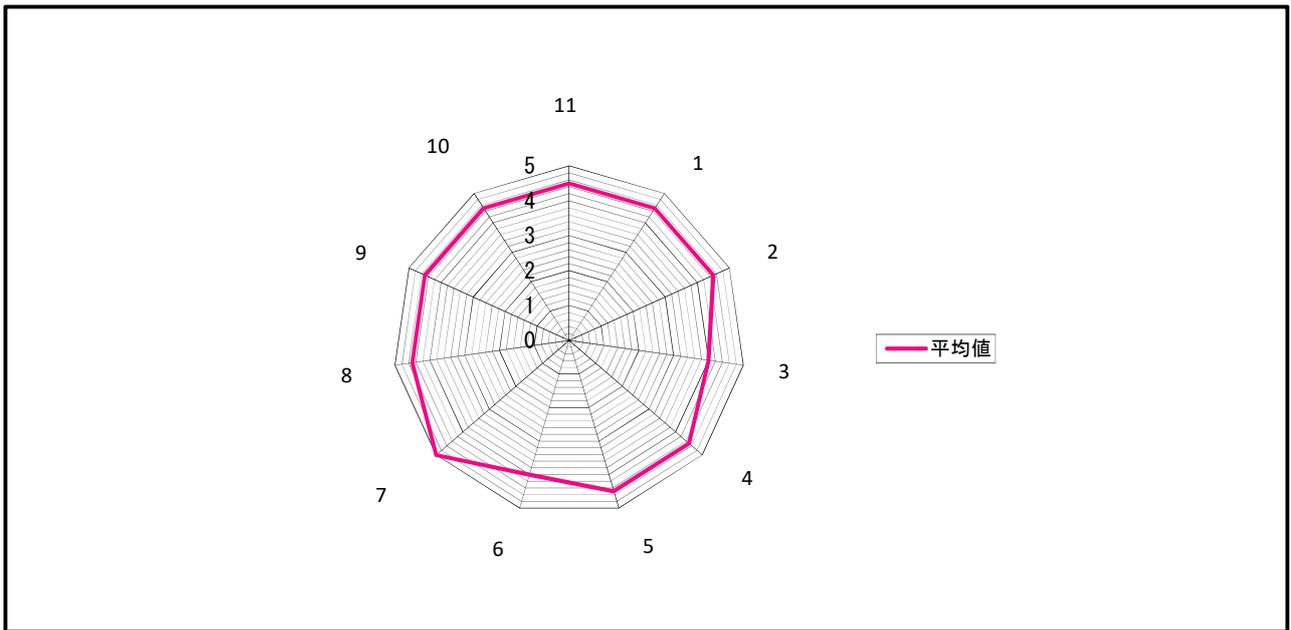


教員のコメント

結果報告書

授業科目名 言語教育基礎論 I
 評価実施日 平成29年7月27日
 担当教員名 原 卓志 回答者数 2 人

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	1	1					4.5
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1	1					4.5
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。		2					4.0
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	1	1					4.5
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	1	1					4.5
	(6)授業の進む速さは、適切であった。		2					4.0
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	2						5.0
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	1	1					4.5
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	1	1					4.5
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	1					4.5
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	1	1					4.5



教員のコメント

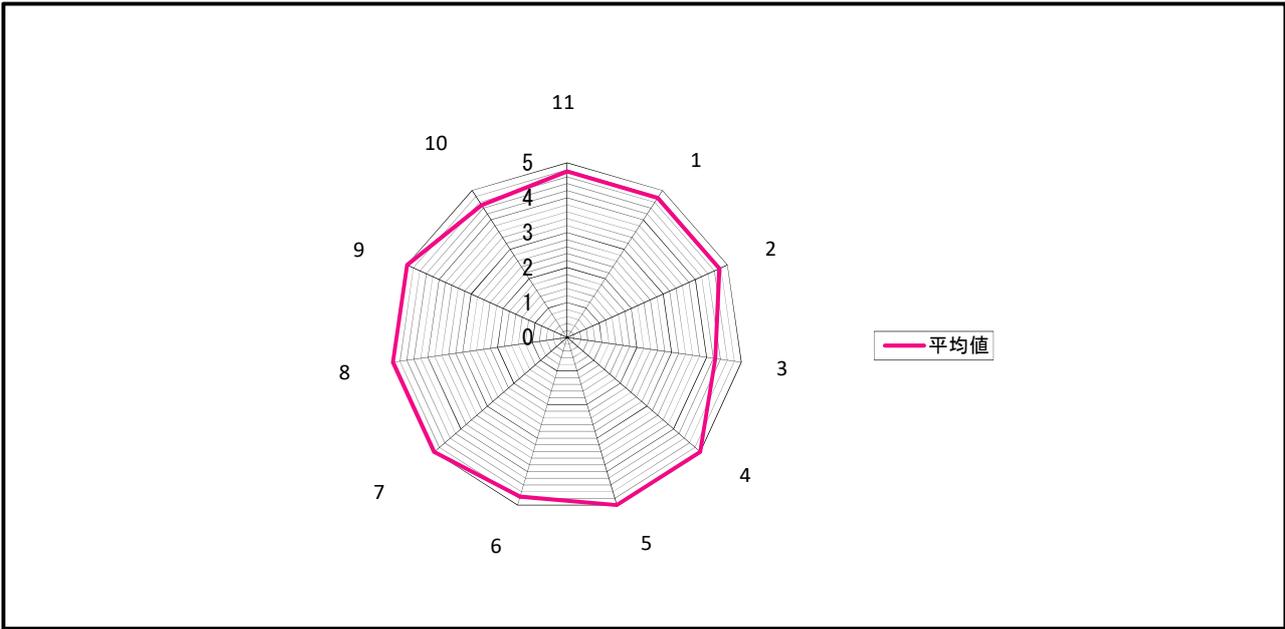
本授業は、「言語教育基礎論Ⅱ」との合同授業であり、英語学を専門とする教員とTT方式で進めた。本年度の「言語教育基礎論Ⅰ」の受講生は、2人という少人数であったが、「言語教育基礎論Ⅱ」の受講生とともに、日本語・英語の問題点について様々にディスカッションすることができた。

受講生からは、良かった点として「文法がどのようにしてできているかを自分たちで考える中で知ることができた」「授業中の話し合いの中でよく考える事ができた」など、授業進行に受講生同士のディスカッションを取り入れた事に対するコメントが寄せられた。改善すべき点として、「シラバスに出されたテーマで、行っていないものが多い。予定とあるが、事前に行わないと分かるものは載せないでほしい」というものがあった。次年度以降、その記載方法について改善したい。

結果報告書

授業科目名 日本語 I
 評価実施日 平成29年7月27日
 担当教員名 田中 大輝 回答者数 4 人

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3	1					4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3	1					4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2	1	1				4.3
	(4)授業では、シラスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	4						5.0
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	4						5.0
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	3	1					4.8
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	4						5.0
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	4						5.0
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	2					4.5
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3	1					4.8



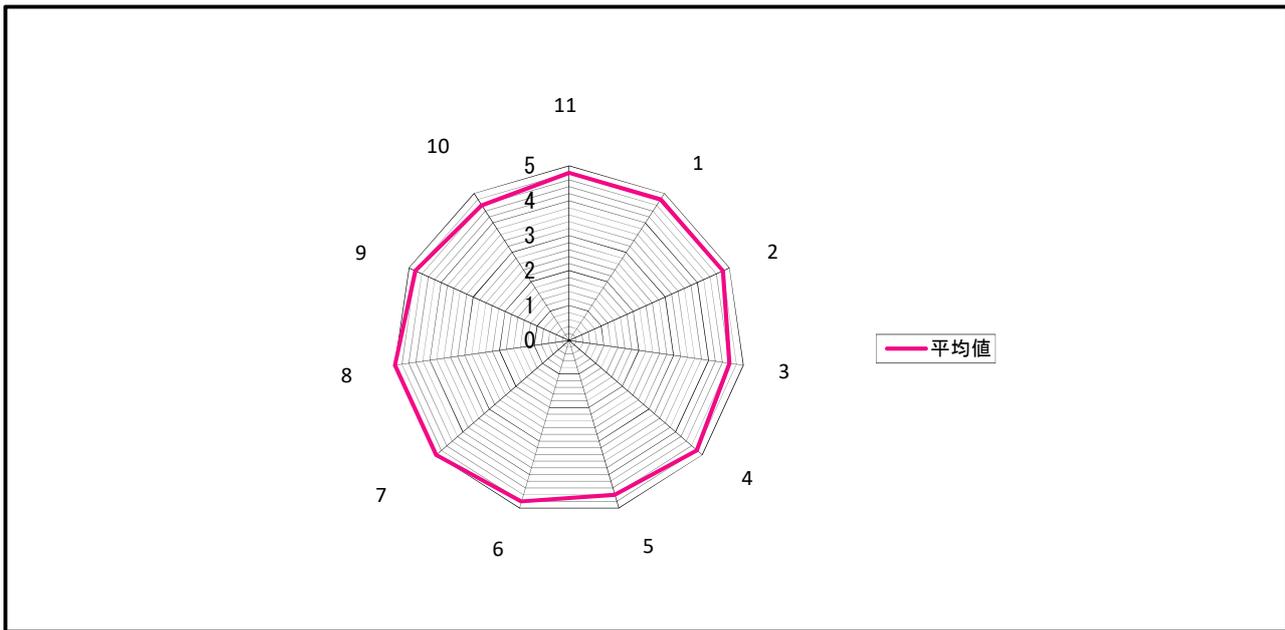
教員のコメント

本授業では、本学で学ぶ留学生たちに、「グループで互いに協力し合える能力」、「データの収集やまとめを適切に行える能力」、「自分たちの考えを支持する証拠を探し出せる能力」、「自分たちの考えを日本語で適切に表現できる能力」等を身につけさせることを目的として、演習発表形式のスタイルを採った。参加者は4名(すべて学部留学生(特別聴講学生)の聴講)であった。授業評価アンケートの自由記述の項目では、「この授業で発表能力が上がるのはもちろん、日本語の正しい発音や読み方などもたくさん勉強になりました」、「授業のときクラス内では楽しい雰囲気を感じました」など、授業内容やクラスの雰囲気を高く評価する声が多く見られた。一方で、「日本語を間違えたときはもっと直してほしい」、「私はグループ作業が少し苦手なので、やる気が少なくなることもあった」という声も見られた。本授業は参加者の日本語能力に著しい隔たりが見られた(N1レベル～N4レベル)ため、全員のニーズに応えることは難しかったのであるが、できる限り幅広い参加者に満足を与えられるよう、今後も最善を尽くしたい。

結果報告書

授業科目名 日本語Ⅱ
 評価実施日 平成29年7月26日
 担当教員名 妹尾 春子 回答者数 5 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	4	1				4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4	1				4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3	2				4.6
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブラーニングが、実施されていた。	4	1				4.8
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	3	2				4.6
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	4	1				4.8
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	5					5.0
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	5					5.0
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4	1				4.8
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	2				4.6
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	4	1				4.8



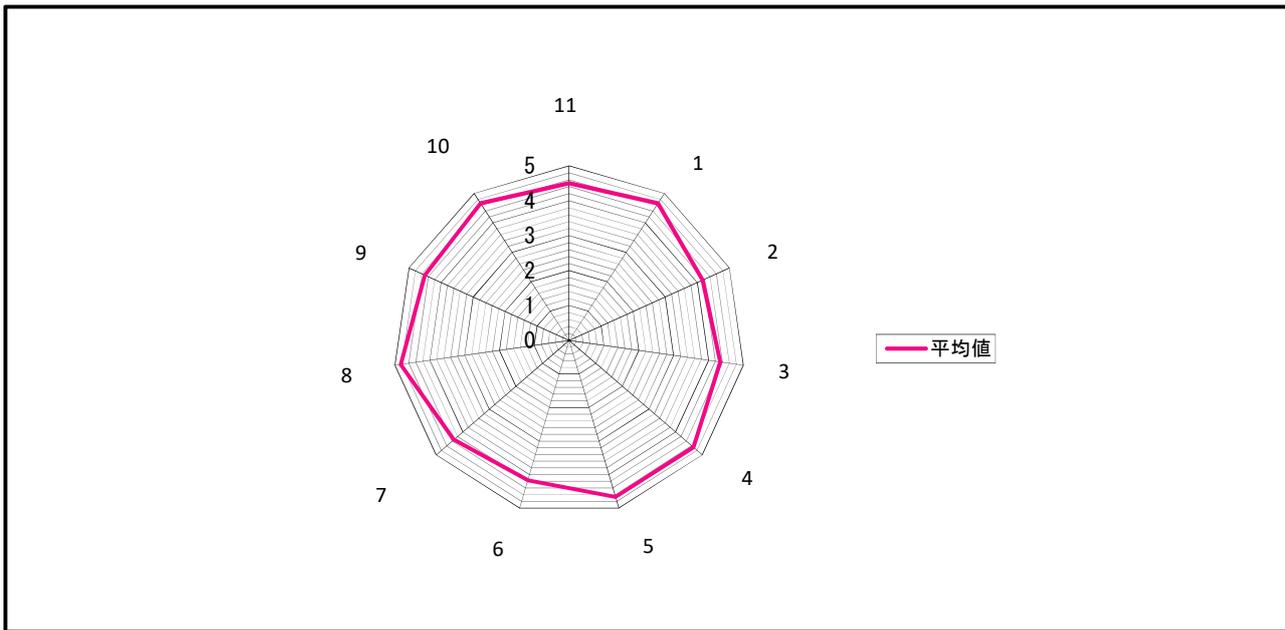
教員のコメント

この授業では、一つのテーマについての評論文やエッセイ、新聞コラムなどを読み、その内容を言語タスク、認知タスクを通して理解するという練習を行った。そして、内容理解ができたうえで、複眼的な視点からそのテーマを捉える「クリティカルリーディング」の練習も行った。留学生のための授業であったため、教師の実践力につながる内容としては弱かったと思うが、学生が主体となって問題提起を行い、一人ひとりが発表できたことは、シラバスに示したアクティブラーニングが実践できたのではないと思う。学生間にレベル差があり、テーマ討論を楽しんでいる学生もいれば、内容理解はできたが、意見を言うのは難しいという声もあった。意見を言う前に、定型文などを提示、練習し、それから自分の考えをその定型文に当てはめて発表させるという方法をとってもよかったかもしれない。成績評価についても発表ができればよしとしたところがあり、具体的に「A」「B」といった評価をしなかったため、学生には良いところ、悪かったところがはっきり伝わらなかったかもしれない。今後の改善点にしたい。様々な国の学生と色々な意見を交換できたことは、とても有意義な時間であった。

結果報告書

授業科目名 現代日本語研究
 評価実施日 平成29年9月15日
 担当教員名 茂木 俊伸 回答者数 6 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	4	2				4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3	1	2			4.2
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4		2			4.3
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブラーニングが、実施されていた。	4	2				4.7
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	5		1			4.7
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	3	1	2			4.2
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	3	2	1			4.3
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	5	1				4.8
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4	1	1			4.5
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5		1			4.7
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	4	1	1			4.5



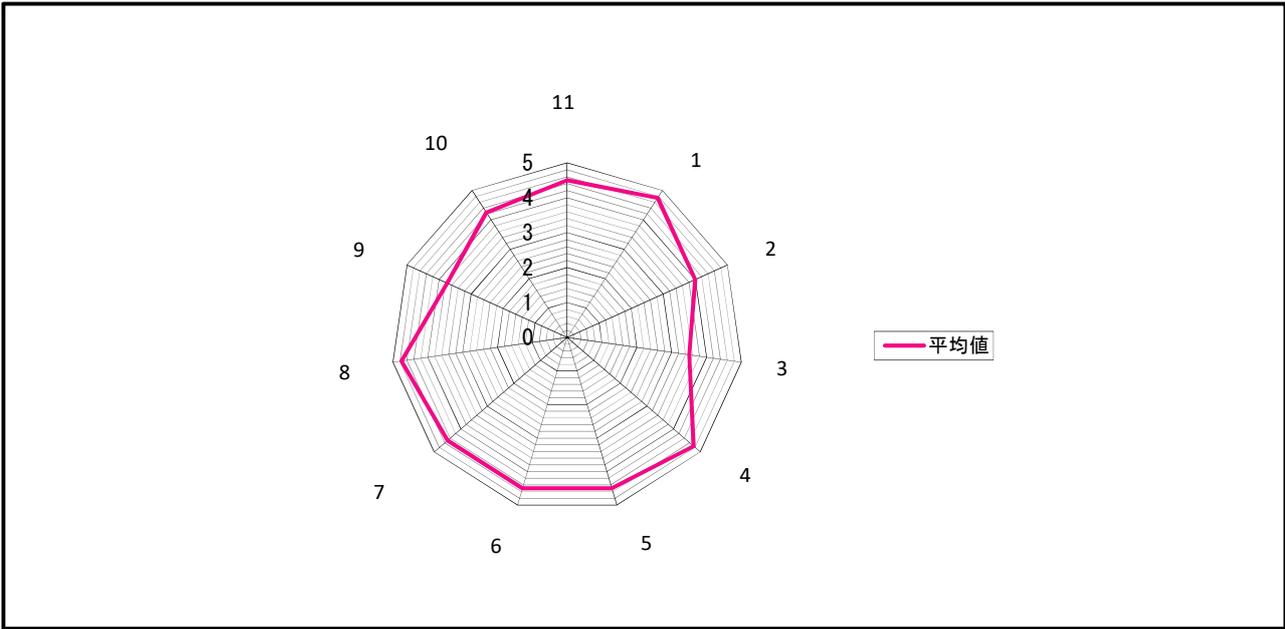
教員のコメント

本科目では、現代日本語の諸問題を題材としながら、国語科の教材分析やことばの研究において必要となる視点や技術に対する理解を深め、これらを獲得することを目標として、集中講義を行った。受講者数は6名であった。
 授業の総合評価(項目11)の平均値は4.5(前回(一昨年度)5.0)、全項目の平均値は4.50(前回4.86)であり、前回の授業よりもやや厳しい結果になった。特に項目2・項目3の低い評価は、授業の基礎となる専門的な力について講義したつもりが、「役に立つ」という実感に直結しない内容だと判断された可能性を示唆している。
 記述式の項目については、改善点(項目[3])として、「学部生向けのようアカデミックスキルの講義は退屈」「日本語そのものの勉強がもっと多いとよい」といった指摘が複数あり、受講者の期待とのミスマッチがあったことがうかがえる。学部で学ぶべき内容の復習が含まれていたことは事実であるが、シラバスには「ことばの分析・研究において必要となる視点や技術」を扱う授業であることを明記しているため、率直に言えば、集中講義という形態でこれ以上のニーズとのすり合わせを行うことは困難である。
 授業時にも説明したとおり、ことば中心の授業は別の機会となるが、受講者の皆さんの研究生生活が充実したものであることを願っている。

結果報告書

授業科目名 日本古典語研究
 評価実施日 平成29年7月24日
 担当教員名 原 卓志 回答者数 4 人

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3	1					4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1	2	1				4.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1		3				3.5
	(4)授業では、シラスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	3	1					4.8
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2	2					4.5
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	2	2					4.5
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	3		1				4.5
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	3	1					4.8
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	1	1	2				3.8
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	1	1				4.3
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2	2					4.5



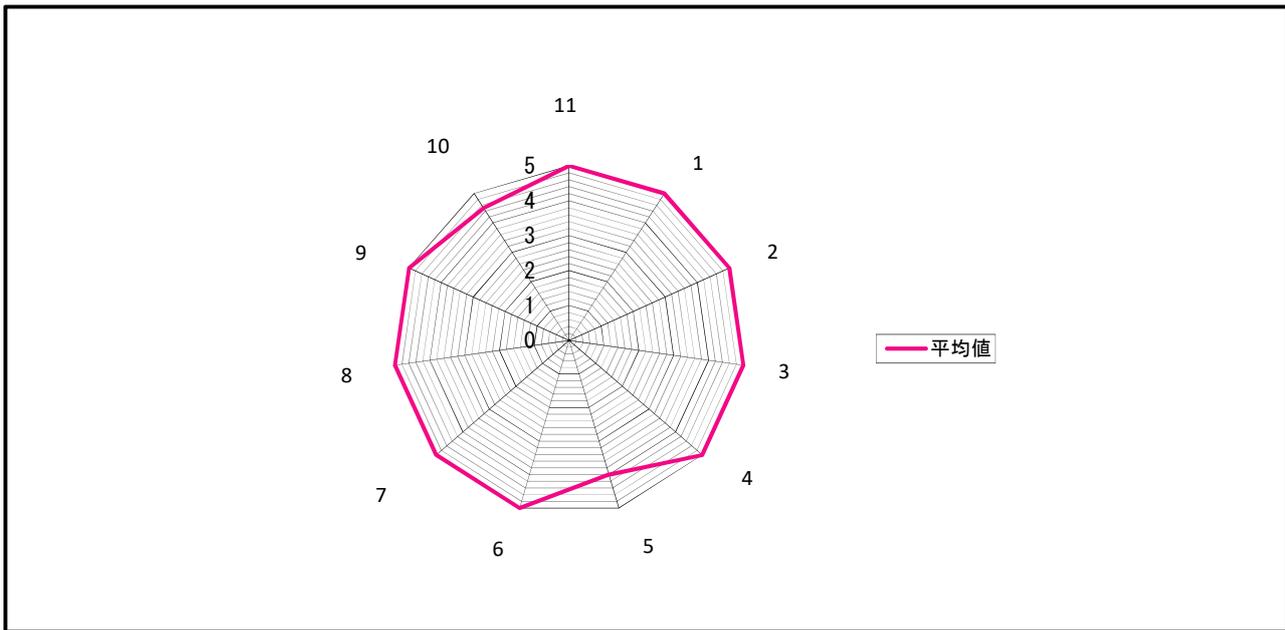
教員のコメント

国伝山地蔵寺所蔵の『異船一條并大小名等諸事傳聞噂而已之記』を取り上げて解説を進めた。対象文献が江戸時代末の写本であることから、解説作業は、初心者にとってはかなり困難なものであったであろうが、昨年度から続いて受講する学生が加わったことで、互いに教え・教えられるという和気藹々とした雰囲気の中で解説作業を進めることができた。
 良かった点として、「今まで読んだことのなかった字が少し読めるようになった」「専門的なことにふれることができた」といったコメントや、「先日、何かのパンフレットに載っていたくずし字の書簡が読めたことが嬉しかった。この授業では、ただくずし字を読むだけでなく、文法事項や当時の世相、歴史的事象の背景など多面的な学びがあり、充実した時間だった」という感想が寄せられた。

結果報告書

授業科目名 日本文学研究 I
 評価実施日 平成29年7月27日
 担当教員名 黒田 俊太郎 回答者数 2 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2					5.0
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2					5.0
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	2					5.0
	(4) 授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	2					5.0
教員の授業の進め方について	(5) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	1		1			4.0
	(6) 授業の進む速さは、適切であった。	2					5.0
	(7) 受講生に分かりやすく説明した。	2					5.0
	(8) 教科書や配布された資料は、適切であった。	2					5.0
	(9) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(10) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	1				4.5
総合評価	(11) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2					5.0



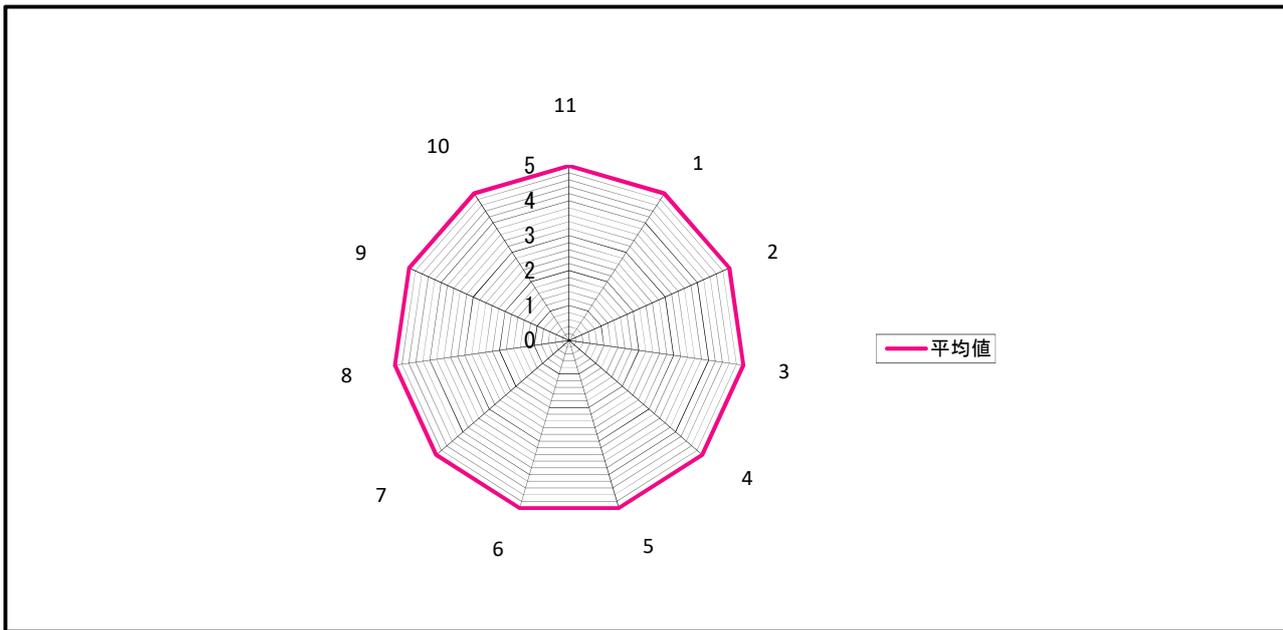
教員のコメント

全ての項目において高い評価であった。今後もさらなる授業改善を心がけながら授業を行っていきたい。具体的には、成績評価の方法についての事前の説明をより詳細に行う。

結果報告書

授業科目名 日本文学研究Ⅱ
 評価実施日 平成29年7月27日
 担当教員名 小島 明子 回答者数 2 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2					5.0
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2					5.0
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	2					5.0
	(4) 授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	2					5.0
教員の授業の進め方について	(5) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	2					5.0
	(6) 授業の進む速さは、適切であった。	2					5.0
	(7) 受講生に分かりやすく説明した。	2					5.0
	(8) 教科書や配布された資料は、適切であった。	2					5.0
	(9) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(10) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2					5.0
総合評価	(11) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2					5.0



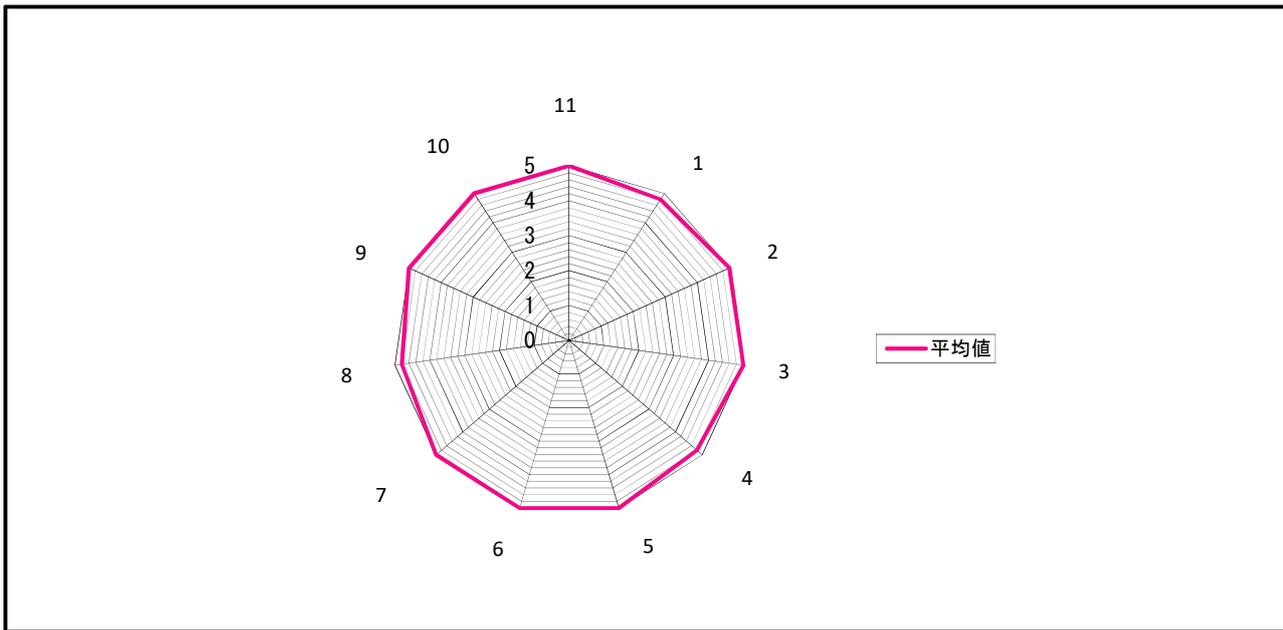
教員のコメント

受講者2名は、現職教員(小学校・中学校各1名)であり、とても熱心に受講し、質問なども活発に行われた。受講者に引っ張ってもらった授業であると考え。意欲のやや乏しい院生が受講した場合、今回のような結果となるのは難しいと思われ、今後の課題としたい。

結果報告書

授業科目名 日本語教育学研究
 評価実施日 平成29年7月25日
 担当教員名 廣田 知子(嘱託),小野 由美子 回答者数 5 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	4	1				4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	5					5.0
	(4)授業では、シラスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	4	1				4.8
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	5					5.0
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	5					5.0
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	5					5.0
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	4	1				4.8
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	5					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5					5.0
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	5					5.0



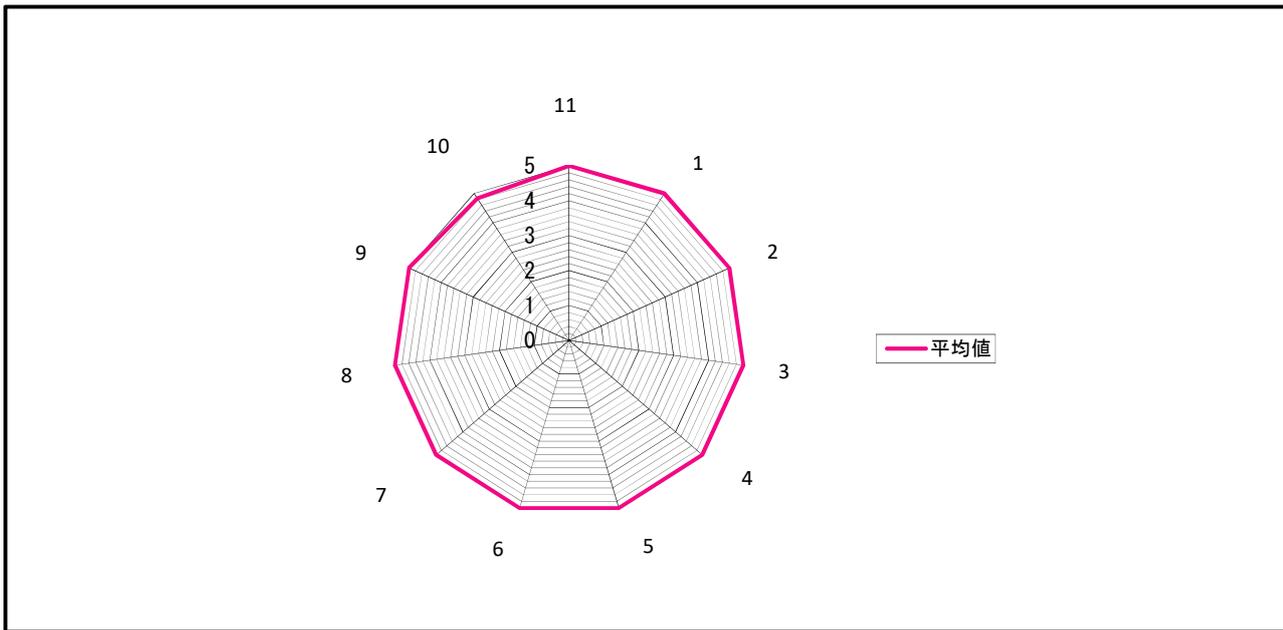
教員のコメント

留学生の混んでいるクラスなのだが、上級レベルの日本語話者ばかりなので、あまり語彙のコントロールやスピードに関して意識したことはなかったが、今回、アンケートにより話すスピードの調整の必要性を感じた。来年度からはそれを意識したいと思う。人数の少ないクラスであるゆえに、インターアクションは取りやすかったと思う。今後もリラックスして、問題点をディスカッションしやすいクラスづくりに努めたいと思う。

結果報告書

授業科目名 日本語文法研究
 評価実施日 平成29年7月28日
 担当教員名 田中 大輝 回答者数 6 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	6					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	6					5.0
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	6					5.0
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	6					5.0
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	6					5.0
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	6					5.0
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	6					5.0
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	6					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	1				4.8
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	6					5.0



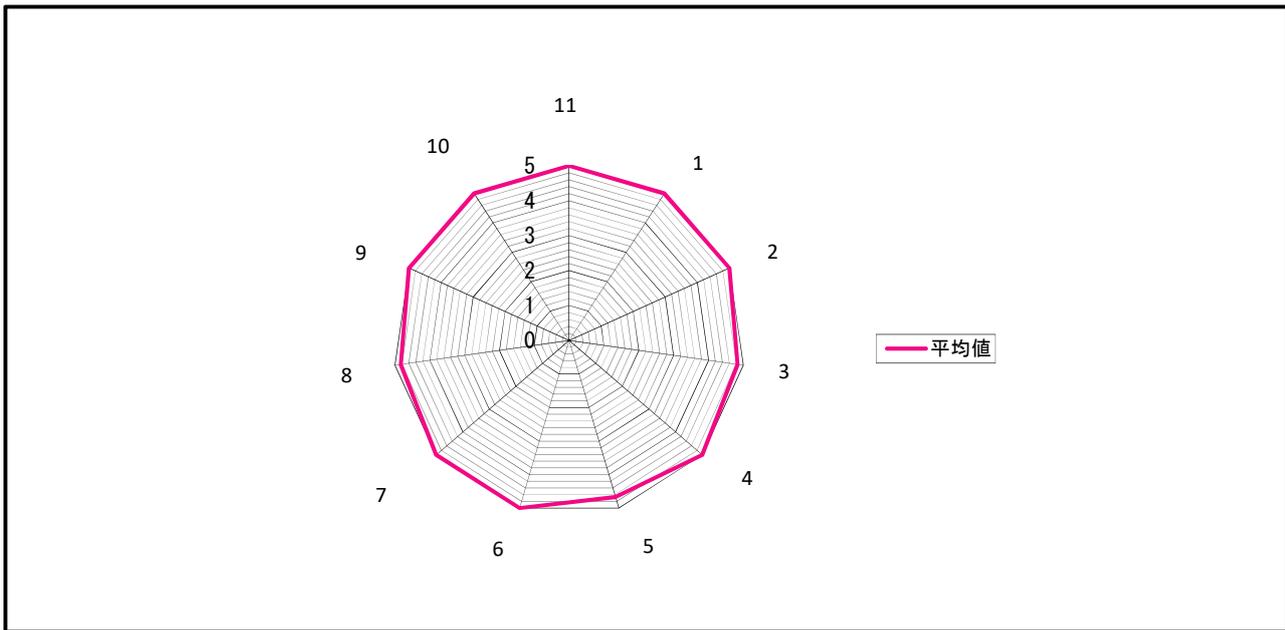
教員のコメント

本授業では、日本語学習者が誤りやすいテンス・アスペクトやヴォイスなど様々なトピックについて理解を深めることで、日本語学習者に対して適切な文法指導ができるようになることを目標とした。授業評価アンケートの自由記述の項目では、「授業で学習する内容が順序立てて説明されていた」、「学生同士が意見交換する機会(プレゼンテーションも含む)が非常に豊富で、主体的に参加できるものでした」など、説明の手順や受講生参加型の授業形式を高く評価する声が多く見られた。一方で、受講者数が聴講の4名を含めて9名と例年に比べて少数だった(平成28年度は11名、平成27年度は26名、平成26年度は24名)ことから、学生に受講を促すためのさらなる工夫(開講時限の見直し、シラバスの見直し等)が必要かもしれない。今後の課題としたい。

結果報告書

授業科目名 社会言語学演習
 評価実施日 平成29年8月9日
 担当教員名 永田 良太 回答者数 6 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	6					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	5	1				4.8
	(4)授業では、シラスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	6					5.0
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	4	2				4.7
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	6					5.0
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	6					5.0
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	5	1				4.8
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	6					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6					5.0
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	6					5.0



教員のコメント

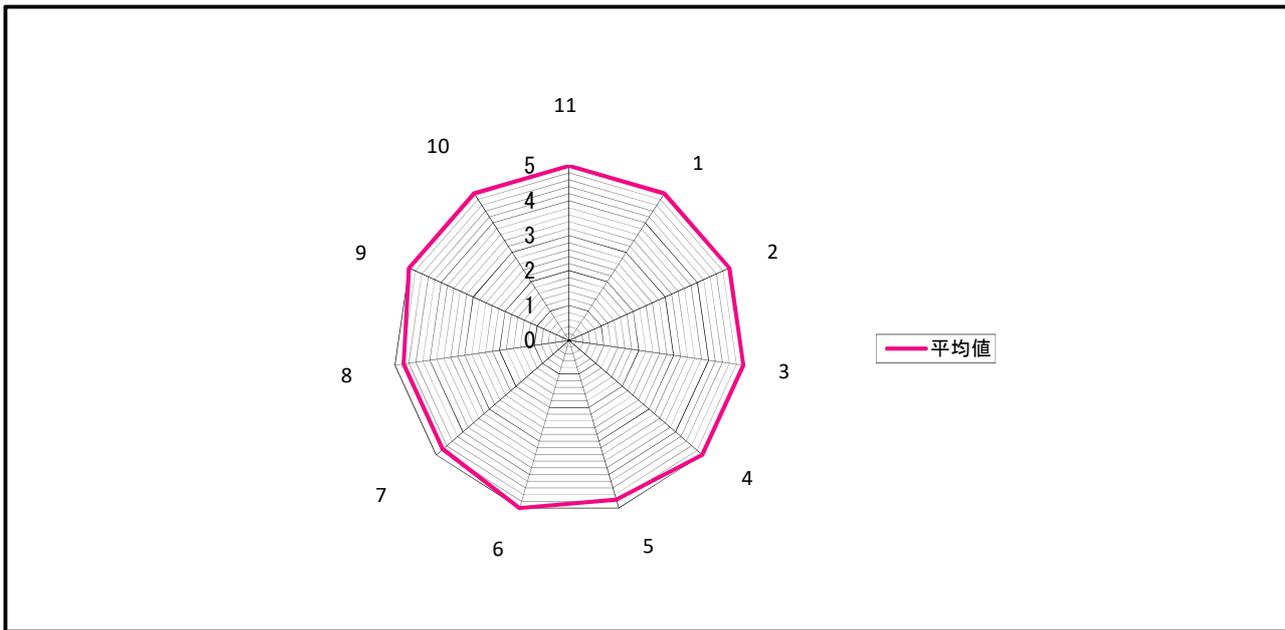
本授業は、「ことばのバリエーション」、「会話の仕組み」、「言語意識」、「言語政策」という観点から、普段無意識に使用している日本語の実態と使用規則について意識化するとともに、日本語教師として必要な社会言語学的知識を身につけることを目標とした。このような授業目標を達成する上で、留学生や様々なコースの学生の参加が得られたことは有意義であった。留学生の参加が得られたことで、他の言語と比較を通して日本語の社会言語学的特徴が明らかになるとともに、日本語学習者としての視点からの発言により、習得上の問題点を確認することができた。また、様々なコースの受講生から、それぞれの専門的観点からの意見が出され、議論を深めることができた。

今回の評価結果を見ると、いずれの項目も高い評価を得ており、本授業に対して受講者自身も達成感を感じているものと思われる。今後は、評価の観点をさらに明確にするとともに、実践力の育成に一層つなげるような授業授業づくりに取り組みたい。

結果報告書

授業科目名 言語習得・発達論
 評価実施日 平成29年7月28日
 担当教員名 田中 大輝 回答者数 4 人

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	4						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4						5.0
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	4						5.0
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	3	1					4.8
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	4						5.0
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	3	1					4.8
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	3	1					4.8
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4						5.0
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	4						5.0



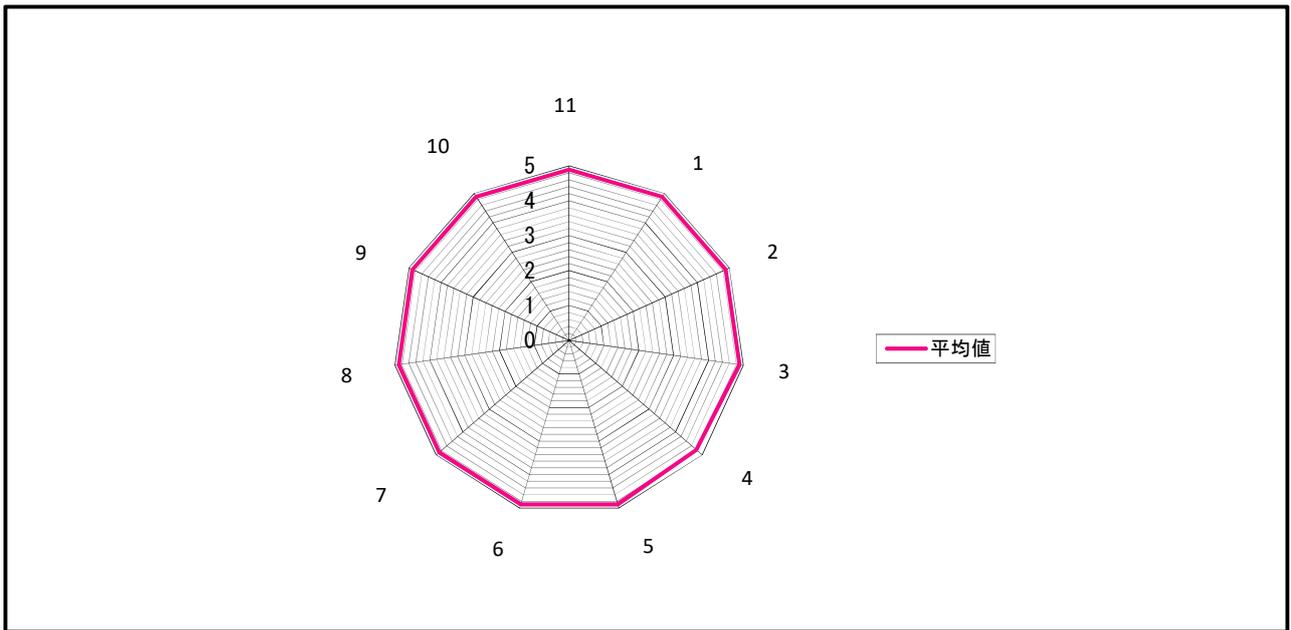
教員のコメント

本授業では、日本語学習者の習得のメカニズムを理解することで、実際の教室活動に役立てられるようになることを目標とした。授業評価アンケートの自由記述の項目では、「毎回の発表担当を決めて発表を行い、受講者と議論することができたので、自らの理解を深めることができました」、「みんなチームで発表してお互いに勉強できるし交流もできます」など、演習形式(グループ発表)の授業方法を高く評価する声が多く見られた。今後も受講生のニーズや教育現場の現状に即した授業を提供できるよう努めたい。

結果報告書

授業科目名 日本語音声表現研究
 評価実施日 平成29年7月31日
 担当教員名 田中 大輝 回答者数 9 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	8	1				4.9
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	8	1				4.9
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	8	1				4.9
	(4)授業では、シラスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	7	2				4.8
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	8	1				4.9
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	8	1				4.9
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	8	1				4.9
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	8	1				4.9
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	8	1				4.9
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	8	1				4.9
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	8	1				4.9



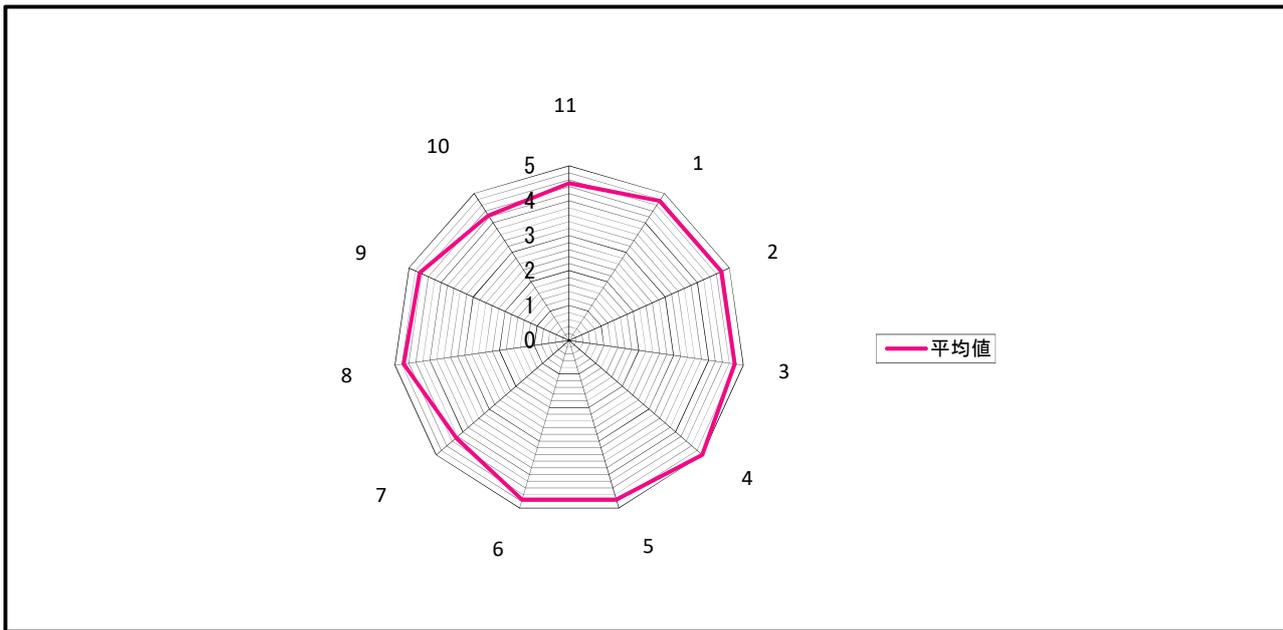
教員のコメント

本授業では、日本語の単音(母音、子音)の特徴、音声と音韻の関係など様々なトピックについて理解を深めることで、日本語学習者に対して適切な音声指導ができるようになることを目標とした。授業評価アンケートの自由記述の項目では、「小テストを何度かに分けて実施してくれたので、復習しながら学習を進めることができ、内容が頭に入りやすかった」、「体感しながらの授業で分かりやすかったし、留学生の方とも交流できるともいい場になり、楽しく学習することができた」など、受講者の理解を促すための担当教員の工夫を高く評価する声が多く見られた。一方で、質問項目(4)に対する評価が相対的に低かったため、アクティブ・ラーニングの効果的な活用がさらに求められているのかもしれない。今後の参考としたい。

結果報告書

授業科目名 国語科教育学研究
 評価実施日 平成29年7月24日
 担当教員名 村井 万里子 回答者数 4 人

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3	1					4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3	1					4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3	1					4.8
	(4)授業では、シラスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	4						5.0
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	3	1					4.8
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	3	1					4.8
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	2	1	1				4.3
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	3	1					4.8
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2	1					4.7
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	1	1				4.3
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3		1				4.5



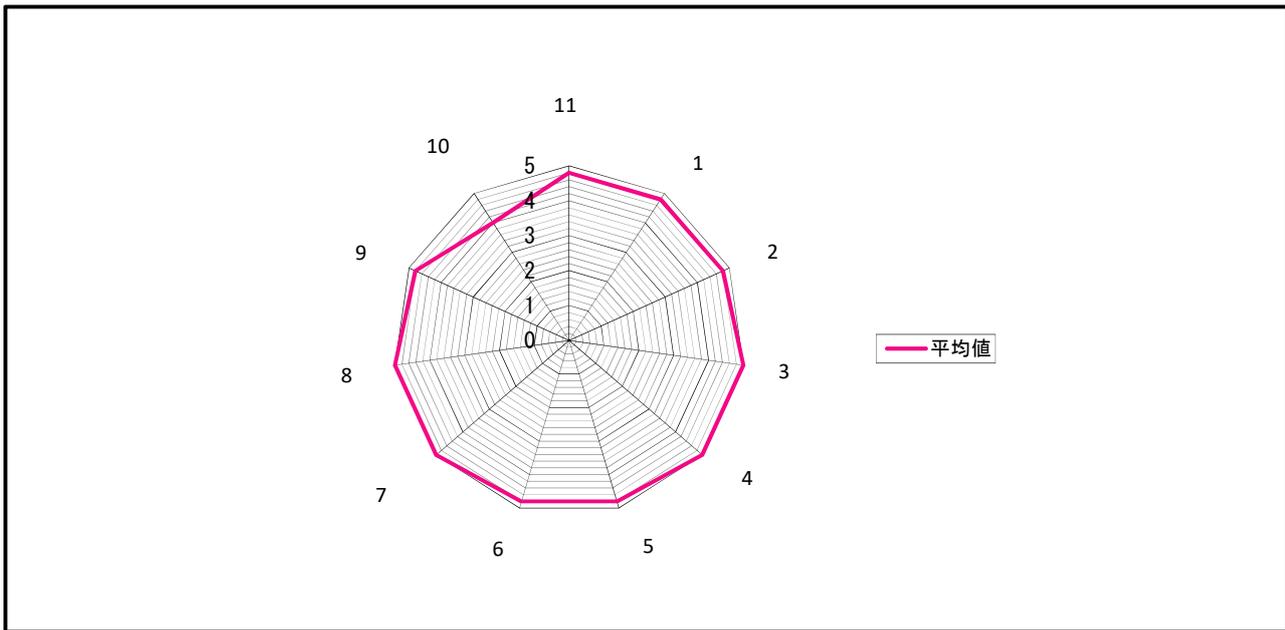
教員のコメント

総合的評価4.5は、概ね授業のねらいは達成水準に達している。しかし、1名、十分に満足いかなかった学生がいる。
 内容上の意義・水準を維持した上で、いかに分かりやすく授業を展開するか、よりいっそうの工夫が求められていることがわかった。

結果報告書

授業科目名 国語科授業研究
 評価実施日 平成29年7月27日
 担当教員名 幾田 伸司 回答者数 5 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	4	1				4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4	1				4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	5					5.0
	(4)授業では、シラスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	5					5.0
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	4	1				4.8
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	4	1				4.8
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	5					5.0
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	5					5.0
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4	1				4.8
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	2		1		4.0
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	4	1				4.8



教員のコメント

受講生が少ないこともありますが、総じて高い評価をもらえました。「専門的知識を深めるのに役立つ」「実践力の育成につながる」といった項目で評価してもらえたのは、授業者のわらいから見てよかったと思います。グループワークを設定しているので、受講生の方が主体的に考える機会を多く持てたことも、好意的に受け止められたようです。

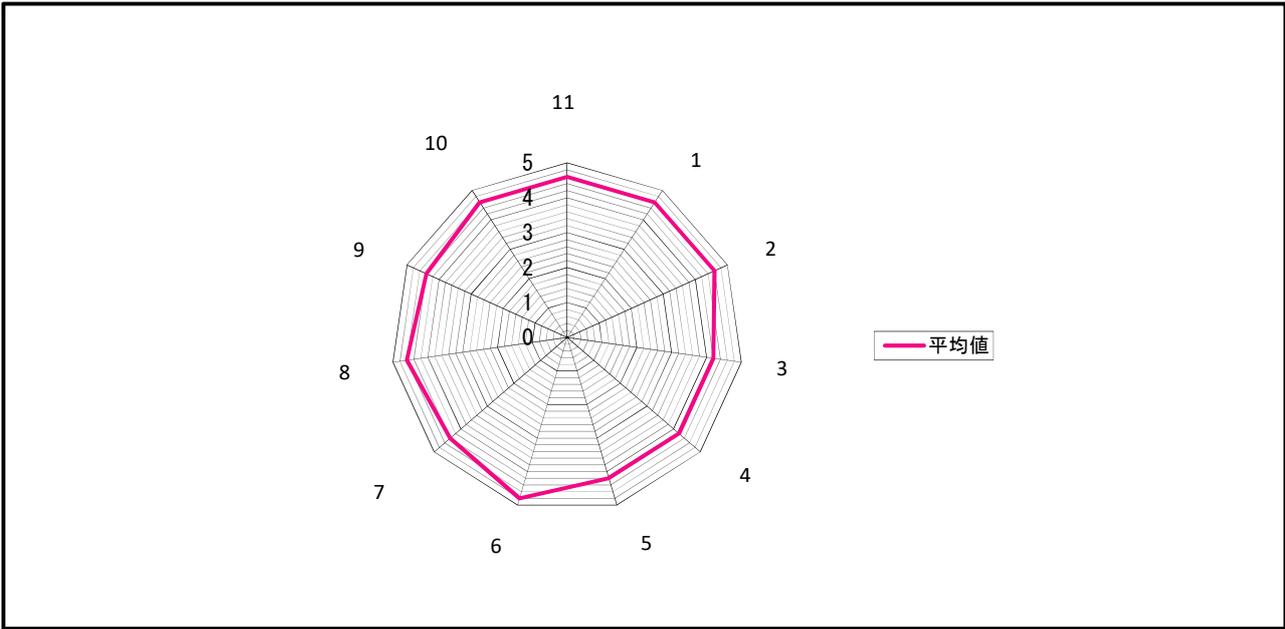
一方で、「授業に主体的・積極的に取り組んだ」の項目では、自己評価が低かった方もいました。個々の参加度が上がるようにグループワークを多くしているのですが、そこで気後れて積極的になれなかったという自己評価だと思います。グループワークでは、現職の方がリードしてくださり皆が同じように発言できる場面も多かったと思っていたのですが、持っている知識の多寡もあり遠慮しがちになることもあります。受講生個々への配慮をもっと行き届かせるようにします。

昨年度は小学校に教材が偏っていたという指摘もあったのですが、今年度はその点は改善されたようです。来年度以降も、受講者の方に合わせた教材を準備できるようにしたいと思います。

結果報告書

授業科目名 国語科教材開発研究
 評価実施日 平成29年7月24日
 担当教員名 余郷 裕次 回答者数 5 人

質 問 項 目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3	2				4.6
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4		1			4.6
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	2	2	1			4.2
	(4) 授業では、シラスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	2	2	1			4.2
教員の授業の進め方について	(5) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	3		2			4.2
	(6) 授業の進む速さは、適切であった。	4	1				4.8
	(7) 受講生に分かりやすく説明した。	3	1	1			4.4
	(8) 教科書や配布された資料は、適切であった。	4		1			4.6
	(9) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3	1	1			4.4
あなたの授業への取り組みについて	(10) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4		1			4.6
総合評価	(11) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	4		1			4.6



教員のコメント

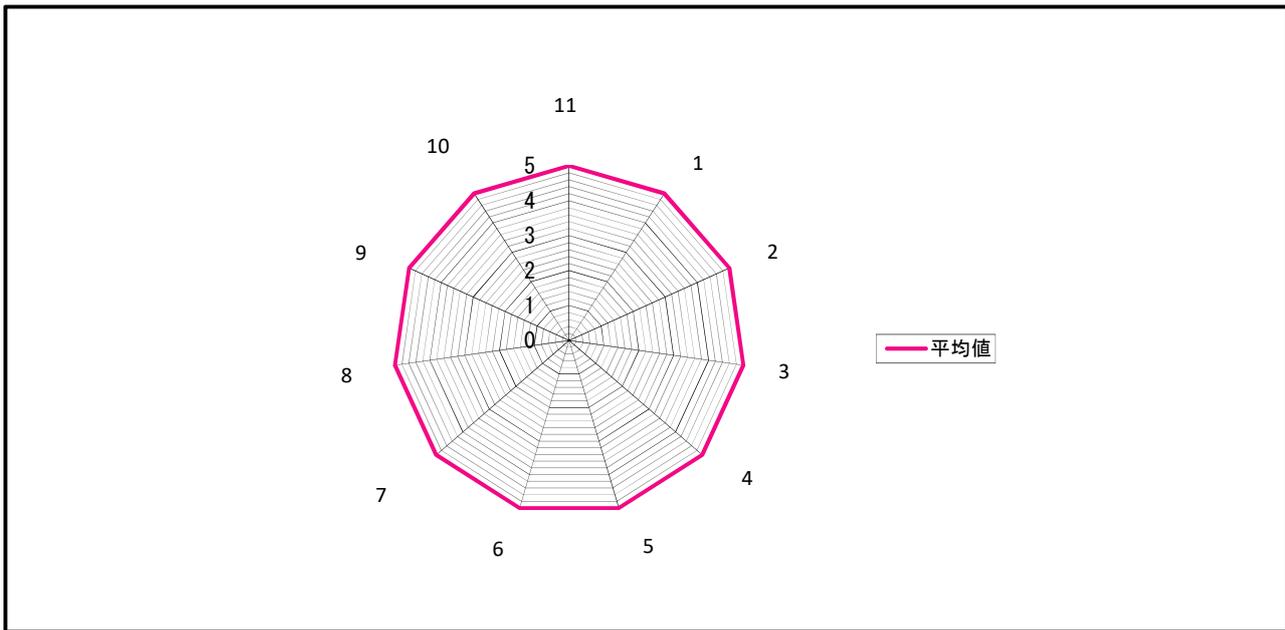
「総合評価」は、4.6の高得点評価であった。しかし、例年は4.8の評価であることから、低い評価とも言える。この結果は、受講者の1名がほとんどの評価項目に3.0の評価をしたことによるものである。全ての受講者のニーズにこたえることの困難さを改めて自省させられた。本年度も受講生が5名と少ないことが一番の課題である。今後も、言語系コース(国語)の定員確保と合わせて受講生の増加に取り組みたい。

受講生のコメントとして「絵本の奥深さを学んだ。余郷先生の人柄と豊富な知識と経験により、新たな知見を開くことができた。後期の授業も楽しみ。」「学生同士で読みあいをするなど、自分たちが活動する場を多くとってくださったことと、先生の講義の最中であっても気軽に質問できる雰囲気を作ってくくださったことで、「受け身」のままでいらなかったからだ。」など、数値評価を裏付ける好意的なコメントが得られた。また、「授業の初めに、黙読の時間がある点。時間に追われて本を読む習慣がなくなっていたが、また読むようになったから。また、落ち着いた雰囲気ですべてが始まる。」「今後もいろいろな絵本を読んでみたいと思いました。」など、講義の内容を生活や実践に移すコメントも見られた。今後も、受講生のニーズを大切にしつつ、学生生活や教師生活の実践を変革していく講義を心がけたい。

結果報告書

授業科目名 日本語教育法研究
 評価実施日 平成29年7月25日
 担当教員名 廣田 知子(嘱託),小野 由美子 回答者数 4 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	4					5.0
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4					5.0
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	4					5.0
	(4) 授業では、シラスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	4					5.0
教員の授業の進め方について	(5) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	4					5.0
	(6) 授業の進む速さは、適切であった。	4					5.0
	(7) 受講生に分かりやすく説明した。	4					5.0
	(8) 教科書や配布された資料は、適切であった。	4					5.0
	(9) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(10) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4					5.0
総合評価	(11) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	4					5.0



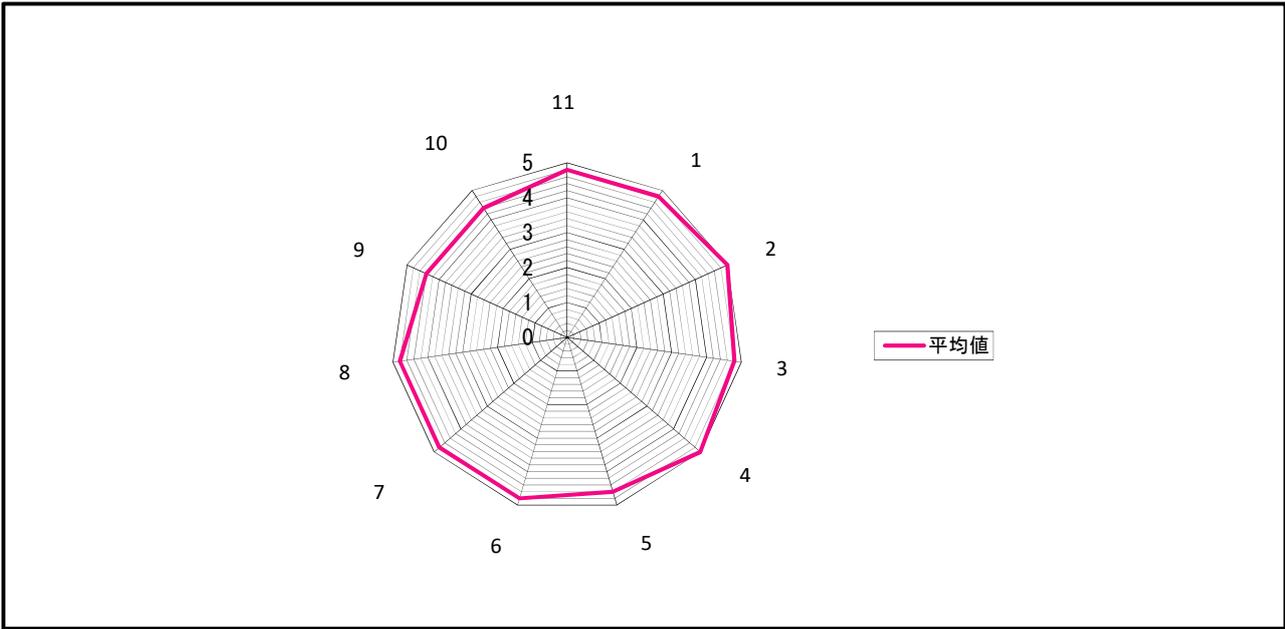
教員のコメント

アンケートの記述欄にほとんどコメントがなかったので、詳しいことはわからないが、おおむね質問しやすい雰囲気です。留学生も混じっているクラスなので、教材を選ぶ時ルビをきちんと振ってあるものを選んだ。今後も積極的な授業参加を期待したいので、学生の発表形式を重視しながら授業を行っていきたい。

結果報告書

授業科目名 教科内容構成(国語科)
 評価実施日 平成29年7月26日
 担当教員名 村井 万里子 原 卓志 余郷 裕次 小島 明子 幾田 伸司 黒田 俊太郎 田中 大輝 回答者数 5 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	4	1				4.8
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5					5.0
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	4	1				4.8
	(4) 授業では、シラスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	5					5.0
教員の授業の進め方について	(5) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	3	2				4.6
	(6) 授業の進む速さは、適切であった。	4	1				4.8
	(7) 受講生に分かりやすく説明した。	4	1				4.8
	(8) 教科書や配布された資料は、適切であった。	4	1				4.8
	(9) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3	1	1			4.4
あなたの授業への取り組みについて	(10) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	1	1			4.4
総合評価	(11) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	4	1				4.8



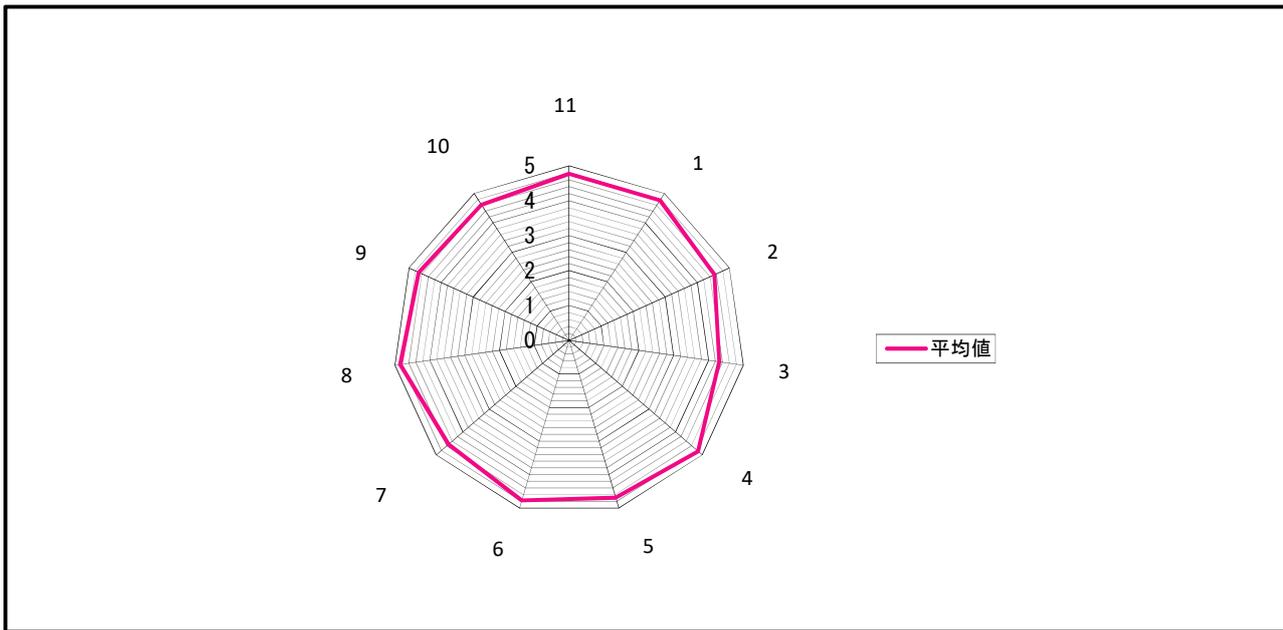
教員のコメント

新しく設置された科目としては、「総合的評価4.8」は、概ね肯定的な評価が得られたと考える。形式は「オムニバス」であるが、内容は、共同執筆したテキスト「教科内容学に基づく小学校教科専門科目テキスト国語」(鳴門教育大学教科内容学研究会編著2016年、ISBN978-4-903805-21-4)を基礎とし、教員間で方針・内容について共有が進んでいる。この水準を維持するため不断の努力を続けて行きたい。
 本授業の内容は、本学国語コースを母体とする「鳴門教育大学国語教育学会」の学会誌「語文と教育」31号に、「教科専門と教科内容の架橋を図る国語科教師教育の実際―教科内容構成(国語科)」を通して」という題目の研究論文を、担当者全員で共同執筆した。

結果報告書

授業科目名 言語教育基礎論Ⅱ
 評価実施日 平成29年7月27日
 担当教員名 眞野 美穂 回答者数 13 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	10	3				4.8
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	8	4	1			4.5
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	6	5	2			4.3
	(4) 授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	11	2				4.8
教員の授業の進め方について	(5) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	9	4				4.7
	(6) 授業の進む速さは、適切であった。	10	3				4.8
	(7) 受講生に分かりやすく説明した。	8	4	1			4.5
	(8) 教科書や配布された資料は、適切であった。	11	2				4.8
	(9) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	9	4				4.7
あなたの授業への取り組みについて	(10) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	8	5				4.6
総合評価	(11) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	10	3				4.8



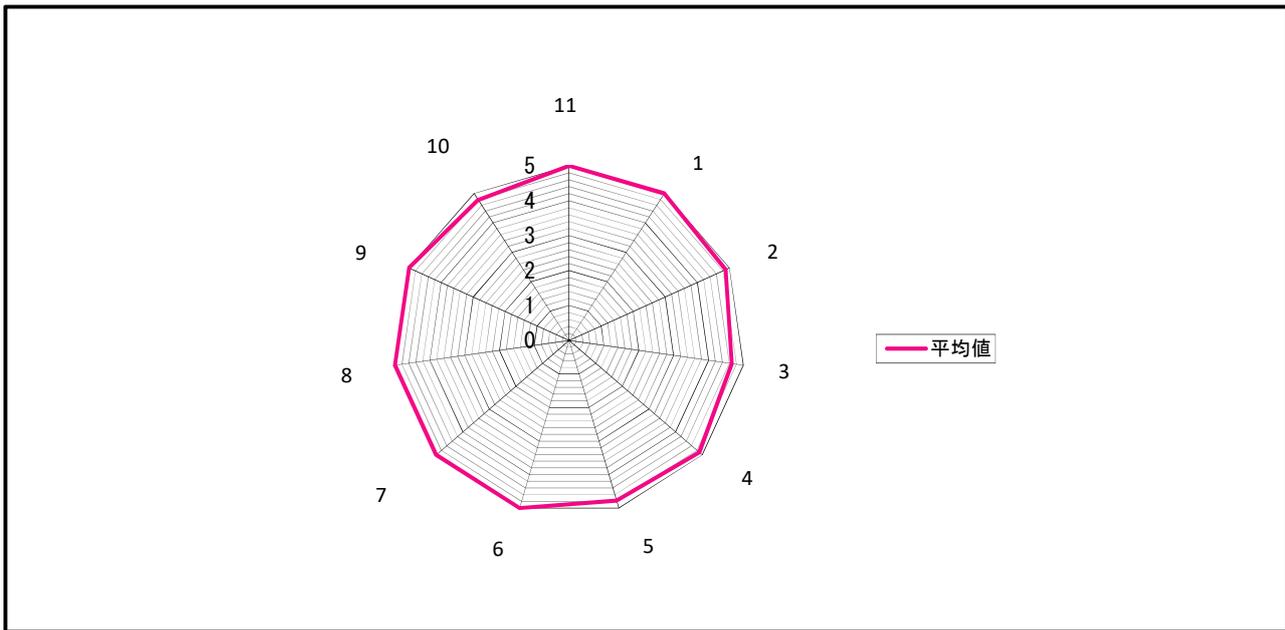
教員のコメント

全体的に、受講生は主体的に取り組み、内容的にも高い評価を得られたと考えている。自由記述でも肯定的な意見や、積極的に話し合ったという意見が多く聞かれた。しかし、一部、言語現象の説明に納得のいかなかった部分も見られたようなので、来年度以降、改善を図りたい。また、教育との関係については、その結びつきを自分たちで考えてほしい意図があったが、その部分はもう少し伝える必要があったように感じている。

結果報告書

授業科目名 英語学研究Ⅱ(言語表現)
 評価実施日 平成29年7月27日
 担当教員名 眞野 美穂 回答者数 9 人

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	9						5.0
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	8	1					4.9
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	6	3					4.7
	(4) 授業では、シラスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	8	1					4.9
教員の授業の進め方について	(5) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	7	2					4.8
	(6) 授業の進む速さは、適切であった。	9						5.0
	(7) 受講生に分かりやすく説明した。	9						5.0
	(8) 教科書や配布された資料は、適切であった。	9						5.0
	(9) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	9						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(10) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	7	2					4.8
総合評価	(11) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	9						5.0



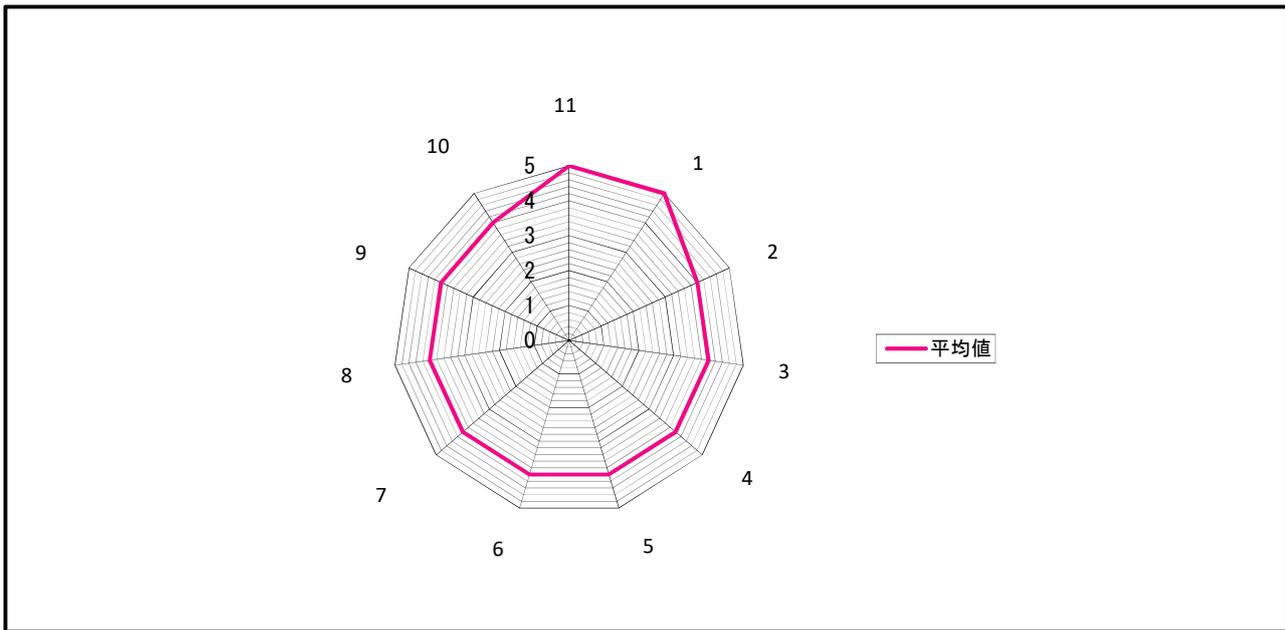
教員のコメント

英語で論文を読み、議論を行うという、積極的な取り組みが非常に要求される授業内容であったが、受講生はやりがいを感じ、積極的に取り組んだ様子が評価からも見て取れる。自由記述においても否定的な意見はなく、それよりも積極的に取り組んで手に入れた力を喜ぶ内容が多かった。今年度は留学生の参加があったこともあり、日英語織り交ぜての授業であったが、それも刺激となったと考えている。今後も学生が主体的に課題に取り組める内容の授業を行っていきたい。

結果報告書

授業科目名 英米文化研究 I (文化史)
 評価実施日 平成29年7月24日
 担当教員名 宮崎 隆義 回答者数 1 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	1					5.0
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。		1				4.0
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。		1				4.0
	(4) 授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。		1				4.0
教員の授業の進め方について	(5) 成績評価の方法の説明は、適切であった。		1				4.0
	(6) 授業の進む速さは、適切であった。		1				4.0
	(7) 受講生に分かりやすく説明した。		1				4.0
	(8) 教科書や配布された資料は、適切であった。		1				4.0
	(9) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。		1				4.0
あなたの授業への取り組みについて	(10) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。		1				4.0
総合評価	(11) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	1					5.0



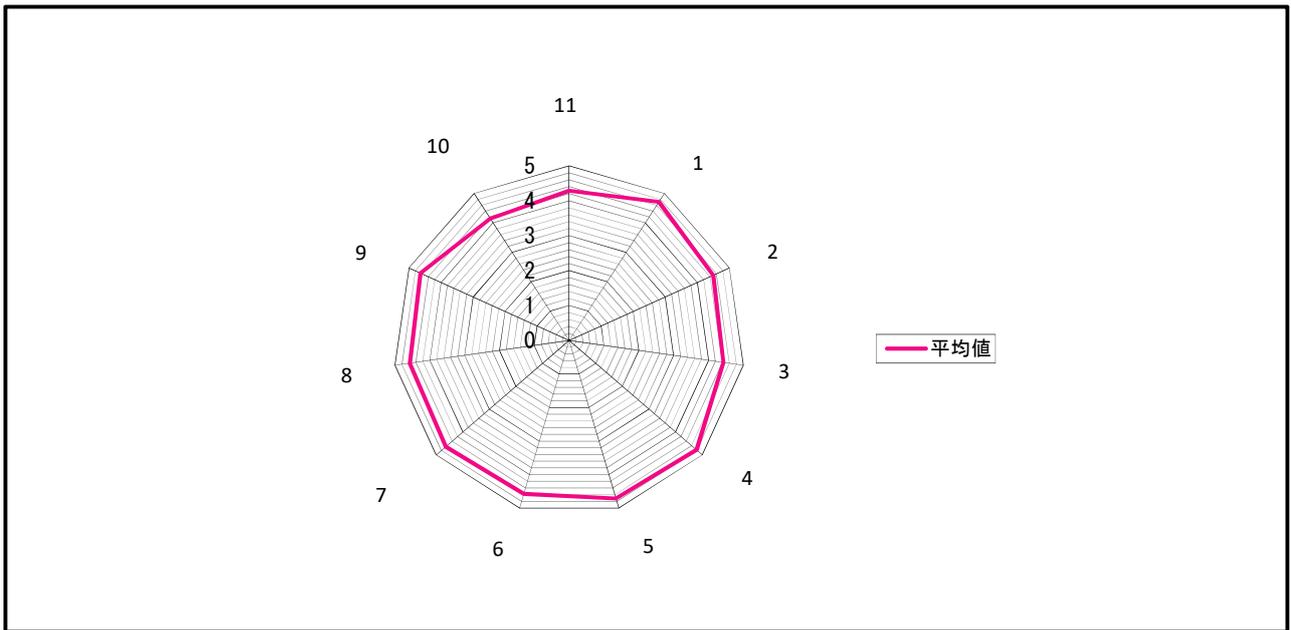
教員のコメント

受講生がふたりの授業で、アンケートの回答が1名からということでしたが、授業自体は相互に十分に意思の疎通が図れたと思っております。授業が、教員となられてすぐに教育現場で役立つことは難しいですが、外国語、言葉に対する取り組みや、言葉を通して知る異文化の世界が、将来の教育に役立つものと考えております。

結果報告書

授業科目名 アカデミック・ライティング II
 評価実施日 平成29年7月10日
 担当教員名 吉川 エリザベス 回答者数 14 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	12		2			4.7
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	9	3	2			4.5
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	8	4	2			4.4
	(4) 授業では、シラスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	12	1	1			4.8
教員の授業の進め方について	(5) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	11	2	1			4.7
	(6) 授業の進む速さは、適切であった。	10	2	2			4.6
	(7) 受講生に分かりやすく説明した。	12		1	1		4.6
	(8) 教科書や配布された資料は、適切であった。	9	4	1			4.6
	(9) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	11	1	2			4.6
あなたの授業への取り組みについて	(10) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	7	3	3	1		4.1
総合評価	(11) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	7	4	3			4.3



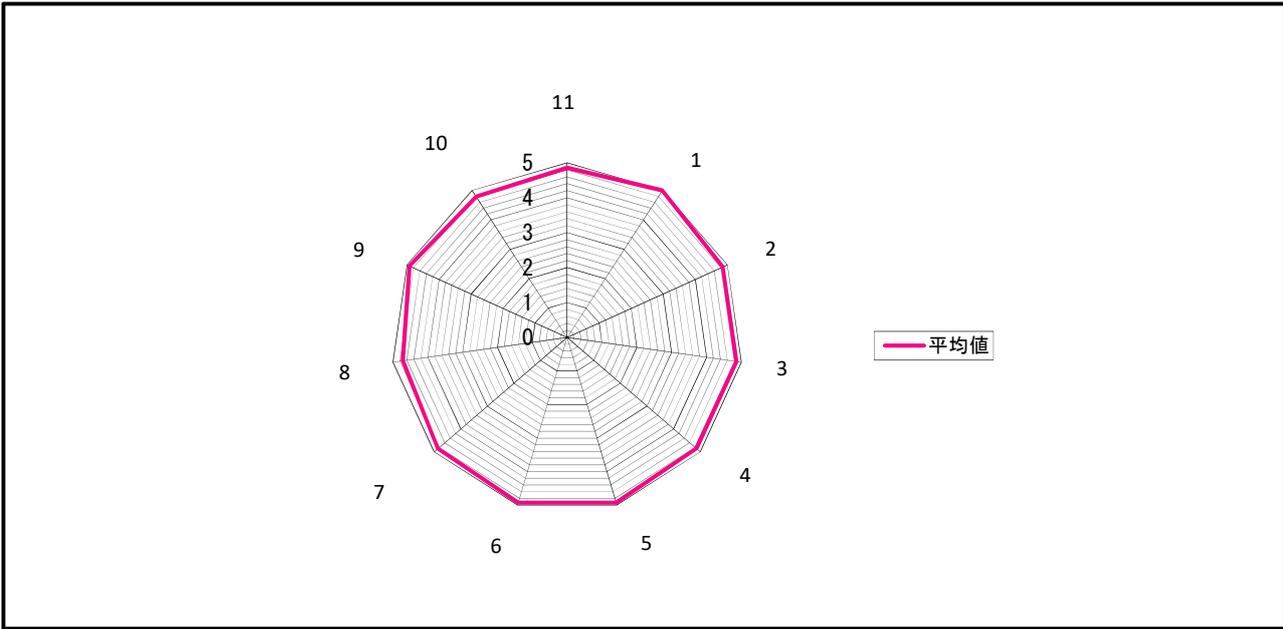
教員のコメント

It seems that most students appreciated this course. Students comments indicate that the handouts could be improved. A writing class is not necessarily conducive to Active learning, however I should consider how to incorporate more of an active learning element into the future. Aside from that, student's indicate that they were not necessarily active in class. While that is something within them, I should attempt to foster their active interest in the class more.

結果報告書

授業科目名 パブリック・スピーキング
 評価実施日 平成29年7月26日
 担当教員名 吉川 エリザベス 回答者数 14 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	14					5.0
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	12	2				4.9
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	12	2				4.9
	(4) 授業では、シラスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	12	2				4.9
教員の授業の進め方について	(5) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	13	1				4.9
	(6) 授業の進む速さは、適切であった。	13	1				4.9
	(7) 受講生に分かりやすく説明した。	12	2				4.9
	(8) 教科書や配布された資料は、適切であった。	11	2	1			4.7
	(9) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	12	1				4.9
あなたの授業への取り組みについて	(10) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	11	3				4.8
総合評価	(11) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	12	2				4.9



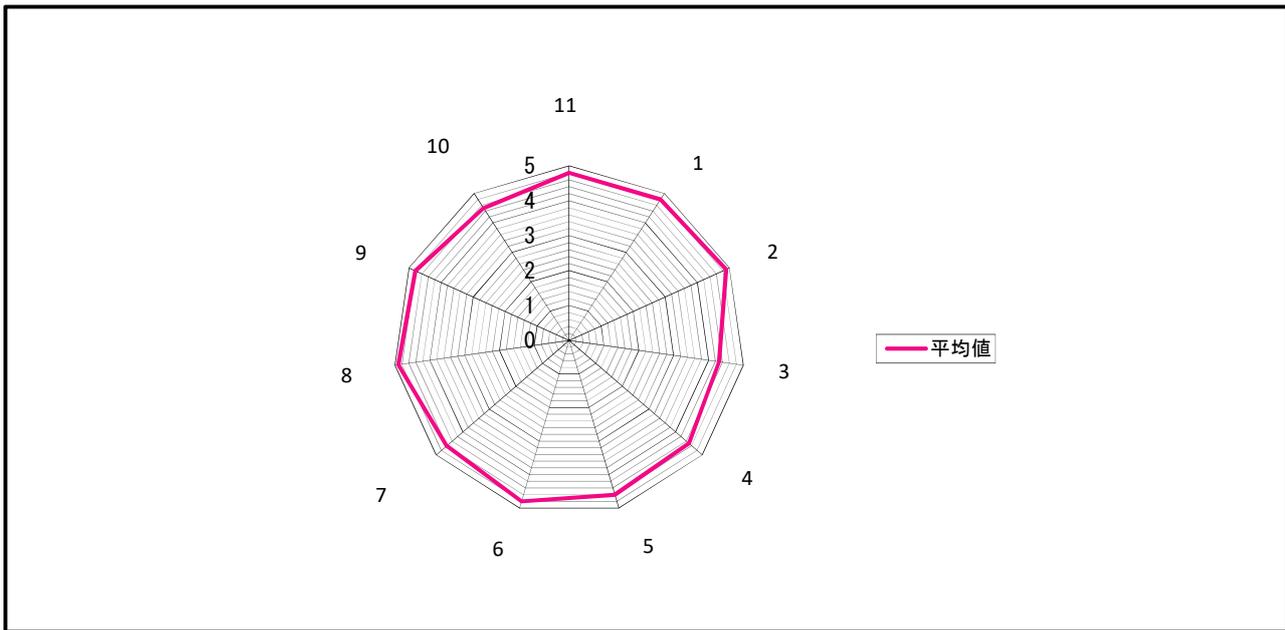
教員のコメント

Overall, the students' evaluation for this course seem to be very high. While to comment "I took the course actively, not passively" is something that comes from within the students' themselves, I should endeavour to help students increase their own interest in the course, so that they can further achieve their own learning goals as well as those of the course. I will continue to develop the course so that I can help student develop their English presentation and speaking skills.

結果報告書

授業科目名 初等中等英語科教育特論Ⅱ
 評価実施日 平成29年7月24日
 担当教員名 山森 直人 回答者数 10 人

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	8	2					4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	9	1					4.9
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3	7					4.3
	(4)授業では、シラスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	5	5					4.5
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	7	2	1				4.6
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	8	2					4.8
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	6	4					4.6
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	9	1					4.9
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	8	2					4.8
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	5					4.5
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	8	2					4.8



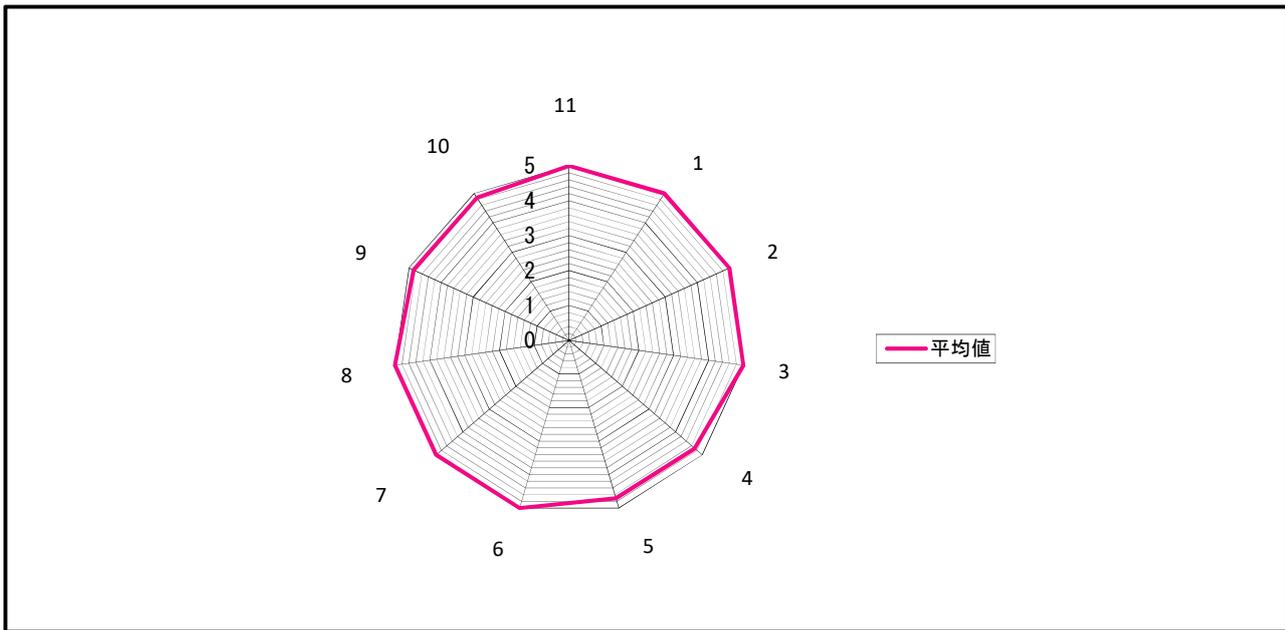
教員のコメント

全ての項目において、4点台の平均値を得たこと、および、総合評価が4.8であったことを考慮すると、本授業は概ね良好だったと考えられる。ただし、項目3(教師の実践力の育成につながる内容であった。)については、平均値が相対的に低く、授業改善の余地があると考えられる。本授業は、教育研究の方法論を学ぶことを目的とした授業であり、教育研究の対象となる授業や教育実践よりもむしろ、研究の方法に焦点があたったことは否めない。そのため、履修生は授業を通して教師としての実践力を得たという認識に至らなかったのではなかろうか。教育現場における教育研究力は、教師としての授業実践力の向上に直結するものであり、教師に求められる力のひとつと考えられる。履修学生が自分自身の教育・授業実践力を継続的に成長させていくことができるようにするためにも、教育実践における研究の意味を理解できるような授業の内容・方法を検討していく必要がある。

結果報告書

授業科目名 小学校英語習得論
 評価実施日 平成29年7月28日
 担当教員名 畑江 美佳 回答者数 7 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	7					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	7					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	7					5.0
	(4)授業では、シラスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	5	2				4.7
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	5	2				4.7
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	7					5.0
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	7					5.0
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	7					5.0
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	6	1				4.9
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6	1				4.9
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	7					5.0



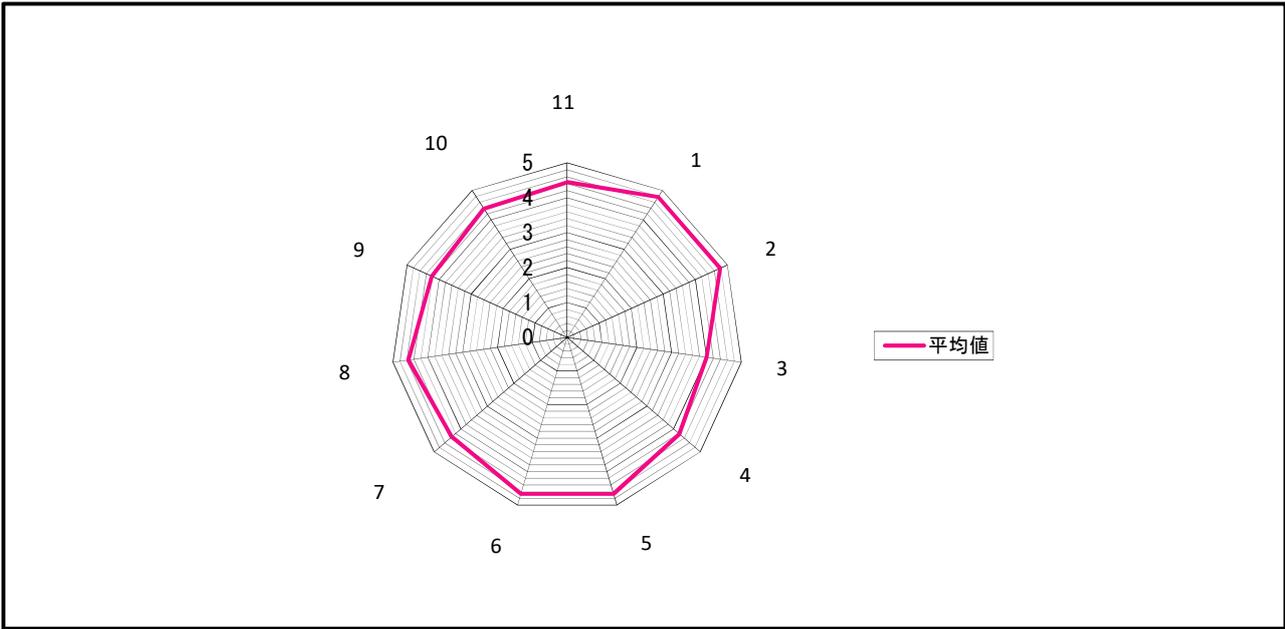
教員のコメント

学生主体の授業を心がけているため、自主的な授業準備や授業態度がみられ、それが総合評価5に結びついたと考える。アクティブ・ラーニングもとりいれ、また小学校英語の最新情報や今後の動向などにもリアルタイムで触れられる授業をしたので、全体的に満足いただける授業となったと思う。

結果報告書

授業科目名 歴史学研究Ⅱ
 評価実施日 平成29年7月24日
 担当教員名 町田 哲 回答者数 9 人

質 問 項 目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	7	2				4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	7	2				4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4	2	2	1		4.0
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	5	1	3			4.2
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	7	1	1			4.7
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	6	3				4.7
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	5	3		1		4.3
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	6	2	1			4.6
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4	4		1		4.2
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	3	1			4.4
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	5	3	1			4.4



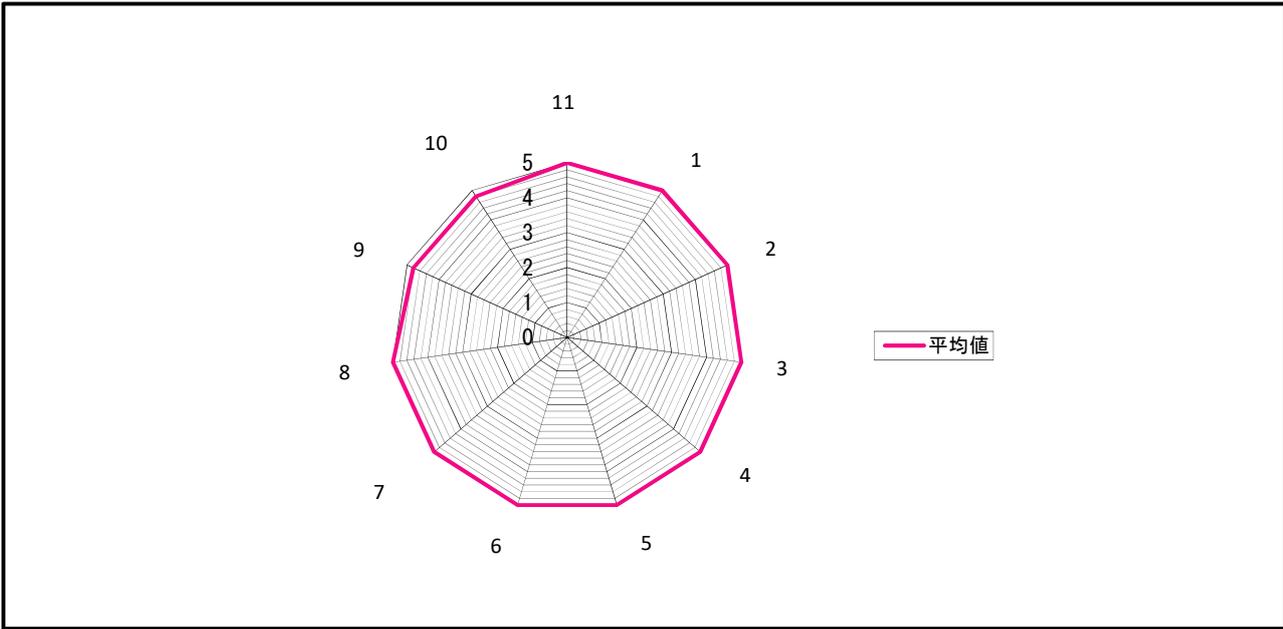
教員のコメント

今年度の歴史学研究Ⅱでは、山里からみた近世をテーマに、近世日本における山里の生活・社会とその変容過程を探求することを通じて、歴史の見方・考え方を深める内容であった。講義とあわせて主要論文を読み込みながら進めた。論文演習的要素を含めたことで、受講生には努力が必要となったが、積極的に参加し、議論することができた。なかには「歴史についての多角的な視点を提供」していたことや、「複雑な状況をわかりやすく解説してくれている」と評価する学生もいた。受講生各自の歴史的手法・視角を深めることにつながったものと考えている。

結果報告書

授業科目名 歴史学研究Ⅲ
 評価実施日 平成29年7月21日
 担当教員名 原田 昌博 回答者数 5 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	5					5.0
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5					5.0
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	5					5.0
	(4) 授業では、シラスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	5					5.0
教員の授業の進め方について	(5) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	5					5.0
	(6) 授業の進む速さは、適切であった。	5					5.0
	(7) 受講生に分かりやすく説明した。	5					5.0
	(8) 教科書や配布された資料は、適切であった。	5					5.0
	(9) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4	1				4.8
あなたの授業への取り組みについて	(10) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	1				4.8
総合評価	(11) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	5					5.0



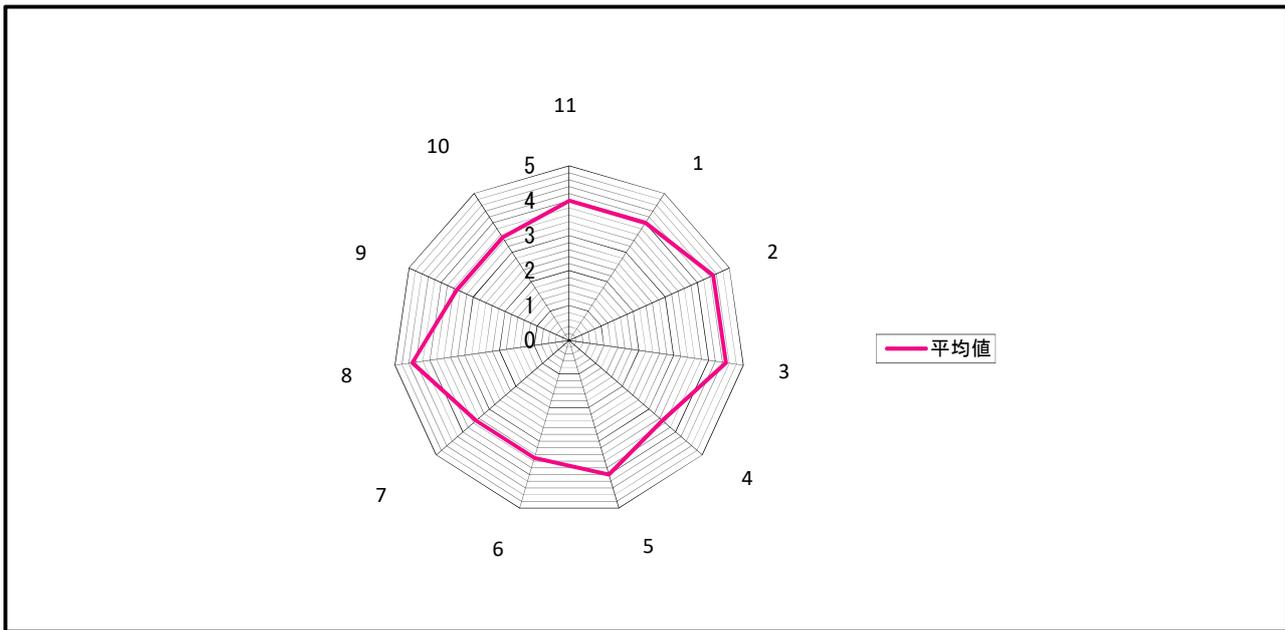
教員のコメント

本授業は「ナチズム」を事例に、新旧高等学校教科書の記述内容を比較しその変化の背景を歴史学上の研究史に基づいて検討することで、歴史学における「見解・解釈の変化」を明らかにし、その上で教材を研究する上での視点や方法を習得することを目的としている。今年度は受講生が6人であった(アンケートに回答したのは5人)。全体的に見て、各質問項目ともほとんどが「5」と評価しており、この点から、授業担当者として概ね本講義の目標を達成できたのではないかと考えている。質問10でほぼ全員が「5」と評価している点からも、受講生は本授業に満足していたと結論づけることができるだろう。特に、講義系科目であるが、受講生の報告や議論を取り入れた点の評価が高かった。来年度はさらに内容の精選を図り、受講生にわかりやすい講義を目指したい。

結果報告書

授業科目名 地理学研究Ⅱ
 評価実施日 平成29年7月27日
 担当教員名 立岡 裕士 回答者数 2 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。		2				4.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1	1				4.5
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1	1				4.5
	(4)授業では、シラスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。		1	1			3.5
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	1		1			4.0
	(6)授業の進む速さは、適切であった。		1	1			3.5
	(7)受講生に分かりやすく説明した。		1	1			3.5
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	1	1				4.5
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。		1	1			3.5
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。		1	1			3.5
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	1		1			4.0



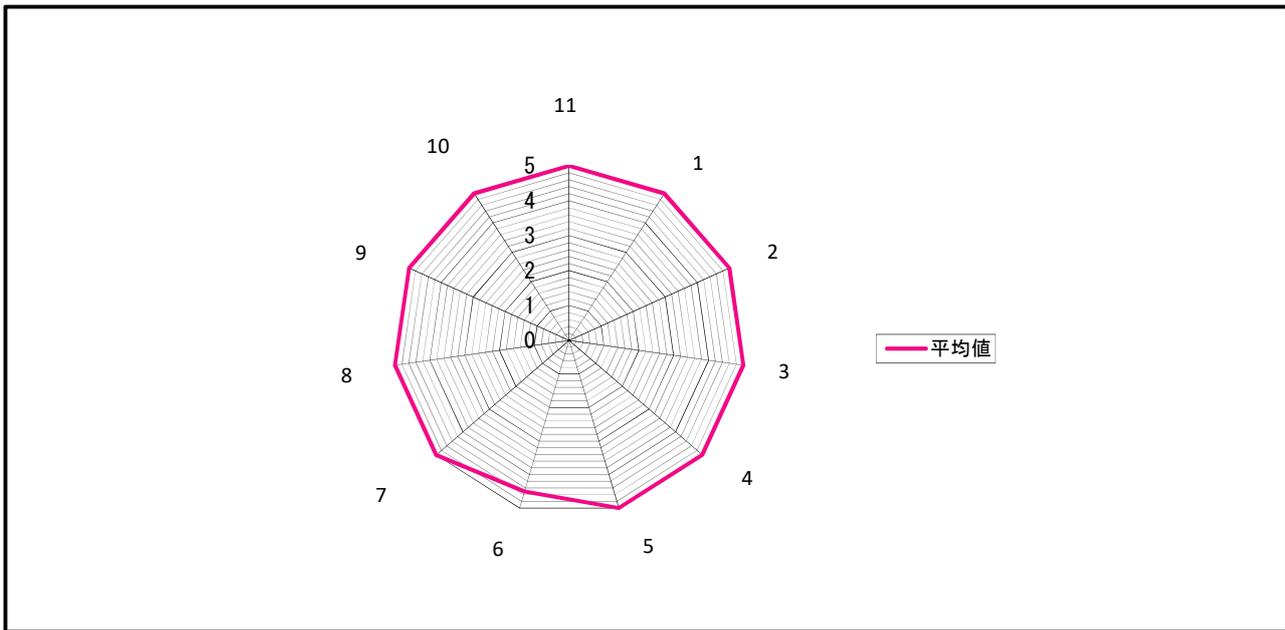
教員のコメント

本授業において改善すべき点として、「学生からの発表等があればいい」という指摘があったが、受講者2名のうち1名は地理学の専攻ではないため、そうした方策は採りがたいと考える。

結果報告書

授業科目名 地図表現学研究
 評価実施日 平成29年7月24日
 担当教員名 立岡 裕士 回答者数 2 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2					5.0
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	2					5.0
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2					5.0
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	1	1				4.5
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	2					5.0
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	2					5.0
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2					5.0
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2					5.0



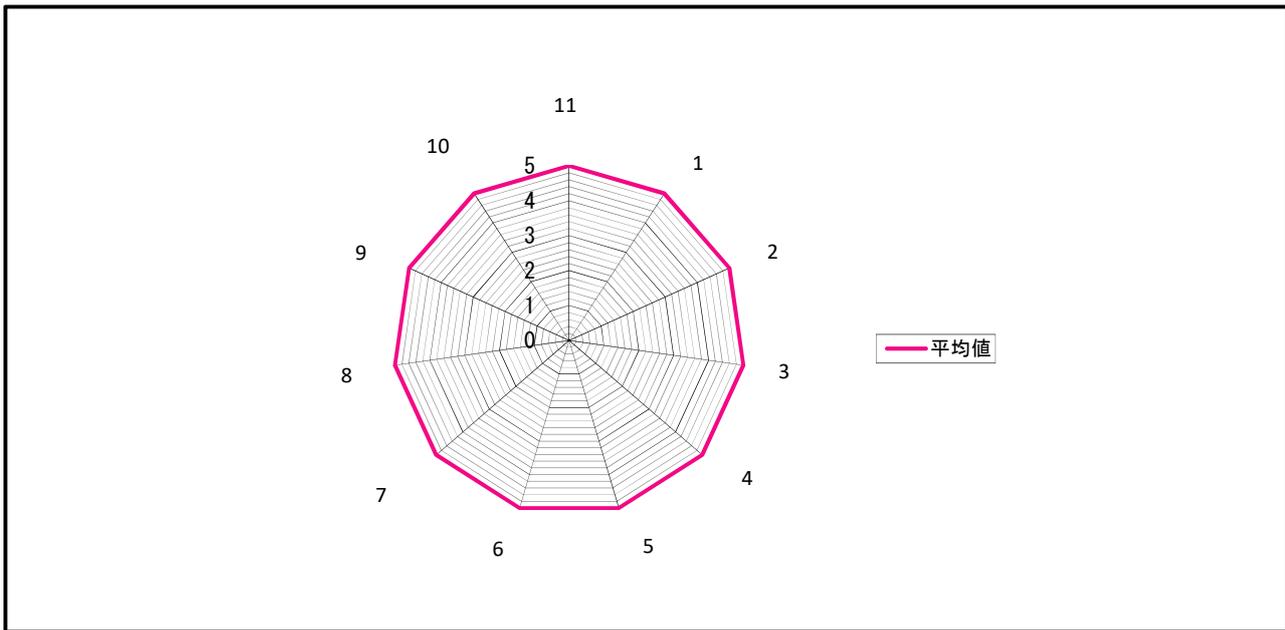
教員のコメント

受講生が2名のため、理解度を確認しながら進めることができた

結果報告書

授業科目名 地図表現学演習
 評価実施日 平成29年7月24日
 担当教員名 立岡 裕士 回答者数 2 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2					5.0
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2					5.0
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	2					5.0
	(4) 授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	2					5.0
教員の授業の進め方について	(5) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	2					5.0
	(6) 授業の進む速さは、適切であった。	2					5.0
	(7) 受講生に分かりやすく説明した。	2					5.0
	(8) 教科書や配布された資料は、適切であった。	2					5.0
	(9) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(10) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2					5.0
総合評価	(11) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2					5.0



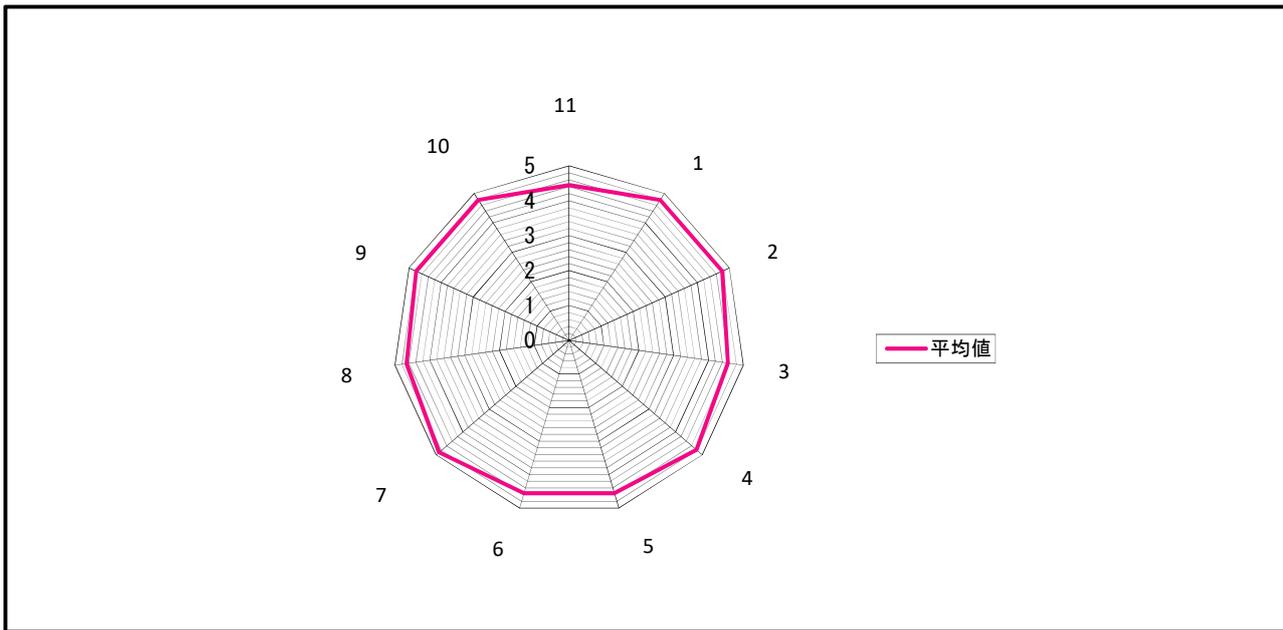
教員のコメント

受講生が2名のため、理解度を確認しながら進めることができた

結果報告書

授業科目名 法学・政治学研究
 評価実施日 平成29年7月31日
 担当教員名 麻生 多聞 回答者数 9 人

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	7	2					4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	8		1				4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	7		2				4.6
	(4)授業では、シラスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	7	2					4.8
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	7	1		1			4.6
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	7	1		1			4.6
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	8	1					4.9
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	7	1	1				4.7
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	7	2					4.8
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	7	2					4.8
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	6	1	2				4.4



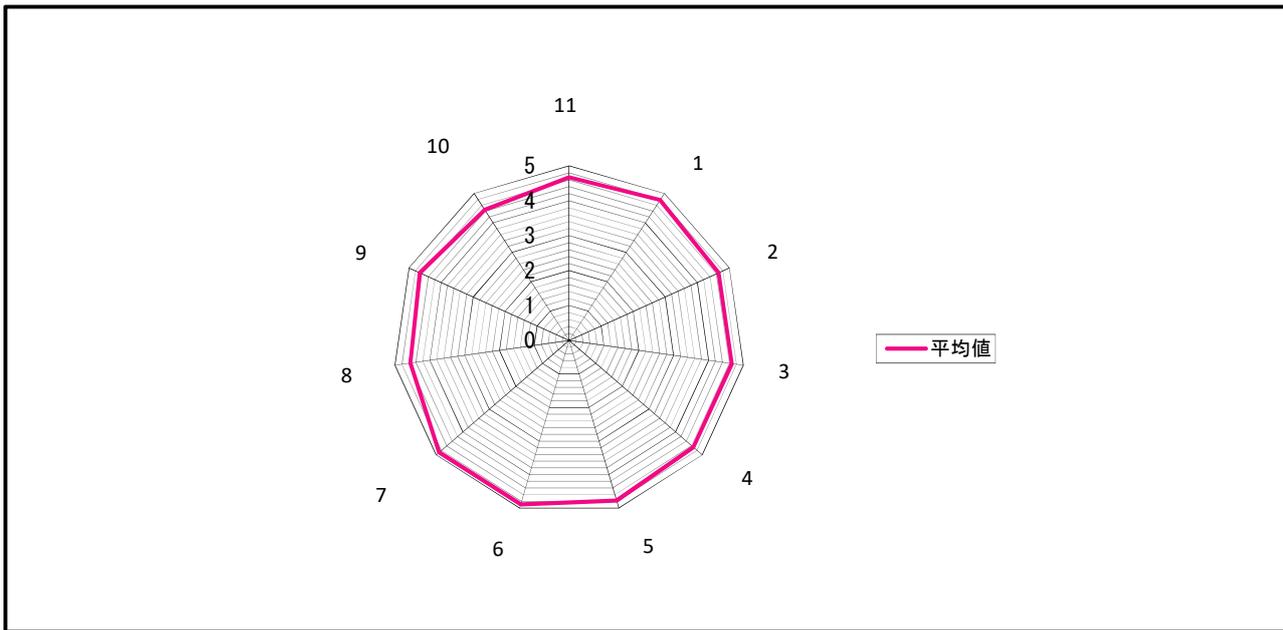
教員のコメント

今期は、憲法学の演習書『リアル憲法学』(法律文化社、2014)を講読した。
 様々な事例を踏まえて、学説における通説的な見解や判例の考え方を理解してもらうことを意図した。
 受講者の関わり方については、概ねしっかりと予習をしており、各自の見解も主体的に提示してくれており、討議を活発に進めることが出来たように思う。
 ただ、残念だったのは、一部の受講生に限られることだが、自分とは異なる方向性の意見を他の受講生が提示した際、「幼稚な意見」など揶揄するような表現を用いるケースがあったことである。
 学校教育では、子どもたちの多元的な価値観を尊重することが求められることを考慮すると、上記のような振る舞いをする受講者の教員としての資質に疑問を覚えざるを得ない。
 また、学説の通説的な見解を批判する際、学説が前提としている論証にはまったく触れることのない(テキストで明示されている論点に向き合うことのない)主張を行う受講者が一部にいたことも気になる点であった。予習をしっかりとしていれば、まずはテキストに書かれている論点に回答した上で、自説を展開することが出来るはずである。
 ごく一部に以上のようなケースがあったことは、残念なことであった。

結果報告書

授業科目名 経済学研究
 評価実施日 平成29年7月25日
 担当教員名 青葉 暢子 回答者数 9 人

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	7	2					4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	7	1	1				4.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	7	1	1				4.7
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブラーニングが、実施されていた。	7	1	1				4.7
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	7	2					4.8
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	8	1					4.9
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	8	1					4.9
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	7		2				4.6
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	7	1	1				4.7
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6	1	2				4.4
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	7	1	1				4.7



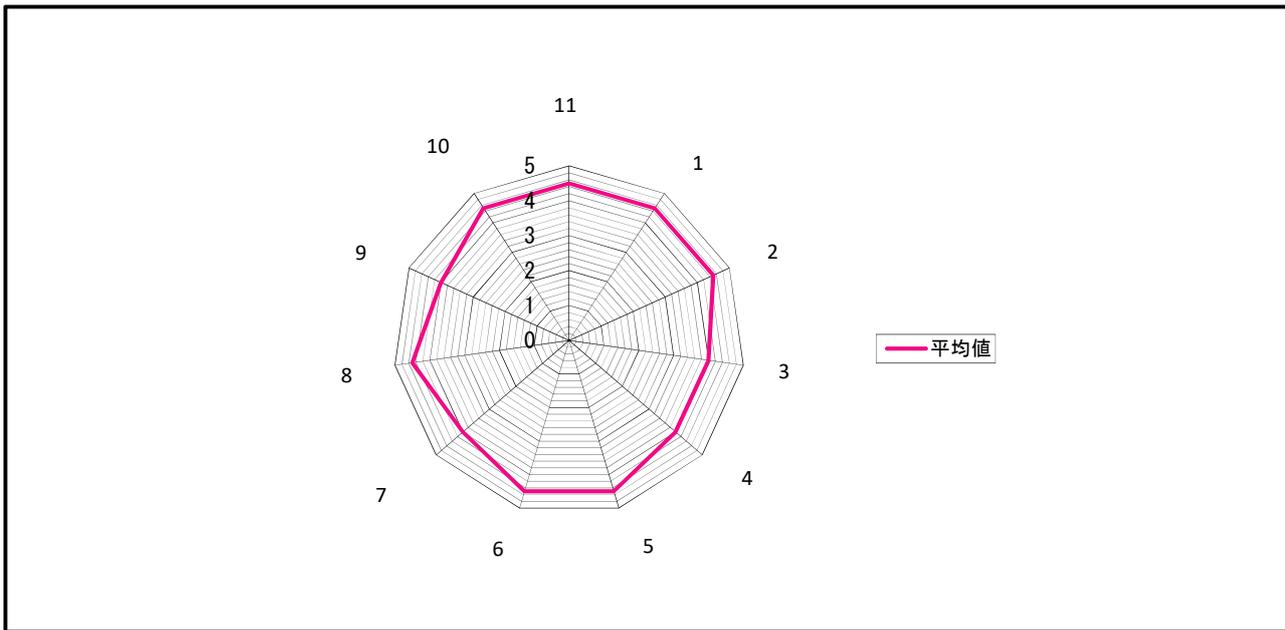
教員のコメント

本授業は、普段、何気なく行っている行動を分析することによって、目的を達成するためにどのような行動をすればよいのかを考える基準となるものを与える授業である。最終レポートによって、各自の興味関心のあるテーマについて、授業内で学んだことを用いて、実際に行動分析を行うことによって、学習が完結するようになっている。授業評価アンケートは、レポート提出前に記述されたものだが、概ね、講義内容について理解できている様子がうかがえ、本授業の目的は達成できたと考える。

結果報告書

授業科目名 哲学・倫理学研究
 評価実施日 平成29年7月28日
 担当教員名 齋木 哲郎 回答者数 2 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	1	1				4.5
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1	1				4.5
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	1		1			4.0
	(4) 授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	1		1			4.0
教員の授業の進め方について	(5) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	1	1				4.5
	(6) 授業の進む速さは、適切であった。	1	1				4.5
	(7) 受講生に分かりやすく説明した。	1		1			4.0
	(8) 教科書や配布された資料は、適切であった。	1	1				4.5
	(9) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	1		1			4.0
あなたの授業への取り組みについて	(10) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	1				4.5
総合評価	(11) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	1	1				4.5



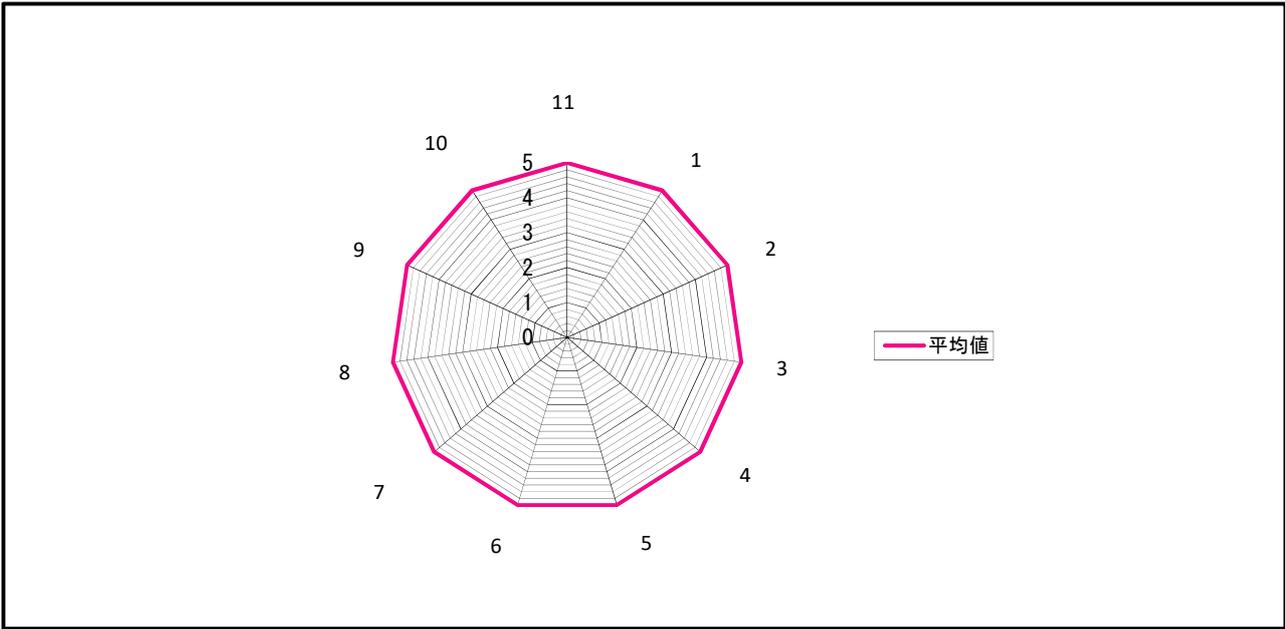
教員のコメント

受講者は3名と少なかった。その分、受講者との対話を通じ私ないし受講生の物の見方や私の認識との相違を確認しながら授業を進めることができたと思う。頻繁な質疑応答はアクティブ・ラーニングの授業への導入にも繋がったと思う。

結果報告書

授業科目名 哲学・倫理学演習
 評価実施日 平成29年7月28日
 担当教員名 齋木 哲郎 回答者数 1 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	1					5.0
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1					5.0
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	1					5.0
	(4) 授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	1					5.0
教員の授業の進め方について	(5) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	1					5.0
	(6) 授業の進む速さは、適切であった。	1					5.0
	(7) 受講生に分かりやすく説明した。	1					5.0
	(8) 教科書や配布された資料は、適切であった。	1					5.0
	(9) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	1					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(10) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1					5.0
総合評価	(11) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	1					5.0



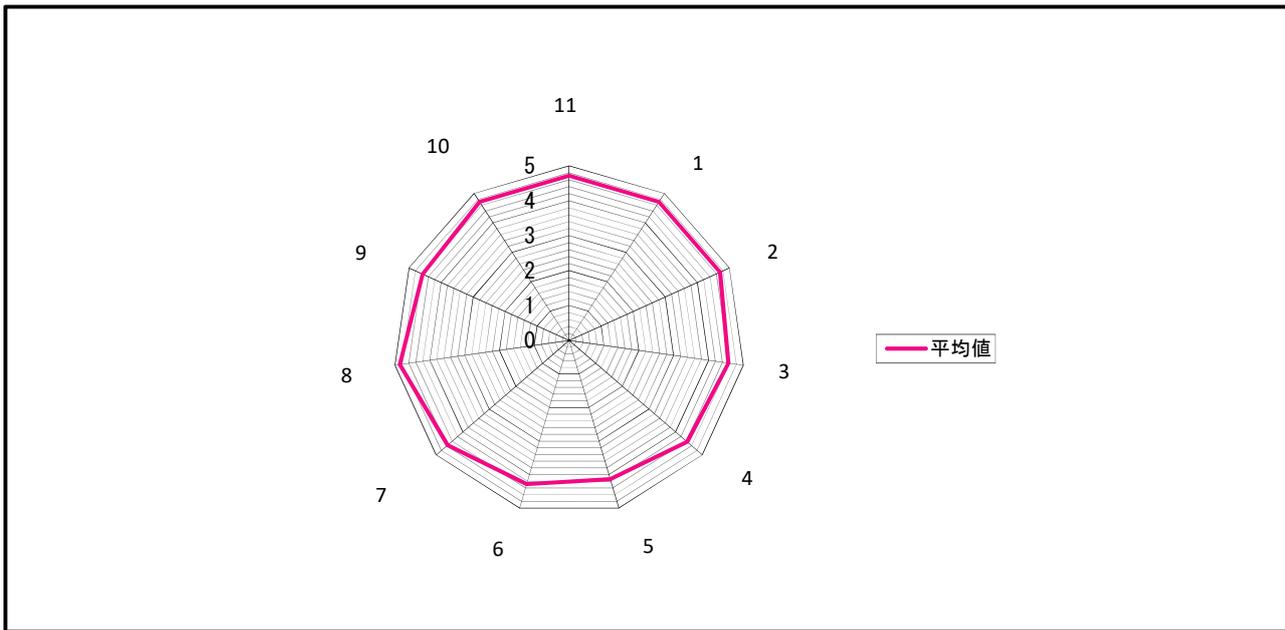
教員のコメント

受講生は一人で、中国からの留学生であった。哲学倫理学演習で用いていたテキストは中国の古典籍であった(今回は受講者の習熟度に合わせ相談の上、朱子の『論語集注』を用いた)、受講者が中国語で音読し私がその後により中国語で音読、受講者が日本語に翻訳し、それを確認して私が語法を説明し、かつ日本語に訳す場合のやり方を説明した。その繰り返しであったが、受講生は自身の哲学観を合間に説く事もあって緊張感を伴った授業となった。とても疲れる授業であったが、受講生は頑張ったと思う。

結果報告書

授業科目名 社会科教育学研究
 評価実施日 平成29年7月28日
 担当教員名 伊藤 直之 回答者数 7 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	5	2				4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5	2				4.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4	3				4.6
	(4)授業では、シラスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	4	2	1			4.4
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	3	2	2			4.1
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	2	5				4.3
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	4	3				4.6
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	6	1				4.9
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4	3				4.6
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	2				4.7
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	5	2				4.7



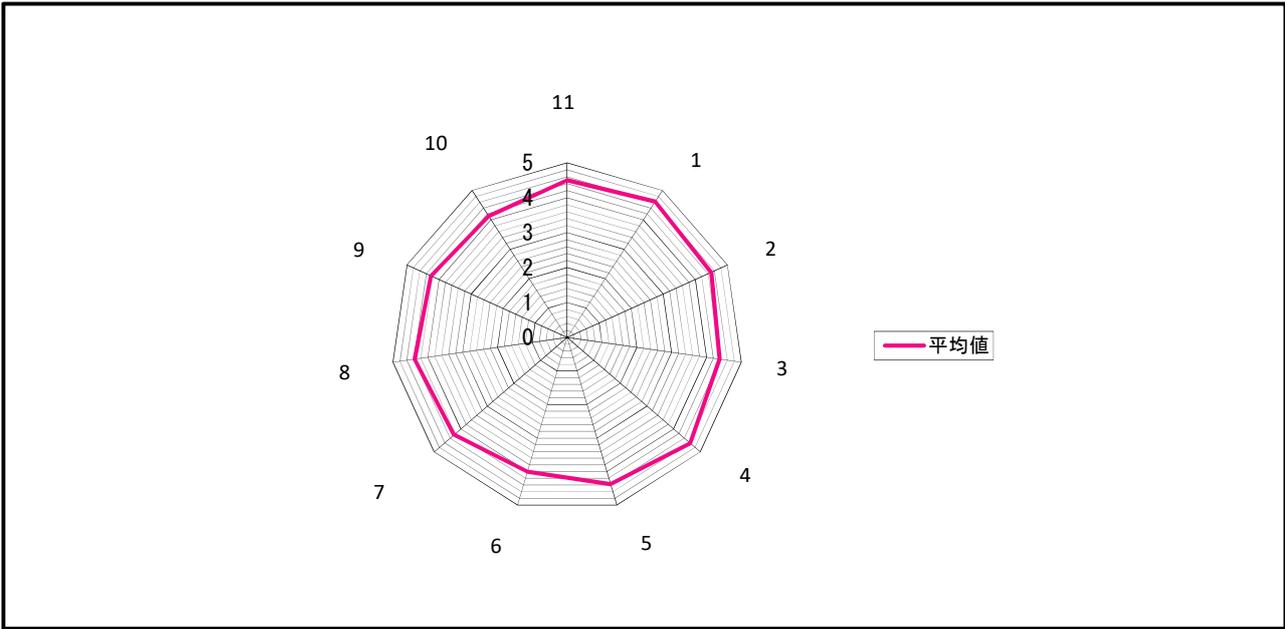
教員のコメント

総じて良い評価をいただいたが、成績評価の不法説明や授業の進む進度について課題があるように思われる。この二点を次年度改善したい。

結果報告書

授業科目名 社会科授業研究
 評価実施日 平成29年7月26日
 担当教員名 梅津 正美 回答者数 8 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	5	3				4.6
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5	2	1			4.5
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4	3	1			4.4
	(4)授業では、シラスに示されたアクティブラーニングが、実施されていた。	5	3				4.6
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	4	3	1			4.4
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	2	4	2			4.0
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	4	2	2			4.3
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	4	3	1			4.4
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3	4	1			4.3
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	3	2			4.1
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	5	2	1			4.5



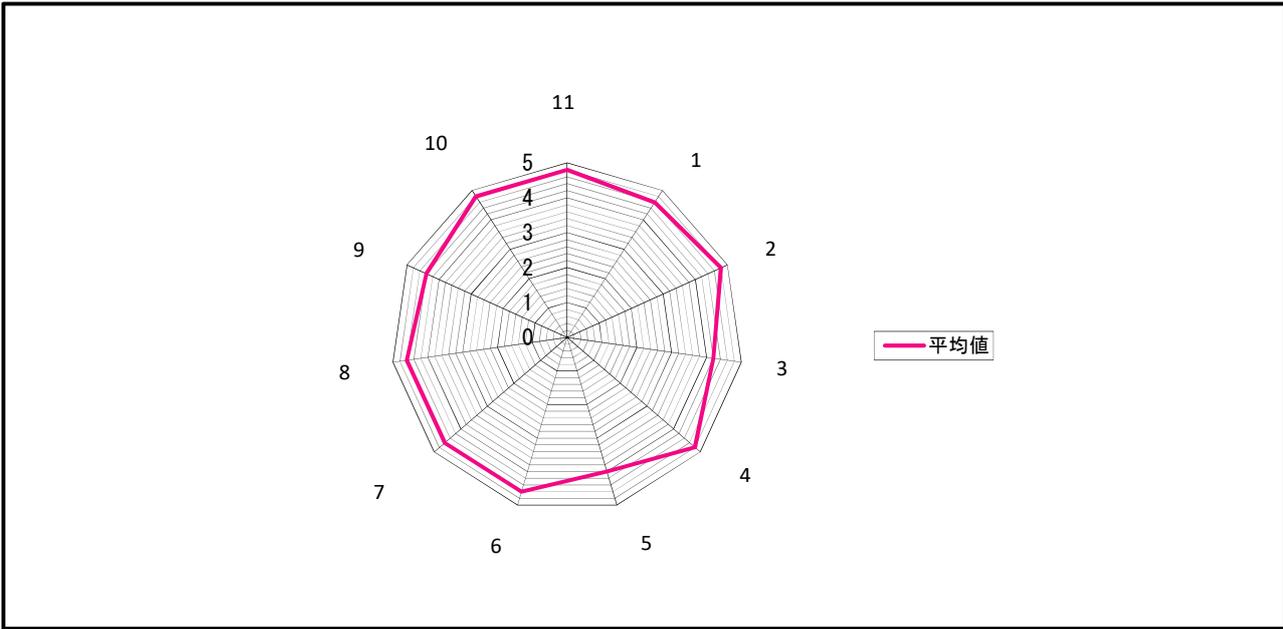
教員のコメント

学校の多様な状況を踏まえながらチームとして社会科授業研究を構想し実施していくための力量を形成するために、本授業を展開した。学校現場で行われた規模や状況の異なる授業研究を事例に取り上げ、その理論仮説・計画・実践・評価・改善のプロセスを読み解くように講義と演習を行った。本授業の締めくくりの演習として、「ワールドカフェ」方式により、学生自らがグループで授業研究のプランを構築し意見交換をした。授業の内容に関する4項目の評価の平均は4.5であり、総合評価も4.5であった。こうした評価結果から、本授業の目的・内容については、概ね受講生のニーズにかなうものであったと判断している。授業の進め方について、進度や教員の活用の評価項目が4.1と相対的に低かったため、さらなる改善を図って行きたい。

結果報告書

授業科目名 社会科教材開発演習Ⅲ(公民領域)
 評価実施日 平成29年7月27日
 担当教員名 井上 奈穂 回答者数 5 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3	2				4.6
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4	1				4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2	2	1			4.2
	(4)授業では、シラスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	4	1				4.8
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2	1	2			4.0
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	3	2				4.6
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	3	2				4.6
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	3	2				4.6
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3	1	1			4.4
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	1				4.8
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	4	1				4.8



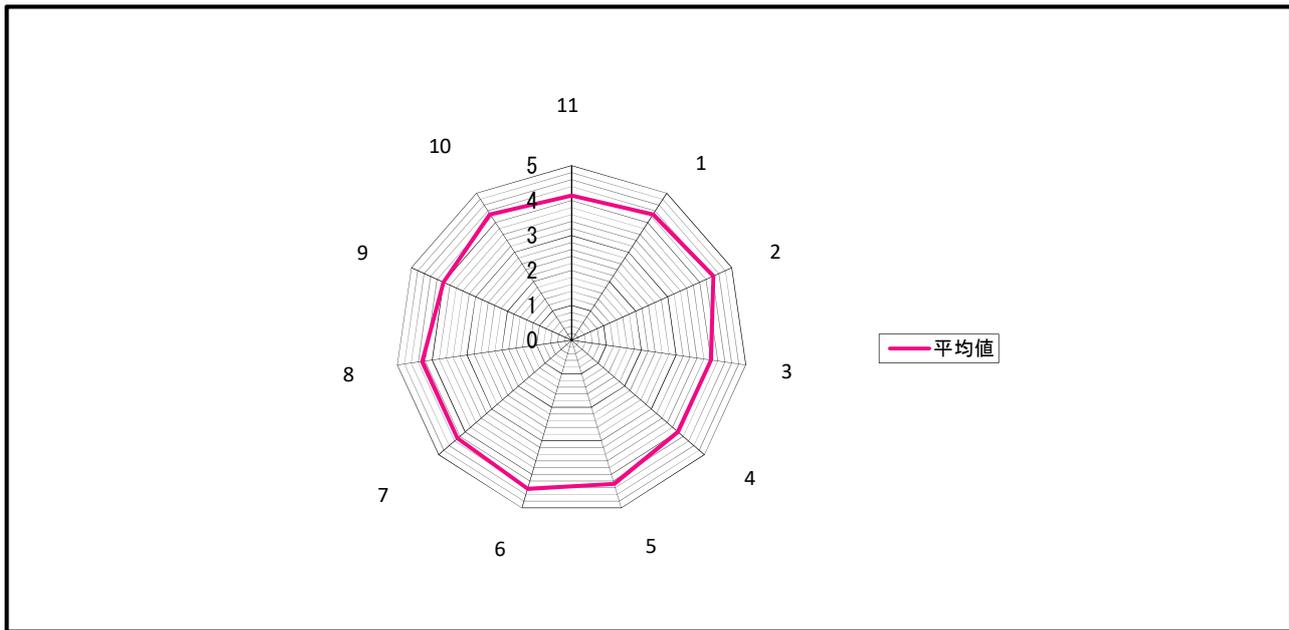
教員のコメント

全般的に高い評価をもらっているといえる。課題としては評価方法の説明が不十分であった点、視聴覚教材の活用が挙げられる。次年度はその点に留意し、よりよい授業となるよう努力したい。

結果報告書

授業科目名 代数学研究
 評価実施日 平成29年7月26日
 担当教員名 平野 康之 回答者数 7 人

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3	3	1				4.3
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3	4					4.4
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2	3	2				4.0
	(4) 授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	2	3	2				4.0
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	3	3	1				4.3
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	3	4					4.4
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	3	3	1				4.3
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	3	3	1				4.3
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3	1	3				4.0
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	5					4.3
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2	4	1				4.1



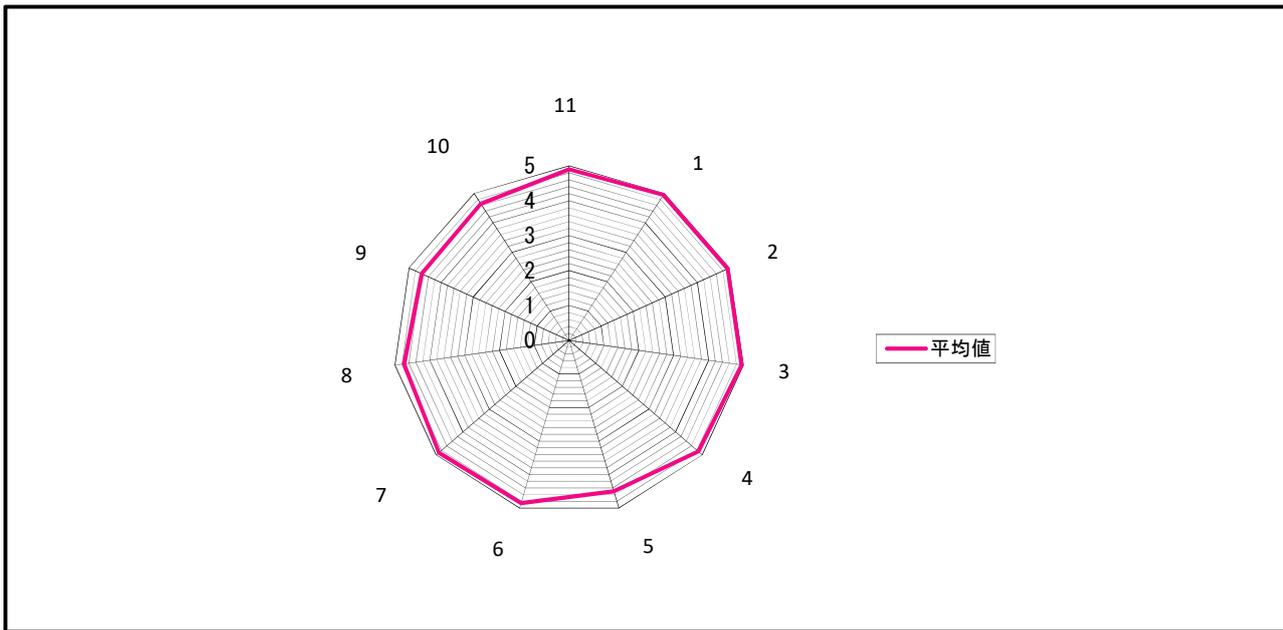
教員のコメント

すべての平均値が4.0以上であり、「(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた」、「(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった」、「(5)成績評価の方法の説明は、適切であった」、「(6)授業の進む速さは、適切であった」、「(7)受講生に分かりやすく説明した」、「(8)教科書や配布された資料は、適切であった」、「(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ」という問いに対して評価の平均値が4.3~4.4であったので、この授業が受講者に一律の評価は受けていると思われる。しかし、「(3)教師の実践力の育成につながる内容であった」、「(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた」、「(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった」という問いに対して評価の平均値が4.0に留まっており、今後、これらの点に関して改善していきたい。総合評価として「(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う」という問いの平均値が4.1であったので大多数の受講者が概ね、この授業に満足しているものと思われる。今回の評価の平均値は昨年より高い数値であるが、それに満足せず、もっと教師の実践力の育成につながる内容にし、授業の進む速さも学生の理解度に合わせた適切なものに改善していきたい。

結果報告書

授業科目名 数学科教育学研究
 評価実施日 平成29年7月28日
 担当教員名 秋田 美代 回答者数 20 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	19	1				5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	19	1				5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	19	1				5.0
	(4)授業では、シラスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	17	3				4.9
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	11	8	1			4.5
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	17	3				4.9
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	18	2				4.9
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	14	5				4.7
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	14	4	2			4.6
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	14	5	1			4.7
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	18	2				4.9



教員のコメント

この授業科目の主な目標は、数学教育の目標論、カリキュラム論、内容論、方法論、評価論等について考察し、生徒の基礎的学力、関心・意欲、創造性等を高める数学学習理論について理解すること、及び数学教育における実践的な課題に対する解決策についての認識を深めることであった。

総合評価の平均値は4.9、評価の平均値が高かった質問項目は、「(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた」、「(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった」、「(3)教師の実践力の育成につながる内容であった」、「(5)授業の進む速さは、適切であった」であり、授業の内容は目標に沿ったものであり、受講生の数学の指導力や数学教育についての専門的知識を向上させることができたと判断できた。

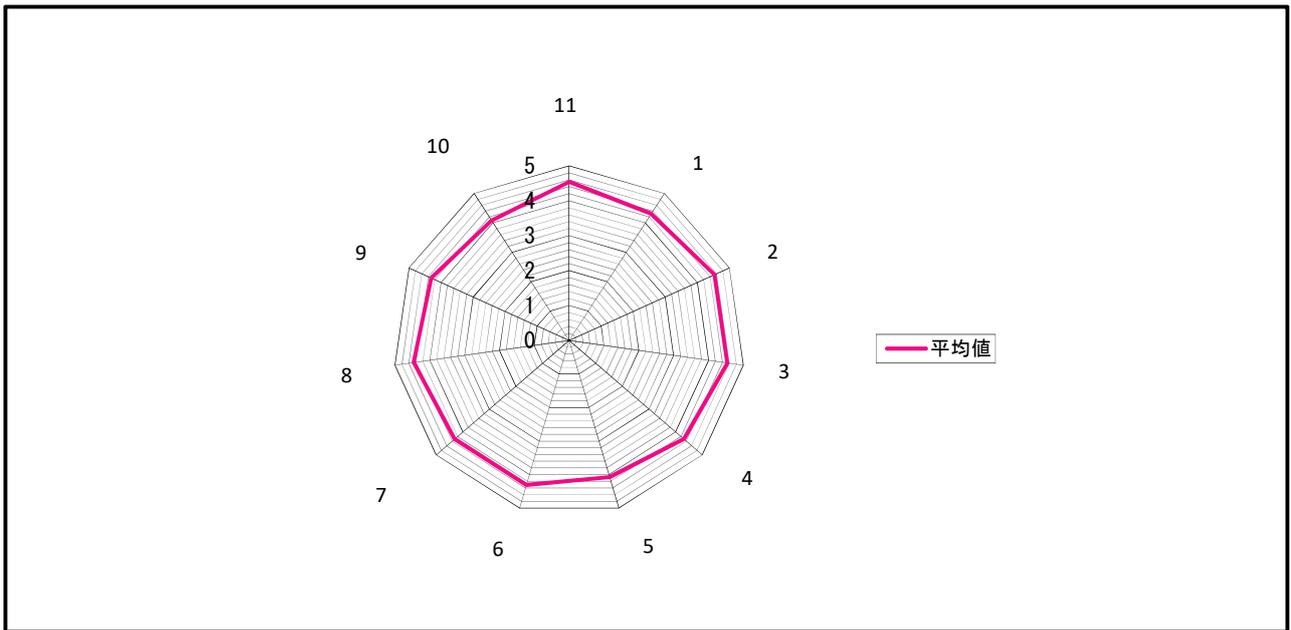
記述による回答では、「授業の見方を学んだ」、「生徒の理解を深めることが重要だと思った」、「しっかり考えた」、「ディスカッション等によりコミュニケーションを取る機会が多かった」ことなどがあげられていた。改善するとよい点として「実際の学校現場で授業するための具体的な活動の実施」との意見があった。授業開発等に係る演習は、後期の授業科目「数学科教育学演習」で重点的に行うことから、本授業科目で学んだことを基盤として「数学科教育学演習」で実践力を高めるように、次年度以降最初の授業で説明したい。

資料の提示方法、板書の構成方法、成績評価についての説明方法等について、工夫を加える。

結果報告書

授業科目名 数学科教材開発研究
 評価実施日 平成29年7月20日
 担当教員名 佐伯 昭彦 回答者数 13 人

質 問 項 目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	6	5	2			4.3
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	9	2	2			4.5
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	9	2	2			4.5
	(4)授業では、シラスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	6	5	2			4.3
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	4	6	3			4.1
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	7	4	1	1		4.3
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	6	5	2			4.3
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	7	5	1			4.5
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	7	3	3			4.3
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	5	2	1		4.1
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	9	2	2			4.5



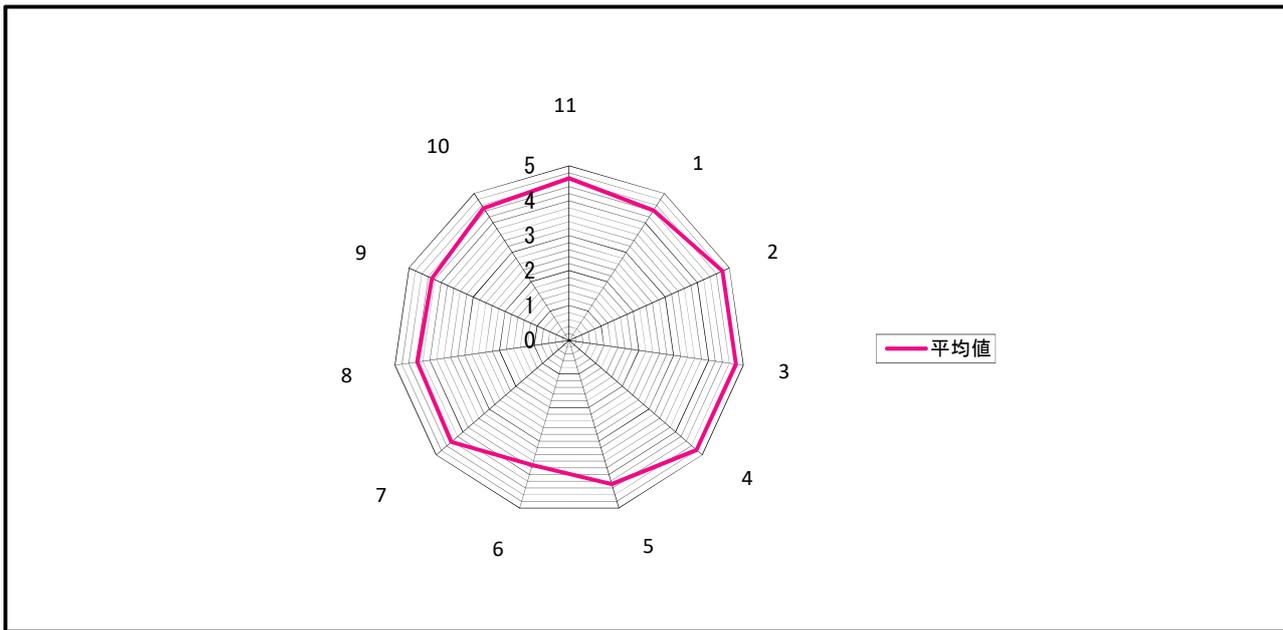
教員のコメント

本授業では、数学教育におけるICT活用について実際の教材を体験すること、数学授業を設計するために有用な理論を学生自身が調べ発表する活動を通して、教材開発に関わる資質・能力を高めることを目的として行った。その結果、総合評価が4.5であり、かつ、全ての項目が4.0以上の評価を得ることができた。この結果から、本授業の目的は概ね達成できたと考えられる。本授業は、ICT活用や模擬授業を行うアクティブラーニング型授業を行っており、グループ活動や学生の意見を発言する機会が多かったことが、好意的な評価を得た要因であると考えられる。しかし、活動が多いため理論的な説明を十分にすることが出来なかったため、「理論的な話をもっとしてほしかった」といった意見があった。理論と実践のバランスをどのように授業に反映するかが今後の課題となった。

結果報告書

授業科目名 教科内容構成(数学科)
 評価実施日 平成29年7月18日
 担当教員名 宮口 智成,松岡 隆,平野 康之,成川 公昭 回答者数 14 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	7	6	1			4.4
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	11	3				4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	11	3				4.8
	(4)授業では、シラスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	12	1	1			4.8
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	6	6	2			4.3
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	3	4	7			3.7
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	7	6	1			4.4
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	6	7	1			4.4
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	6	6	2			4.3
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	7	7				4.5
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	11	2		1		4.6



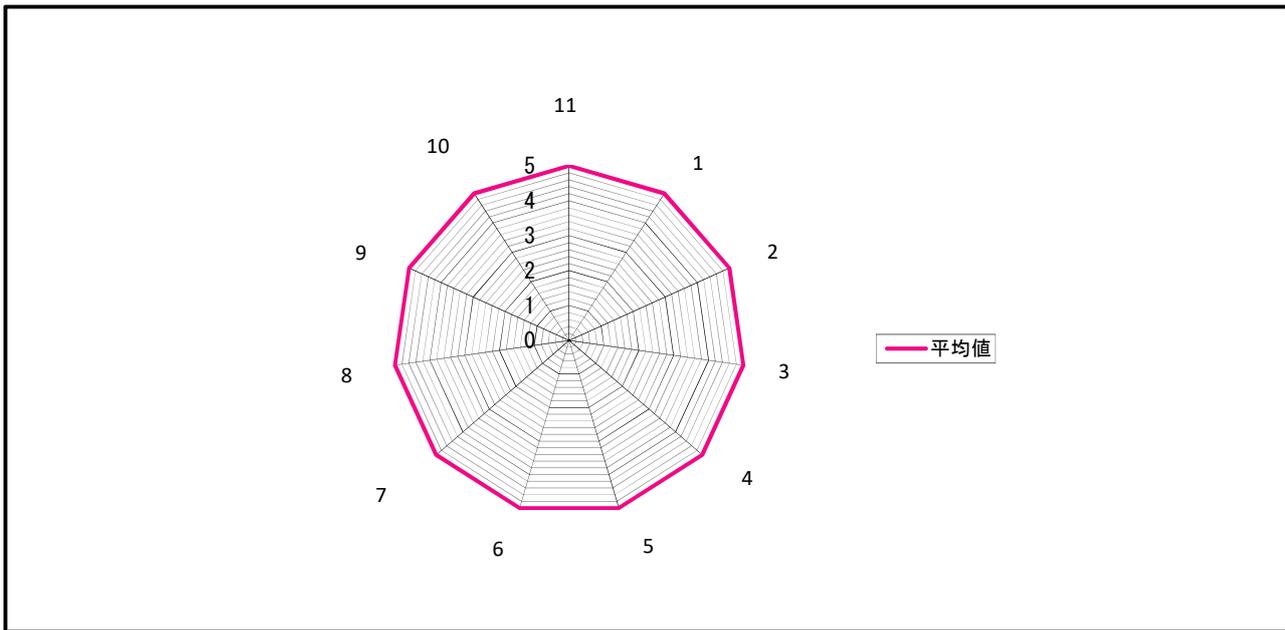
教員のコメント

全ての項目について良い評価が得られている。しかし、「授業の進む速さは、適切であった」の項目についてのみ平均値が 3.7 であり、他の項目より相対的に低い評価となっている。これは、授業時間内に模擬授業の授業案を完成させることができなかったことによると考えられる。次年度は討論の時間をより長くする工夫が必要である。

結果報告書

授業科目名 物理学特論 I
 評価実施日 平成29年7月27日
 担当教員名 本田 亮 回答者数 1 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	1					5.0
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1					5.0
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	1					5.0
	(4) 授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	1					5.0
教員の授業の進め方について	(5) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	1					5.0
	(6) 授業の進む速さは、適切であった。	1					5.0
	(7) 受講生に分かりやすく説明した。	1					5.0
	(8) 教科書や配布された資料は、適切であった。	1					5.0
	(9) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	1					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(10) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1					5.0
総合評価	(11) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	1					5.0



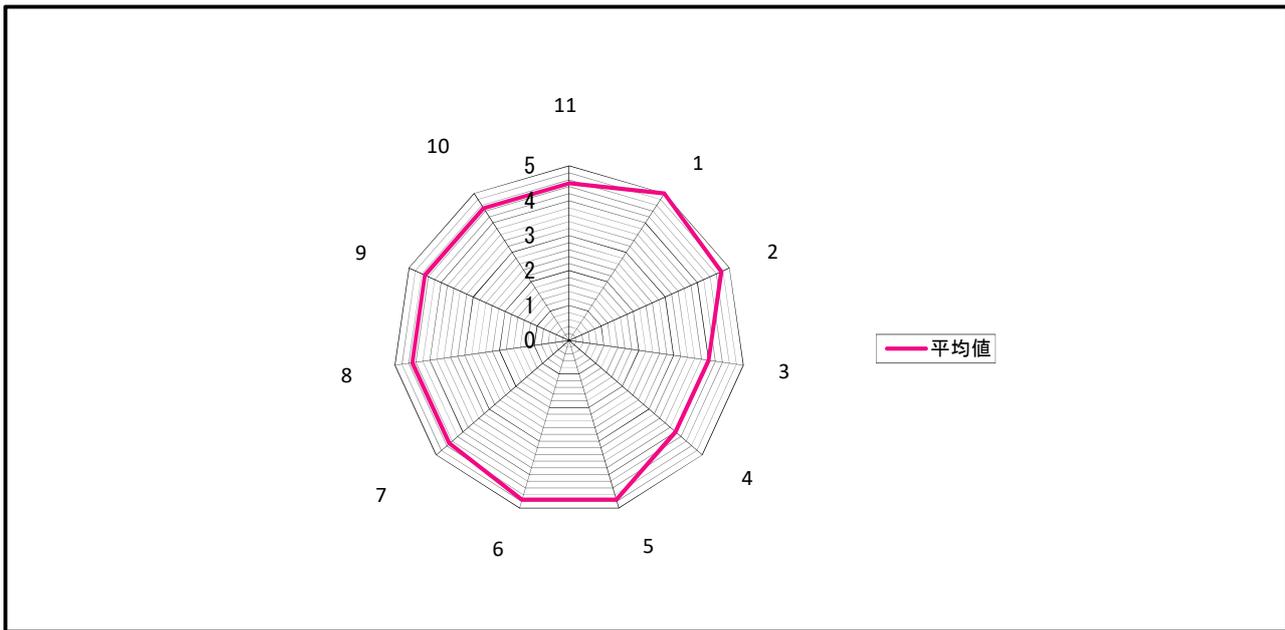
教員のコメント

受講生が1人という理由で、受講生の希望するトピックスを授業で取り上げることができた。受講生に予習と授業中での説明を課したが、それによく対処した。

結果報告書

授業科目名 環境化学特論
 評価実施日 平成29年7月25日
 担当教員名 胸組 虎胤 回答者数 4 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	4					5.0
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3	1				4.8
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	1	2	1			4.0
	(4) 授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	1	2	1			4.0
教員の授業の進め方について	(5) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	3	1				4.8
	(6) 授業の進む速さは、適切であった。	3	1				4.8
	(7) 受講生に分かりやすく説明した。	2	2				4.5
	(8) 教科書や配布された資料は、適切であった。	2	2				4.5
	(9) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3		1			4.5
あなたの授業への取り組みについて	(10) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3		1			4.5
総合評価	(11) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2	2				4.5



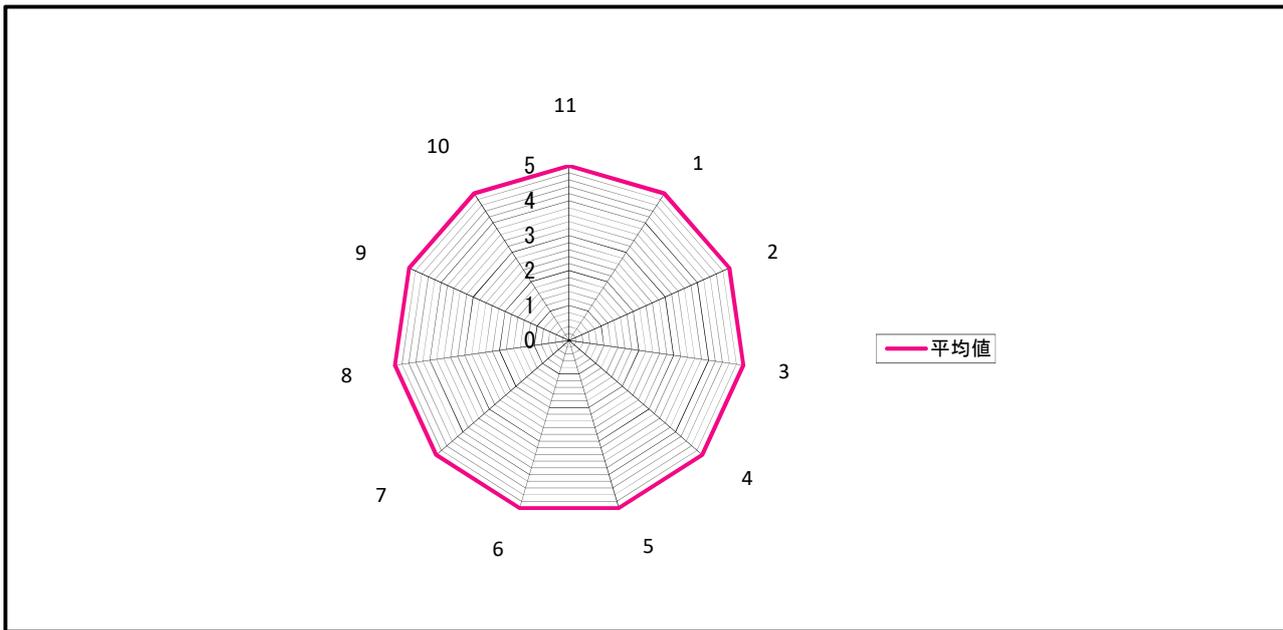
教員のコメント

本年度の評価は実践力に結びつという評価は得られなが、この科目は実践力の育成を直接目指していない。その基礎となる知識と基本的な考え方を身に付けることが目的である。主体的な学びに結びつくかの評価は必ずしも高いものではなかったので、次年度はその点を工夫したいと考える。

結果報告書

授業科目名 地質学・古生物学特論
 評価実施日 平成29年7月12日
 担当教員名 香西 武, 村田 守, 足立 奈津子 回答者数 2 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2					5.0
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2					5.0
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	2					5.0
	(4) 授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	2					5.0
教員の授業の進め方について	(5) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	2					5.0
	(6) 授業の進む速さは、適切であった。	2					5.0
	(7) 受講生に分かりやすく説明した。	2					5.0
	(8) 教科書や配布された資料は、適切であった。	2					5.0
	(9) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(10) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2					5.0
総合評価	(11) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2					5.0



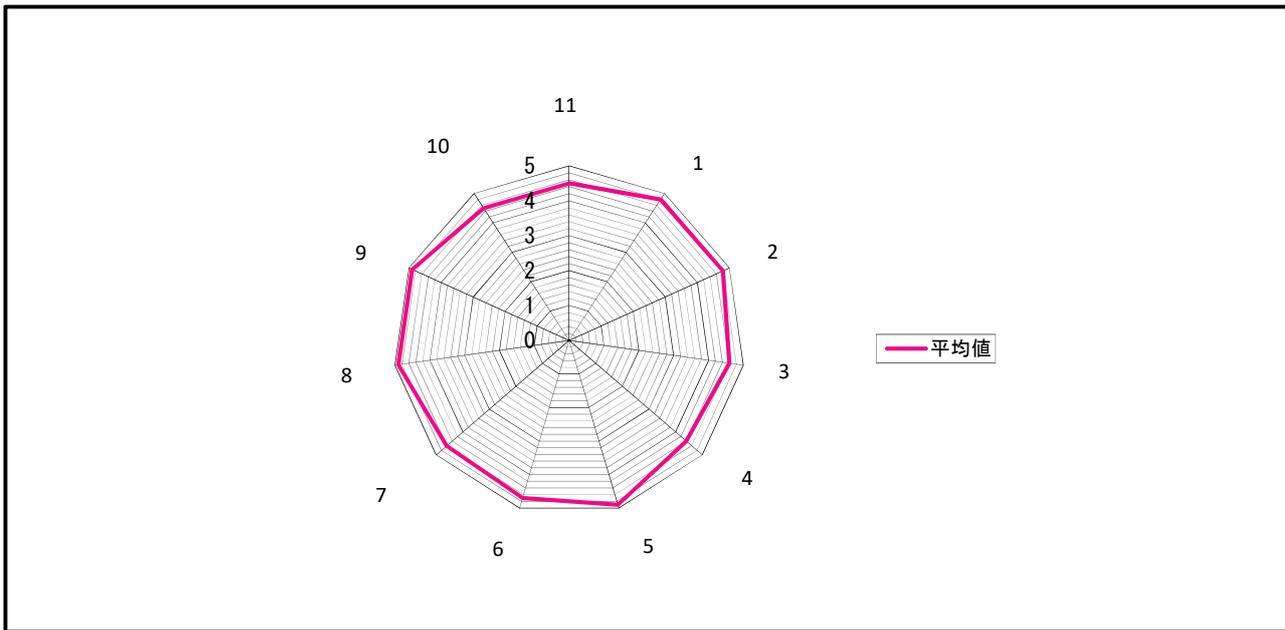
教員のコメント

受講生が少人数であったため、学生のニーズに対応する授業を構成することができた。

結果報告書

授業科目名 声楽発声法
 評価実施日 平成29年7月25日
 担当教員名 頃安 利秀 回答者数 10 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	9		1			4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	8	2				4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	8	1		1		4.6
	(4)授業では、シラスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	6	3		1		4.4
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	9	1				4.9
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	8	1	1			4.7
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	8	1		1		4.6
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	9	1				4.9
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	9	1				4.9
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	8		1	1		4.5
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	7	2		1		4.5



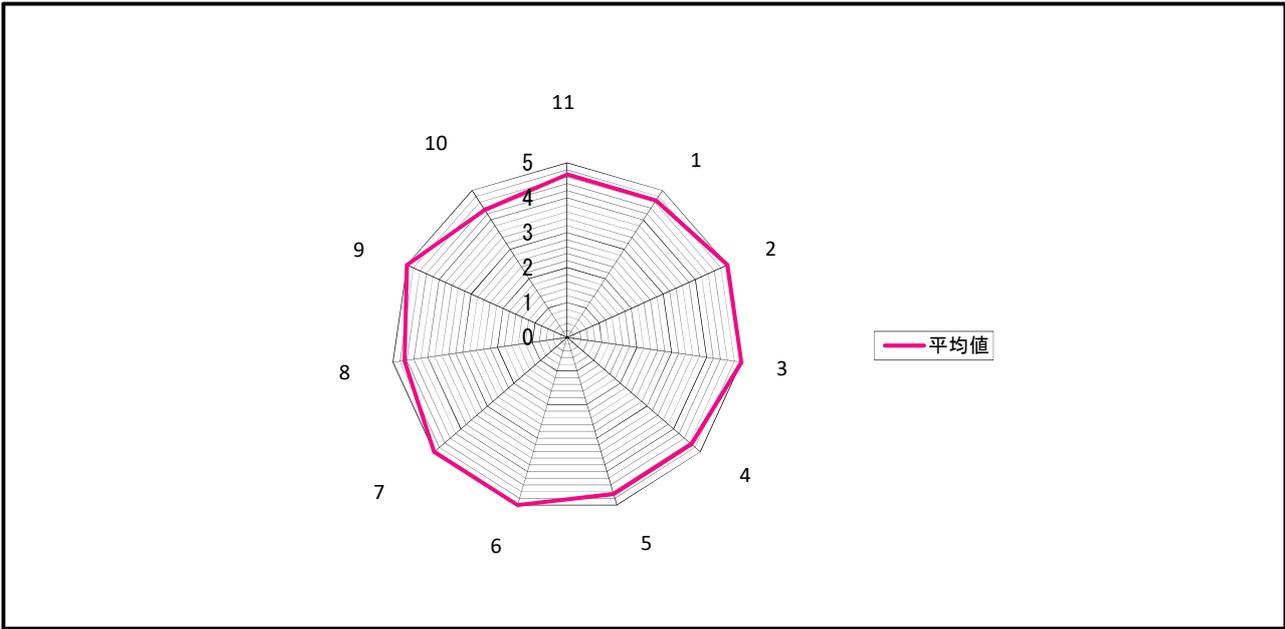
教員のコメント

概ね評価は5か4であるが、1人の受講生の評価だけ他の受講生とは大きく異なっていたので、全体としての評価が少し低くなったようである。教員は受講生を選ぶことができないが、考え方の相違を埋めていく努力は常に行っていく必要があると感じた。また受講生側から質問してもらえれば、それに答える用意はいつでもあるが、受講生からはほとんど質問されなかった。そのことを除けば、平均して4.8以上の評価がされている。(4)のアクティブ・ラーニングの項目に関しては、他の項目よりやや低い評価になっているが、音楽実技に係る授業では、つねに身体を使ったコミュニケーションがなされており、身体的アクティブ・ラーニングともいえるので、必ずしも言語的なものだけをアクティブ・ラーニングと考える必要はにように思う。

結果報告書

授業科目名 ピアノ演奏基礎演習
 評価実施日 平成29年7月27日
 担当教員名 森 正, 田中 巳穂 回答者数 3 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2	1				4.7
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3					5.0
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	3					5.0
	(4) 授業では、シラスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	2	1				4.7
教員の授業の進め方について	(5) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	2	1				4.7
	(6) 授業の進む速さは、適切であった。	3					5.0
	(7) 受講生に分かりやすく説明した。	3					5.0
	(8) 教科書や配布された資料は、適切であった。	2	1				4.7
	(9) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(10) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	2				4.3
総合評価	(11) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2	1				4.7



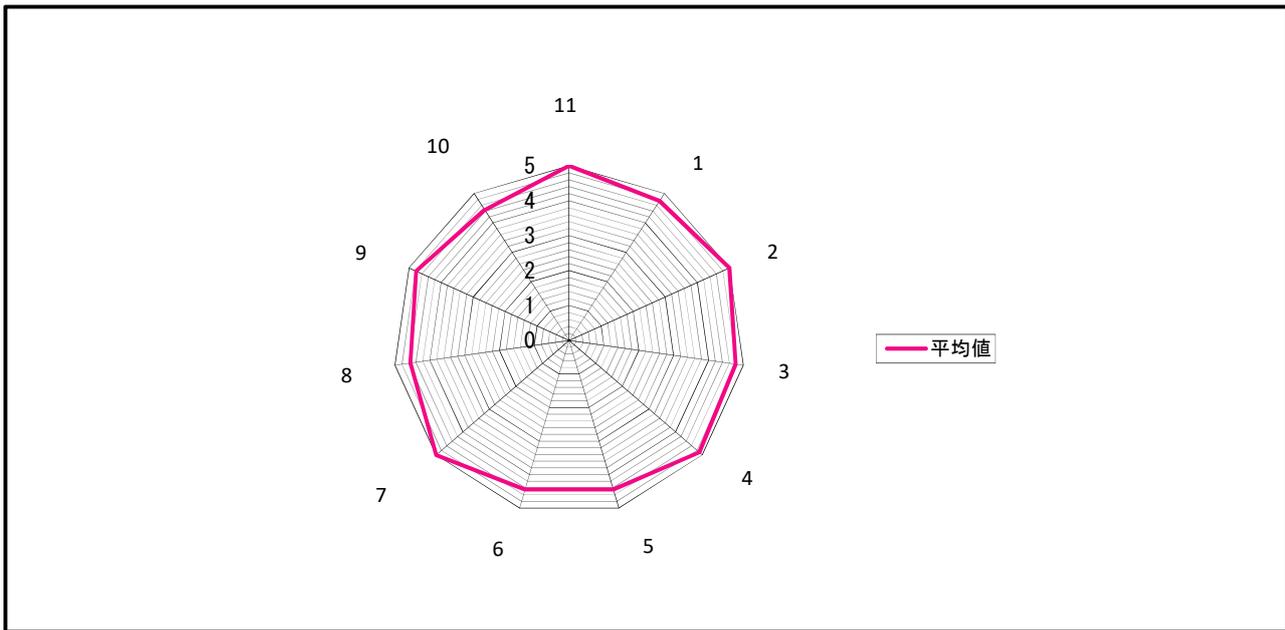
教員のコメント

今年度の履修者は、音楽コースに所属しピアノを専門とするもの、音楽コースに所属し他の分野を専門とするもの、そして音楽コース以外の学生の3人ということで、例年以上にこれまでの学習経験には差がある状態であった。しかし、教員がそれぞれの実情に合わせた課題を選択したこと、その課題が学生本人にも興味を持つものであったことなどから、今回のように高い評価を得ることができたと考えている。このような多様な学生の履修は、この数年増加してきているが、特に音楽コース以外の学生の履修については、学生が授業に対して何を求めているのか、現場での音楽の授業の際のピアノ伴奏に密接に係る演奏上のスキルを身に付けたいのか、音楽的な体験を増やしたいのか、しっかりと把握することが学生のモチベーションを高める上で必要であると強く感じた。

結果報告書

授業科目名 学校教材ピアノ伴奏法
 評価実施日 平成29年7月18日
 担当教員名 山田 啓明 回答者数 9 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	6	2				4.8
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	9					5.0
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	7	2				4.8
	(4) 授業では、シラスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	8	1				4.9
教員の授業の進め方について	(5) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	5	3	1			4.4
	(6) 授業の進む速さは、適切であった。	5	3	1			4.4
	(7) 受講生に分かりやすく説明した。	9					5.0
	(8) 教科書や配布された資料は、適切であった。	6	2	1			4.6
	(9) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	7	2				4.8
あなたの授業への取り組みについて	(10) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	5				4.4
総合評価	(11) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	9					5.0



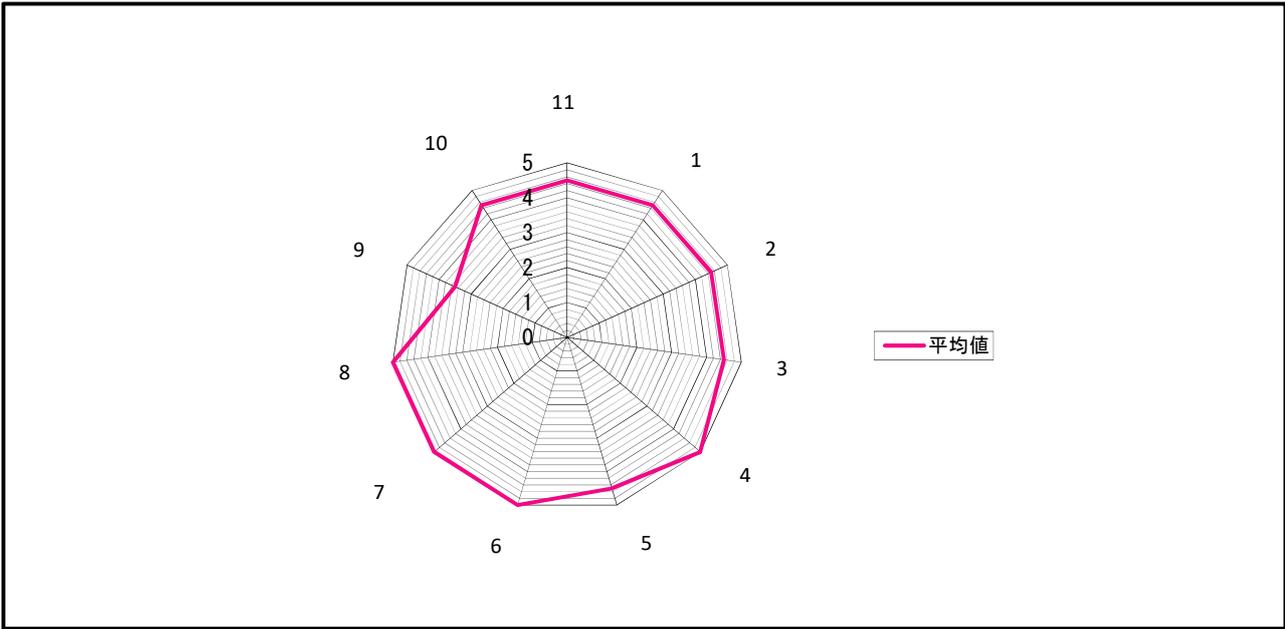
教員のコメント

受講生それぞれのレベルや目的に合った授業を展開できたと思う。もしかすると、もう少し教材研究的な視点を入れた展開もありえたのかもしれない。

結果報告書

授業科目名 管弦打楽器総合演習
 評価実施日 平成29年7月27日
 担当教員名 山根 秀憲 回答者数 2 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	1	1				4.5
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1	1				4.5
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	1	1				4.5
	(4) 授業では、シラバスに示されたアクティブラーニングが、実施されていた。	2					5.0
教員の授業の進め方について	(5) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	1	1				4.5
	(6) 授業の進む速さは、適切であった。	2					5.0
	(7) 受講生に分かりやすく説明した。	2					5.0
	(8) 教科書や配布された資料は、適切であった。	2					5.0
	(9) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。		1	1			3.5
あなたの授業への取り組みについて	(10) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	1				4.5
総合評価	(11) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	1	1				4.5



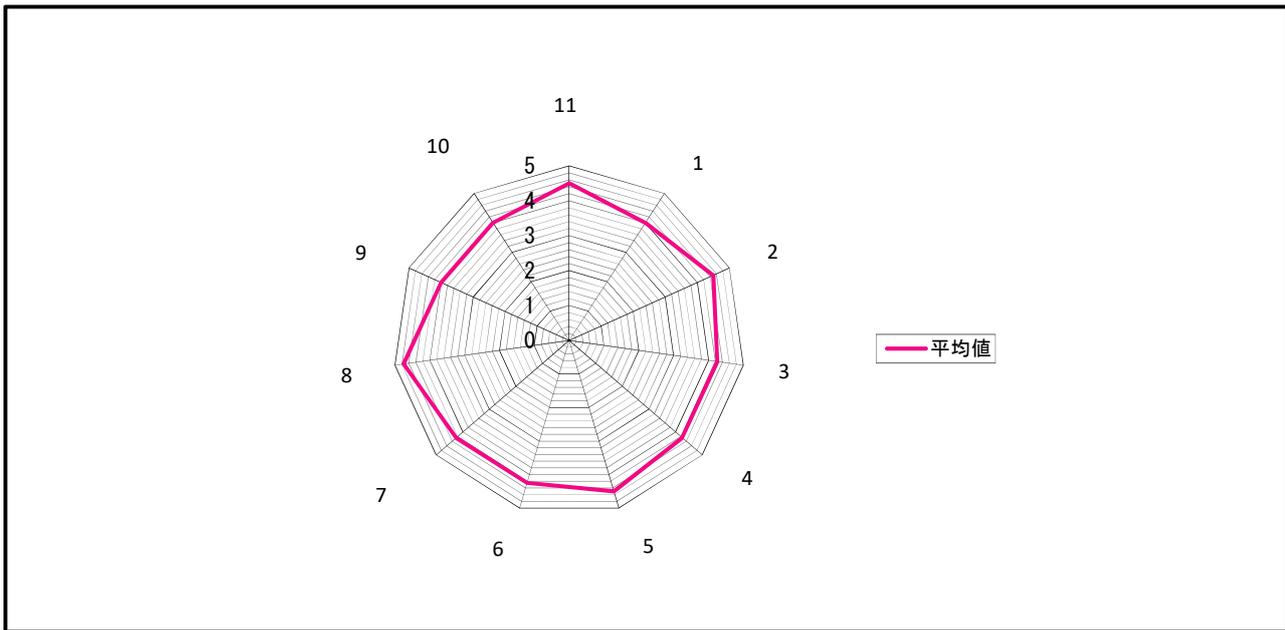
教員のコメント

今年度の受講者は、3名であった。選択した楽器の内訳は、リコーダー1、フルート1、トロンボーン1であった。リコーダーの受講者は、採用試験との関係から、リコーダーに加えてオーボエの演奏も行った。ある程度学習段階の進んだものであったが、演奏する際、伴奏するピアノの音楽的役割の理解に立つことに課題があったため、その点を重視した。その結果、かなりの改善がみられた。フルートの受講者は、以前から楽器は所有していたものの、集中してそれに取り組む機会を持てなかった。最低でも30分の練習を継続した練習をするよう指導したが、その成果を十分にだすには至らなかった。トロンボーンを受講者は金管楽器の初心者であった。トロンボーンの低音域と高音域のアンブシュアの調整が十分にはできなかった。発音前に出そうとする音をまずイメージすることに重点を置いて指導した。この受講者は、鍵盤楽器を得意としていたが、管楽器では、体全体で音を出そうとすることを意識する重要性を伝えた。受講者それぞれの学習段階に応じた曲を試験で演奏したが、受講生が互いにピアノ伴奏を担当する。その準備の段階で、ピアノを弾く人は、相手の準備状況や、呼吸、フレーズ感などを感じ取りながら共に音楽を作る、という意識を持つことを大切に指導した。

結果報告書

授業科目名 管弦打楽器演奏基礎
 評価実施日 平成29年7月24日
 担当教員名 山根 秀憲 回答者数 4 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	1	2	1			4.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2	2				4.5
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1	3				4.3
	(4)授業では、シラスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	1	3				4.3
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2	2				4.5
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	1	3				4.3
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	1	3				4.3
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	3	1				4.8
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2		2			4.0
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。		4				4.0
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2	2				4.5



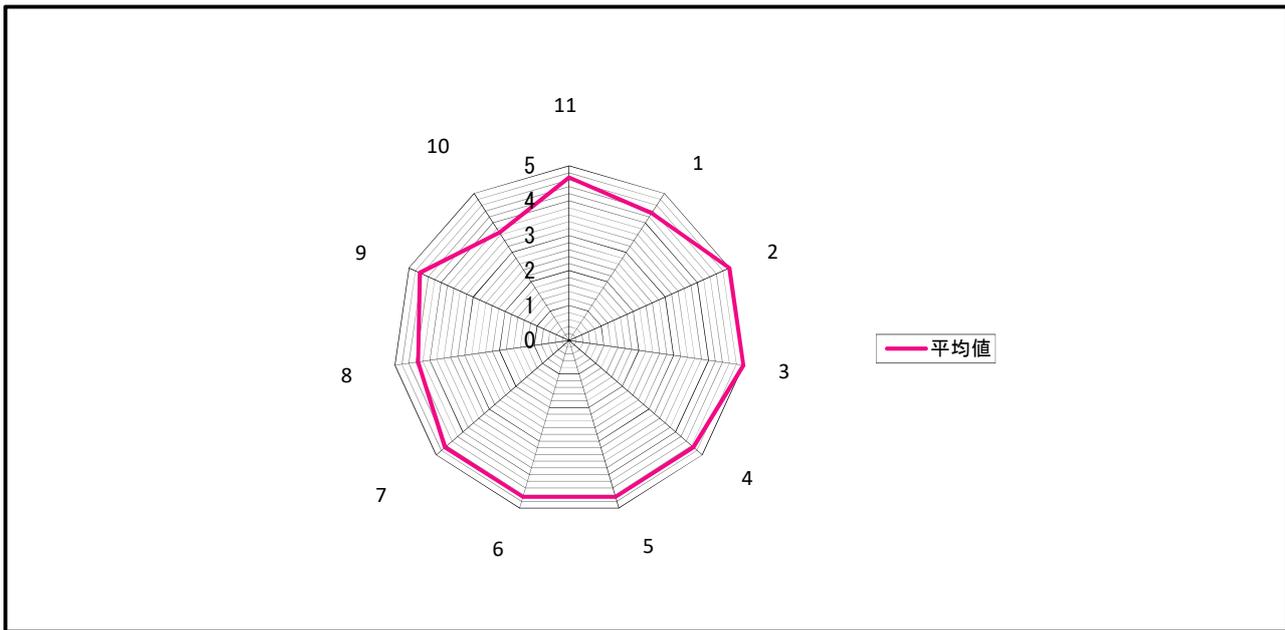
教員のコメント

今年度の受講者は、4名であった。選択した楽器の内訳は、トランペット1、オーボエ1、篠笛2であった。トランペットの受講者は、ある程度学習段階の進んだものであったが、演奏する際、ピアノ奏者とのコミュニケーションをとることへの配慮に課題があったため、その点を重視した。その結果、かなりの改善がみられた。オーボエの受講者は、2枚リード楽器の経験者であり、基本的な事項の理解は十分にできていた。多様な教材により、演奏の向上を目指した。あとは、今後継続して学習を進めることのできる環境を努力して見出すことであろう。篠笛の2人は、ともに、初心者であった。ただ音が出せるというレベルではなく「竹笛」の趣を醸し出せるようにしたい。受講者それぞれの立場で努力したと思われるが、授業担当者の立場からすれば、毎週の授業のための準備をする時間を見出すよう勤めて欲しい。また、受講者が互いの楽器の特徴を知り、アドヴァイスし合うような関係を作れるよう指導したい。

結果報告書

授業科目名 指揮法基礎演習
 評価実施日 平成29年7月24日
 担当教員名 山田 啓明 回答者数 3 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	1	2				4.3
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3					5.0
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	3					5.0
	(4) 授業では、シラスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	2	1				4.7
教員の授業の進め方について	(5) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	2	1				4.7
	(6) 授業の進む速さは、適切であった。	2	1				4.7
	(7) 受講生に分かりやすく説明した。	2	1				4.7
	(8) 教科書や配布された資料は、適切であった。	1	2				4.3
	(9) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2	1				4.7
あなたの授業への取り組みについて	(10) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。		2	1			3.7
総合評価	(11) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2	1				4.7



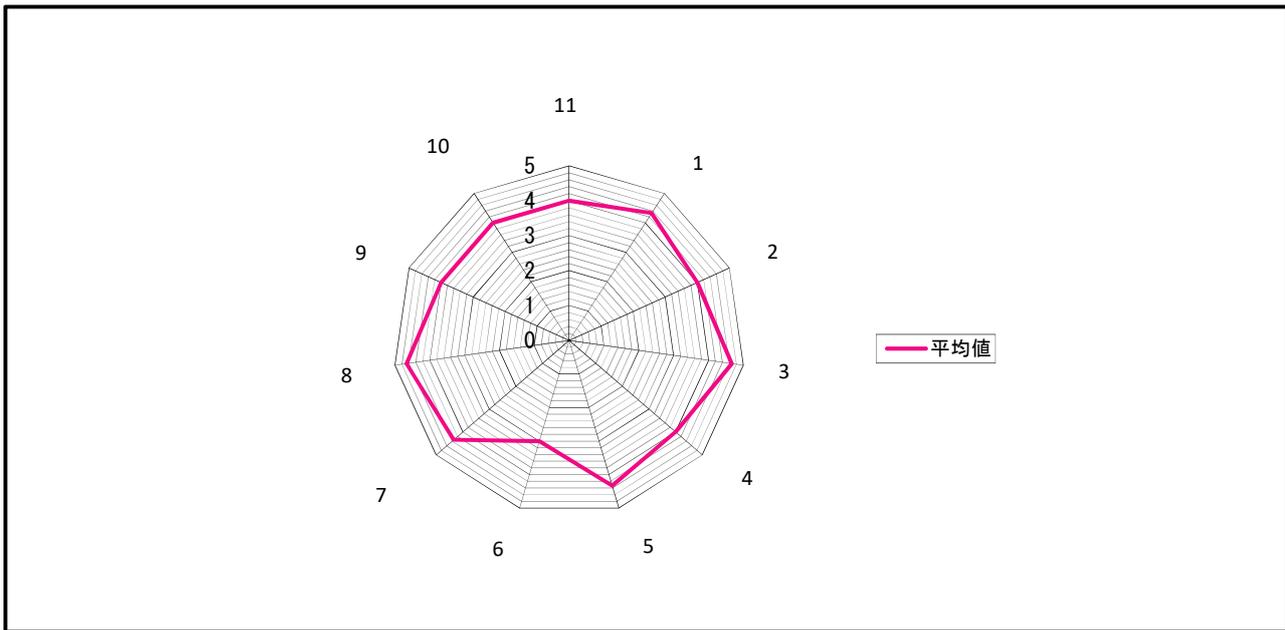
教員のコメント

実を言えば、ここ数年、ピアノを弾ける学生があまりにも少ないため、管弦楽曲のピアノ連弾版を使うなどした、従来の授業形態が取れていない。したがって、授業内容は学部の指揮法の授業に毛が生えた程度のものにしかになっていないが、そもそも学部できちんと指揮法の授業を取っていない学生が大多数なので、この程度の授業内容で満足していると思われる。もう少し別の視点からのアプローチを模索中である。

結果報告書

授業科目名 楽曲分析研究
 評価実施日 平成29年7月27日
 担当教員名 松岡 みち子 回答者数 3 人

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	1	2					4.3
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1	1	1				4.0
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	2	1					4.7
	(4) 授業では、シラスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	1	1	1				4.0
教員の授業の進め方について	(5) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	1	2					4.3
	(6) 授業の進む速さは、適切であった。		1	1	1			3.0
	(7) 受講生に分かりやすく説明した。	1	2					4.3
	(8) 教科書や配布された資料は、適切であった。	2	1					4.7
	(9) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	1	1	1				4.0
あなたの授業への取り組みについて	(10) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。		3					4.0
総合評価	(11) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。		3					4.0



教員のコメント

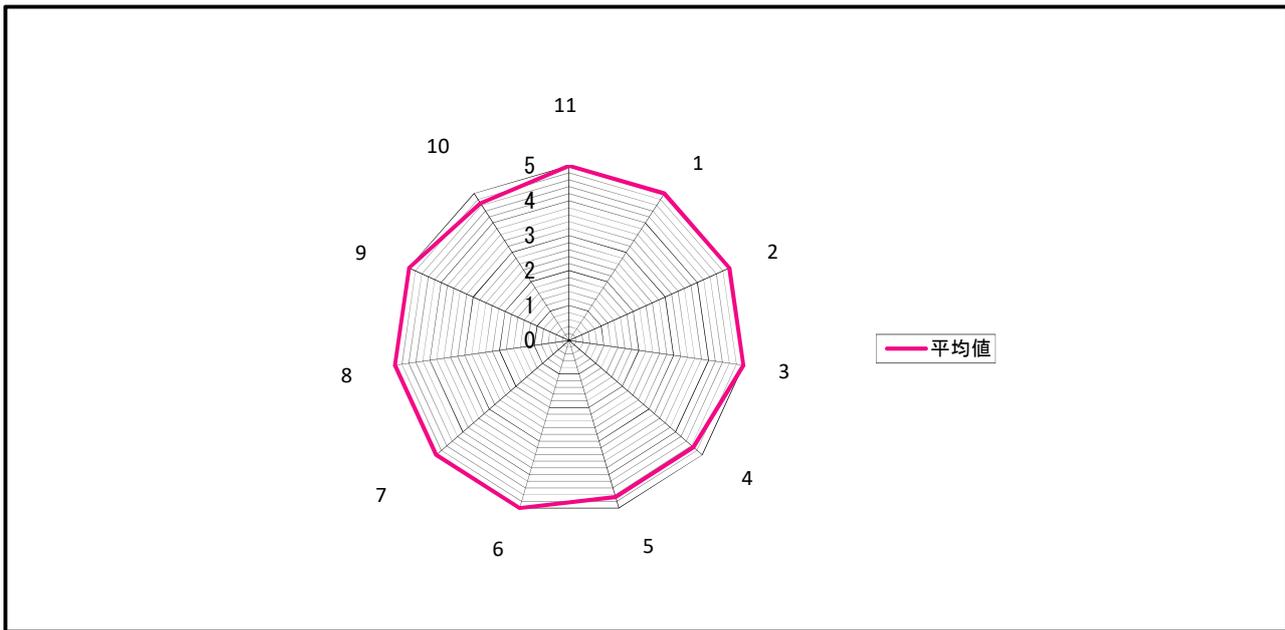
今年度初めて鳴門教育大学の授業を担当した。前期15コマと限られた時間数の中で、教えたいこと、投げかけたいこと、体験させたいことがたくさんあった。一つ一つを丁寧に体系的に説明する授業展開にはできなかったが、音楽を色々な方向から捉える、様々なアプローチの方法は提示できたのではないと思う。学生たちが私から受け取った刺激を、今度は自身の中で発展、熟成させていってほしいと願っている。



結果報告書

授業科目名 音楽科授業研究
 評価実施日 平成29年7月27日
 担当教員名 小山 英恵 回答者数 3 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3					5.0
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	2	1				4.7
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2	1				4.7
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	3					5.0
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	3					5.0
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	3					5.0
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	1				4.7
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3					5.0

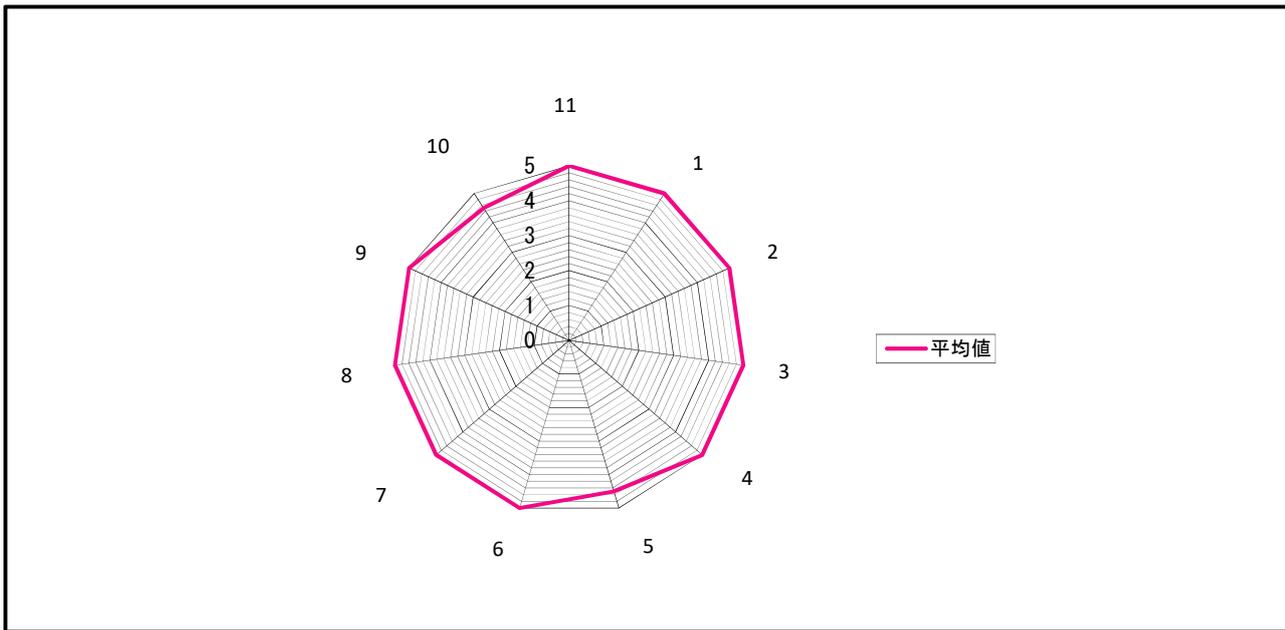


教員のコメント

結果報告書

授業科目名 音楽科授業演習
 評価実施日 平成29年7月25日
 担当教員名 小山 英恵 回答者数 2 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2					5.0
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	2					5.0
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	1	1				4.5
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	2					5.0
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	2					5.0
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	2					5.0
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	1				4.5
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2					5.0

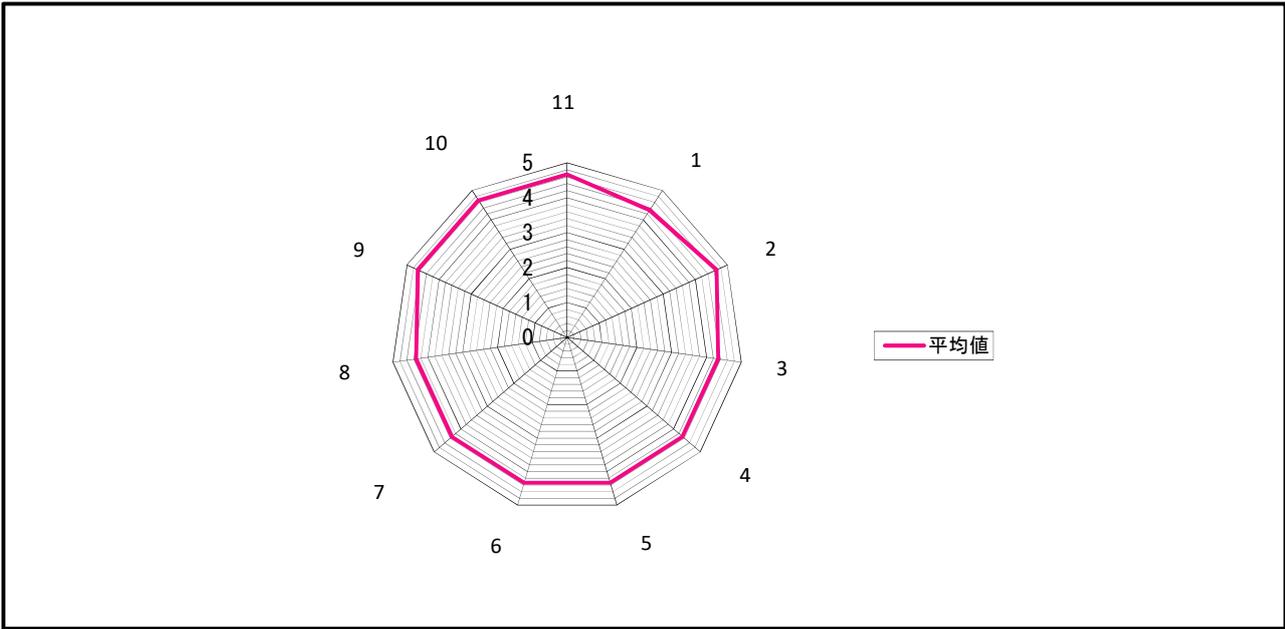


教員のコメント

結果報告書

授業科目名 絵画制作研究
 評価実施日 平成29年7月28日
 担当教員名 鈴木 久人 回答者数 3 人

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	1	2					4.3
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2	1					4.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1	2					4.3
	(4)授業では、シラスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	1	2					4.3
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	1	2					4.3
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	1	2					4.3
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	1	2					4.3
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	1	2					4.3
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2	1					4.7
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	1					4.7
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2	1					4.7



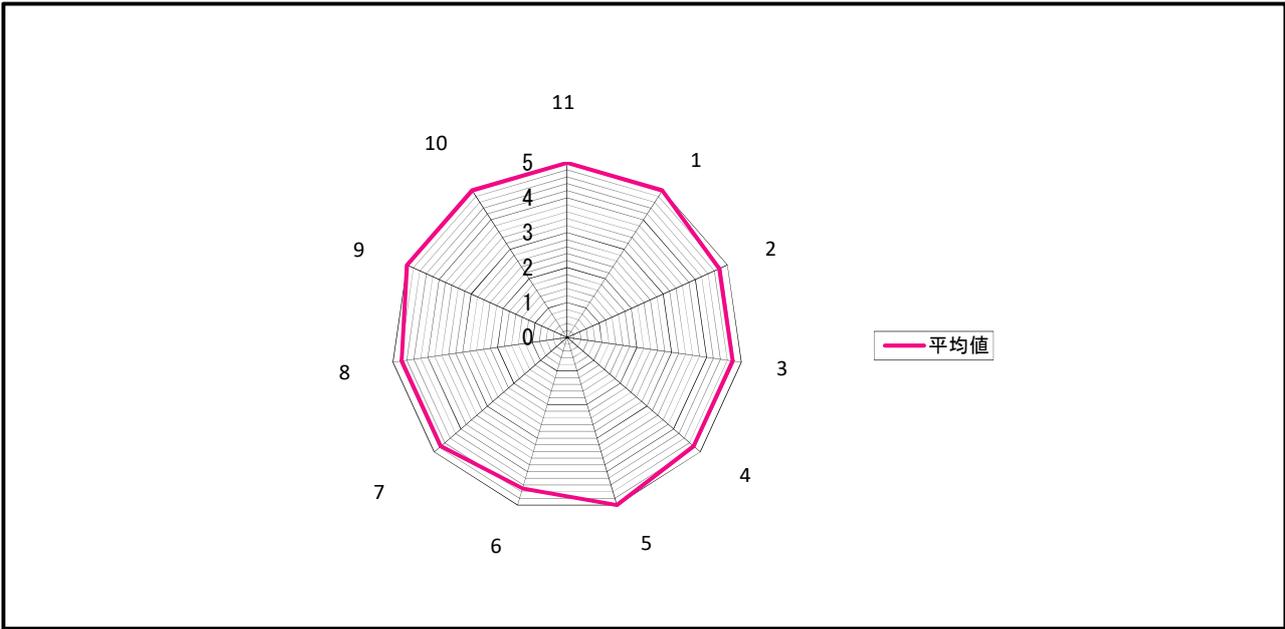
教員のコメント

評価選択の項目は4.3あるいは4.7の平均値であり、「総合評価」の項目も4.7であったことは、この授業について学生は満足しているものと判断する。特定の項目に低い評価がなく、4.3以上の平均値である点も授業について理解があったものと思う。また自由筆記欄も記述自体が少ないが、好意的な筆記がすべての質問への答えとなっている。

結果報告書

授業科目名 石彫制作演習
 評価実施日 平成29年7月28日
 担当教員名 野崎 窮 回答者数 4 人

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	4						5.0
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3	1					4.8
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	3	1					4.8
	(4) 授業では、シラスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	3	1					4.8
教員の授業の進め方について	(5) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	4						5.0
	(6) 授業の進む速さは、適切であった。	2	2					4.5
	(7) 受講生に分かりやすく説明した。	3	1					4.8
	(8) 教科書や配布された資料は、適切であった。	3	1					4.8
	(9) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(10) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4						5.0
総合評価	(11) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	4						5.0



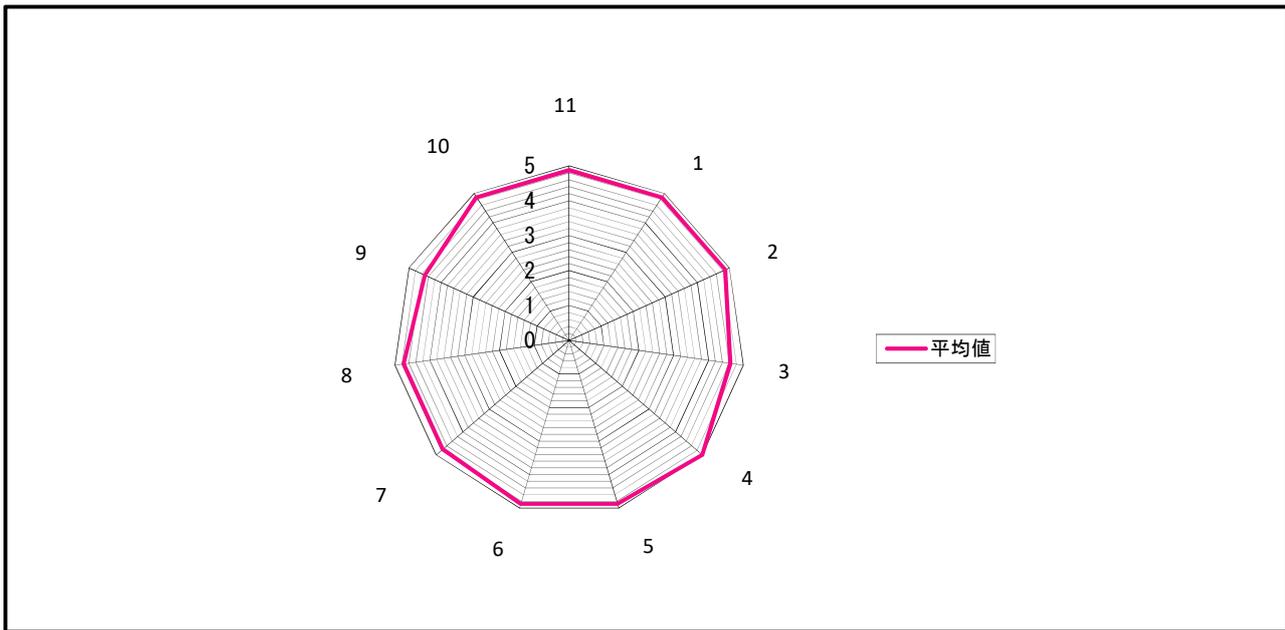
教員のコメント

質問項目(6)が4.5であり、他の項目に比較して悪いことは授業者として当初から覚悟の上であった。授業時間だけで完成できる作品制作でないからである。この事に関しては学生の取り組む姿勢により様々な受け止め方がある。多少の問題があったにしても、大学院の授業であることからやむをえない結果であると考え。その他は4.8以上であり大変良い結果を得たと考える。何より総合評価が5であることは授業者としてありがたい結果であった。

結果報告書

授業科目名 陶芸制作演習
 評価実施日 平成29年7月28日
 担当教員名 栗原 慶 回答者数 8 人

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	7	1					4.9
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	7	1					4.9
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	6	1	1				4.6
	(4)授業では、シラスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	8						5.0
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	7	1					4.9
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	7	1					4.9
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	6	2					4.8
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	7		1				4.8
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	5	2	1				4.5
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	7	1					4.9
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	7	1					4.9



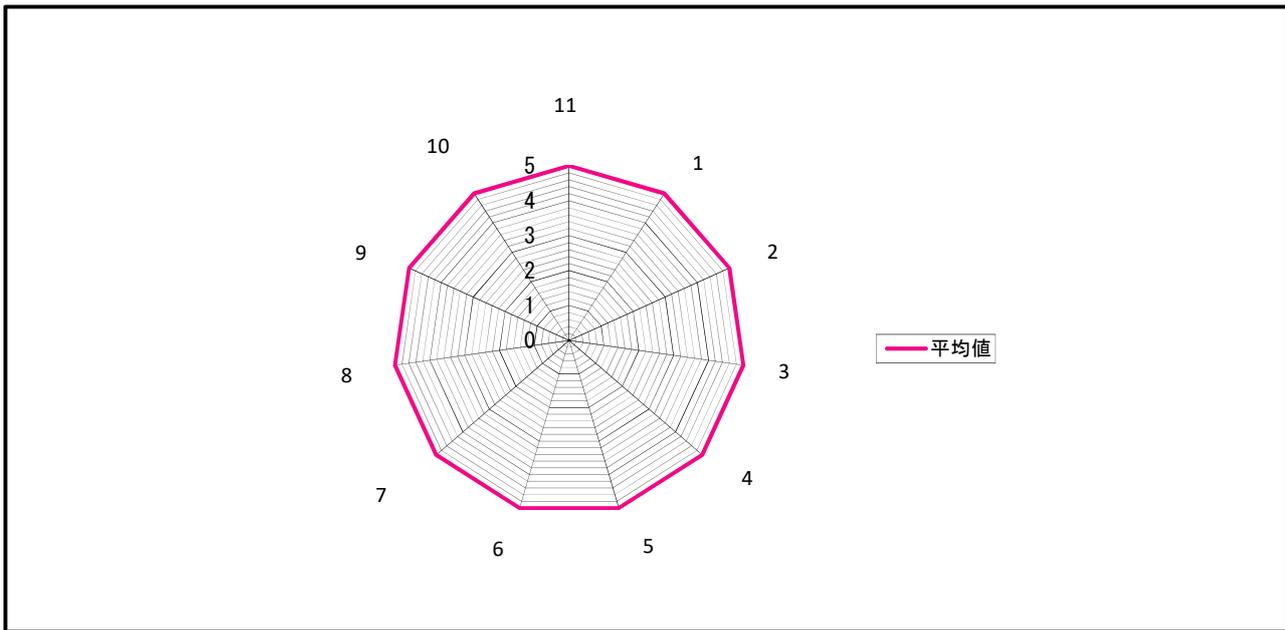
教員のコメント

総合評価が4.9なので、受講者にとって有意義な授業であったと受け止めたい。アンケート裏面の具体的な感想からも否定的な意見はなかった。陶芸制作自体に専念する傾向が生じるので、それが肯定的な意見や評価になるようだ。(3)(8)(9)の項目で3の評価がある点については、もう少し専門的な内容と授業実践の内容を授業回ごとに区分するなどし対応したい。

結果報告書

授業科目名 美術科授業研究
 評価実施日 平成29年8月1日
 担当教員名 山木 朝彦 回答者数 2 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2					5.0
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	2					5.0
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2					5.0
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	2					5.0
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	2					5.0
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	2					5.0
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2					5.0
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2					5.0

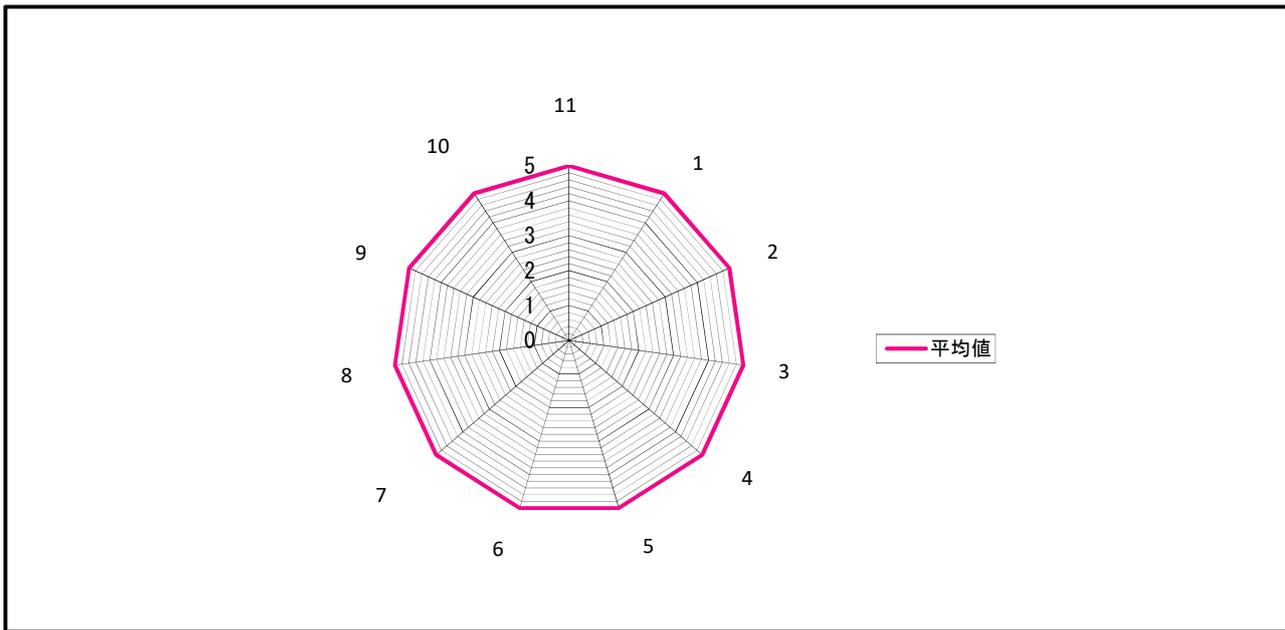


教員のコメント

結果報告書

授業科目名 美術科教材開発研究
 評価実施日 平成29年7月27日
 担当教員名 山田 芳明 回答者数 3 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3					5.0
	(4)授業では、シラスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	3					5.0
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	3					5.0
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	3					5.0
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	3					5.0
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	3					5.0
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3					5.0
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3					5.0

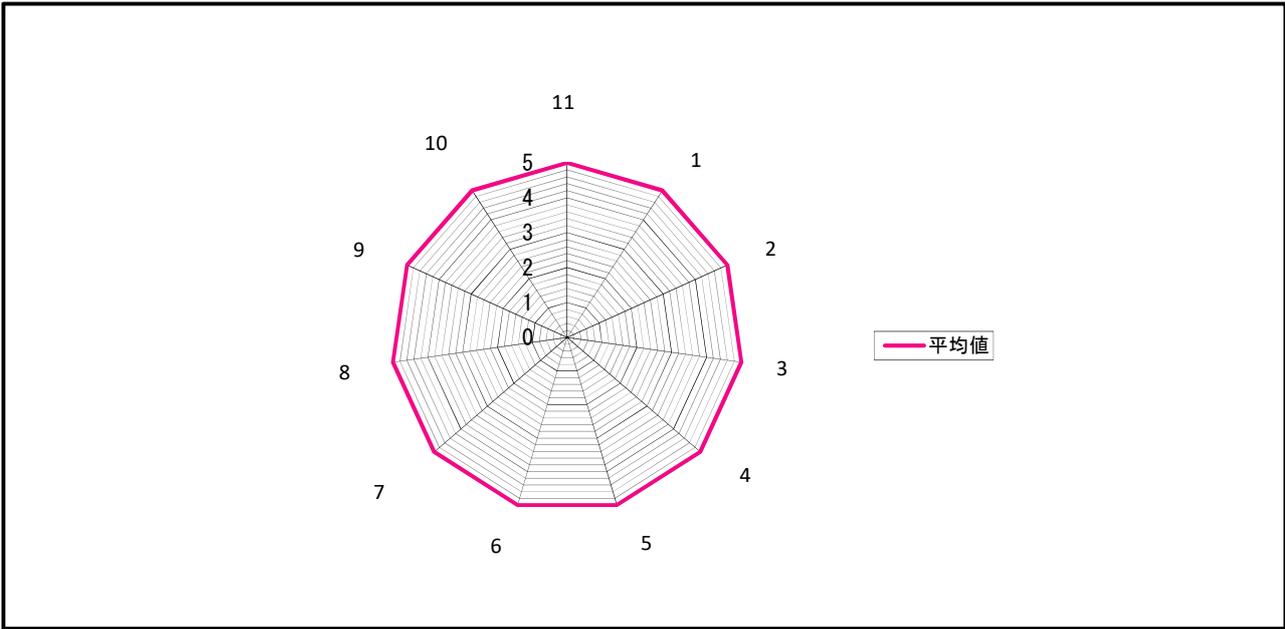


教員のコメント

結果報告書

授業科目名 美術科教育研究法演習
 評価実施日 平成29年8月1日
 担当教員名 山木 朝彦 回答者数 1 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	1					5.0
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1					5.0
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	1					5.0
	(4) 授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	1					5.0
教員の授業の進め方について	(5) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	1					5.0
	(6) 授業の進む速さは、適切であった。	1					5.0
	(7) 受講生に分かりやすく説明した。	1					5.0
	(8) 教科書や配布された資料は、適切であった。	1					5.0
	(9) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	1					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(10) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1					5.0
総合評価	(11) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	1					5.0



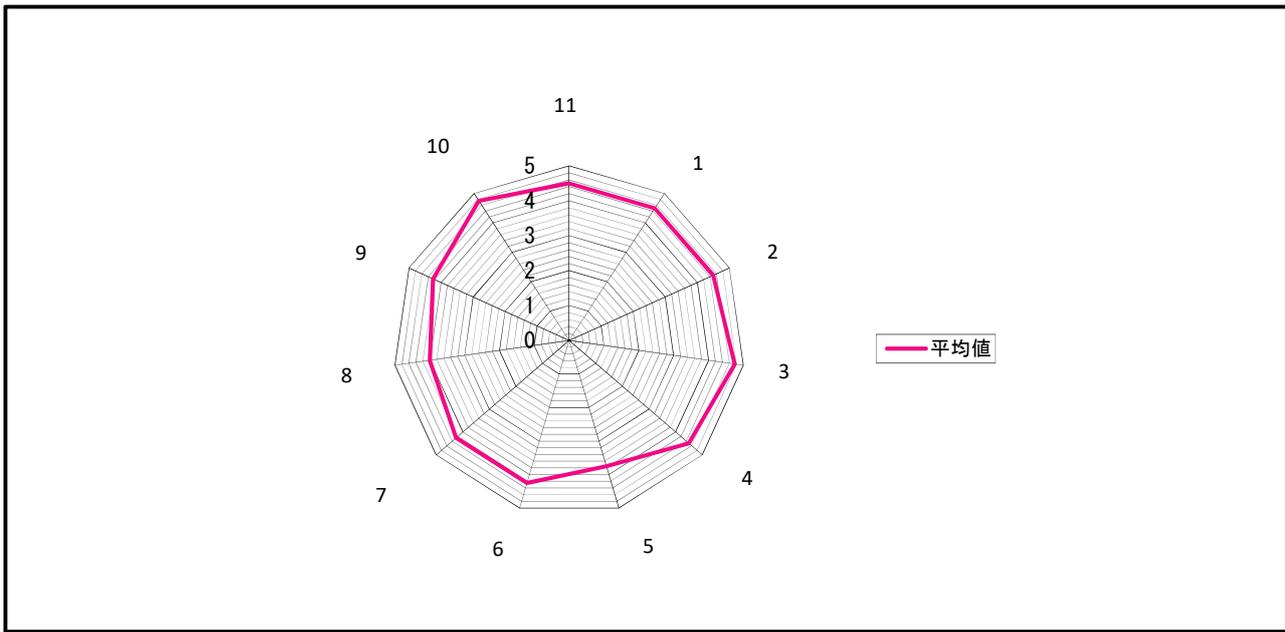
教員のコメント

結果報告書

授業科目名 教科内容構成(美術科)
 評価実施日 平成29年7月24日
 担当教員名 山田 芳明,小川 勝,鈴木 久人,野崎 窮,山本 朝彦,栗原 慶,内藤 隆

回答者数 4 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2	2				4.5
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2	2				4.5
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3	1				4.8
	(4)授業では、シラスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	3		1			4.5
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	1	1	2			3.8
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	1	3				4.3
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	1	3				4.3
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	1	2	1			4.0
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	1	3				4.3
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	1				4.8
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2	2				4.5

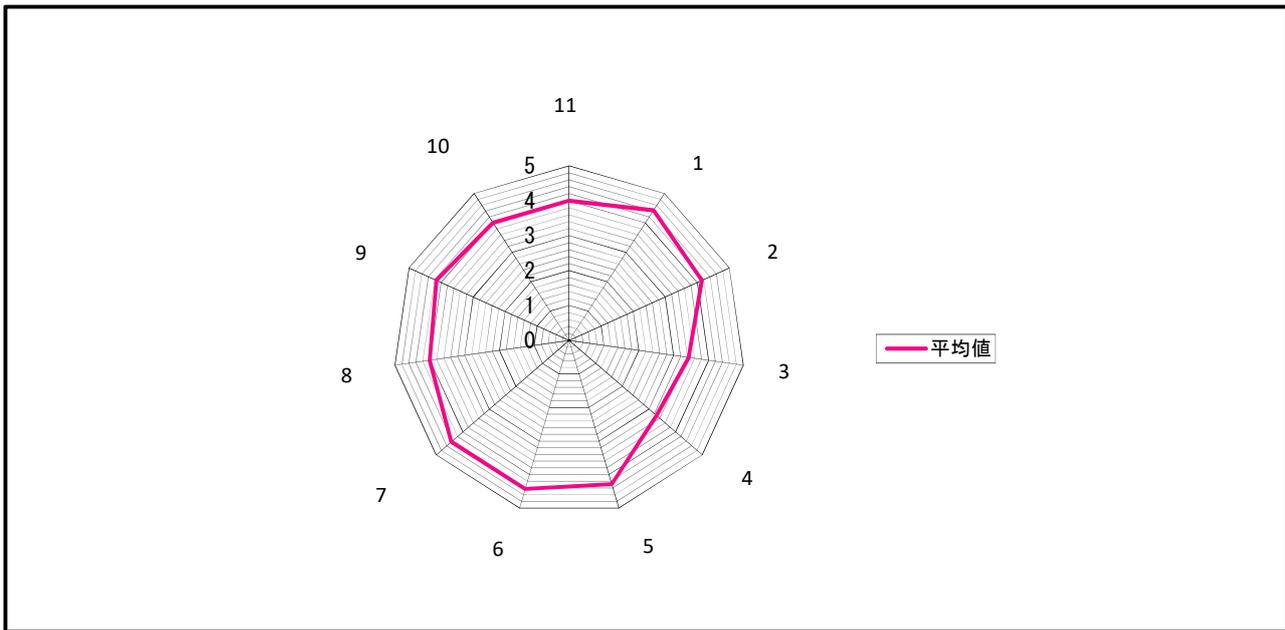


教員のコメント

結果報告書

授業科目名 スポーツ社会学研究
 評価実施日 平成29年7月28日
 担当教員名 木原 資裕 回答者数 7 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	4	2	1			4.4
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3	3		1		4.1
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2	2	1	1	1	3.4
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	2	1	2	1	1	3.3
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	3	3	1			4.3
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	4	2	1			4.4
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	4	2	1			4.4
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	3	2	1	1		4.0
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3	3		1		4.1
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	2	1	1		4.0
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	4		2	1		4.0

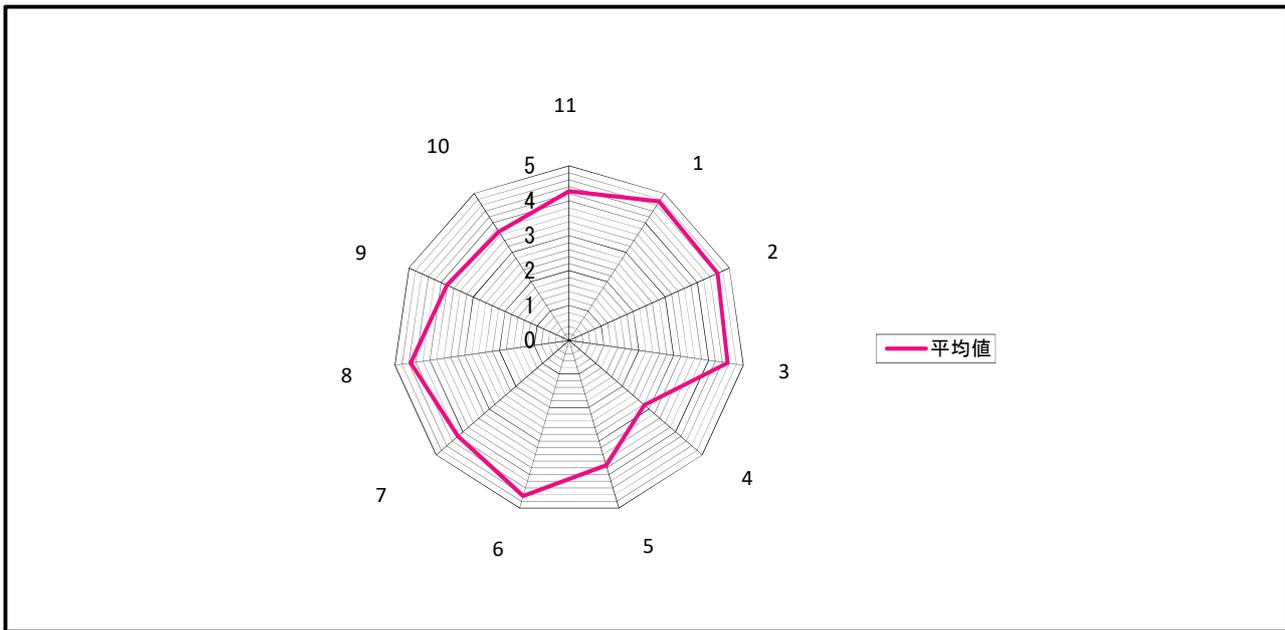


教員のコメント

結果報告書

授業科目名 学校体育経営研究
 評価実施日 平成29年7月25日
 担当教員名 藤田 雅文 回答者数 11 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	8	3				4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	8	2	1			4.6
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	7	3	1			4.5
	(4)授業では、シラスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	1	3	2	3	2	2.8
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2	5	3	1		3.7
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	8	2	1			4.6
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	5	4	1	1		4.2
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	7	3	1			4.5
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4	4	1	1	1	3.8
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	5	1	2		3.7
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	6	3	1	1		4.3



教員のコメント

総合評価の平均評価点は4.3であり、高い評価を得たと考えている。アクティブラーニングに関する評価が低いため、来年度以降は改善していきたいと考えている。良かった点について、7名から以下の回答があった。

1. 体育経営に関する資料が多く配布され、分かりやすかった。
2. 体育経営についてやらなければならないことが分かった。
3. 学校現場で活用できる知識が得られた。
4. 保健体育科教員の仕事は、授業をするだけでなく理解できた。
5. 体育の教員を目指す上で大切な知識を多く得ることができた。
6. 受講生の経験を例にして講義していたので、身近に感じ、分かりやすかった。
7. 体育主任の仕事についての学びは、今後役に立つと思った。

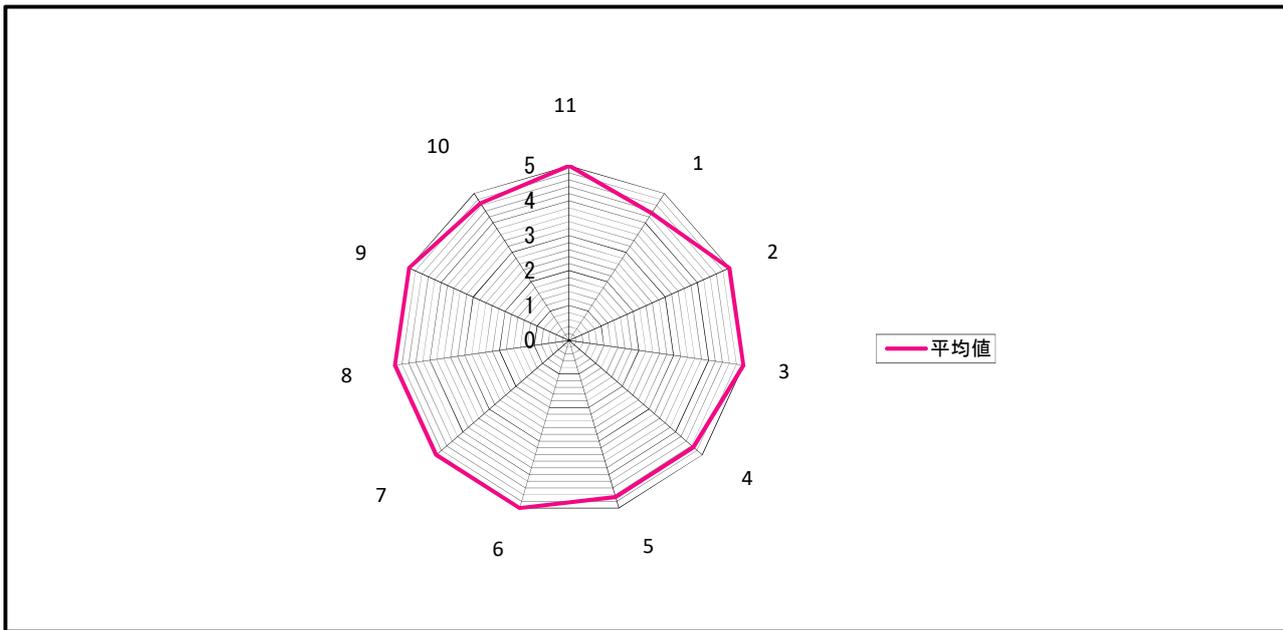
改善点についての記述は、以下の通りである。

1. 考える時間がほとんどなかった。話し合いや考える時間が欲しかった。
2. 板書を丁寧にしてもらいたい。

結果報告書

授業科目名 体育・スポーツ心理学演習
 評価実施日 平成29年9月23日
 担当教員名 村上 妃斗美 回答者数 3 人

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2		1				4.3
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3						5.0
	(4)授業では、シラスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	2	1					4.7
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2	1					4.7
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	3						5.0
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	3						5.0
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	3						5.0
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	1					4.7
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3						5.0



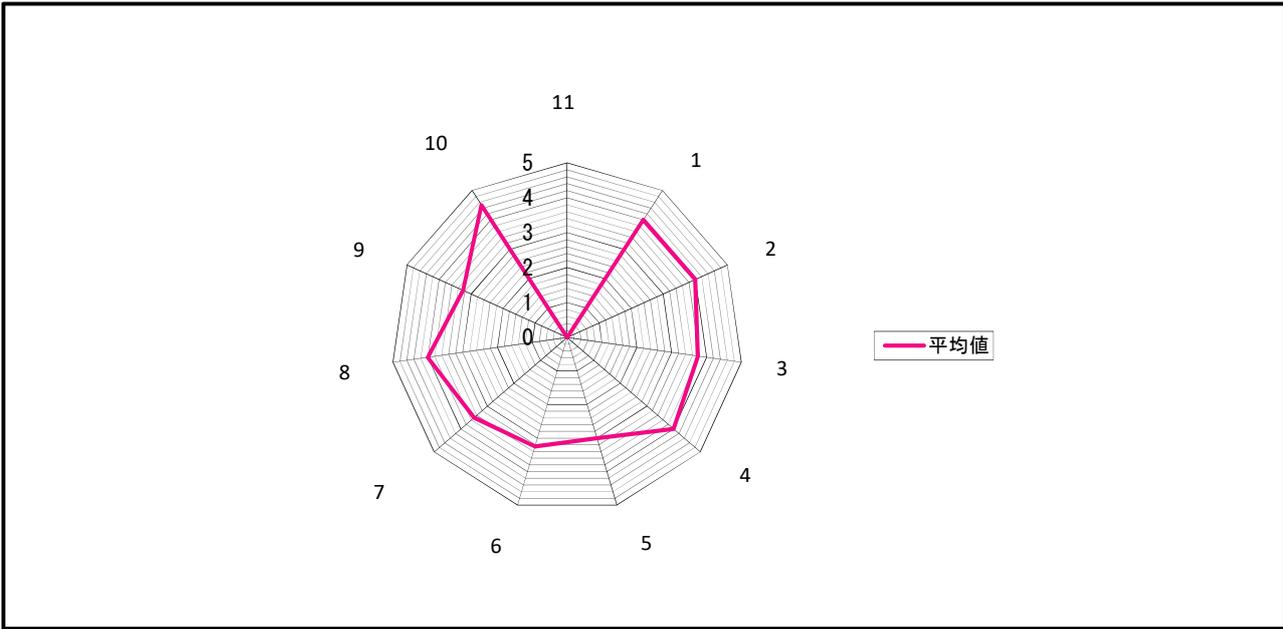
教員のコメント

履修者は少なかったため一人一人に対してしっかり指導できたので良かった。学生の意欲も高かったため、授業の準備についても積極的に行っていたように感じられた。教員になってから現場で役立てる内容や、今後の研究役立てる内容を取り入れたのが今回の講義で評価をえることができたことにつながるのではと考えられる。

結果報告書

授業科目名 運動学研究
 評価実施日 平成29年6月30日
 担当教員名 乾 信之 回答者数 4 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	1	2	1			4.0
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1	2	1			4.0
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。		3	1			3.8
	(4) 授業では、シラスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	1	2	1			4.0
教員の授業の進め方について	(5) 成績評価の方法の説明は、適切であった。			4			3.0
	(6) 授業の進む速さは、適切であった。		2	1	1		3.3
	(7) 受講生に分かりやすく説明した。		3		1		3.5
	(8) 教科書や配布された資料は、適切であった。	1	2	1			4.0
	(9) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。		1	3			3.3
あなたの授業への取り組みについて	(10) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	2				4.5
総合評価	(11) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。						#####



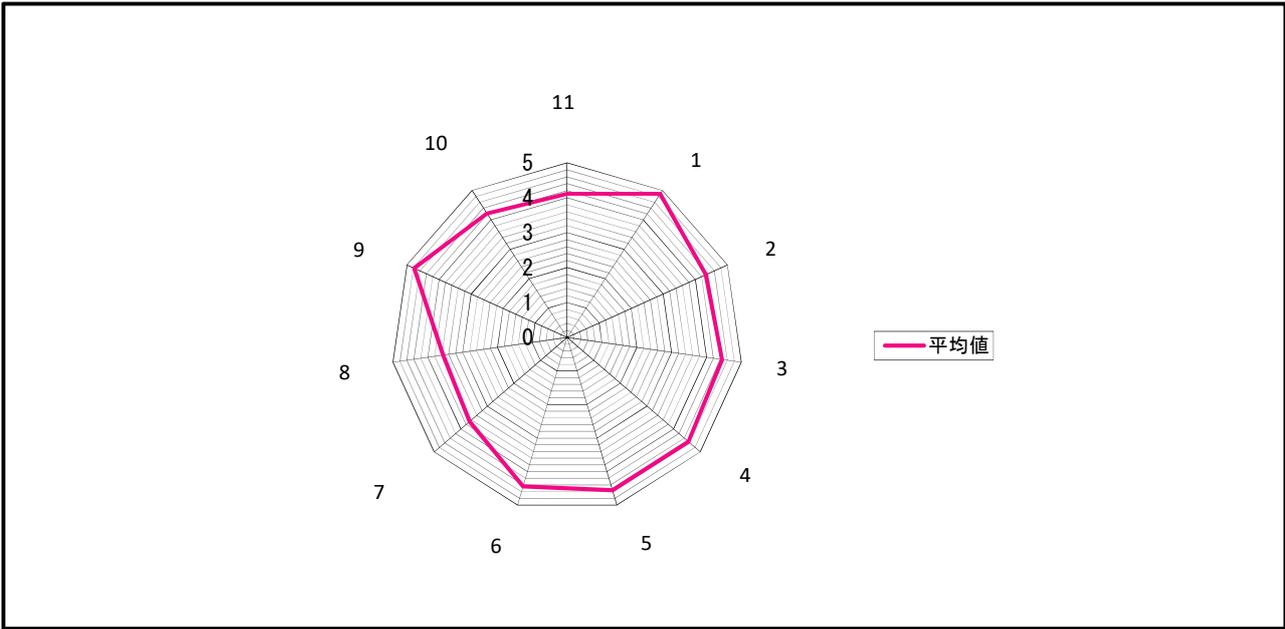
教員のコメント

この授業は各受講生に論文を読んでもらい、それを授業中に発表してもらった。さらに各自が発表した論文の考察を自分の視点から書き直したものをレポートしてもらった。前半は教員側から商業雑誌の論文を指定し、後半は学会誌から論文を受講生に選ばせた。文字通り、アクティブ・ラーニングであり、受講生にはかなりハードなものであったが、授業そのものは活気があった。

結果報告書

授業科目名 スポーツ・バイオメカニクス研究
 評価実施日 平成29年7月31日
 担当教員名 松井 敦典 回答者数 9 人

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	8	1					4.9
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4	4	1				4.3
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	5	3	1				4.4
	(4) 授業では、シラスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	5	4					4.6
教員の授業の進め方について	(5) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	6	2	1				4.6
	(6) 授業の進む速さは、適切であった。	6	1	2				4.4
	(7) 受講生に分かりやすく説明した。	3	2	3		1		3.7
	(8) 教科書や配布された資料は、適切であった。	1	3	5				3.6
	(9) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	8		1				4.8
あなたの授業への取り組みについて	(10) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	3	2				4.2
総合評価	(11) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2	6	1				4.1



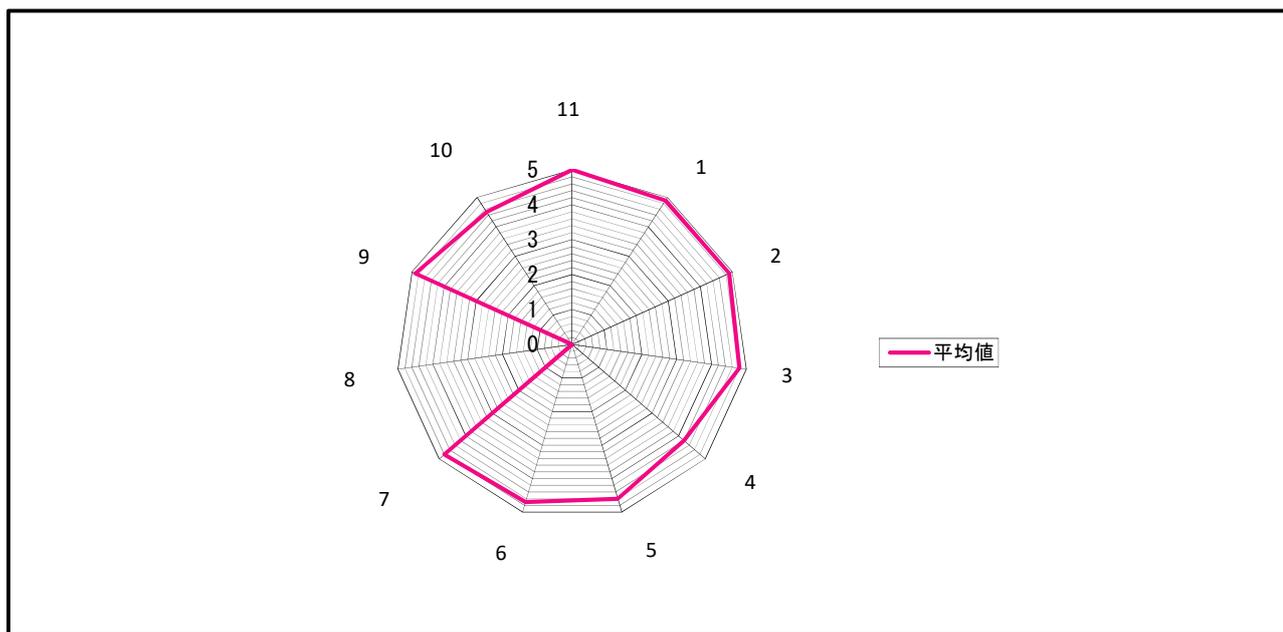
教員のコメント

本年は特にアクティブラーニング的な活動を増強し、動作分析や調査研究の課題を与え、その成果をプレゼンテーションする機会を設けた。それが受講生の評価にも反映されている。
 本授業は、保健体育科の授業を担当したり、スポーツの指導をしたりする上で必要な、身体運動の動きに関する物理的な基本知識を取り扱っている。経験や勘に頼らず、具体的な根拠を持って指導にあたるための考え方や方法を取り扱っている。受講生の回答や自由記述からは、このような狙いをよく理解し、それを将来の職業で活用することを前提に授業に取り組んでいる様子がわかる。しかし、内容の理解の程度についてはあまり芳しくない部分もある。
 保健体育を専攻する学生は、高校時代の進学指導等において主に文系向けの取扱いを受けている場合が多く、数学・物理をはじめとする自然科学的な理解に必要な知識が十分とは言えない面がある。本授業で与えた課題実行の一環としてこれらが補完されることを願う。

結果報告書

授業科目名 運動生理学研究
 評価実施日 平成29年7月31日
 担当教員名 田中 弘之 回答者数 10 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	9	1				4.9
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	9	1				4.9
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	8	2				4.8
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	4	5		1		4.2
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	6	4				4.6
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	7	3				4.7
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	9		1			4.8
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。						#####
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	9	1				4.9
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	5				4.5
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	10					5.0



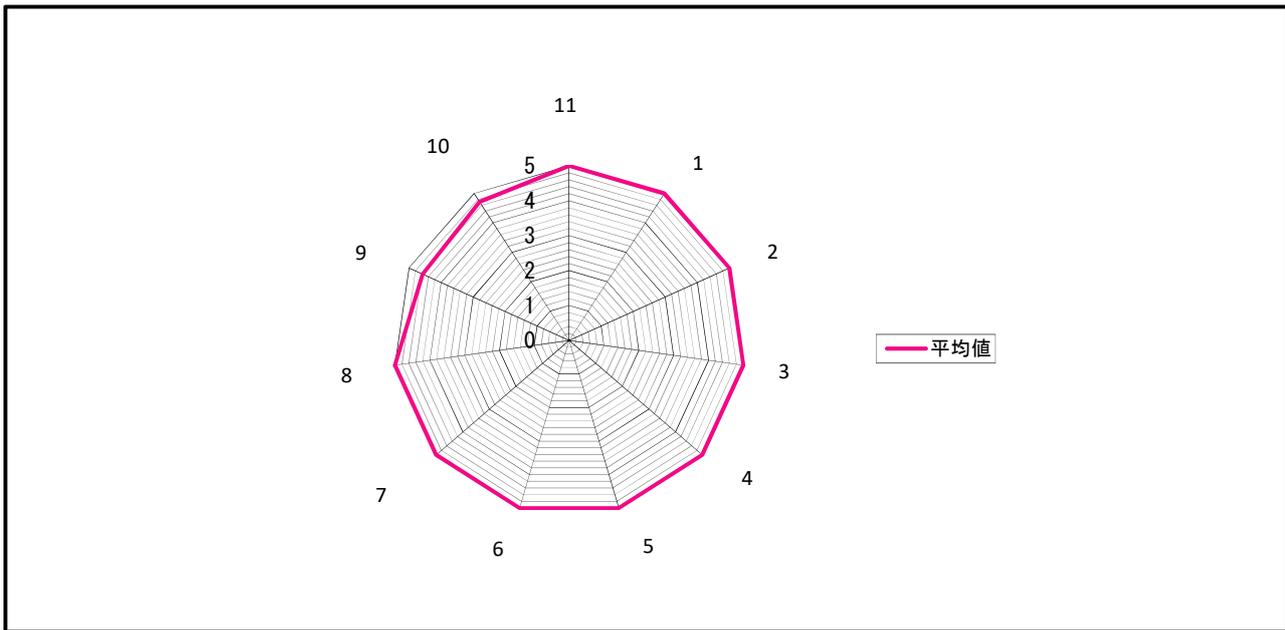
教員のコメント

評価の平均値は4.7であり、総合評価においても5.0と判断されていることから、例年通り、当初の講義目的は概ね達成されたと考えられる。
 【授業に主体的・積極的に取り組んだ。】について、『課題が出て主体的になることができた。』『授業中の質疑応答に積極的に参画できた。』『分からないことはあとから調べるなどして取り組んだ。』など、主体的、能動的な学修意識と態度を散見することができ、授業改善の成果が高まったと思われる。
 その他の自由記述欄の概観では、『実際の現場に立つときに必要だと思える情報がたくさんあり、しっかりと知識として身に付けたいと思った。』『授業中に紹介された実験機器等を手にとって見せてくれ、実践的なことを学べた。』『大学の授業の中で一番タメになるし、楽しい。』など、概ね好評であった。
 改善するべき点として、『(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。』の項目において、“2”の評価者が1名おり、さらなる授業改善に努めなければならない。受講生の反応を確かめながら、今後も効率的な授業展開に一層の創意工夫を重ねたい。

結果報告書

授業科目名 体育教授学研究
 評価実施日 平成29年7月31日
 担当教員名 湯口 雅史 回答者数 7 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	7					5.0
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	7					5.0
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	7					5.0
	(4) 授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	7					5.0
教員の授業の進め方について	(5) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	7					5.0
	(6) 授業の進む速さは、適切であった。	7					5.0
	(7) 受講生に分かりやすく説明した。	7					5.0
	(8) 教科書や配布された資料は、適切であった。	7					5.0
	(9) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	5	1	1			4.6
あなたの授業への取り組みについて	(10) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	2				4.7
総合評価	(11) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	7					5.0



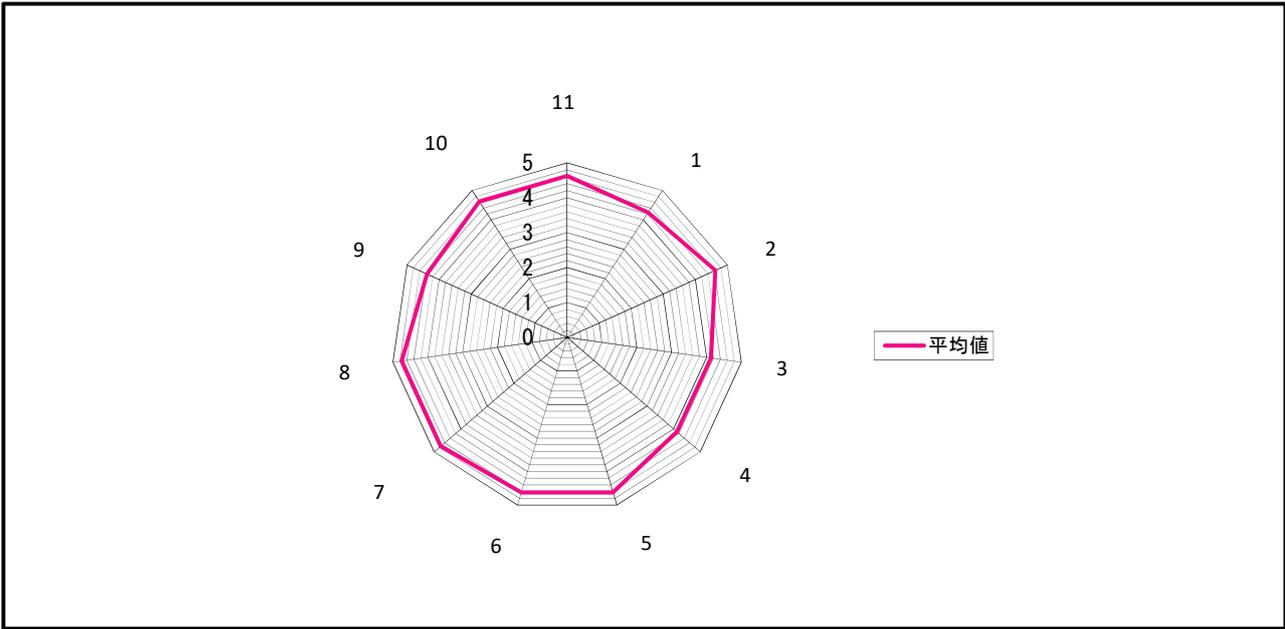
教員のコメント

本授業は、日本における最新の体育理論を文献を読み解く中で、学生の思いや考えを引き出しながらディスカッション形式授業を展開した。毎回、分担したページのレポートを授業資料として提出しその内容についての説明、自分なりの解釈を加えながらレポーターが主となり話題を提供した。
 学生は、今自分もっている体育観を文献を参考に、確認したり再構成したりしていた。レポートを媒介にしたディスカッション形式だったため、情報機器の活用値が低いのではないかと考える。レポートとプレゼンの選択で話題提供をさせてもよかったのかもしれない。来年度の課題としたい。

結果報告書

授業科目名 情報処理研究
 評価実施日 平成29年7月18日
 担当教員名 菊地 章 回答者数 8 人

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3	4	1				4.3
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5	3					4.6
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2	5	1				4.1
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	3	3	2				4.1
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	5	3					4.6
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	5	3					4.6
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	6	2					4.8
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	6	2					4.8
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3	5					4.4
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	3					4.6
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	5	3					4.6



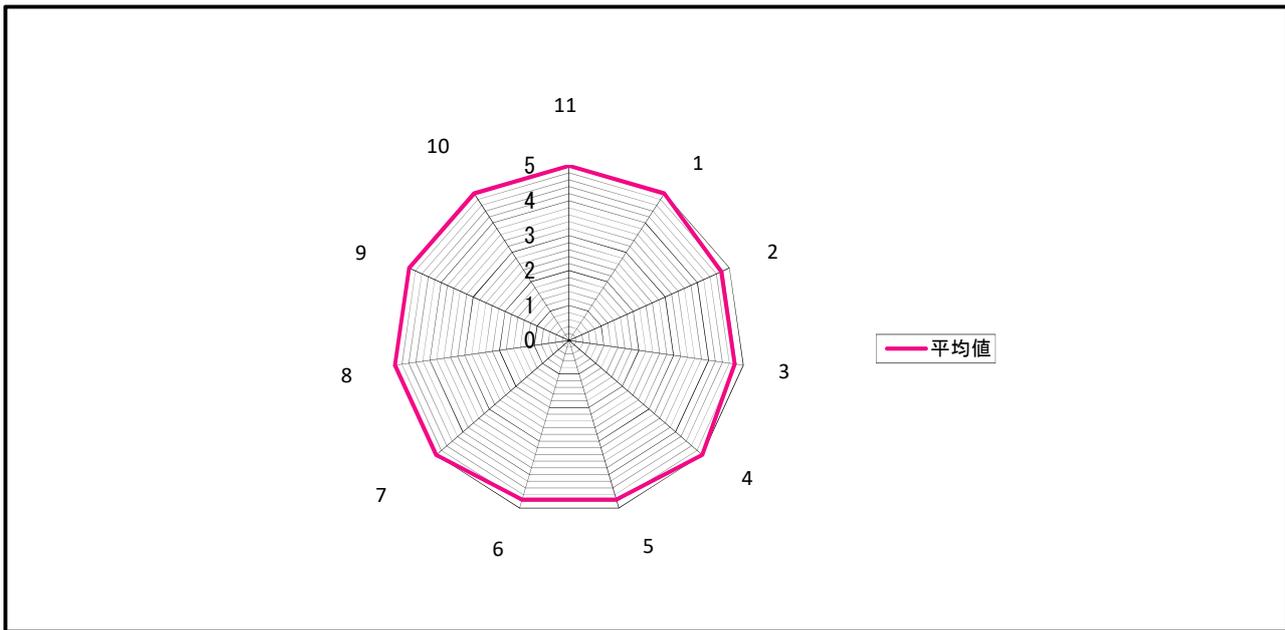
教員のコメント

今年度は複数コースの受講者が混在しており、授業の反応に従来との違いが見られた。計算機器の歴史の中で、文字や数字の発達や数学史との関連も含めたことから数学コースの受講者には反応が良かったようである。また、外国の情報機器変遷に関わる博物館情報や収集・復元している情報機器の展示も実感を持って分かりやすかったと好評であった。今後も学生のためになる授業を維持していきたい。

結果報告書

授業科目名 コンピュータ科学研究
 評価実施日 平成29年7月27日
 担当教員名 宮本 賢治 回答者数 4 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	4					5.0
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3	1				4.8
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	3	1				4.8
	(4) 授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	4					5.0
教員の授業の進め方について	(5) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	3	1				4.8
	(6) 授業の進む速さは、適切であった。	3	1				4.8
	(7) 受講生に分かりやすく説明した。	4					5.0
	(8) 教科書や配布された資料は、適切であった。	4					5.0
	(9) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(10) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4					5.0
総合評価	(11) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	4					5.0



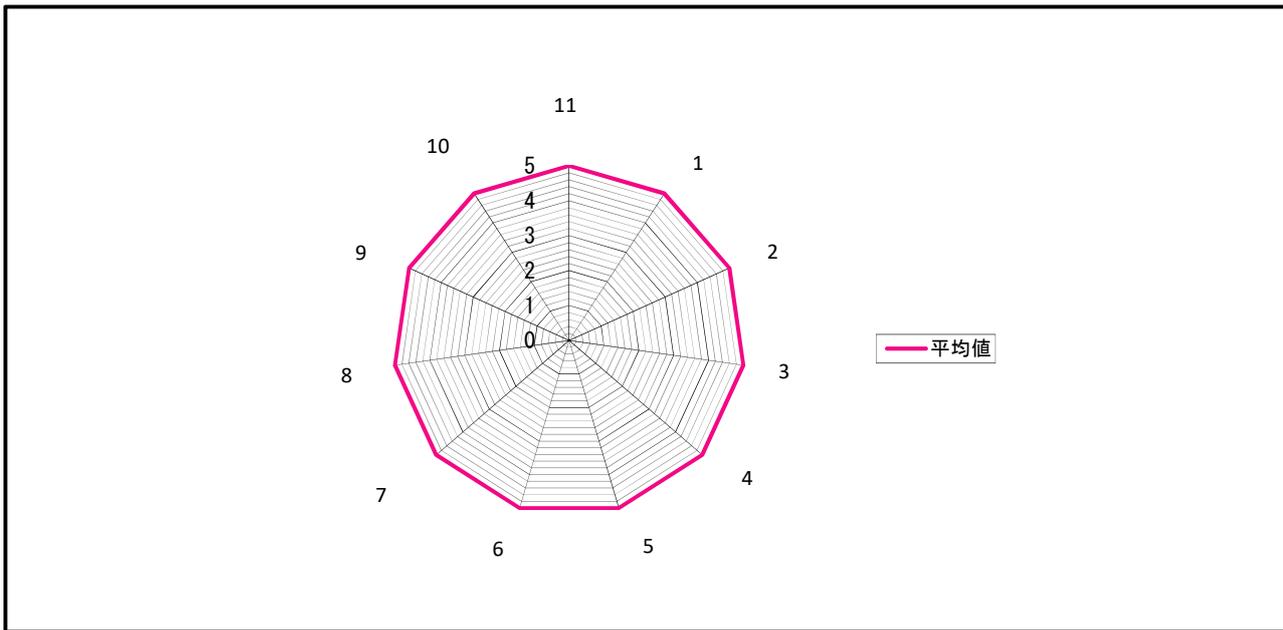
教員のコメント

すべての項目で4.8以上という高評価が得られて満足できる結果となった。今後も授業内容や教材の一層の工夫・改善を図りたいと思う。

結果報告書

授業科目名 機械工学研究
 評価実施日 平成29年7月31日
 担当教員名 宮下 晃一 回答者数 2 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2					5.0
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2					5.0
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	2					5.0
	(4) 授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	2					5.0
教員の授業の進め方について	(5) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	2					5.0
	(6) 授業の進む速さは、適切であった。	2					5.0
	(7) 受講生に分かりやすく説明した。	2					5.0
	(8) 教科書や配布された資料は、適切であった。	2					5.0
	(9) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(10) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2					5.0
総合評価	(11) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2					5.0



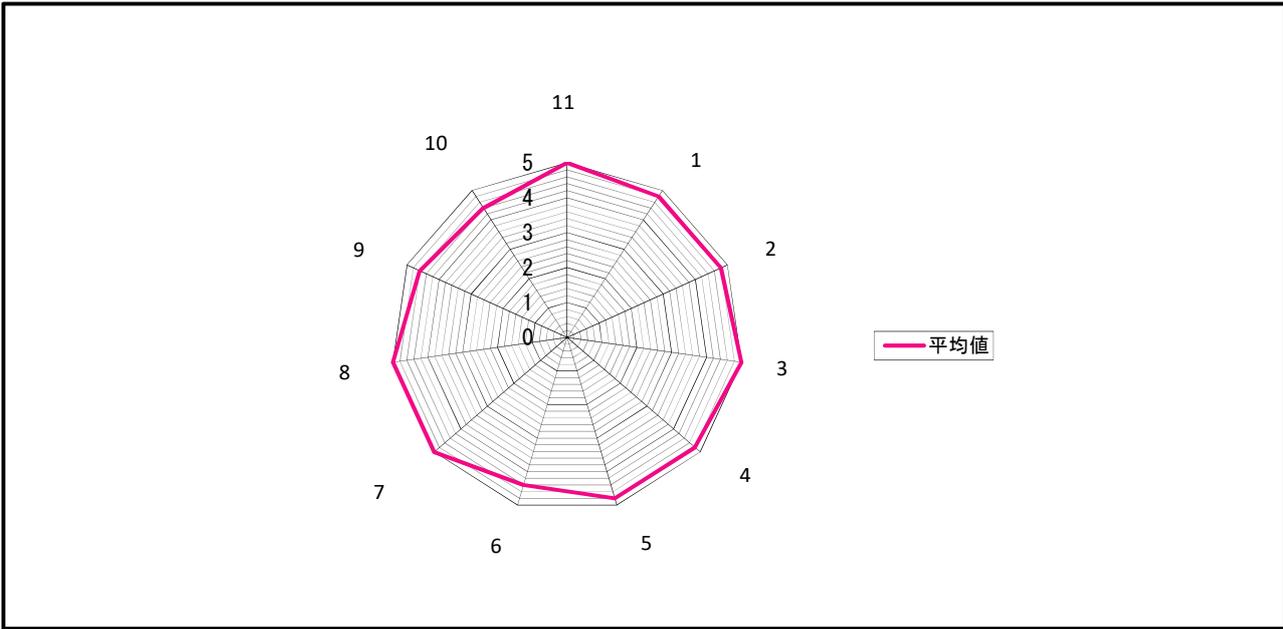
教員のコメント

3D-CADと3Dプリンタを用いた先端的なものづくりを行う授業内容が受講生の興味関心に合っていたことと、受講生の人数が少なかつたためにきめ細かい指導ができたことから、高い評価を得られたものと思う。次年度以降、さらに授業内容を改善していきたい。

結果報告書

授業科目名 情報科学研究
 評価実施日 平成29年7月24日
 担当教員名 伊藤 陽介 回答者数 5 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	4	1				4.8
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4	1				4.8
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	5					5.0
	(4) 授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	4	1				4.8
教員の授業の進め方について	(5) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	4	1				4.8
	(6) 授業の進む速さは、適切であった。	2	3				4.4
	(7) 受講生に分かりやすく説明した。	5					5.0
	(8) 教科書や配布された資料は、適切であった。	5					5.0
	(9) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3	2				4.6
あなたの授業への取り組みについて	(10) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	3				4.4
総合評価	(11) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	5					5.0



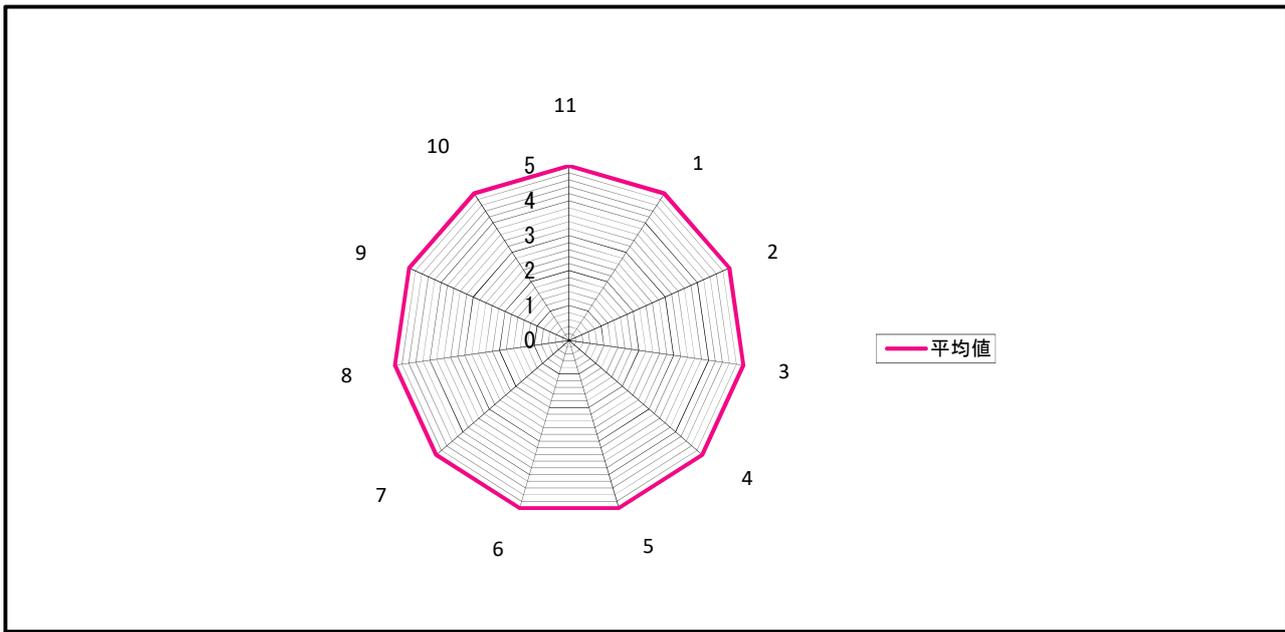
教員のコメント

授業内容に関する評価や総合評価、受講生からのコメントなどから、本授業はおおむね満足されていると考えられる。やや授業の進行が速いことが推測されるので改善が必要である。

結果報告書

授業科目名 プログラミング演習
 評価実施日 平成29年7月28日
 担当教員名 戸川 聡 回答者数 2 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2					5.0
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2					5.0
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	2					5.0
	(4) 授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	2					5.0
教員の授業の進め方について	(5) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	2					5.0
	(6) 授業の進む速さは、適切であった。	2					5.0
	(7) 受講生に分かりやすく説明した。	2					5.0
	(8) 教科書や配布された資料は、適切であった。	2					5.0
	(9) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(10) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2					5.0
総合評価	(11) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2					5.0

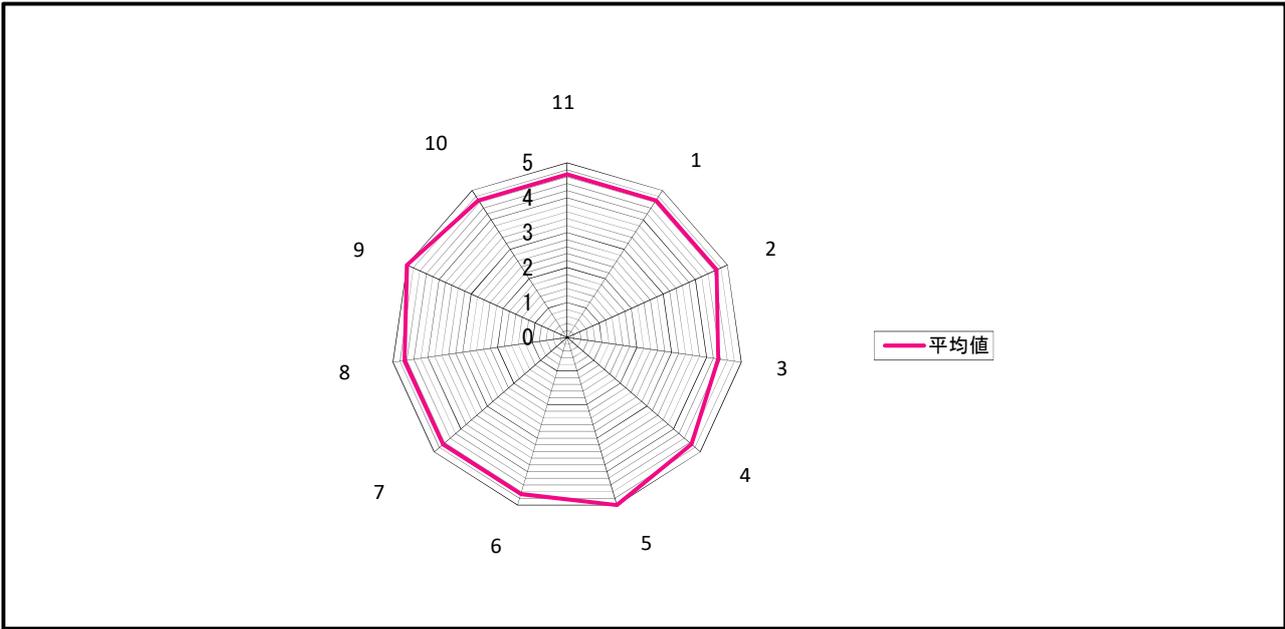


教員のコメント

結果報告書

授業科目名 信号情報処理研究
 評価実施日 平成29年7月27日
 担当教員名 菊地 章 回答者数 3 人

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2	1					4.7
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2	1					4.7
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	2		1				4.3
	(4) 授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	2	1					4.7
教員の授業の進め方について	(5) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	3						5.0
	(6) 授業の進む速さは、適切であった。	2	1					4.7
	(7) 受講生に分かりやすく説明した。	2	1					4.7
	(8) 教科書や配布された資料は、適切であった。	2	1					4.7
	(9) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(10) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	1					4.7
総合評価	(11) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2	1					4.7



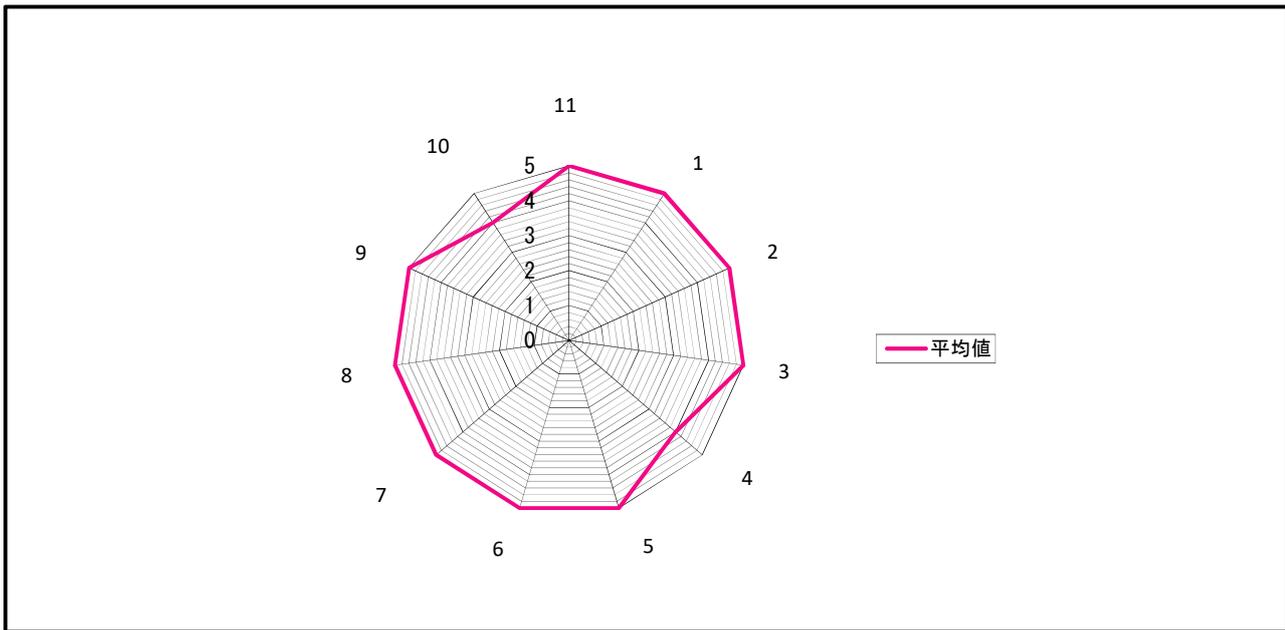
教員のコメント

今年度の受講者は3人と少なく、受講生の表情を見ながら授業を進めることができた。専門的な内容として数学的な内容も含まれるため受講生にとって少し高度であったかもしれないが、MATLAB環境を用いて声の音色を変化させる実習を行うことで、授業に対する関心が一挙に深まったようである。

結果報告書

授業科目名 計算力学研究
 評価実施日 平成29年7月28日
 担当教員名 長谷崎 和洋,草野 剛嗣 回答者数 1 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	1					5.0
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1					5.0
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	1					5.0
	(4) 授業では、シラスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。		1				4.0
教員の授業の進め方について	(5) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	1					5.0
	(6) 授業の進む速さは、適切であった。	1					5.0
	(7) 受講生に分かりやすく説明した。	1					5.0
	(8) 教科書や配布された資料は、適切であった。	1					5.0
	(9) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	1					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(10) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。		1				4.0
総合評価	(11) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	1					5.0



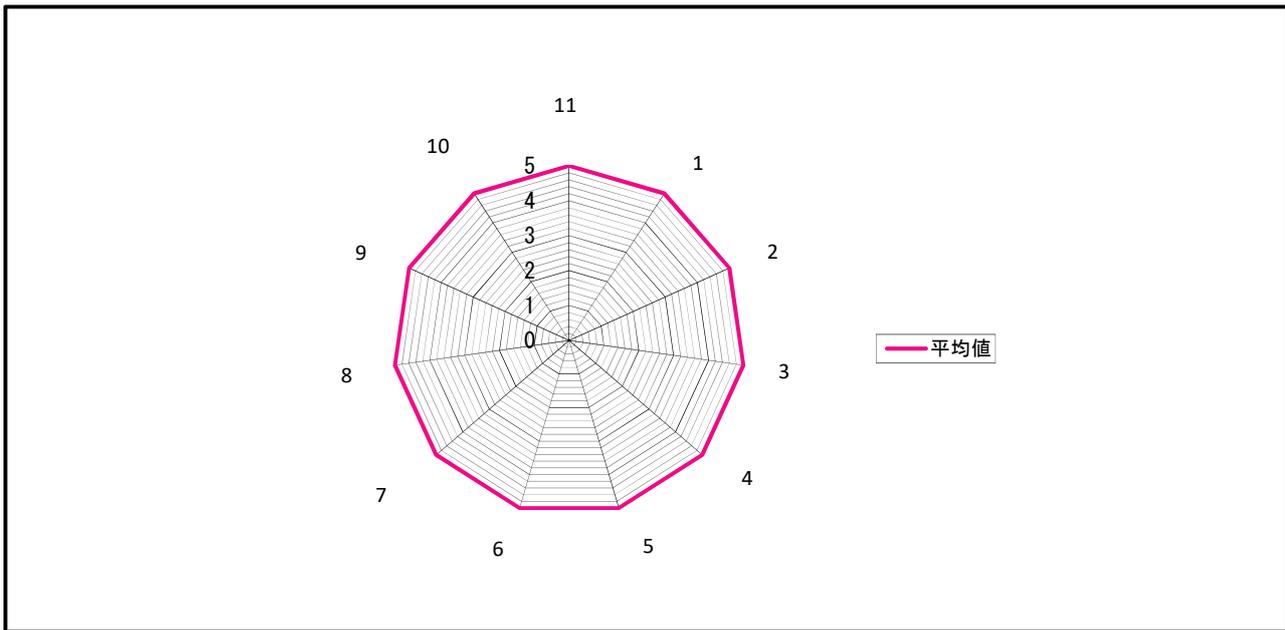
教員のコメント

毎回欠かさず予習と復習(課題)をしてきており、講義が非常にスムーズに進みました。この講義科目は本教員にとって初めての開講でしたが(過去受講者がいなかったため開講されなかったため)、予定通り進めることができました。

結果報告書

授業科目名 計算力学演習
 評価実施日 平成29年9月27日
 担当教員名 長谷崎 和洋, 草野 剛嗣 回答者数 1 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	1					5.0
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1					5.0
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	1					5.0
	(4) 授業では、シラバスに示されたアクティブラーニングが、実施されていた。	1					5.0
教員の授業の進め方について	(5) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	1					5.0
	(6) 授業の進む速さは、適切であった。	1					5.0
	(7) 受講生に分かりやすく説明した。	1					5.0
	(8) 教科書や配布された資料は、適切であった。	1					5.0
	(9) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	1					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(10) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1					5.0
総合評価	(11) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	1					5.0



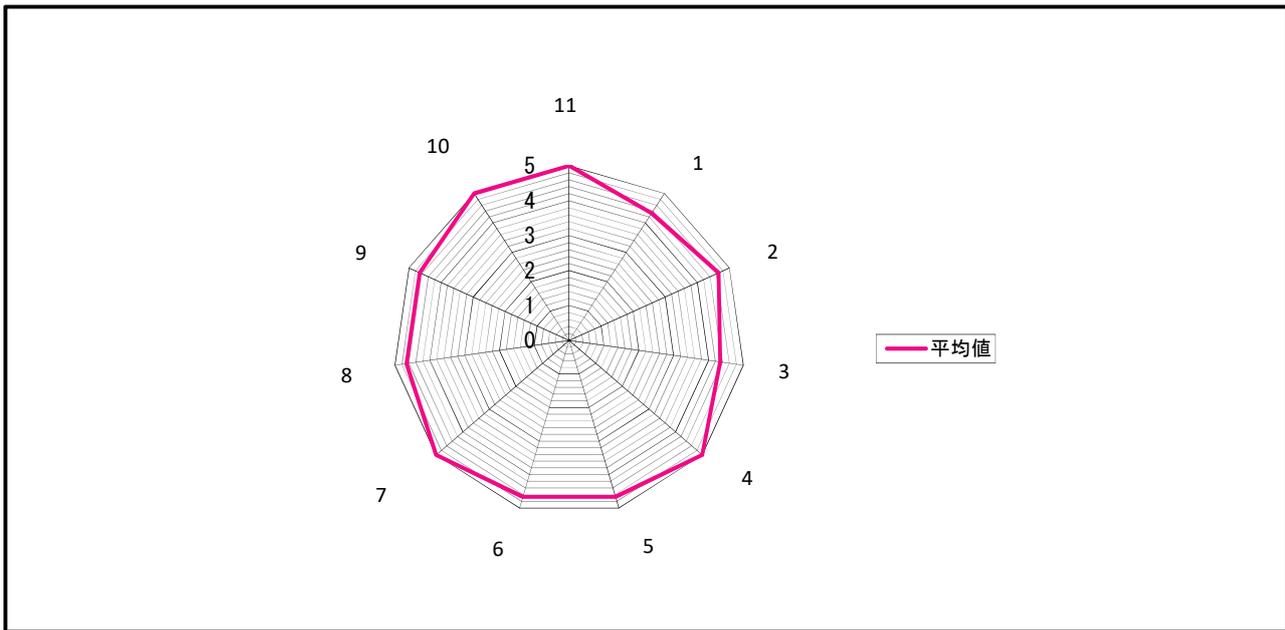
教員のコメント

学生さんは非常に優秀で、コンピュータの素養もあり演習する上では問題ありませんでした。ただし、最初に、演習において使用するソフトウェア(無償製品)の実習室のPCへのインストールがうまくいかず、学生・教員ともに個人用のノートパソコンを使用して演習を行いました。(演習室のPCへのインストール制限があるのに後で気が付きました)

結果報告書

授業科目名 木質材料加工法演習
 評価実施日 平成29年7月28日
 担当教員名 米延 仁志,尾崎 士郎 回答者数 3 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	1	2				4.3
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2	1				4.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1	2				4.3
	(4)授業では、シラスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	3					5.0
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2	1				4.7
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	2	1				4.7
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	3					5.0
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	2	1				4.7
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2	1				4.7
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3					5.0
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3					5.0

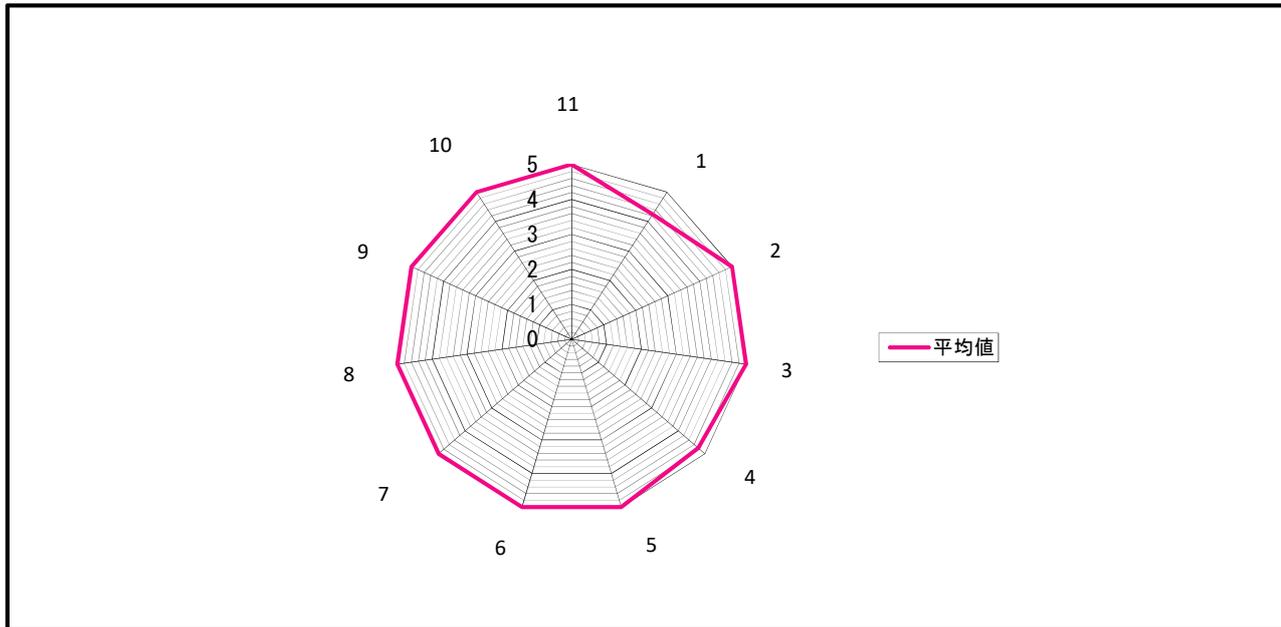


教員のコメント

結果報告書

授業科目名 情報科教育研究 I
 評価実施日 平成29年9月14日
 担当教員名 森山 潤 回答者数 4 人

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3			1			4.3
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4						5.0
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	3	1					4.8
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	4						5.0
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	4						5.0
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	4						5.0
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	4						5.0
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4						5.0
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	4						5.0



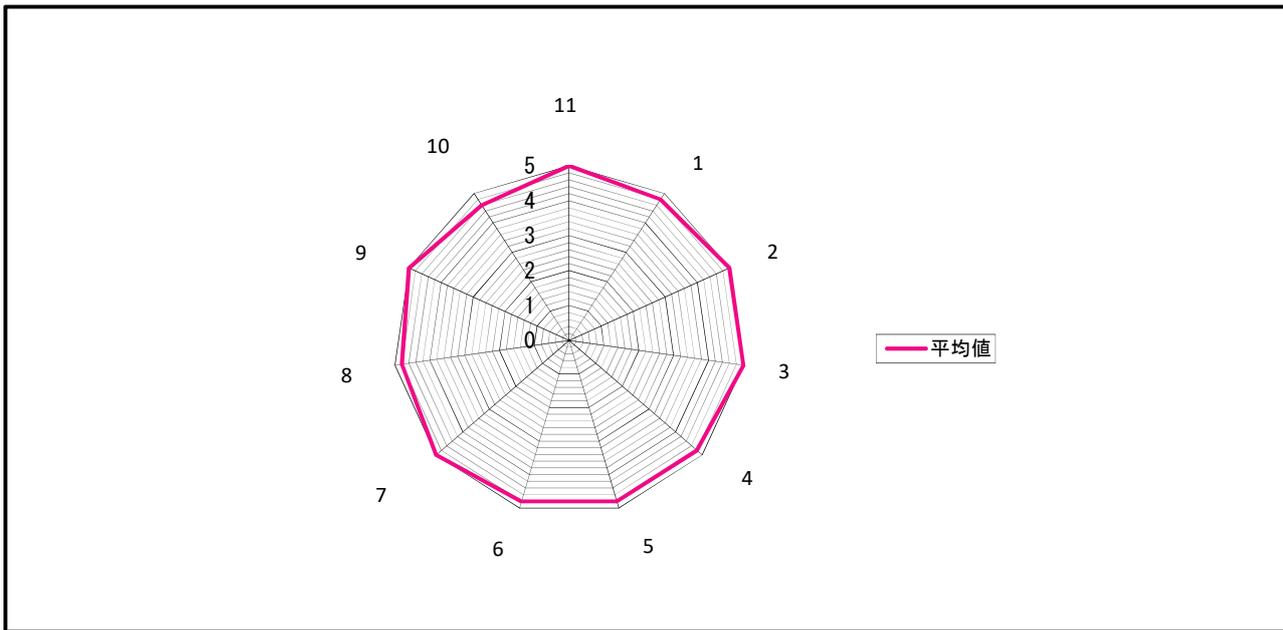
教員のコメント

受講生の皆さんからは、概ね本講義に対して肯定的な評価を頂けたしかし、高校情報科はこれから学習指導要領の改定など、大きな変革期にあることを踏まえ、最新の動向等を講義内容に含めるなど、授業の改善を継続的に図っていきたいと考える。

結果報告書

授業科目名 技術科教育研究
 評価実施日 平成29年7月28日
 担当教員名 尾崎 士郎,宮下 晃一 回答者数 5 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	4	1				4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	5					5.0
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブラーニングが、実施されていた。	4	1				4.8
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	4	1				4.8
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	4	1				4.8
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	5					5.0
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	4	1				4.8
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	5					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4		1			4.6
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	5					5.0



教員のコメント

担当者自身が考えるよりも、非常に高い評価であることに驚いている。授業の方法は概ねシラバス通りであるが、次の発表形式を取り入れている。ものづくりと情報、教科教育と材料に関する学会誌、加工技術協会発行の技術雑誌(研究論文を含む。)から各自2篇の文献を選択して読解し、A4サイズ1枚の概要を作成してもらった。その文献と概要(受講者すべてにコピーを配布)をもとに授業の後半20分で説明した後10分の質疑を行う方式を取り入れた。この学生参加の活動を行うことはシラバスに簡略に記載している。自学自習の負担を伴うものの、この活動を非常に高く肯定的に評価していることが自由記述に認められる。自由記述の内容は以下のとおり。

(2)この授業でよかったと思われる点について書いてください。

- ・様々な論文に触れることができた。技術科に関する専門的な知識を学ぶ機会となった。
- ・論文を読んで理解し、自分なりにまとめることでより深く知識が身についた。
- ・興味ある分野について調べられるのが良い。興味があるだけでなく、新しい分野についても知ることができた。

(4)質問(9)「授業に主体的・積極的に取り組んだ」について、あなたが回答を選択した理由について書いてください。

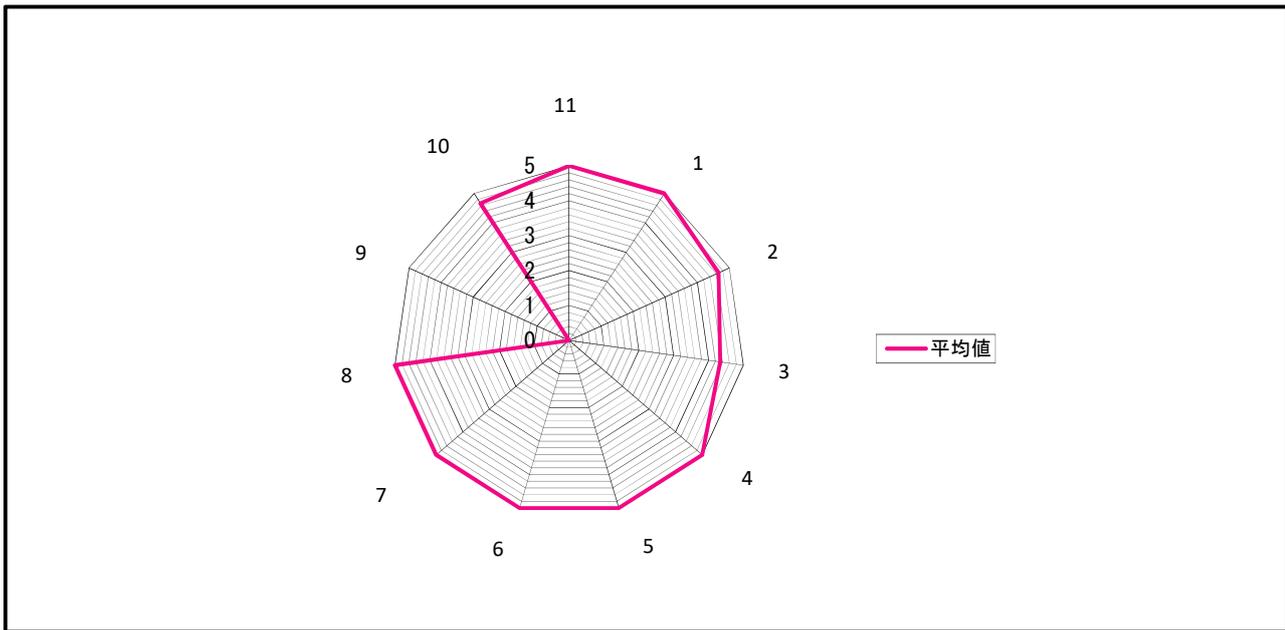
- ・教授で行けない日があった。
- ・新しい分野についても積極的に取り組んだ。

※「(3)この授業で改善すべきと思われる点について書いてください。」と「(5)その他、感想があれば書いてください。」の自由記述はなかった。

結果報告書

授業科目名 家族・ジェンダー研究
 評価実施日 平成29年7月27日
 担当教員名 黒川 衣代 回答者数 3 人

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3						5.0
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2	1					4.7
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	2		1				4.3
	(4) 授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	3						5.0
教員の授業の進め方について	(5) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	3						5.0
	(6) 授業の進む速さは、適切であった。	3						5.0
	(7) 受講生に分かりやすく説明した。	3						5.0
	(8) 教科書や配布された資料は、適切であった。	3						5.0
	(9) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。							#####
あなたの授業への取り組みについて	(10) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	1					4.7
総合評価	(11) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3						5.0



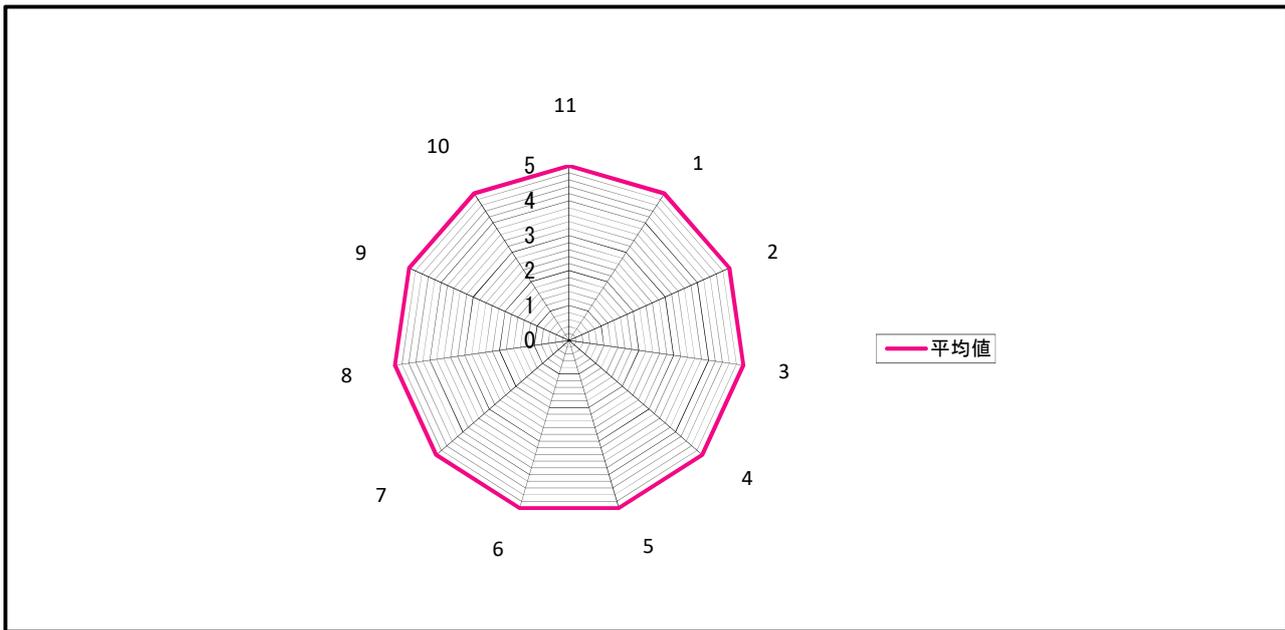
教員のコメント

所属が異なる3名の学生が受講した。それぞれの専門に照らし合わせての評価であろうと考えます。少人数の授業のため、机を合わせて座り、板書は行わずにプリントを配布し、机上に用意した白紙に書き込みながら説明した。学生の発表に解説を加え、ディスカッションを行う形式を取り入れた。それぞれの立場から活発に意見交換ができ、現代家族とジェンダーについて理解と思考を深めることができた。

結果報告書

授業科目名 衣生活学研究
 評価実施日 平成29年7月25日
 担当教員名 福井 典代 回答者数 3 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3					5.0
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	3					5.0
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	3					5.0
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	3					5.0
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	3					5.0
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	3					5.0
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3					5.0
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3					5.0



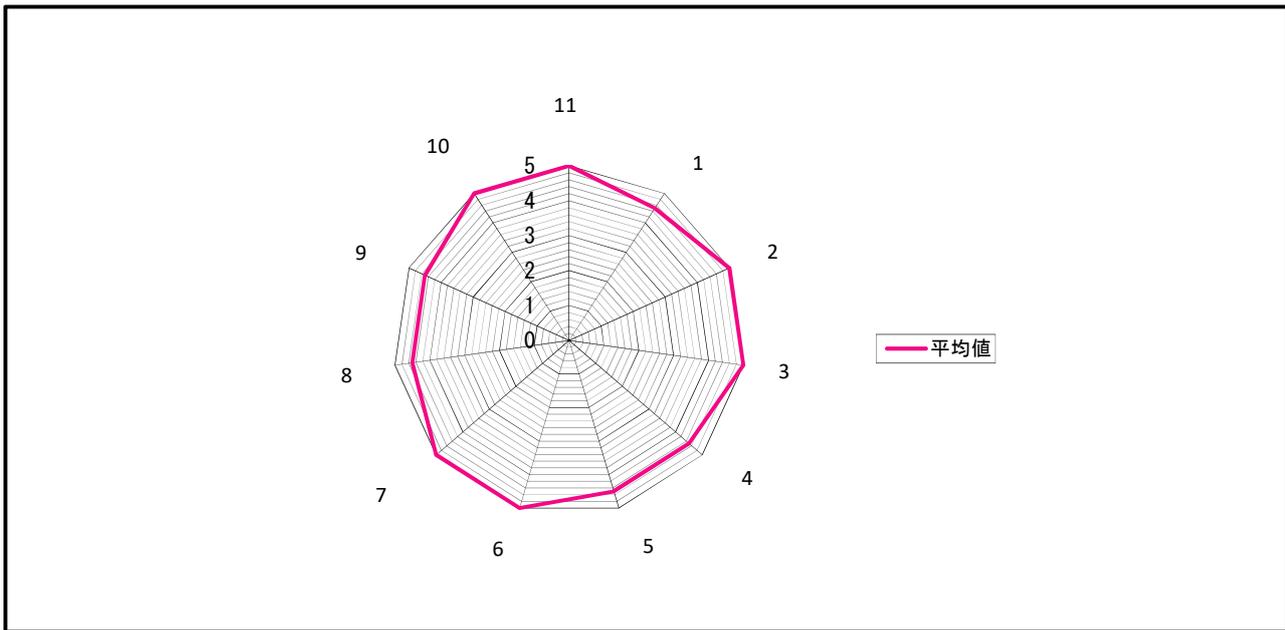
教員のコメント

この授業では、被服に関する基本的な知識を理解するために、簡単な実験や実習を授業の中で取り入れている。本学で開発した教材も活用しながら、単調になりやすい座学の授業の中で体験的な活動を行っている。
 学生による授業評価の結果から、「授業の内容」、「教員の授業の進め方」、「授業への取り組み」、「総合評価」のすべての項目において高い評価が得られた。現在実施している授業内容と活動について高い評価が得られたことから、実施する実験・実習内容を見直しなが、今後も学生に合わせた授業を実施していきたい。

結果報告書

授業科目名 食生活学研究
 評価実施日 平成29年9月20日
 担当教員名 西川 和孝, 西川 章江 回答者数 2 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	1	1				4.5
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2					5.0
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	1	1				4.5
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	1	1				4.5
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	2					5.0
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	2					5.0
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	1	1				4.5
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	1	1				4.5
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2					5.0
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2					5.0



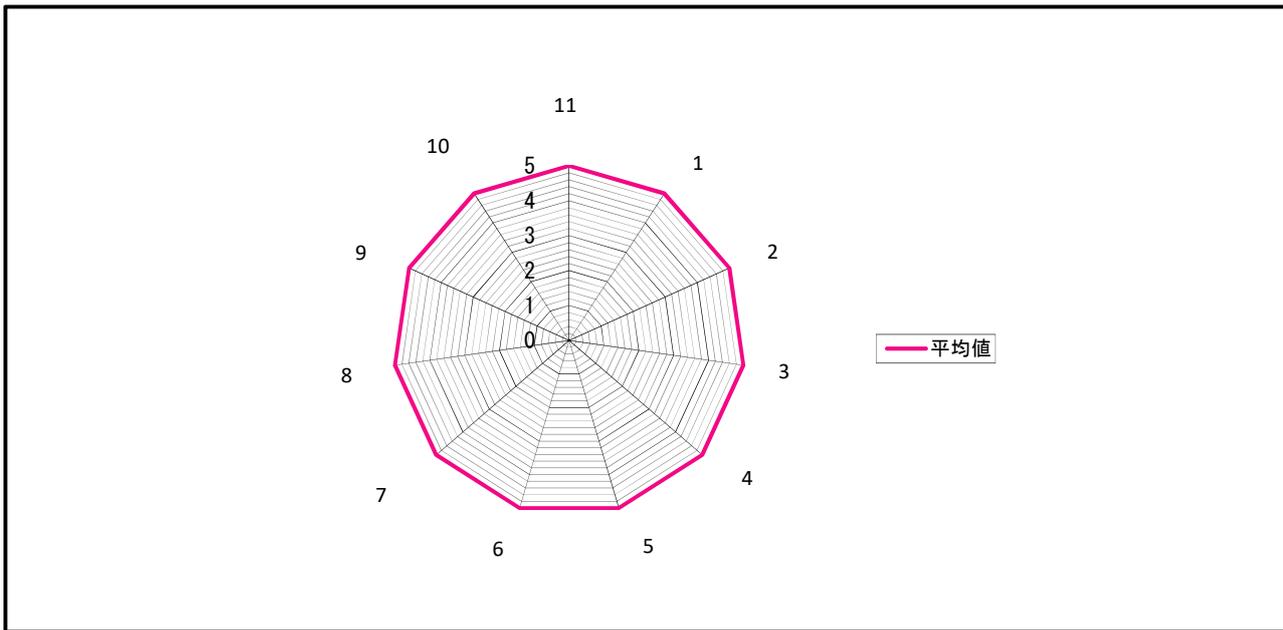
教員のコメント

総合評価はすべての評定が5とされており、総合的な満足度は高い科目であったと考えられる。質問項目「(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。」、「(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。」、「(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。」、「(8)教科書や配布された資料は、適切であった。」及び「(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。」については評定が4であったが、それ以外は5であった。当該科目は食生活学の専門的な内容の理解に主眼が置かれているが、今後も教育との関連も続けていきたいと考えている。全体的に見直しが必要な点は見当たらないが、履修生を見ながら改善していきたいと考えている。

結果報告書

授業科目名 住生活学研究
 評価実施日 平成29年7月24日
 担当教員名 金 貞均 回答者数 1 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	1					5.0
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1					5.0
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	1					5.0
	(4) 授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	1					5.0
教員の授業の進め方について	(5) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	1					5.0
	(6) 授業の進む速さは、適切であった。	1					5.0
	(7) 受講生に分かりやすく説明した。	1					5.0
	(8) 教科書や配布された資料は、適切であった。	1					5.0
	(9) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	1					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(10) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1					5.0
総合評価	(11) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	1					5.0



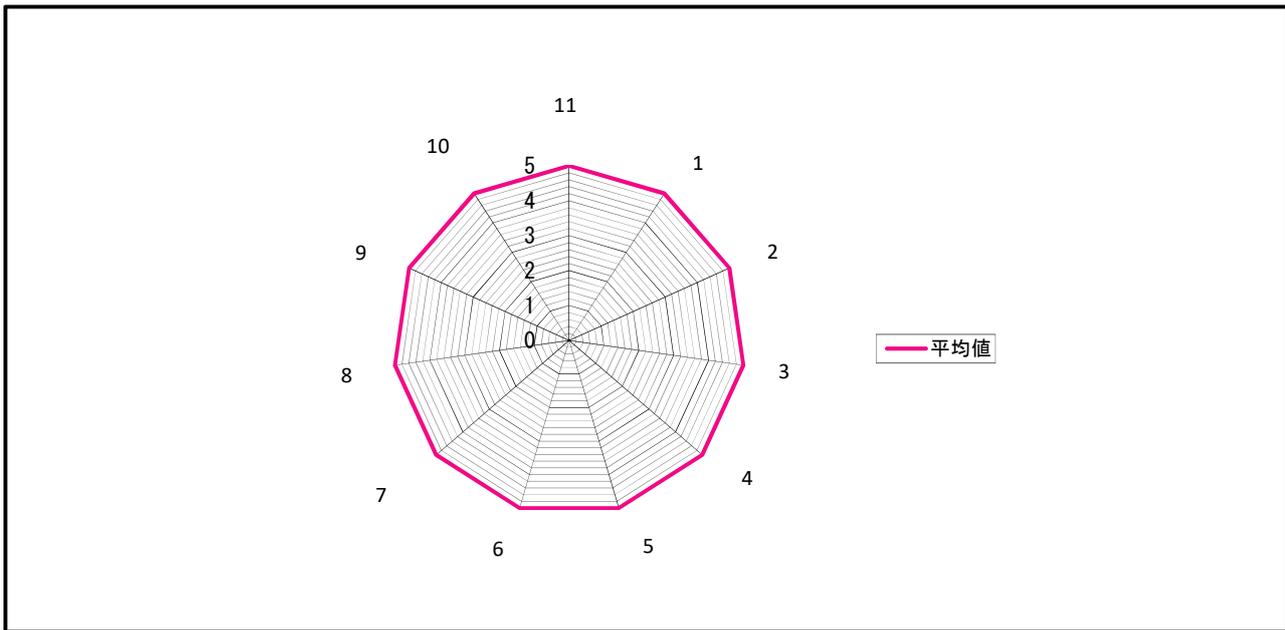
教員のコメント

本授業では少人数授業の利点を生かして、授業テーマに対して課題発表と意見を述べる時間をできるだけ設ける努力をした。本授業に対して受講生は全体的にポジティブな評価をしている。[1]この授業について、各項目ごとの評価結果は上記のとおりで、ここでは自由記述欄の意見を紹介する。[2]この授業でよかったと思われる点について、「いろいろな資料を提示してくれて知識の習得にとっても役立つ。実践的な内容で、教員になった時に役立つと思った。住について多面的に考えることができた。」と記述していた。[3]この授業で改善すべきと思われる点についての記述はなかった。[4]質問(9)「授業に主体的・積極的に取り組んだ。」について、あなたが回答を選択した理由については、「⑤そう思う」を選択した理由として、「問題点や疑問があったら授業後に調べたり、ディスカッションの時深く考え、話ができたらから」と書いていた。受講生は問題意識をもって授業に積極的・主体的に取り組んてくれた。[5]その他の感想として、「1人でしたが、毎回とても勉強になる授業でした。」と述べていた。以上の授業評価の結果は受講生が受け身にならない授業の成果と捉え、これからも受講生が主体的にかかわる授業を工夫していきたい。

結果報告書

授業科目名 家庭科教育学研究
 評価実施日 平成29年7月13日
 担当教員名 速水 多佳子 回答者数 1 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	1					5.0
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1					5.0
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	1					5.0
	(4) 授業では、シラスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	1					5.0
教員の授業の進め方について	(5) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	1					5.0
	(6) 授業の進む速さは、適切であった。	1					5.0
	(7) 受講生に分かりやすく説明した。	1					5.0
	(8) 教科書や配布された資料は、適切であった。	1					5.0
	(9) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	1					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(10) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1					5.0
総合評価	(11) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	1					5.0



教員のコメント

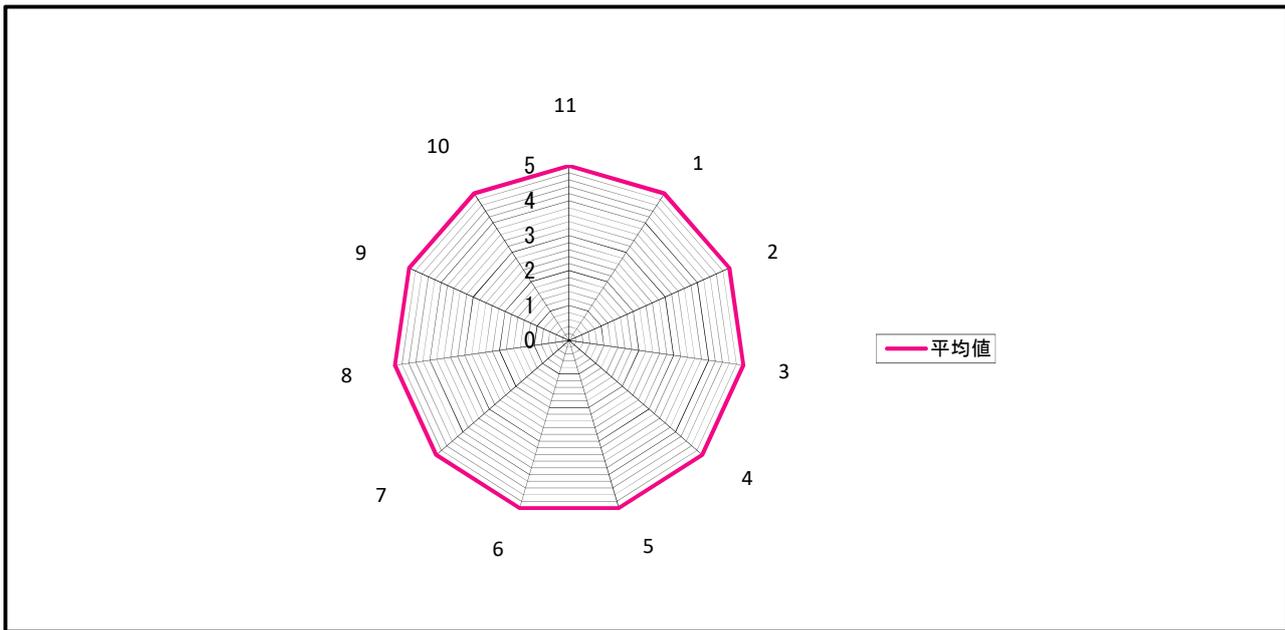
本授業の受講生は、中学校家庭科教員志望の学生1名であった。授業は家庭科教育のテキストを用い、学生がその内容をまとめて発表をして、その後に意見交換をするという形をとった。実際の授業づくりにあたっての基礎的な内容から、具体的な指導方法などについても具体的に扱うことができた。授業評価アンケートのコメント欄には、「家庭科の内容について、知らないでいたことを知り、知っていたことを深く勉強できた」と書かれており、また授業の総合評価が5.0であったことから、ニーズに応じた授業ができたと考える。受講生が1名であったため、授業内容の広がりが限られるのではないかと懸念したが、「授業が1人だったがやりやすかった」というコメントもあり、自分の考えを述べたりする時間を多く取り入れたことで、より理解が深まったと思われる。今後は、教員としての実践力の育成につながるよう、内容をさらに深めていきたい。

結果報告書

授業科目名 教科内容構成(家庭科)
 評価実施日 平成29年7月28日
 担当教員名 坂本 有芳, 速水 多佳子, 黒川 衣代, 福井 典代, 西川 和孝, 金 貞均

回答者数 1 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	1					5.0
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1					5.0
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	1					5.0
	(4) 授業では、シラスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	1					5.0
教員の授業の進め方について	(5) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	1					5.0
	(6) 授業の進む速さは、適切であった。	1					5.0
	(7) 受講生に分かりやすく説明した。	1					5.0
	(8) 教科書や配布された資料は、適切であった。	1					5.0
	(9) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	1					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(10) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1					5.0
総合評価	(11) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	1					5.0



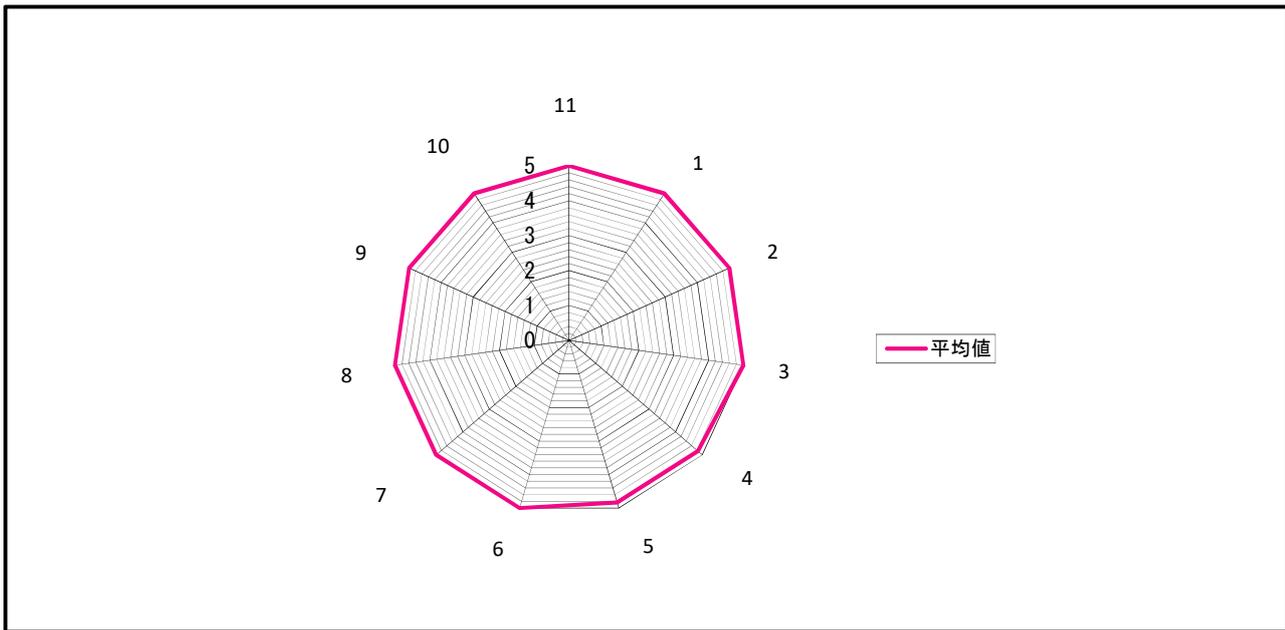
教員のコメント

小学校、中学校、高等学校の家庭科の教科内容について、家庭科の学問的基盤である家政学や、その他の関連する学問から考察すること、また教科内容についての理解を深めた上で、教育実践との関連を学ぶことを目的とした。1名と少人数の授業であり、適宜、質疑応答を入れながら内容に対する理解を確認しながら進めることができた。
 授業評価から、本科目の目的・目標は概ね達せられたものと考えられる。

結果報告書

授業科目名 国際教育人間論
 評価実施日 平成29年7月21日
 担当教員名 石村 雅雄,小澤 大成,石坂 広樹,近森 憲助 回答者数 6 人

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	6						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	6						5.0
	(4)授業では、シラスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	5	1					4.8
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	5	1					4.8
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	6						5.0
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	6						5.0
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	6						5.0
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	5						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6						5.0
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	6						5.0



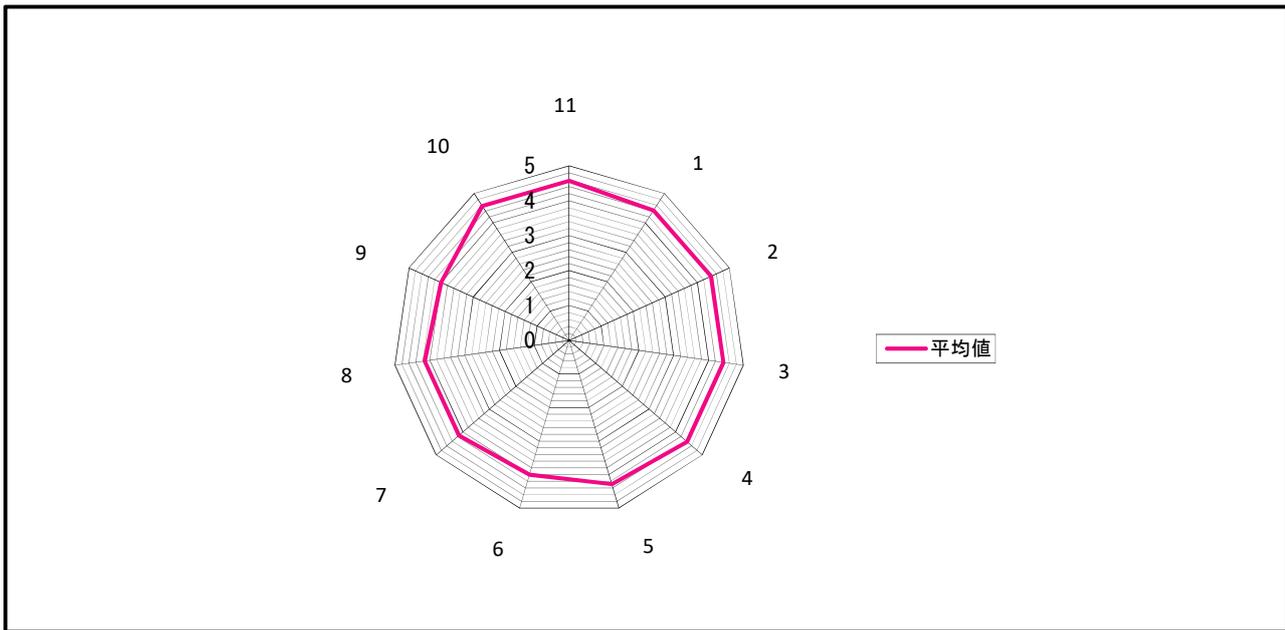
教員のコメント

学生の授業への参加態度が非常に熱心で、教員側も、ある時は問答方式で、ある時は、グループワークでと、様々な手法を用いた授業であったため、学生からの評価は極めて妥当と思われる。この授業の成果は、学生からの反応も含めて、本年度の国際教師教育協力センターの紀要にまとめられた。

結果報告書

授業科目名 教育研究・調査
 評価実施日 平成29年7月25日
 担当教員名 石坂 広樹,小澤 大成 回答者数 7 人

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	5		2				4.4
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5		2				4.4
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	5		2				4.4
	(4)授業では、シラスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	4	2	1				4.4
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	4	1	2				4.3
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	4		2	1			4.0
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	4	1	1	1			4.1
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	4	1	1	1			4.1
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4		2	1			4.0
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	1	1				4.6
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	6			1			4.6



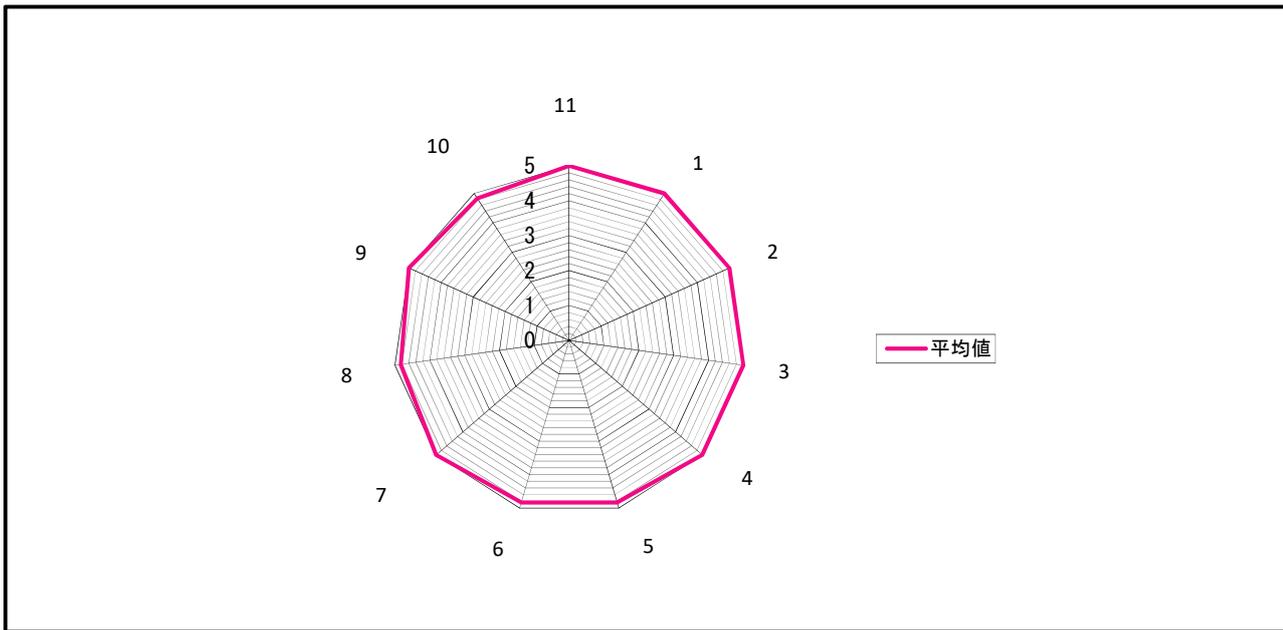
教員のコメント

これまでどおり、総合評価は4.6と高位置を占めている。英語ないし数学の苦手な学生のために補講を追加で設けていたが、苦手な学生に限って来ないという状況もあり、悩ましい現状にある。意欲のなく苦手な学生へのアプローチについても検討していきたい。

結果報告書

授業科目名 国際教育授業開発 I
 評価実施日 平成29年7月25日
 担当教員名 石村 雅雄,石坂 広樹 回答者数 6 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	6					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	6					5.0
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	6					5.0
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	5	1				4.8
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	5	1				4.8
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	6					5.0
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	5	1				4.8
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	6					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	1				4.8
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	6					5.0



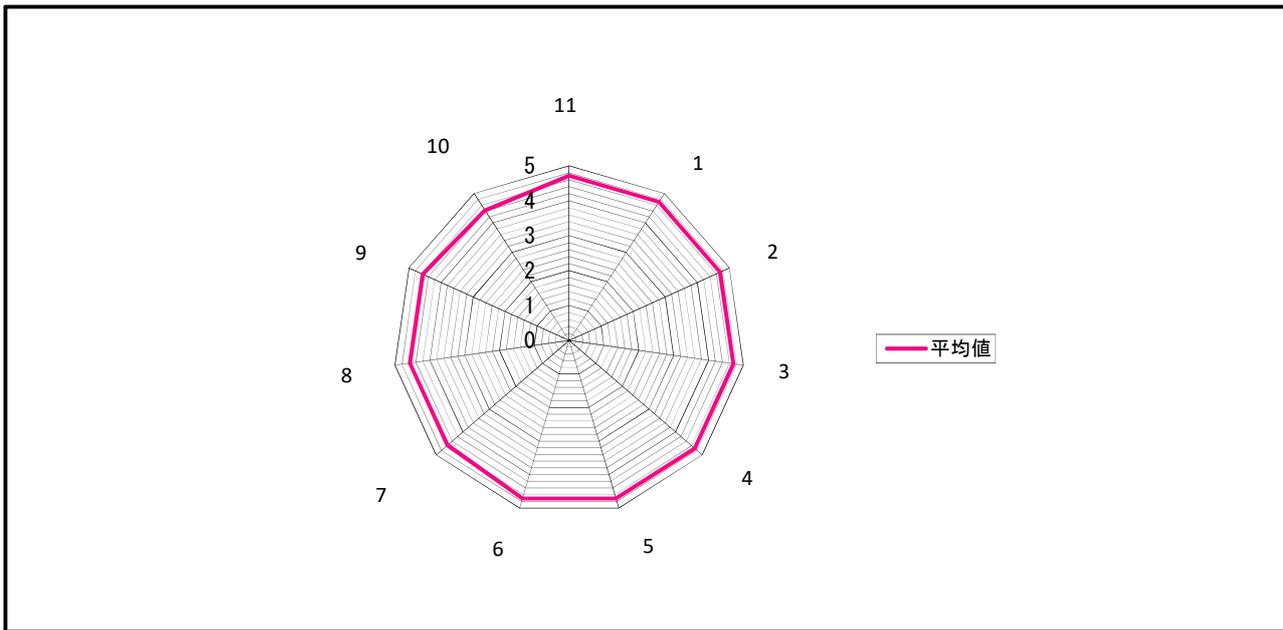
教員のコメント

学生参加型の授業であり、学生が自ら進んで学んでくれたことで、いい評価を得たと思う。今後も学生の知的好奇心、向上心を刺激するような、授業内容の提供を心掛けていきたい。

結果報告書

授業科目名 国際理解教育特論 I
 評価実施日 平成29年7月24日
 担当教員名 小澤 大成,近森 憲助 回答者数 7 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	6		1			4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6		1			4.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	6		1			4.7
	(4)授業では、シラスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	6		1			4.7
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	6		1			4.7
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	6		1			4.7
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	5	1	1			4.6
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	5	1	1			4.6
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	5	1	1			4.6
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5		2			4.4
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	6		1			4.7



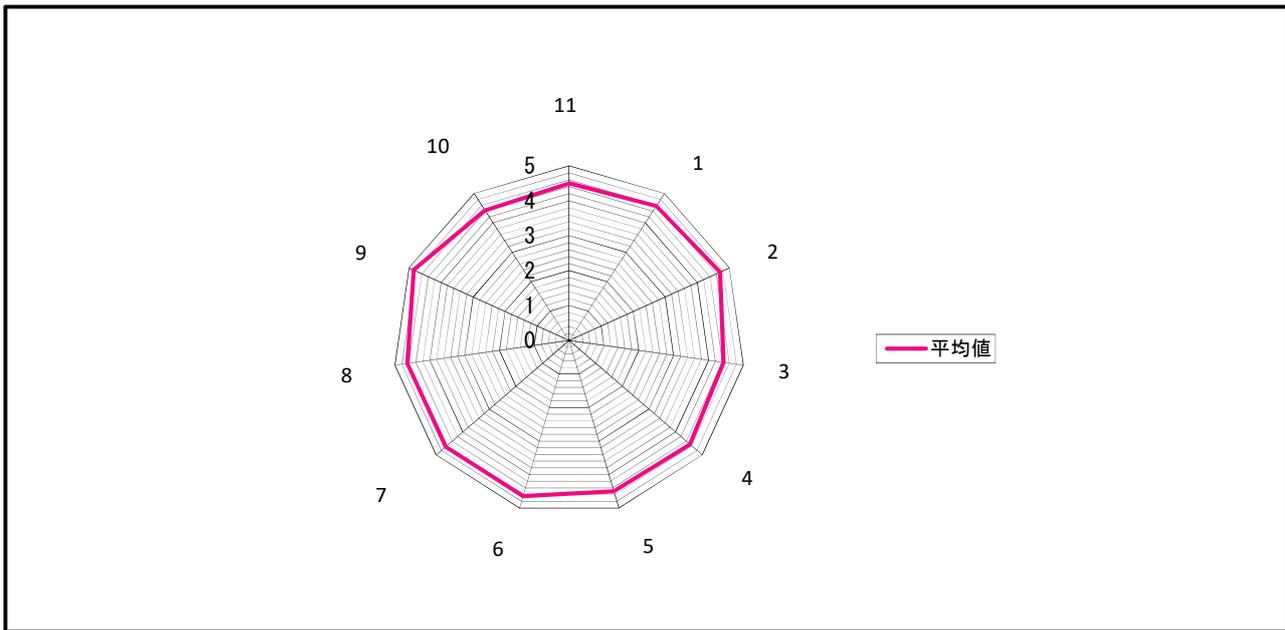
教員のコメント

平均総合評価は4.7であり、受講者は高い評価を与えている。1人の受講生がすべての項目について「3」の評価をつけているが、自由記述のコメントが皆無でありその背景については不明である。主体的・積極的に取り組む度合いが低い受講生の評価が低い傾向があり、次年度は授業への積極的な参加を促していこうと考えている。

結果報告書

授業科目名 国際教育総合セミナー I
 評価実施日 平成29年7月25日
 担当教員名 石村 雅雄,小澤 大成,石坂 広樹,近森 憲助 回答者数 14 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	9	4	1			4.6
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	11	2	1			4.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	9	3	1	1		4.4
	(4)授業では、シラスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	8	4	1			4.5
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	8	5	1			4.5
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	10	3	1			4.6
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	10	3	1			4.6
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	10	3	1			4.6
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	12	2				4.9
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	9	2	3			4.4
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	10	3			1	4.5



教員のコメント

学生からのプレゼンを受けて、教員も含め、全員で討議する形をとったもので、評価は妥当なものであるが、授業に参加しにくい(プレゼンが雑、討議への参加が少ない)学生がいたことは前年である。今期中も1度注意したが、来年度以降も学生の参加指導につき、注意を払う必要がある。